

2022年度 経済学部 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【K5111】日本文学〔黒田 俊太郎〕春学期授業/Spring	1
【K5151】世界の文学A〔新田 誠吾〕春学期授業/Spring	2
【K5152】世界の文学B〔新田 誠吾〕秋学期授業/Fall	3
【K5153】倫理学A〔松本 力〕春学期授業/Spring	4
【K5154】倫理学B〔松本 力〕秋学期授業/Fall	5
【K5155】倫理学A〔齋藤 範〕春学期授業/Spring	6
【K5156】倫理学B〔齋藤 範〕秋学期授業/Fall	7
【K5114】芸術〔坂口 周輔〕春学期授業/Spring	8
【K5115】芸術〔坂口 周輔〕秋学期授業/Fall	9
【K5157】文章表現A〔池田 雄一〕春学期授業/Spring	10
【K5158】文章表現B〔池田 雄一〕秋学期授業/Fall	11
【K5159】言語学A〔飯野 厚〕春学期授業/Spring	13
【K5160】言語学B〔飯野 厚〕秋学期授業/Fall	14
【K5167】哲学A〔長谷川 悦宏〕春学期授業/Spring	15
【K5168】哲学B〔長谷川 悦宏〕秋学期授業/Fall	16
【K5165】哲学A〔西川 純子〕春学期授業/Spring	17
【K5166】哲学B〔西川 純子〕秋学期授業/Fall	18
【K5169】論理学A〔町田 一〕春学期授業/Spring	19
【K5170】論理学B〔町田 一〕秋学期授業/Fall	20
【K5171】論理学A〔町田 一〕春学期授業/Spring	21
【K5172】論理学B〔町田 一〕秋学期授業/Fall	22
【K5173】民俗学A〔西村 敏也〕春学期授業/Spring	23
【K5174】民俗学B〔西村 敏也〕秋学期授業/Fall	24
【K5175】民俗学A〔西村 敏也〕春学期授業/Spring	25
【K5176】民俗学B〔西村 敏也〕秋学期授業/Fall	26
【K5181】Japanese Culture A〔李 址遠〕春学期授業/Spring	27
【K5182】Japanese Culture B〔李 址遠〕秋学期授業/Fall	27
【K5251】政治学A〔富永 靖敬〕春学期授業/Spring	28
【K5252】政治学B〔富永 靖敬〕秋学期授業/Fall	29
【K5253】地理学A〔朴 宗玄〕春学期授業/Spring	30
【K5254】地理学B〔朴 宗玄〕秋学期授業/Fall	31
【K5257】文化人類学A〔横田 浩一〕春学期授業/Spring	32
【K5258】文化人類学B〔横田 浩一〕秋学期授業/Fall	33
【K5259】日本史A〔古澤 直人〕春学期授業/Spring	34
【K5260】日本史B〔古澤 直人〕秋学期授業/Fall	35
【K5261】世界史A〔太田 啓子〕春学期授業/Spring	36
【K5262】世界史B〔太田 啓子〕秋学期授業/Fall	37
【K5263】法学A〔菅 富美枝〕春学期授業/Spring	38
【K5264】法学B〔菅 富美枝〕秋学期授業/Fall	39
【K5265】法学A〔菅 富美枝〕春学期授業/Spring	40
【K5266】法学B〔菅 富美枝〕秋学期授業/Fall	41
【K5267】社会学A〔松下 峻也〕春学期授業/Spring	42
【K5268】社会学B〔松下 峻也〕秋学期授業/Fall	43
【K5269】社会学A〔松下 峻也〕春学期授業/Spring	44
【K5270】社会学B〔松下 峻也〕秋学期授業/Fall	45
【K5271】心理学A〔高木 佐保〕春学期授業/Spring	46
【K5272】心理学B〔高木 佐保〕秋学期授業/Fall	47
【K5273】心理学A〔高木 佐保〕春学期授業/Spring	48
【K5274】心理学B〔高木 佐保〕秋学期授業/Fall	49
【K5351】数学A〔佐柄 信純〕春学期授業/Spring	50
【K5352】数学B〔佐柄 信純〕秋学期授業/Fall	51
【K5353】物理学A〔藤田 貢崇〕春学期授業/Spring	52
【K5354】物理学B〔藤田 貢崇〕秋学期授業/Fall	53

【K5355】物理学A〔藤田 貢崇〕春学期授業/Spring	54
【K5356】物理学B〔藤田 貢崇〕秋学期授業/Fall	55
【K5357】地学A〔山川 信之〕春学期授業/Spring	56
【K5358】地学B〔山川 信之〕秋学期授業/Fall	57
【K5359】化学A〔山崎 友紀〕春学期授業/Spring	58
【K5360】化学B〔細川 さとみ〕秋学期授業/Fall	59
【K5361】生物学A〔岡部 雅史〕春学期授業/Spring	60
【K5362】生物学B〔岡部 雅史〕秋学期授業/Fall	61
【K5363】科学史A〔河野 俊哉〕春学期授業/Spring	62
【K5364】科学史B〔河野 俊哉〕秋学期授業/Fall	63
【K5582】自然科学特講〔藤田 貢崇〕春学期授業/Spring	64
【K5365】Basic Science for Global Environment A〔山崎 友紀〕春学期授業/Spring	65
【K5366】Basic Science for Global Environment B〔DOUGLAS HUNGWE、山崎 友紀〕秋学期授業/Fall	66
【K5587】English Communication IA〔ジェイ マツオ タナカ〕春学期授業/Spring	67
【K5588】English Communication IB〔ジェイ マツオ タナカ〕秋学期授業/Fall	68
【K5583】English Communication IA〔ROBERT D STROUD〕春学期授業/Spring	69
【K5584】English Communication IB〔ROBERT D STROUD〕秋学期授業/Fall	70
【K5585】English Communication IA〔ジェイ マツオ タナカ〕春学期授業/Spring	71
【K5586】English Communication IB〔ジェイ マツオ タナカ〕秋学期授業/Fall	72
【K5589】English Communication I A〔Kregg Johnston〕春学期授業/Spring	73
【K5590】English Communication I B〔Kregg Johnston〕秋学期授業/Fall	74
【K5593】English Communication IIA〔ROBERT D STROUD〕春学期授業/Spring	75
【K5594】English Communication IIB〔ROBERT D STROUD〕秋学期授業/Fall	76
【K5591】English Communication IIA〔JOHN LACEY〕春学期授業/Spring	77
【K5592】English Communication IIB〔JOHN LACEY〕秋学期授業/Fall	78
【K5595】English Communication IIIA〔JOHN LACEY〕春学期授業/Spring	79
【K5596】English Communication IIIB〔JOHN LACEY〕秋学期授業/Fall	80
【K5597】ドイツ語コミュニケーション IA〔北岡 幸代〕春学期授業/Spring	81
【K5598】ドイツ語コミュニケーション IB〔北岡 幸代〕秋学期授業/Fall	82
【K5599】ドイツ語コミュニケーション IIA〔北岡 幸代〕春学期授業/Spring	83
【K5600】ドイツ語コミュニケーション IIB〔北岡 幸代〕秋学期授業/Fall	84
【K5601】フランス語コミュニケーション A〔余語 毅憲〕春学期授業/Spring	85
【K5602】フランス語コミュニケーション B〔余語 毅憲〕秋学期授業/Fall	86
【K5603】資格をめざすフランス語 A〔小室 廉太〕春学期授業/Spring	86
【K5604】資格をめざすフランス語 B〔小室 廉太〕秋学期授業/Fall	87
【K5609】スペイン語コミュニケーション IA〔マリア ドローレス〕春学期授業/Spring	88
【K5610】スペイン語コミュニケーション IB〔マリア ドローレス〕秋学期授業/Fall	89
【K5611】スペイン語コミュニケーション IIA〔YENG A J FERNANDO〕春学期授業/Spring	90
【K5612】スペイン語コミュニケーション IIB〔YENG A J FERNANDO〕秋学期授業/Fall	91
【K5605】中国語コミュニケーション IA〔将邑 劍平〕春学期授業/Spring	92
【K5606】中国語コミュニケーション IB〔将邑 劍平〕秋学期授業/Fall	93
【K5607】中国語コミュニケーション IIA〔張 欣〕春学期授業/Spring	94
【K5608】中国語コミュニケーション IIB〔張 欣〕秋学期授業/Fall	95
【K5613】総合講座Ⅰ〔藤田 貢崇、KALENGA N JOHN〕春学期授業/Spring	96
【K5614】総合講座Ⅱ〔藤田 貢崇〕秋学期授業/Fall	97
【K6601】経済学入門A〔菅原 琢磨〕春学期授業/Spring	98
【K6602】経済学入門B〔菅原 琢磨〕秋学期授業/Fall	99
【K6605】経済学入門A〔酒井 正〕春学期授業/Spring	100
【K6606】経済学入門B〔酒井 正〕秋学期授業/Fall	101
【K6603】経済学入門A〔菊地 和也〕春学期授業/Spring	102
【K6604】経済学入門B〔菊地 和也〕秋学期授業/Fall	103
【K6607】社会経済学基礎A〔大友 敏明〕春学期授業/Spring	103
【K6608】社会経済学基礎B〔大友 敏明〕秋学期授業/Fall	104
【K6609】社会経済学基礎A〔大友 敏明〕春学期授業/Spring	105
【K6610】社会経済学基礎B〔大友 敏明〕秋学期授業/Fall	106
【K6611】社会経済学基礎A〔宮田 惟史〕春学期授業/Spring	107
【K6612】社会経済学基礎B〔宮田 惟史〕秋学期授業/Fall	108

【K6613】	社会経済学基礎A	〔宮田 惟史〕	春学期授業/Spring	109
【K6614】	社会経済学基礎B	〔宮田 惟史〕	秋学期授業/Fall	110
【K6615】	現代経済学基礎A	〔檜野 智子〕	春学期授業/Spring	111
【K6616】	現代経済学基礎B	〔檜野 智子〕	秋学期授業/Fall	112
【K6617】	現代経済学基礎A	〔山本 英子〕	春学期授業/Spring	113
【K6618】	現代経済学基礎B	〔山本 英子〕	秋学期授業/Fall	114
【K6621】	経済史A	〔杉浦 未樹〕	春学期授業/Spring	115
【K6622】	経済史B	〔杉浦 未樹〕	秋学期授業/Fall	116
【K6623】	経済史A	〔長原 豊〕	春学期授業/Spring	118
【K6624】	経済史B	〔長原 豊〕	秋学期授業/Fall	119
【K6625】	統計学A	〔菅 幹雄〕	春学期授業/Spring	121
【K6626】	統計学B	〔阿部 俊弘〕	秋学期授業/Fall	122
【K6627】	統計学A	〔菅 幹雄〕	春学期授業/Spring	123
【K6628】	統計学B	〔阿部 俊弘〕	秋学期授業/Fall	124
【K6629】	コンピューター入門A	〔宮脇 典彦〕	春学期授業/Spring	125
【K6630】	コンピューター入門B	〔宮脇 典彦〕	秋学期授業/Fall	126
【K6631】	コンピューター入門A	〔斉藤 典明〕	春学期授業/Spring	127
【K6632】	コンピューター入門B	〔斉藤 典明〕	秋学期授業/Fall	128
【K6633】	コンピューター入門A	〔斉藤 典明〕	春学期授業/Spring	129
【K6634】	コンピューター入門B	〔斉藤 典明〕	秋学期授業/Fall	130
【K6635】	コンピューター入門A	〔安藤 富貴子〕	春学期授業/Spring	131
【K6636】	コンピューター入門B	〔安藤 富貴子〕	秋学期授業/Fall	132
【K6637】	コンピューター入門A	〔安藤 富貴子〕	春学期授業/Spring	133
【K6638】	コンピューター入門B	〔安藤 富貴子〕	秋学期授業/Fall	134
【K6639】	コンピューター入門A	〔安藤 富貴子〕	春学期授業/Spring	135
【K6640】	コンピューター入門B	〔安藤 富貴子〕	秋学期授業/Fall	136
【K6641】	コンピューター入門A	〔安藤 富貴子〕	春学期授業/Spring	137
【K6642】	コンピューター入門B	〔安藤 富貴子〕	秋学期授業/Fall	138
【K6643】	コンピューター入門A	〔安藤 富貴子〕	春学期授業/Spring	139
【K6644】	コンピューター入門B	〔安藤 富貴子〕	秋学期授業/Fall	140
【K6645】	コンピューター入門A	〔近藤 佐保子〕	春学期授業/Spring	141
【K6646】	コンピューター入門B	〔近藤 佐保子〕	秋学期授業/Fall	142
【K6647】	コンピューター入門A	〔近藤 佐保子〕	春学期授業/Spring	143
【K6648】	コンピューター入門B	〔近藤 佐保子〕	秋学期授業/Fall	144
【K6649】	コンピューター入門A	〔近藤 佐保子〕	春学期授業/Spring	145
【K6650】	コンピューター入門B	〔近藤 佐保子〕	秋学期授業/Fall	146
【K6651】	コンピューター入門A	〔小沢 和浩〕	春学期授業/Spring	147
【K6652】	コンピューター入門B	〔小沢 和浩〕	秋学期授業/Fall	148
【K6653】	コンピューター入門A	〔小沢 和浩〕	春学期授業/Spring	149
【K6654】	コンピューター入門B	〔小沢 和浩〕	秋学期授業/Fall	150
【K6655】	コンピューター入門A	〔坂部 創一〕	春学期授業/Spring	151
【K6656】	コンピューター入門B	〔坂部 創一〕	秋学期授業/Fall	152
【K6657】	コンピューター入門A	〔坂部 創一〕	春学期授業/Spring	153
【K6658】	コンピューター入門B	〔坂部 創一〕	秋学期授業/Fall	154
【K6659】	コンピューター入門A	〔堀 亜砂実〕	春学期授業/Spring	155
【K6660】	コンピューター入門B	〔堀 亜砂実〕	秋学期授業/Fall	156
【K6661】	コンピューター入門A	〔堀 亜砂実〕	春学期授業/Spring	157
【K6662】	コンピューター入門B	〔堀 亜砂実〕	秋学期授業/Fall	158
【K6663】	コンピューター入門A	〔新村 隆英〕	春学期授業/Spring	159
【K6664】	コンピューター入門B	〔新村 隆英〕	秋学期授業/Fall	160
【K6665】	コンピューター入門A	〔新村 隆英〕	春学期授業/Spring	162
【K6666】	コンピューター入門B	〔新村 隆英〕	秋学期授業/Fall	163
【K6671】	ビジネス数学入門A	〔明城 聡〕	春学期授業/Spring	165
【K6672】	ビジネス数学入門B	〔明城 聡〕	秋学期授業/Fall	166
【K6673】	英語で学ぶ経済学入門A	〔八木橋 毅司〕	春学期授業/Spring	167
【K6674】	英語で学ぶ経済学入門B	〔八木橋 毅司〕	秋学期授業/Fall	168
【K6675】	英語で学ぶ経済学入門A	〔武智 一貴〕	春学期授業/Spring	169

【K6676】英語で学ぶ経済学入門 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	170
【K6677】データで知る世界経済 A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	171
【K6678】データで知る世界経済 B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	172
【K6679】Japan and the Global Economy A [倪 彬] 春学期授業/Spring	173
【K6680】Japan and the Global Economy B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	174
【K6681】Practical Economics A [JESS DIAMO N D] 春学期授業/Spring	175
【K6682】Practical Economics B [JESS DIAMO N D] 秋学期授業/Fall	176
【K6683】企業と経済・基礎 A [河村 真] 春学期授業/Spring	177
【K6684】企業と経済・基礎 B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	178
【K6687】簿記 I A [倉井 潔] 春学期授業/Spring	179
【K6688】簿記 I B [倉井 潔] 秋学期授業/Fall	180
【K6685】簿記 I A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	181
【K6686】簿記 I B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	182
【K6691】簿記 I A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	182
【K6692】簿記 I B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	183
【K6689】簿記 I A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	184
【K6690】簿記 I B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	185
【K6693】企業経営入門 A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	186
【K6694】企業経営入門 B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	187
【K6102】企業と経済・応用 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	188
【K6103】企業と経済・応用 B [河村 真] 秋学期授業/Fall	189
【K6046】社会経済学応用 A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	190
【K6048】社会経済学応用 B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	191
【K6047】社会経済学応用 A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	192
【K6049】社会経済学応用 B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	193
【K6343】マクロ経済学 A [松尾 朋紀] 春学期授業/Spring	194
【K6344】マクロ経済学 B [松尾 朋紀] 秋学期授業/Fall	195
【K6337】マクロ経済学 A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	196
【K6338】マクロ経済学 B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	197
【K6339】ミクロ経済学 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	198
【K6340】ミクロ経済学 B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	199
【K6345】ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	200
【K6346】ミクロ経済学 B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	201
【K6062】財政学 A [小林 克也] 春学期授業/Spring	202
【K6064】財政学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	203
【K6063】財政学 A [天利 浩] 春学期授業/Spring	204
【K6065】財政学 B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	205
【K6066】金融論 A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	206
【K6068】金融論 B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	207
【K6067】金融論 A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	208
【K6069】金融論 B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	209
【K6058】国際経済論 A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	210
【K6060】国際経済論 B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	211
【K6059】国際経済論 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	211
【K6061】国際経済論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	212
【K6154】環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	213
【K6156】環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	214
【K6155】環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	215
【K6157】環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	216
【K6054】日本経済論 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	217
【K6056】日本経済論 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	218
【K6055】日本経済論 A [小崎 敏男] 春学期授業/Spring	219
【K6057】日本経済論 B [小崎 敏男] 秋学期授業/Fall	220
【K6072】ビジネスプログラミング入門 A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	221
【K6080】ビジネスプログラミング入門 B [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	222
【K6073】ビジネスプログラミング入門 A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	223
【K6081】ビジネスプログラミング入門 B [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	224

【K6074】	ビジネスプログラミング入門A [高橋 朋一]	春学期授業/Spring	225
【K6082】	ビジネスプログラミング入門B [高橋 朋一]	秋学期授業/Fall	226
【K6075】	ビジネスプログラミング入門A [高橋 朋一]	春学期授業/Spring	227
【K6083】	ビジネスプログラミング入門B [高橋 朋一]	秋学期授業/Fall	228
【K6076】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	229
【K6084】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	230
【K6077】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	231
【K6085】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	232
【K6078】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	233
【K6086】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	234
【K6079】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	235
【K6087】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	236
【K6150】	国際関係論A [富永 靖敬]	春学期授業/Spring	237
【K6151】	国際関係論B [富永 靖敬]	秋学期授業/Fall	238
【K6152】	経済人類学A [河野 正治]	春学期授業/Spring	239
【K6153】	経済人類学B [河野 正治]	秋学期授業/Fall	239
【K6733】	Academic Research Seminar A [飯野 厚]	春学期授業/Spring	240
【K6734】	Academic Research Seminar B [飯野 厚]	秋学期授業/Fall	241
【K6739】	Academic Research Seminar A [山崎 達朗]	春学期授業/Spring	242
【K6740】	Academic Research Seminar B [山崎 達朗]	秋学期授業/Fall	243
【K6735】	Academic Research Seminar A [伊藤 健彦]	春学期授業/Spring	243
【K6736】	Academic Research Seminar B [伊藤 健彦]	秋学期授業/Fall	244
【K6180】	ドイツ語セミナーA [布川 恭子]	春学期授業/Spring	245
【K6181】	ドイツ語セミナーB [布川 恭子]	秋学期授業/Fall	246
【K6183】	フランス語セミナーA [橋本 到]	春学期授業/Spring	247
【K6182】	フランス語セミナーB [橋本 到]	秋学期授業/Fall	248
【K6184】	ロシア語セミナーA [佐藤 裕子]	春学期授業/Spring	249
【K6185】	ロシア語セミナーB [佐藤 裕子]	秋学期授業/Fall	250
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩]	春学期授業/Spring	251
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩]	秋学期授業/Fall	252
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎]	春学期授業/Spring	253
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎]	秋学期授業/Fall	254
【K6235】	労働経済論A [酒井 正]	春学期授業/Spring	255
【K6236】	労働経済論B [酒井 正]	秋学期授業/Fall	256
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉]	春学期授業/Spring	257
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	258
【K6221】	公共経済論A [篠原 隆介]	春学期授業/Spring	259
【K6222】	公共経済論B [篠原 隆介]	秋学期授業/Fall	260
【K6747】	DemographyA [菅 幹雄]	春学期授業/Spring	261
【K6748】	DemographyB [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	262
【K6148】	開発経済論A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	263
【K6149】	開発経済論B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	264
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	265
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	266
【K6219】	経済学史A [山本 英子]	春学期授業/Spring	267
【K6220】	経済学史B [山本 英子]	秋学期授業/Fall	268
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	269
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	270
【K6070】	経済の数理A [佐柄 信純]	春学期授業/Spring	271
【K6071】	経済の数理B [佐柄 信純]	秋学期授業/Fall	272
【K6205】	データ解析入門A [宮脇 典彦]	春学期授業/Spring	273
【K6206】	データ解析入門B [宮脇 典彦]	秋学期授業/Fall	274
【K6162】	アメリカ経済論A [下斗米 秀之]	春学期授業/Spring	275
【K6163】	アメリカ経済論B [下斗米 秀之]	秋学期授業/Fall	276
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [伊東 林蔵]	春学期授業/Spring	277
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [伊東 林蔵]	秋学期授業/Fall	278
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸]	春学期授業/Spring	279

【K6167】 現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	280
【K6168】 中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	281
【K6169】 中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	282
【K6312】 世界の文化と思想A [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	283
【K6313】 世界の文化と思想B [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	284
【K6209】 環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	285
【K6210】 環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	286
【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	287
【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	288
【K6697】 Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	289
【K6698】 Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	291
【K6695】 Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	292
【K6696】 Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	294
【K6764】 Business Communication IA [JOHN LACEY] 春学期授業/Spring	295
【K6765】 Business Communication IB [JOHN LACEY] 秋学期授業/Fall	296
【K6122】 経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	297
【K6123】 経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	298
【K6124】 経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	299
【K6125】 産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	300
【K6751】 会計学入門A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	301
【K6752】 会計学入門B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	302
【K6749】 原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	303
【K6750】 原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	304
【K6128】 コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	305
【K6129】 コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	306
【K6140】 企業実務研究A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	307
【K6141】 企業実務研究B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	308
【K6341】 現代経済学応用A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	310
【K6342】 現代経済学応用B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	311
【K6225】 日本経済史A [長原 豊] 春学期授業/Spring	312
【K6226】 日本経済史B [長原 豊] 秋学期授業/Fall	313
【K6227】 社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	315
【K6228】 社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	316
【K6231】 農業経済論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	317
【K6232】 農業経済論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	318
【K6233】 社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	319
【K6234】 社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	320
【K6243】 社会保障論A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	321
【K6244】 社会保障論B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	322
【K6237】 金融各論I A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	323
【K6238】 金融各論I B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	324
【K6200】 政治過程論 [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	325
【K6201】 国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	326
【K6194】 経済統計論A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	327
【K6195】 経済統計論B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	328
【K6239】 情報経済論A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	329
【K6240】 情報経済論B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	330
【K6741】 世界経済史A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	331
【K6742】 世界経済史B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	332
【K6241】 地方財政論A [小林 克也] 春学期授業/Spring	333
【K6242】 地方財政論B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	334
【K6245】 産業組織論A [河村 真] 春学期授業/Spring	335
【K6246】 産業組織論B [河村 真] 秋学期授業/Fall	336
【K6247】 金融各論II A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	337
【K6144】 金融ビジネス論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	338
【K6249】 金融各論II B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	339
【K6146】 金融ビジネス論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	340

【K6251】	企業金融論 A [胥 鵬]	春学期授業/Spring	341
【K6252】	企業金融論 B [胥 鵬]	秋学期授業/Fall	342
【K6268】	国際金融論 A [ブー トウン カイ]	春学期授業/Spring	343
【K6269】	国際金融論 B [ブー トウン カイ]	秋学期授業/Fall	344
【K6094】	計量経済学 A [宮崎 憲治]	春学期授業/Spring	345
【K6095】	計量経済学 B [宮崎 憲治]	秋学期授業/Fall	346
【K6253】	数理統計学 A [宮脇 典彦]	春学期授業/Spring	347
【K6254】	数理統計学 B [宮脇 典彦]	秋学期授業/Fall	348
【K6703】	コンピューター科学 A [小沢 和浩]	春学期授業/Spring	349
【K6704】	コンピューター科学 B [小沢 和浩]	秋学期授業/Fall	350
【K6190】	現代社会と情報 A [坂本 憲昭]	春学期授業/Spring	351
【K6191】	現代社会と情報 B [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	352
【K6727】	Business Research Seminar A [中谷 安男]	春学期授業/Spring	353
【K6728】	Business Research Seminar B [中谷 安男]	秋学期授業/Fall	354
【K6202】	日本思想史 [古澤 直人]	春学期授業/Spring	355
【K6214】	日本文化史 [古澤 直人]	秋学期授業/Fall	356
【K6196】	日本文化論 [黒田 俊太郎]	秋学期授業/Fall	357
【K6314】	地球環境論 A [山崎 友紀]	春学期授業/Spring	358
【K6315】	地球環境論 B [藤田 貢崇]	秋学期授業/Fall	359
【K6223】	環境政策論 A [西澤 栄一郎]	春学期授業/Spring	360
【K6224】	環境政策論 B [西澤 栄一郎]	秋学期授業/Fall	361
【K6757】	スポーツ経済論 [杉本 龍勇]	春学期授業/Spring	362
【K6743】	国際投資論 A [経済未決定]	春学期授業/Spring	363
【K6744】	国際投資論 B [経済未決定]	秋学期授業/Fall	363
【K6326】	国際貿易論 A [武智 一貴]	春学期授業/Spring	364
【K6327】	国際貿易論 B [武智 一貴]	秋学期授業/Fall	365
【K6270】	企業経済論 A [砂田 充]	春学期授業/Spring	366
【K6271】	企業経済論 B [砂田 充]	秋学期授業/Fall	367
【K6721】	Principles of Economics A [JESS DIAMOND]	春学期授業/Spring	368
【K6722】	Principles of Economics B [JESS DIAMOND]	秋学期授業/Fall	369
【K6723】	International Economics A [倪 彬]	春学期授業/Spring	370
【K6724】	International Economics B [倪 彬]	秋学期授業/Fall	371
【K6725】	Area Studies A [馬 欣欣]	春学期授業/Spring	372
【K6726】	Area Studies B [馬 欣欣]	秋学期授業/Fall	373
【K6731】	地域経済論 A [川邊 安彦]	春学期授業/Spring	374
【K6732】	地域経済論 B [川邊 安彦]	秋学期授業/Fall	375
【K6729】	簿記Ⅱ A [岸 牧人]	春学期授業/Spring	376
【K6730】	簿記Ⅱ B [岸 牧人]	秋学期授業/Fall	377
【K6770】	Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA]	春学期授業/Spring	378
【K6771】	Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA]	秋学期授業/Fall	379
【K6772】	Japanese Business and Economy A [経済未決定]	春学期授業/Spring	380
【K6773】	Japanese Business and Economy B [経済未決定]	秋学期授業/Fall	381
【K6745】	財務諸表論 A [竹口 圭輔]	春学期授業/Spring	383
【K6746】	財務諸表論 B [竹口 圭輔]	秋学期授業/Fall	384
【K6755】	管理会計 A [梅津 亮子]	春学期授業/Spring	385
【K6756】	管理会計 B [梅津 亮子]	秋学期授業/Fall	385
【K6699】	Business CommunicationⅡ A [YONGUE JULIA SALLE]	春学期授業/Spring	386
【K6700】	Business CommunicationⅡ B [YONGUE JULIA SALLE]	秋学期授業/Fall	387
【K6332】	監査論 A [岸 牧人]	春学期授業/Spring	388
【K6333】	監査論 B [岸 牧人]	秋学期授業/Fall	389
【K6130】	リスク・マネジメント A [湯前 祥二]	春学期授業/Spring	390
【K6131】	リスク・マネジメント B [湯前 祥二]	秋学期授業/Fall	391
【K6132】	企業経営史 A [飯塚 陽介]	春学期授業/Spring	392
【K6133】	企業経営史 B [飯塚 陽介]	秋学期授業/Fall	393
【K6142】	国際会計制度 A [倉井 潔]	春学期授業/Spring	394
【K6143】	国際会計制度 B [倉井 潔]	秋学期授業/Fall	395
【K6136】	企業経営論 A [井上 祐樹]	春学期授業/Spring	396

【K6137】 企業経営論 B [井上 祐樹] 秋学期授業/Fall	397
【K6719】 経営学 A [砂田 充] 春学期授業/Spring	399
【K6720】 経営学 B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	400
【K6575】 特別講義 (ビジネス日本語 A) [大石 有香] 春学期授業/Spring	401
【K6576】 特別講義 (ビジネス日本語 B) [大石 有香] 秋学期授業/Fall	401
【K6501】 特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	402
【K6705】 日本国憲法 A [川鍋 健] 春学期授業/Spring	403
【K6706】 日本国憲法 B [川鍋 健] 秋学期授業/Fall	404
【K6707】 民法一部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	405
【K6708】 民法一部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	406
【K6709】 民法二部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	407
【K6710】 民法二部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	408
【K6711】 商法一部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	409
【K6712】 商法一部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	410
【K6713】 商法二部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	411
【K6714】 商法二部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	412
【K6715】 経済法 A [山田 務] 春学期授業/Spring	413
【K6716】 経済法 B [山田 務] 秋学期授業/Fall	414
【K6717】 労働法 A [小林 大祐] 春学期授業/Spring	415
【K6718】 労働法 B [小林 大祐] 秋学期授業/Fall	416
【K6347】 財政学 A (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	417
【K6348】 財政学 B (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 秋学期授業/Fall	418
【K6349】 経済政策論 A (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	419
【K6350】 経済政策論 B (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	420
【K6351】 国際経済論 A (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 春学期授業/Spring	421
【K6352】 国際経済論 B (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	421
【K5163】 現代史 A [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	422
【K5164】 現代史 B [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	423
【K5581】 多摩地域形成論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	424
【K8501】 キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	425
【K8502】 キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	426
【K5161】 現代社会と宗教 A [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	427
【K6758】 ドイツ語中級 A [MARKUS GRASMUECK] 春学期授業/Spring	428
【K6759】 ドイツ語中級 B [MARKUS GRASMUECK] 秋学期授業/Fall	429
【K6760】 ドイツ語上級 I A [MARKUS GRASMUECK] 春学期授業/Spring	430
【K6761】 ドイツ語上級 I B [MARKUS GRASMUECK] 秋学期授業/Fall	431
【K6762】 ドイツ語上級 II A [濱中 春] 春学期授業/Spring	432
【K6763】 ドイツ語上級 II B [濱中 春] 秋学期授業/Fall	433
【K6776】 特別講義 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	434
【K6777】 特別講義 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	434

LIT100CA
日本文学
黒田 俊太郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「定番教材」を読み直す。

高校の国語教科書で夏目漱石の「こころ」という小説に接したという人は少なくないだろう。教科書で老若男女に読まれてきたそうした「定番教材」はしかし、いつの時代も同じ読まれ方がなされてきたわけではない。「定番教材」はこれまで様々な読まれ方がなされてきたのであり、それらは時代を映す鏡でもあるはずである。

この授業では毎回異なる「定番教材」を扱うが、それらの物語のこれまでの読まれ方を参照しながら、物語世界内で展開される対話、あるいは提示される課題について、改めて私たちの「教室」で議論してみたい。私たちが作品を読むことで対峙することになる解決困難な「問い」は、現代的な課題として私たちに残されたものでもあるだろう。

この授業では、そうした「問い」に対しあくまでも分析的に迫るためのいくつかの方法論（注釈・作品研究史の調査・文学理論など）についても紹介したい。

【到達目標】

・「定番教材」に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標「本単元で育成したい学習者の態度」）

・「定番教材」に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合ねばならない本質的な問題について知る。（価値目標「本単元で考えさせたい内容や価値観」）
・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標「本単元で習得させたい知識や言語能力」）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指示された「定番教材」や先行研究を読んでくること。授業では、「定番教材」や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連する課題にも必ず取り組んでもらう。また課題についてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的
第 2 回	森鷗外の文学/「舞姫」	同時代評①
第 3 回	森鷗外の文学/「舞姫」	同時代評②
第 4 回	夏目漱石の文学/「こころ」	物語の枠に注目する①
第 5 回	夏目漱石の文学/「こころ」	物語の枠に注目する②
第 6 回	新感覚派と横光利一の文学/「蠅」	農婦はなぜ急いでいたのか？ ①
第 7 回	新感覚派と横光利一の文学/「蠅」	農婦はなぜ急いでいたのか？ ②
第 8 回	プロレタリア文学と葉山嘉樹の文学/「セメント樽の中の手紙」	手紙というメディアの機能について①
第 9 回	プロレタリア文学と葉山嘉樹の文学/「セメント樽の中の手紙」	手紙というメディアの機能について②

第 10 回 向田邦子の文学/「字のない葉書」 注釈的読みの試み①

第 11 回 向田邦子の文学/「字のない葉書」 注釈的読みの試み②

第 12 回 三浦哲郎の文学/「盆土産」 〈出稼ぎ物〉という視座①

第 13 回 三浦哲郎の文学/「盆土産」 〈出稼ぎ物〉という視座②

第 14 回 まとめ 半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ 2 時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ・出席は毎回取る。
- ・全 14 回中 10 回以上の出席を単位修得の最低条件とする。
- ・遅刻は欠席 0.5 回とカウントする。
- ・課題提出は締め切り順守（基本は授業内の提出）。
- ・事前課題等を指示する場合は必ず取り組むこと。
- ・提出物 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に際しては、インターネット回線とパソコン、カメラ、マイクを用意してください。パソコンがない場合は、スマホやタブレットを代用してもかまいません。

また授業中も、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

This course will deal with the novels that have been repeatedly published in Japanese language textbooks for schools at all three levels.

Many people, young and old, might have encountered Natsume Soseki's novel "Kokoro" in high school as this novel has been picked up in high school Japanese textbooks many times over decades. This kind of "regular" novels in textbooks, however, have not always been read in the same way. Its interpretation has varied depending on time and this course will consider the social or historical backgrounds these different interpretations could reflect.

In this course, students will read a different "regular" novel for each class time while referring to how these novels have been read so far. Students will also discuss the dialogues and the issues presented in the texts as intractable issues in such novels continue to be contemporary issues.

In order to analytically approach such issues, this course will also introduce students to some methodologies such as literary theory.

LIT100CA
世界の文学 A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ・ロマン派」の文学

19 世紀の初め、詩、小説というジャンルを超え、形式にとらわれない作家たちがドイツに登場しました。ロマン派の作家たちは何を考え、作品でどう表現しようとしたのか。ロマン派が好んだメルヘンや主人公が遭遇する「異世界」（森、魔女の家）を考察します。当時のプロイセンがナポレオン軍に占領されると、人々の間にナショナリズムが生まれていきました。グリム兄弟は収集した童話を「子供によくない」という理由で書き換えたり、削除しました。条例による有害図書規制についても考察します。

【到達目標】

1. ロマン派の文学の特徴について説明できる。
2. グリムによる童話の収集、改作について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。授業の最後に、考察や感想を書いた「リアクションペーパー」を提出してもらいます。また、報告型レポートの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと導入	講義の進め方、評価方法、基準について説明します。
2	若きゲーテの革新～シュトルム・ウント・ドラング	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』、シラー『群盗』
3	少年は旅に出る～「教育小説」と古典主義	ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』
4	イェーナに集まった作家たち～初期ロマン派の誕生	「ロマン主義とは、発展的総合文学である」
5	文学の錬金術師～ノヴァーリスと中世	ノヴァーリス『青い花』 魔術的観念論
6	ベルリンの文学活動とナポレオンの侵攻	フケー『ウンディーネ』、シャミッソー『影をなくした男』
7	レポートの書き方	この講義のレポートの書き方について説明します。
8	グリム童話 (1)	メルヘンとは何か？ グリム兄弟による童話の収集
9	グリム童話 (2)	グリムによる改訂作業。子供によくない内容は規制すべきか？
10	怪奇幻想文学～E.T.A. ホフマン (1)	ホフマン『黄金の壺』、『砂男』
11	自己分裂とドッペルゲンガー～E.T.A. ホフマン (2)	ホフマン『悪魔の霊液』
12	グロテスク～ホフマンが与えた意味	「洞窟」を意味する言葉がなぜ不気味で奇怪なものを表すようになったのか。
13	リアリズムの先駆者たち	クライスト『こわれがめ』、ビュヒナー『ヴォイツェック』
14	まとめと振り返り	春学期講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予備知識は必要ありません。授業で取り上げた作品や参考文献を実際に読んで、レポートを作成してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。資料等はできるだけ PDF ファイルで共有するようにします。

【参考書】

新田誠吾『これならできる！ レポート・論文のまとめ方』（すばる舎）

小澤俊夫『グリム童話の誕生』（朝日選書）、ハインツ・レレケ（小澤俊夫訳）『グリム兄弟のメルヘン』（岩波書店）、高橋義人『グリム童話の世界』（岩波新書）

このほかの必要な参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート (30%)、筆記試験 (50%) で、60%以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新たに担当します。講義を受けて学びにつながるように、工夫した講義を行うつもりです。

【Outline (in English)】

Literature of the German Romantics

At the beginning of the nineteenth century, writers who transcended the genres of poetry and fiction, and who were not bound by form, appeared in Germany. What were the thoughts of the Romantic writers and how did they try to express them in their works? We will examine the fairy tales that the Romantics loved and the "other worlds" (forests, witch houses) that the main characters encountered.

When Prussia at that time was occupied by Napoleon's army, nationalism was born among the people. The Brothers Grimm rewrote or removed fairy tales they had collected on the grounds that they were not good for children. Restrictions on harmful books will also be discussed.

LIT100CA
世界の文学B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代小説の誕生と 19 世紀末のジャポニスム

本講義のテーマは二つあります。一つは、19 世紀に登場する近代小説と 19 世紀末のジャポニスム（日本文化ブーム）を学びます。現代の小説のルーツとなる近代小説はどのように誕生したのか。もう一つは、小説という「物語」を伝えた出版や新聞といった「メディア」についての考察です。21 世紀の私たちに「物語」や文化を届けてくれるのはインターネットであり、YouTube, TikTok, Netflix, Sportify 等のメディアで"おすすめ"を選んでいるのは AI です。現代の文化需要についても考察します。

【到達目標】

1. 近代小説の特徴について説明ができる。
2. 19 世紀末のジャポニスムについて概略を説明できる。
3. 小説における「登場人物のキャラクター」について説明できる。
4. 現代の文化の伝わり方について、メディアから説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。授業の最後に、考察や感想を書いた「リアクションペーパー」を提出してもらいます。報告型レポートの課題もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の説明。21 世紀から 19 世紀を眺める。
2	「我々はみなゴーゴリの『外套』のなかから出てきた」	プーシキンとゴーゴリのロシア文学の近代
3	言文一致運動	坪内逍遙と二葉亭四迷の近代
4	庶民が庶民を笑う	『外套』『浮雲』の主人公のおかしみ
5	リアリズム文学 (1)	バルザック『ゴリオ爺さん』
6	リアリズム文学 (2)	俯瞰と細部
7	レポート課題	レポート作成のしかた
8	リアリズム文学 (3)	フロベール『ボヴァリー夫人』
9	リアリズム文学 (4)	『ボヴァリー夫人』の心理描写
10	『アンナ・カレーニナ』	ドラマを成り立たせるものは何か (1)
11	『アンナ・カレーニナ』	キリスト教的側面を考える (2)
12	ジャポニスム (1)	欧米が熱狂した日本文化
13	ジャポニスム (2)	川上貞奴らの活躍
14	まとめと振り返り	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予備知識は不要です。毎回の授業で、「リアクションペーパー」を提出してもらいます。また、授業で取り上げる作品を読んで、レポートを作成します。本講義の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。資料等はできるだけ PDF ファイルで共有します。

【参考書】

新田誠吾『これならできる！ レポート・論文のまとめ方』（すばる舎）
 ゴーゴリ『外套』（岩波文庫）、ナボコフ『ニコライ・ゴーゴリ』（平凡社）、二葉亭四迷『浮雲』（新潮文庫ほか）、バルザック『ゴリオ爺さん』（岩波文庫ほか）、フロベール『ボヴァリー夫人』（新潮文庫ほか）、トルストイ『アンナ・カレーニナ』（新潮文庫ほか）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート (30%)、筆記試験 (50%) で、60%以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新たに担当します。「講義を聴いてためになった」「面白かった」と思ってもらえるように、工夫した講義をするつもりです。

【Outline (in English)】

The Birth of the Modern Novel and Japonisme at the End of the 19th Century

There are two themes in this lecture. The first is to study the modern novel as it appeared in the 19th century and Japonisme at the end of the 19th century. How did the modern novel, the root of the modern novel, come into being? In the 21st century, it is the Internet that brings us "stories" and culture, and it is AI that selects "recommendations" in media such as YouTube, TikTok, Netflix, and Sportify. It is AI that is selecting "recommendations" in media such as YouTube, TikTok, Netflix, Sportify, etc. We will also discuss the cultural demands of today.

PHL100CA
倫理学 A
松本 力
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基本的な考え方である功利主義と義務論を、それらの難点をも含めて学ぶことが目的です。また、功利主義や義務論に代わるさまざまな考え方（自由至上主義、ロールズの『正義論』、目的論的思考など）を参考にしながら、功利主義や義務論にどのような問題点があるのかも説明できるようになってください。

【到達目標】

倫理学における様々な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料を、解説の資料を参考にしながら読み進める。また、毎回の授業では、Hoppii 上の「課題」に答えることで、授業内容の理解度を確認してもらいます。授業内容に関して質問がある場合も、「課題」の答えの中に（答えとは分けながら）書き込むこと。質問への回答は、質問者に個別に答えることはせずに、Hoppii 上の「お知らせ」で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	倫理学とはどのような学問か？	授業の案内と概要
2	功利主義	最大多数の最大幸福、快樂計算について。
3	功利主義の問題点	個人の人権を無視。幸福の多様性。
4	義務論	カントの義務論（自由、自律、定言命法）について。
5	義務論の問題点	義務を守るだけで幸福になれるのか？
6	臓器移植の問題	臓器移植に対するさまざまな考えのなかに、功利主義と義務論を読み取る。
7	自由至上主義	社会と個人の関係について、無制限の自由が認められるかどうかを考える。
8	ロールズ『正義論』	社会的平等の実現可能性について。
9	目的論的思考	功利主義と義務論に代わるアリストテレスの目的論的思考を理解する。
10	プラトン『ゴルギアス』	プラトンの『ゴルギアス』から、目的論的思考についての理解を深める。
11	市場と道徳	徴兵制、代理母といった問題について考える。
12	忠誠のジレンマ	過去の戦争に対する責任の問題、道徳的中立性について考える。
13	正義と共通善	サンデルの正義についての考えを理解する。
14	試験・まとめと解説	授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み込んでおくことが準備になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫、2011 年。）

【成績評価の方法と基準】

毎回の「課題」（30 %）と筆記試験（70 %）。筆記試験も「課題」によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。細かな言葉遣いに注意しながら、読み進めてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire ethics.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the various ethical thoughts.

Grading Criteria/Policies

Final grade will be calculated according to the following process
Short reports(30%), and Term-end examination(70%).

PHL100CA
倫理学 B
松本 力
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学 A で学んだ内容をもとに、シンガーやフランクルによって提示された倫理的な生き方に対して、学生は、自分がどのような立場を取るかを考え、表現できるようになる。

【到達目標】

倫理的に生きるとはどのようなことなのかを公正に判断し、自らの言葉で適切に表現できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料を、解説の資料を参考にしながら読み進める。また、毎回の授業では、Hoppii 上の「課題」に答えることで、授業内容の理解度を確認してもらいます。授業内容に関して質問がある場合も、「課題」の答えの中に（答えとは分けながら）書き込むこと。質問への回答は、質問者に個別に答えることはせずに、Hoppii 上の「お知らせ」で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	シンガー『私たちはどう生きるべきか』	シンガーの問題意識について。
2	究極の選択	私益優先の生き方か倫理優先の生き方か。
3	共同体の喪失	「万人の万人に対する戦争」。
4	世界を使い果たす	アダム・スミス対ジャン＝ジャック・ルソー。
5	日本人の生き方	集団のために生きることは可能か？
6	お返し戦術	憎しみ合う者同士の協力。
7	倫理的に生きる	英雄的行為だけが倫理的に生きることではない。
8	倫理の本性	他者におよぼす影響を無視して自分自身の利益だけを気にかけるのは倫理的ではない。
9	ある目的のために生きる	私たちの人生は、自分で自由に意味を与えることができるものなのか？
10	よい生き方	宇宙の視点をとる。
11	フランクル『それでも人生にイエスと言う』	生きる意味と価値。
12	人生を意味あるものにする	生きていることに責任を担う。
13	どんな状況でも人生にイエスと言う	苦悩に耐え抜くことにも意味がある。
14	試験・まとめと解説	シンガー、フランクルの両者の倫理が、どれほど理解されているかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み込んでおくことが準備になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】

ピーター・シンガー『私たちはどう生きるべきか』（山内友三郎監訳、ちくま学芸文庫、2013 年。）

V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』（山田邦男・松田美佳訳、春秋社、2016 年。）

【成績評価の方法と基準】

毎回の「課題」（30 %）と筆記試験（70 %）。筆記試験も「課題」によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。細かな言葉遣いに注意しながら、資料を読み進めてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire ethics.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the various ethical thoughts.

Grading Criteria/Policies

Final grade will be calculated according to the following process
Short reports(30%), and Term-end examination(70%).

PHL100CA
倫理学 A
齋藤 範
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自己と他者の関わり」を中心的なテーマとし、倫理学の基礎となる考え方や現代の倫理をめぐる諸問題について学びます。

【到達目標】

倫理学の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施します。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、いわゆる規範倫理学の検討を通して、現代社会を生きる私たちの倫理問題を講義します。具体的には、主要学説を正確に理解するように講義すると同時に、それらを現実の諸問題と突き合わせ、受講生自身に倫理的思考の実践を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	倫理学とは何か	倫理とモラルとマナーをめぐって
2	倫理学の基礎	課題と方法について
3	規範と根拠①	ケーススタディの実践
4	規範と根拠②	ケーススタディの分析
5	利己主義について	エゴイズムとは何か
6	利他主義について	利他的であるとはどういうことか
7	功利主義①	ベンサムと J.S. ミルについて
8	功利主義②	その可能性と問題点について
9	義務論①	カントの倫理学について
10	義務論②	カントとそれ以降の倫理学
11	正義論①	公正な分配とは
12	正義論②	自由と平等をめぐって
13	他者論	自己と他者をめぐって
14	応用倫理とまとめ	世界と環境と生命をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察します。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic ideas of ethics and various issues related to modern ethics to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire knowledge of ethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.

Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

PHL100CA
倫理学 B
齋藤 範
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命と医療」を中心的なテーマとし、倫理的思考や背景となる事実問題について学びます。

【到達目標】

生命倫理学と関連分野の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施します。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、まず生命倫理の基礎を概観し、そのうえで具体的な問題（脳死と臓器移植、安楽死、遺伝子操作、人工妊娠中絶など）を取り上げます。また、障害学、死生学、法学、哲学、現代思想といった関連分野にも触れ、そのつと問いを示しながら、人間と環境と生命をめぐる倫理をひろく学び、複雑なことからの中にあっても主体的に自らのパースペクティブを見出すことができるよう促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	生命倫理学の背景①	インフォームド・コンセント
2	生命倫理学の背景②	生と死の線引き問題
3	脳死と臓器移植①	定義と判断
4	脳死と臓器移植②	現状と問題
5	難病告知	生と死の現場
6	安楽死問題①	定義と判断
7	安楽死問題②	現状と問題
8	遺伝子をめぐる問題①	遺伝子診断・遺伝子治療
9	遺伝子をめぐる問題②	さまざまな技術と優生思想
10	人工妊娠中絶①	定義と判断
11	人工妊娠中絶②	現状と問題
12	人工妊娠中絶③	人格と生命
13	倫理学と障害学	個人と社会
14	生命倫理とまとめ	生命をめぐる現代社会の倫理の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートや、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察します。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重く思われる問題（例えば病气や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic ideas of bioethics and various issues related to bioethics to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire knowledge of bioethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.

Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

ART100CB
芸術
坂口 周輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れしたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」「美とは何か」を一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めています。毎回授業の最後にコメントを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術論を読む	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェリの作品を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20 世紀の芸術	デュシャン、ニューマン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？ 21 世紀と芸術の関係。
14	学期末試験	授業で学んだことを確認するためのテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末試験（80 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get familiar with art and to see how art and society intertwine.

I offer you to cultivate your sensitivity to art by looking at various art works mainly of Western art. Let's think about "what is art?" together.

ART100CB
芸術
坂口 周輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れしたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」「美とは何か」を一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めています。毎回授業の最後にコメントを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術論を読む	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェッリの作品を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20 世紀の芸術	デュシャン、ニューマン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？ 21 世紀と芸術の関係。
14	学期末試験	授業で学んだことを確認するためのテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末試験（80 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to get familiar with art and to see how art and society intertwine.

I offer you to cultivate your sensitivity to art by looking at various art works mainly of Western art. Let's think about "what is art?" together.

LIN100CA
文章表現 A
池田 雄一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、基本的な教養の獲得、および日本語の文章の訓練をすることによって、専門科目に向けての基礎体力をつけることを目的とする。

多くの文章表現系の授業では、文章の「内容」と「形式」を区別したうえで、正しい日本語の「形式」を教えるという方針がとられている。正しい日本語の文法、正しい論理構造、正しい語彙の使い方を、教師が一方向的に伝えるというタイプの授業である。

しかし考えてみれば、読者に伝えるべき「内容」をぬきにして、適切な文章の「形式」を語ることはできない。同じことであるが、書き手の「メッセージ」を度外視して、文章のスタイルを決めることは不可能である。つまり、書き手が読者に伝えたいことがなければ、文章表現という言葉は「絵に描いた餅」に終わってしまうのである。

具体的な授業の流れは次のとおりとする。まず、1) まず事前に指定のテキストを読んだうえで、その概要を説明できるよう、かんたんなスライドを準備しておく。次に、2) 授業時に、そのスライドを用いて、グループごとにミニ発表をする。そして3) グループの代表者を決めて、クラス内で発表してもらう。さらには4) 発表をもとにミニレポートを執筆する。それに加えて、5) 都合3回の本レポートも書いてもらう。テキストは、メディア論、哲学、文芸評論、そして経済学と多岐にわたるジャンルから選んである。こうした演習と、教養にかんする講義によって授業を組み立てる予定である。

授業であつかうテキストは、かんたんには読み解けないものを選ぶのである。また参加者は、毎回の課題提出と、グループ内もしくは教室でのプレゼンが課せられる。したがって楽に単位はとれない。向学心ある者の参加をのぞむ。

なおリモートでの実施の際には、ビデオ機能を「オン」にしてあることが参加の条件である。

【到達目標】

あらゆる学問の基礎となる教養の獲得、ならびに内容に応じたアウトプットの能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とグループワークを組み合わせで行う。おもな手順は以下のとおりである

- 1) まず事前に指定のテキストを読んだうえで、その概要を説明できるよう、かんたんなスライドを準備しておく
- 2) 授業時に、そのスライドを用いて、グループごとにミニ発表をする
- 3) グループの代表者を決めて、クラス内で発表してもらう
- 4) 発表をもとにミニレポートを執筆する。わからないことがあるようなら質問を書いてもらう
- 5) 次回の前半で、復習をかねたミニ講義をうける

※人数によって手順を変える場合があります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第2回	マクルーハン「壁のない教室」	講義とグループワーク 講義「文章の基礎1」／グループワーク「壁のない教室」
第3回	バルト「火星人」	講義とグループワーク 講義「メディア論と教育」／グループワーク「火星人」
第4回	ウィトゲンシュタイン「倫理学講話」	講義とグループワーク 講義「現代社会における神話」／グループワーク「倫理学講話」
第5回	レポートの検討	講義とグループワーク 講義「哲学の基礎」／グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第6回	花田清輝「極大・極小」『復興期の精神』より	講義とグループワーク 講義「文章の基礎2」／グループワーク「極大・極小」
第7回	柄谷行人『世界共和国へ』	講義とグループワーク 講義「ガリバー旅行記」について／グループワーク『世界共和国へ』
第8回	阿部謹也『ヨーロッパ中世の宇宙観』	講義とグループワーク 講義「歴史と経済1」／グループワーク『ヨーロッパ中世の宇宙観』
第9回	レポートの検討	講義とグループワーク 講義「歴史と経済2」／グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第10回	大澤真幸『不可能生の時代』	講義とグループワーク 講義「文章の基礎3」／グループワーク『不可能生の時代』
第11回	アーレント『人間の条件』「序文」	講義とグループワーク 講義「リスク社会とは」／グループワーク『人間の条件』「序文」
第12回	ベンヤミン「複製技術時代の芸術」	講義とグループワーク 講義「自由とは何か」／グループワーク「複製技術時代の芸術」
第13回	松本卓也『享楽社会論』	講義とグループワーク 講義「芸術と宗教」／グループワーク『享楽社会論』
第14回	レポートの検討	グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライドの準備、毎回のミニレポートの執筆、都合3回の本レポートの執筆など。

【テキスト（教科書）】

なし。必要なものは授業中に配布する。

【参考書】

杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書
買う必要はないが、経済学部の学生にもおすすめの良書である。

【成績評価の方法と基準】

【単位取得に必要なノルマ】

- ・毎回のミニレポート（出さないと欠席あつかい）
- ・都合3回のレポート提出（1回でも出さないとアウト）
- ・最終課題の提出（3つのレポートをまとめて、イントロをつけたもの）

【成績評価の判断材料】

- ・最終課題（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、参加学生のモチベーションの格差が拡大するようです。とくにビデオ機能をオンにしているか否かで、学習効果、おそらくは脳の発達に差がでるように感じています。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

受講希望者数が300人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire basic education and to develop basic physical strength for specialized subjects by training Japanese sentences.

In many sentence expression classes, the policy is to teach the correct Japanese "form" after distinguishing between the "content" and "form" of the sentence. This is a type of lesson in which the teacher unilaterally conveys the correct Japanese grammar, correct logical structure, correct vocabulary usage, etc.

However, when you think about it, you cannot say the appropriate "form" of a sentence without the "content" that should be conveyed to the reader. Similarly, it is impossible to disregard the writer's "message" and determine the style of the text. In other words, if the writer has nothing to tell the reader, the word "sentence expression" ends up as "a rice cake drawn in a picture".

The specific flow of the lesson is as follows. First, 1) First, read the specified text in advance, and then prepare a simple slide so that you can explain the outline. Next, 2) make a mini-presentation for each group using the slides during class. 3) Decide on a representative for the group and have them announce it in the class. Furthermore, 4) write a mini report based on the announcement. In addition to that, 5) ask them to write this report three times. The texts are selected from a wide range of genres such as media studies, philosophy, literary criticism, and economics. We plan to organize the lessons with these exercises and lectures on culture.

The textbooks used in class are selected so that they cannot be easily read. Participants are also required to submit assignments each time and make presentations within the group or in the classroom. Therefore, it is not easy to take a unit. We hope for the participation of those who are willing to study.

In addition, when conducting remotely, it is a condition of participation that the video function is "on".

LIN100CA
文章表現B
池田 雄一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業の成果をふまえて、後期では、1) テキストを選ぶ能力、2) テキストを読む能力、3) レポートを書く能力、4) 他の学生の書いたレポートを読む能力を獲得することを目的とする。これらの能力は専攻する学問を学ぶにあたって必須のものである。「文章表現A」を履修していることが望ましいが、そうでなくても不足分を熱意でカバーする学生を拒むつもりはない。

本授業は講義とグループワークを組み合わせる予定である。具体的な授業の流れは次のとおりとする。まず、1) 教員が指定した3つのテーマにかんしての本や論文などのテキストを学生自身に選んでもらう。次に、2) 選んだテキストについてグループ内で情報交換をしたうえで、3) テキストについての比較的長いレポートを書いてもらう。さらに4) そのレポートについても、グループ内で検討したうえで、代表となるレポートを、グループごとに発表してもらう。この流れを3回にわたり行う。

参加者は長めのレポートを最低でも3回は書いてもらう。一度でも提出しないと単位はだせないのもそのつもりで望んでほしい。その他に、参加者には、毎回の課題提出と、グループ内もしくは教室でのプレゼンが課せられる。前期とおなじく向学心ある者の参加をうまく望む。

なおリモートでの実施の際には、ビデオ機能を「オン」にできることが参加の条件である。

【到達目標】

あらゆる学問の基礎となる教養の獲得、ならびに内容に応じたアウトプットの能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 教員が指定した3つのテーマにかんしての本や論文などのテキストを学生自身に選んでもらう。
- 2) 選んだテキストについてグループ内で情報交換
- 3) テキストについての比較的長いレポートを執筆
- 4) そのレポートについて、グループ内で検討したうえで、代表となるレポートを、グループごとに発表

授業のスケジュールは学生からのフィードバックにもとづいて、修正を入れていく予定である

詳細はガイダンス時に説明する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第2回	講義	「ナショナリズム」
第3回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換

第4回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第5回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第6回	講義	「美学／芸術／メディア論」
第7回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換
第8回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第9回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第10回	講義	「来るべき経済」
第11回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換
第12回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第13回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第14回	まとめ	総復習、質疑応答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライドの準備、毎回のミニレポートの執筆、都合4回の本レポートの執筆など。

【テキスト（教科書）】

テキストは学生自身が選ぶ。くわしくはガイダンス時に説明する。

【参考書】

杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書

【成績評価の方法と基準】

【単位習得に必須となる課題】

- ・ 毎回提出のミニレポート
- ・ 都合3回のレポート提出
- ・ 最終課題

【成績評価の対象となる課題】

- ・ 最終課題（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、参加学生のモチベーションの格差が拡大するようです。とくにビデオ機能をオンにしているか否かで、授業が充実したものになるかが決まるようです。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

受講希望者数が300人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

【Outline (in English)】

Based on the results of the first semester class, in the second semester, you will acquire 1) the ability to select texts, 2) the ability to read texts, 3) the ability to write reports, and 4) the ability to read reports written by other students. The purpose. These abilities are also essential for studying the academic field of study. It is desirable to take "Sentence Expression A", but even if it is not, I will not refuse students who enthusiastically cover the shortfall.

This class will be a combination of lectures and group work. The specific flow of the lesson is as follows. First, 1) Ask the students themselves to select texts such as books and dissertations on the three themes specified by the faculty members. Next, 2) exchange information within the group about the selected text, and then have them write a relatively long report about 3) the text. 4) After considering the report within the group, ask each group to announce a representative report. This flow is repeated three times.

Participants are asked to write a long report at least three times. If you do not submit it even once, you will not be able to earn credits, so please hope for it. In addition, participants are required to submit assignments each time and make presentations within the group or in the classroom. We strongly hope for the participation of those who have the same scholarship as in the previous term.

In addition, when conducting remotely, it is a condition of participation that the video function can be turned "on".

LIN100CA
言語学 A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般言語学による言語の仕組み、使用、習得についての見方を理解し、より精緻なコミュニケーション行動に反映させる。

【到達目標】

- (1) ことばをめぐる世界の状況、ことばのはたらき、習得、役割、研究による知見などを理解し、基本用語や概念が説明できる。
- (2) 言語学研究の基本用語とその概念が説明できる。
- (3) 上記の言語研究の知見を応用して、ことばのとらえ方、用い方が柔軟になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義式で説明するが詰め込みとならないよう、できるだけ多くの具体例を挙げて理解を促す。

予習による設問の解答やことばの例を挙げるためのブレインストーミングやディスカッションを取り入れ、アクティブに学習できるようにする。学生のプレゼンテーションも取り入れる（授業内に口頭でフィードバックを行う）。

The instructor gives lectures, trying to explain complicated contents in a learner friendly way with plenty of examples. Questions and answers in pre-lecture stage, brainstorming and discussion sessions will be frequently included. Students are required to give one presentation or two during the semester and receive feedback from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語学とは	言語学の定義・言語学の分野
2	世界のことば	語族・類型
3	ことばの多様性	方言・変種
4	ことばとところ	言語習得・脳・思考
5	バイリンガリズム	共有基底能力説 脳と思考バイリンガリズム
6	ことばの意味と運用	協調の原理・関連性理論
7	ことばとコミュニケーション	丁寧さの理論・情報のなわばり理論
8	ことばによらないコミュニケーション	非言語コミュニケーション、異文化理解
9	発話のメカニズム	スピーチ産出モデル、対話モデル
10	発音のすがた	音声学・音韻論
11	語のかたち	形態論
12	文のかたち	統語論
13	意味とことば 比喩の世界	意味論、メタファーの世界
14	まとめとフィードバック	言語学に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材は毎回事前に熟読する。読んだ痕跡を残すよう指示するので（重要語ハイライト、質問、問の解答など）、確実に実行授業開始時確認を受ける（毎回計 4 時間）。授業後にノートの写真（または電子版ノート）を授業支援システムの課題に提出する。

Students are required to read a designated reading chapter every week and are checked if they put highlights on the key words. They also submit the photo of their note after the class to the LMS.

【テキスト（教科書）】

プリント教材を Hoppi の教材を通じて配布する

【参考書】

『はじめて学ぶ言語学』大津由紀雄（編著）

『よくわかる言語学』窪園晴夫【編著】

『現代の言語学』石黒昭博ほか【金星堂】

【成績評価の方法と基準】

●課題と授業内外の活動参加度（50 %）授業支援システムの課題機能を使い学習記録を提出 Submission of required matters and degree of participation to in-class activities 50%

●学期末試験（50 %）基本用語と理論の理解を確認するテスト
Term final exam 50%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントをわかりやすく呈示する。

【その他の重要事項】

人数制限：仮登録 50 人に達した時点で受講者の受け入れを終了とする。

【Outline (in English)】

This course aims to have the students understand the system, usage, and acquisition of a language, i.e. general linguistics. With the knowledge, the students will apply the knowledge to their elaborated language use in their daily communication.

LIN100CA
言語学 B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に学んだ一般言語学の知見をもとに、認知言語学における多様な理論や概念を理解し、日常の精緻なコミュニケーション行動に反映させる。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本的な理論や概念を説明できる。
- (2) 上記の言語研究の知見を応用して、ことばのとらえ方、用い方が柔軟になれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義式で説明するが詰め込みとならないよう、できるだけ多くの具体例を挙げて理解を促す。

予習による設問の解答やことばの例を挙げるためのペアワークやグループワークを取り入れ、アクティブに学習できるようにする。

履修者数によっては学生のプレゼンテーションも取り入れる（授業内に口頭でフィードバックを行う）。

The instructor gives lectures, trying to explain complicated contents in a learner friendly way with plenty of examples. Questions and answers in pre-lecture stage, brainstorming and discussion sessions will be frequently included. Students are required to give one presentation or two during the semester and receive feedback from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	認知言語学とは	ことばの中の様々な疑問
2	意味とことば	従来の意味論との異なり イメージ・文脈・とらえ方
3	認知と語順	感覚イメージの組み上げによる語順
4	比喩（メタファー）	時は金なり・人生・恋愛・論争・上 下・擬人
5	イメージ・スキーマとカテゴリー	容器・経路・物質 etc プロトタイプ理論
6	換喩（メトニミー）	ホワイトハウス、永田町、ダウニング 街 10 番地
7	格文法	フレーム意味論
8	構文文法	「～すればするほど」「～ひとつできな い」
9	図と地	ルビンの壺・フォースダイナミクス・ 虚構の移動
10	プロファイルとベース	とらえ方・ビリヤードボールモデル
11	認知文法	プロトタイプとスキーマ
12	メンタルスペース	融合理論
13	構文	way 構文・結果構文・使役移動構文
14	認知言語学の理論のまとめ	用語の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材は毎回事前に熟読する。読んだ痕跡を残すよう指示するので（重要語ハイライト、質問、問の解答など）、確実に実行し授業支援システムの課題に授業開始前に提出する（毎回計 4 時間）

Students are required to read a designated reading chapter every week and are checked if they put highlights on the key words. They also submit the photo of their note after the class to the LMS.

【テキスト（教科書）】

『認知言語学の大冒険』鍋島弘治朗（開拓社）¥3,400 + 税。

【参考書】

『認知言語学の基礎』川上智作（編著），研究社

『認知文法のエッセンス』ジョン・R・テイラー・瀬戸賢一，大修館

『認知構文論』山梨正明，大修館

【成績評価の方法と基準】

●課題と授業内外の活動参加度（50 %）授業支援システムの課題機能を使い学習記録を提出 Submission of required matters and degree of participation to in-class activities 50%

●学期末試験（50 %）基本用語と理論の理解を確認するテスト
Term final exam 50%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントをわかりやすく呈示する。

【その他の重要事項】

人数制限：仮登録 100 人に達した時点で受講者の受け入れを終了とする。

【Outline (in English)】

Following the expansion of knowledge on general linguistics, this course focus on cognitive linguistics. It aims to have the students understand the theories and concepts in cognitive linguistics and help the students reflect the knowledge to their further elaborated language use in daily communication.

PHL100CA
哲学 A
長谷川 悦宏
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代哲学の父、デカルトの思想を、思想史的背景を踏まえつつ、今日的関心を持って考察する。

【到達目標】

現代を生きる我々の主要な世界把握である科学的世界観、その背景をなす思想的枠組みについて明快に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って講義形式で行う。期末試験とは別に途中、中間試験を行う。また前半・後半二回、小レポートを課す。最終講義で、授業内で行った試験・小レポート等、課題に関する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容の説明及び若きデカルトと時代背景
2	デカルトの野心、彼の方法	解析幾何学、古代人の解析と近代人の代数
3	暫定道徳	修行時代と普遍数学の構想
4	デカルト哲学の完成と後半生	永遠真理創造説と主著の出版、『情念論』について
5	普遍的懐疑	欺く神の想定と現代におけるそのバリエーション
6	コギト・エルゴ・スム	「私」の存在の本質及びコギトからの脱出
7	前半のまとめ及び中間試験	前半の総括及び試験
8	神の存在	神の存在証明、はたしてそれは成功したのか、また必要だったのか
9	自由と誤謬	何故人は誤るのか、明証知と誤謬の関係
10	物質と身体	物質的事物の本性とは、人の身体とは何か
11	デカルトの自然学	物質即延長テーゼ及びガリレオ、ニュートンとの関係
12	心身問題のアポリア	デカルトの生理学と心身合一、心身問題への回答
13	高邁の精神	情念の統御、デカルトの考える道徳
14	講評・解説と期末試験	講評・解説と後半の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はテキストを事前に読み、関心の持った点をまとめておく。復習は講義後、関心の持ったテーマに関して、関連する文献を読み、理解を深める。本授業の予習・復習時間はともに各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小林道夫『デカルト入門』（筑摩書房、2006、880 円 [税込]）

【参考書】

授業で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

デカルト哲学と科学的世界観との関係を論理的に述べられることが評価される。授業期間中の中間試験（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

デカルト哲学と現代の問題との関連性を具体的に紹介することを目指します。

【Outline (in English)】

In this course, you would learn the key concepts of the philosophy of Descartes as the philosopher of today. At the end of the course, you are expected to tell clearly a scientific worldview and its background. Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50 %) and term-end examination(50 %).

PHL100CA
哲学B
長谷川 悦宏
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の政治哲学に大きな影響を与えたロールズの哲学について考察する。

【到達目標】

ロールズ哲学が持つ現代社会に対する意義に関して、客観的に自身の見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って講義形式で行う。期末試験とは別に途中、中間試験を行う。また前半・後半各二回、小レポートを課す。最終事業で、授業内で行った試験・小レポート等、課題にに対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明及びロールズの生きた時代
2	修業時代	20 世紀の英米思想
3	新しい契約論	原初状態と功利主義批判
4	正義の二原理	平等と自由、機会平等、格差原理
5	正義の二原理の特徴	多元性の肯定と平等の擁護
6	『正義論』の原理と方法	相互性、反照的均衡
7	前半のまとめ及び中間試験	前半の総括及び試験
8	ハートの批判	カントへの傾斜
9	政治的転回	『正義論』のディレンマ
10	立憲デモクラシー	正義と正当性
11	万民の法	国際社会における正義
12	晩年の思索	戦争責任、友情、宗教
13	ロールズの理想	ロールズ哲学と今日の世界
14	講評・解説と期末試験	講評・解説と後半の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はテキストを事前に読み、関心の持てた点をまとめておく。復習は講義後、関心の持てたテーマに関して、関連文献を読み、理解を深める。本授業の予習・復習時間はともに各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤純一・田中将人『ジョン・ロールズ』（中央公論新社、2021、本体 840 円+税）

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ロールズ哲学がもつ現代社会における意義を論理的に述べられることが評価される。授業期間中の中間試験（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

現代思想は複雑ですが、可能な限り具体例を用いた解説を目指します。

【Outline (in English)】

In this course, you would examine the philosophy of Rawls that had exercised a great influence on a political idea of the present age. At the end of the course, you are expected to tell clearly the significance to the modern society of his philosophy. Before/after each class meeting, you will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50 %) and term-end examination(50 %).

PHL100CA
哲学A
西川 純子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の哲学者の「国」、「共同体」、「政府」に関するテキストを読解します。私たちに馴染みがあるこれらについて西欧の哲学者がどのように論じているかを知ることで、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、自らの見解を持ち、さらにそれをわかりやすく表現できるようになることを目指します。

【到達目標】

受講生が西欧の代表的な哲学者が国、共同体、政府について語っていた内容を説明できる。それらを参考にして、自らの考えを深めて、それを分かりやすく表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

各哲学者のテキストを読む前に、理解を深めるために時代背景とその哲学者の思想について紹介します。その後、テキストを精読して解説を行います。動画配信を中心としたオンデマンド授業になります。質問はメール（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）で受け付けます。課題の提出は学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容、受講の仕方、評価方法についての説明
2	古代ギリシアにおける国家 (1)	トゥーキュディデース『戦史』（上）の一部を読み、古代ギリシアにおける国家＝ポリスの位置づけを知る。
3	古代ギリシアにおける国家 (2)	プラトン『国家』第2章
4	古代ギリシアにおける国家 (3)	アリストテレス『政治学』第2章
5	キリスト教における国家	中世の統治理論に対するキリスト教の影響について解説する。
6	近代における国家 (1)	モンテスキュー『法の精神』第2編
7	近代における国家 (2)	「社会契約」説について
8	近代における国家 (3)	ウェーバー『職業としての政治』
9	国家はいらない？ (1)	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』
10	国家はいらない？ (2)	ニーチェ『人間的、あまりに人間的』
11	国家はいらない？ (3)	ハイエク『法と立法と自由』(3)
12	国家はいらない？ (4)	ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』
13	国家はいらない？ (5)	ロスバード『自由の倫理学』第12章
14	質問への回答 授業内試験	学生からの質問に答え、これまでのまとめを行う。その後、授業内で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は「学習支援システム」にアップロードされた哲学者のテキストを予習として読んでから、授業に臨むこと。
本講義の予習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業で使用するテキストはPDF化して「学習支援システム」にアップロードします。

【参考書】

プラトン『国家』（上）(下)（藤沢令夫訳）岩波文庫
アリストテレス『政治学』（山本光雄訳）岩波文庫
モンテスキュー『法の精神』（井上堯裕訳）、中公クラシックス、中央公論社
ウェーバー『職業としての政治』（脇圭平訳）、岩波文庫
エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』（土屋保男訳）新日本出版社
フリードリヒ・ハイエク『法と立法と自由 3』（渡辺茂訳）、春秋社
ロバート・ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（嶋津格訳）木鐸社
マリー・ロスバード『自由の倫理学』（森村進他訳）、勁草書房

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー（50%）と学期末レポート（50%）。
授業のリアクションペーパーでは授業の内容を理解しているか否かを問います。学期末レポートは授業の内容を理解していることとあわせて、自らの考えを展開しているか否かも評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方通行の授業となりがちだったので、学生のリアクションペーパーを紹介しました。また、有意義な質問が寄せられたさいには掲示板を利用してディスカッションをオンライン上で行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム Hoppii を利用して、テキストをアップロードします。課題の提出も学習支援システム Hoppii を利用する予定です。パソコン、タブレット、スマートフォンといった電子機器を用意していることが望ましいです。

【その他の重要事項】

質問等は西川までメールで聞いてください（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）

【Outline (in English)】

This course will introduce you to the philosophical concept such as nation and government on which principal western philosophers had been working and elaborating. One of the aims of this course is to show you how these concepts work in the historical texts. At the end of this course, you should be able to express your own views based on these philosophical concepts. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50 %

PHL100CA
哲学B
西川 純子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の哲学者の「社会契約」に関するテキストを読解します。「社会契約」について西欧の哲学者がどのように論じているかを知ること、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、自らの見解を持ち、さらにそれをわかりやすく表現できるようになることを目指します。

【到達目標】

受講生が西欧の代表的な哲学者が「社会契約」について語った内容を説明できる。それらを参考にして、自らの考えを深めて、それを分かりやすく表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

各哲学者のテキストを読む前に、理解を深めるために時代背景とその哲学者の思想について紹介します。その後、テキストを精読して解説を行います。動画配信を中心としたオンデマンド授業になります。質問はメール（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）で受け付けます。課題の提出は学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容、受講の仕方、評価方法についての説明
2	「社会契約」とは何か(1)	「社会契約」説という考え方について解説する。
3	「社会契約」とは何か(2)	「社会契約」以前の国家の源に関するテキストを読む。
4	「社会契約」とは何か(3)	「社会契約」説が誕生した背景を解説する。
5	ホッブスにおける「社会契約」説	ホッブス『リヴァイアサン』第2部第17章
6	スピノザにおける「社会契約」説	スピノザ『政治・神学論』第20章
7	プーフェンドルフにおける「社会契約」説	プーフェンドルフ『自然法にもとづく人間と市民の義務』
8	ルソーにおける「社会契約」説(1)	ルソー『社会契約論』第1篇第6章と第7章
9	ルソーにおける「社会契約」説(2)	ルソー『社会契約論』第1篇第6章と第7章
10	ロックにおける「社会契約」説	ロック『市民政府論』第9章
11	ヒュームによる「社会契約」説批判	ヒューム「原始契約について」
12	ロールズにおける「社会契約」説	ロールズ『正義論』
13	社会契約説を現在に問うことの意義	現在の「社会契約」に関する研究成果を概観する。
14	質問への回答 授業内試験	学生からの質問に答え、これまでのまとめを行う。その後、授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は「学習支援システム」にアップロードされた哲学者のテキストを予習として読んでから、授業に臨むこと。

本講義の予習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業で使用するテキストはPDF化して「学習支援システム」にアップロードします。

【参考書】

プラトン『国家』(上)(下)(藤沢令夫訳) 岩波文庫
アリストテレス『政治学』(山本光雄訳) 岩波文庫
ホッブス『リヴァイアサン』1～4 (水田洋訳) 岩波文庫
スピノザ『神学・政治論』(吉田量彦訳) 光文社古典新訳文庫
ロック『市民政府論』(角田安正訳) 光文社古典新訳文庫
プーフェンドルフ『自然法にもとづく人間と市民の義務』(前田俊文訳)、京都大学学術出版会
ヒューム『道徳・政治・文学論集』、名古屋大学出版会
ルソー『社会契約論』(作田啓一訳) 白水Uブックス
ロールズ『正義論』(川本隆史他訳) 紀伊国屋書店

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー (50%) と学期末レポート (50%)。授業のリアクションペーパーでは授業の内容を理解しているか否かを問います。学期末レポートは授業の内容を理解していることとあわせて、自らの考えを展開しているか否かも評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方通行の授業となりがちだったので、学生のリアクションペーパーを紹介し、また、有意義な質問が寄せられたさいには掲示板を利用してディスカッションをオンライン上で行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム Hoppii を利用して、テキストをアップロードします。課題の提出も学習支援システム Hoppii を利用する予定です。パソコン、タブレット、スマートフォンといった電子機器を用意していることが望ましいです。

【その他の重要事項】

質問等は西川までメールで聞いてください (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp)

【Outline (in English)】

This course will introduce you to the philosophical concept such as social contract on which principal western philosophers had been working and elaborating. One of the aims of this course is to show you how these concepts work in the historical texts. At the end of this course, you should be able to express your own views based on these philosophical concepts. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 50 %

PHL100CA
論理学 A
町田 一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「演繹」と言われる論理的思考の技法を身につける。伝統的論理学における名辞の用法や命題の種類について学び、そのうえで、三段論法を用いて演繹的に妥当な推理が行えることを目標とする。

【到達目標】

日常言語（日本語）を用いて演繹的に妥当な推論を、推論規則にしたがって構成することができる。演繹的に妥当な推論とそうでない推論を見分けられるようになるので、基本的な論理的思考力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方型授業を心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演繹とは何か	演繹の特質について学び、推論が演繹的であるか、演繹的でないかを判断する。
2	命題とは何か	命題の真と偽について学び、その真偽を判断する。
3	命題論理学とは何か①	定言命題・選言命題・連言命題の特質について学び、練習問題を解く。
4	命題論理学とは何か②	条件命題の特質について学び、練習問題を解く。
5	真理関数とは何か①	定言命題・選言命題・連言命題の記号化を学び、真理表を作成する。
6	真理関数とは何か②	条件命題の真理表を作成し、逆・裏・対偶について学ぶ。
7	トートロジーとは何か	前件肯定式と後件否定式の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
8	背理法とは何か	背理法の基本構造について学び、練習問題を解く。
9	論証図とは何か	演繹的妥当性の証明を、論証図を用いて行う。
10	三段論法とは何か	三段論法の演繹的妥当性の証明を、オイラー図を用いて行う。
11	さまざまな三段論法①	仮言三段論法の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
12	さまざまな三段論法②	ディレンマの演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
13	さまざまな三段論法③	省略三段論法の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
14	期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度を測る試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習に 1 時間、復習に 2 - 3 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみることを望まれる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業中じっくり考えながら練習問題を解きたいので、そのための時間を十分確保してほしいという要望があった。解き急がせることがないように、留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや練習問題はすべて学習支援システムの「教材」に掲載するため、タブレットなどの情報機器が必要である。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Able to learn fundamental deductive reasoning. Our goal is to acquire how to use Aristotelean syllogism. Must do a lot of exercises on whether deductively valid or not, so learning activities outside of classroom are necessary between 2 and 3 hours every week. Grading Criteria is Term Examination.

PHL100CA
論理学 B
町田 一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帰納」と言われる論理的思考の技法を身につける。あらゆる科学的考察の基礎となる帰納的推論の構造を理解し、演繹的推論との違いを理解することを目標とする。

【到達目標】

日常言語（日本語）を用いて、枚挙的推理をはじめとしたさまざまな帰納的推論の基本構造が理解できる。妥当な帰納的推論とそうでない誤謬推理や詭弁を識別して応用的な論理的思考力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	帰納とは何か	帰納的推論の特質について学び、演繹的推論との違いを理解する。
2	蓋然性とは何か	統計的三段論の基本構造について学び、練習問題を解く。
3	一般化とは何か	帰納的一般化・統計的一般化の基本構造について学び、その違いを理解する。
4	統計的推測とは何か①	標本調査・フェルミ推定の特質とその問題点について学び、練習問題を解く。
5	統計的推測とは何か②	統計的推測において見られる「バイアス」の特質とその問題点について学び、練習問題を解く。
6	因果関係と相関関係の相違は何か	因果的推論の基本構造について学び、その問題点を理解する。
7	ミルの方法①	「ミルの方法」のうち、一致法と差異法の基本構造について学び、その問題点を理解する。
8	ミルの方法②	「ミルの方法」のうち、一致差異併用法・共変法・剰余法の基本構造について学び、その問題点を理解する。
9	帰納的推論の総合練習	一般化・統計的推測・因果的推論・ミルの方法についての応用問題を解く。
10	虚偽論①	循環論法など「論点先取」の特質について学び、練習問題を解く。
11	虚偽論②	論点無視など「論点のすり替え」の特質について学び、練習問題を解く。
12	虚偽論③	多義性の誤謬など「言語上の虚偽」の特質について学び、練習問題を解く。
13	帰納的推論における虚偽とは何か	性急な一般化・不当原因の誤謬・類推錯誤の基本構造について学び、その問題点を理解する。
14	授業内期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習に 1 時間、復習に 2 - 3 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみるのが望まれる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業中じっくり考えながら練習問題を解きたいので、そのための時間を十分確保してほしいという要望があった。解き急がせることがないように、留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや練習問題はすべて学習支援システムの「教材」に掲載するため、タブレットなどの情報機器が必要である。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Able to learn fundamental inductive reasoning. Our goal is to acquire how to use inductively correct reasoning. Must do a lot of exercises on whether inductively correct or not, so learning activities outside of classroom are necessary between 2 and 3 hours every week. Grading Criteria is Term Examination.

PHL100CA
論理学 A
町田 一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「演繹」と言われる論理的思考の技法を身につける。伝統的論理学における名辞の用法や命題の種類について学び、そのうえで、三段論法を用いて演繹的に妥当な推理が行えることを目標とする。

【到達目標】

日常言語（日本語）を用いて演繹的に妥当な推論を、推論規則にしたがって構成することができる。演繹的に妥当な推論とそうでない推論を見分けられるようになるので、基本的な論理的思考力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方型授業を心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演繹とは何か	演繹の特質について学び、推論が演繹的であるか、演繹的でないかを判断する。
2	命題とは何か	命題の真と偽について学び、その真偽を判断する。
3	命題論理学とは何か①	定言命題・選言命題・連言命題の特質について学び、練習問題を解く。
4	命題論理学とは何か②	条件命題の特質について学び、練習問題を解く。
5	真理関数とは何か①	定言命題・選言命題・連言命題の記号化を学び、真理表を作成する。
6	真理関数とは何か②	条件命題の真理表を作成し、逆・裏・対偶について学ぶ。
7	トートロジーとは何か	前件肯定式と後件否定式の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
8	背理法とは何か	背理法の基本構造について学び、練習問題を解く。
9	論証図とは何か	演繹的妥当性の証明を、論証図を用いて行う。
10	三段論法とは何か	三段論法の演繹的妥当性の証明を、オイラー図を用いて行う。
11	さまざまな三段論法①	仮言三段論法の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
12	さまざまな三段論法②	ディレンマの演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
13	さまざまな三段論法③	省略三段論法の演繹的妥当性について学び、練習問題を解く。
14	期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度を測る試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習に 1 時間、復習に 2 - 3 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみることを望まれる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業中じっくり考えながら練習問題を解きたいので、そのための時間を十分確保してほしいという要望があった。解き急がせることがないように、留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや練習問題はすべて学習支援システムの「教材」に掲載するため、タブレットなどの情報機器が必要である。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Able to learn fundamental deductive reasoning. Our goal is to acquire how to use Aristotelean syllogism. Must do a lot of exercises on whether deductively valid or not, so learning activities outside of classroom are necessary between 2 and 3 hours every week. Grading Criteria is Term Examination.

PHL100CA
論理学 B
町田 一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帰納」と言われる論理的思考の技法を身につける。あらゆる科学的考察の基礎となる帰納的推論の構造を理解し、演繹的推論との違いを理解することを目標とする。

【到達目標】

日常言語（日本語）を用いて、枚挙的推理をはじめとしたさまざまな帰納的推論の基本構造が理解できる。妥当な帰納的推論とそうでない誤謬推理や詭弁を識別して応用的な論理的思考力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	帰納とは何か	帰納的推論の特質について学び、演繹的推論との違いを理解する。
2	蓋然性とは何か	統計的三段論の基本構造について学び、練習問題を解く。
3	一般化とは何か	帰納的一般化・統計的一般化の基本構造について学び、その違いを理解する。
4	統計的推測とは何か①	標本調査・フェルミ推定の特質とその問題点について学び、練習問題を解く。
5	統計的推測とは何か②	統計的推測において見られる「バイアス」の特質とその問題点について学び、練習問題を解く。
6	因果関係と相関関係の相違とは何か	因果的推論の基本構造について学び、その問題点を理解する。
7	ミルの方法①	「ミルの方法」のうち、一致法と差異法の基本構造について学び、その問題点を理解する。
8	ミルの方法②	「ミルの方法」のうち、一致差異併用法・共変法・剰余法の基本構造について学び、その問題点を理解する。
9	帰納的推論の総合練習	一般化・統計的推測・因果的推論・ミルの方法についての応用問題を解く。
10	虚偽論①	循環論法など「論点先取」の特質について学び、練習問題を解く。
11	虚偽論②	論点無視など「論点のすり替え」の特質について学び、練習問題を解く。
12	虚偽論③	多義性の誤謬など「言語上の虚偽」の特質について学び、練習問題を解く。
13	帰納的推論における虚偽とは何か	性急な一般化・不当原因の誤謬・類推錯誤の基本構造について学び、その問題点を理解する。
14	授業内期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習に 1 時間、復習に 2 - 3 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみるのが望まれる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業中じっくり考えながら練習問題を解きたいので、そのための時間を十分確保してほしいという要望があった。解き急がせることがないように、留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや練習問題はすべて学習支援システムの「教材」に掲載するため、タブレットなどの情報機器が必要である。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Able to learn fundamental inductive reasoning. Our goal is to acquire how to use inductively correct reasoning. Must do a lot of exercises on whether inductively correct or not, so learning activities outside of classroom are necessary between 2 and 3 hours every week. Grading Criteria is Term Examination.

CUA100CA
民俗学 A
西村 敏也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学 A では、民俗全般を取り扱う。

【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－ 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまゐの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配布する。

【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本契彦・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

課題 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい授業になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。
民俗学 B と併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time. (Learning Objectives)

A folkloric summary, understanding and the acquisition of the term. To life, folk culture is interested.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for tomorrow's lesson using a reference book. In addition, reading a book about the folklore appropriately. Usually observing a phenomenon thought to be life, the folk culture. At the preparations for this class learning, review time, I assume for each two hours a standard.

(Grading Criteria /Policy)

Problem 50%, term paper 50%

CUA100CA
民俗学 B
西村 敏也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学 B では、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配信する。

【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

課題 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。
民俗学 A と併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time. (Learning Objectives)

A folkloric summary, understanding and the acquisition of the term. To life, folk culture is interested.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for tomorrow's lesson using a reference book. In addition, reading a book about the folklore appropriately. Usually observing a phenomenon thought to be life, the folk culture. At the preparations for this class learning, review time, I assume for each two hours a standard.

(Grading Criteria /Policy)

Problem 50%, term paper 50%

CUA100CA
民俗学 A
西村 敏也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化という、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学 A では、民俗全般を取り扱う。

【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－ 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまゐの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配布する。

【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本契彦・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

課題 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい授業になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。
民俗学 B と併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time. (Learning Objectives)

A folkloric summary, understanding and the acquisition of the term. To life, folk culture is interested.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for tomorrow's lesson using a reference book. In addition, reading a book about the folklore appropriately. Usually observing a phenomenon thought to be life, the folk culture. At the preparations for this class learning, review time, I assume for each two hours a standard.

(Grading Criteria /Policy)

Problem 50%, term paper 50%

CUA100CA
民俗学 B
西村 敏也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学 B では、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配信する。

【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈婆雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

課題 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。
民俗学 A と併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time. (Learning Objectives)

A folkloric summary, understanding and the acquisition of the term. To life, folk culture is interested.

(Learning activities outside of classroom)

Prepare for tomorrow's lesson using a reference book. In addition, reading a book about the folklore appropriately. Usually observing a phenomenon thought to be life, the folk culture. At the preparations for this class learning, review time, I assume for each two hours a standard.

(Grading Criteria /Policy)

Problem 50%, term paper 50%

PHL100CA
Japanese Culture A
李 址遠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces basic knowledge and concepts of modern Japanese culture. By examining diverse aspects of Japanese culture and society, students will learn various conceptual tools and perspectives to better understand the modern Japanese culture in which they live.

【到達目標】

- To be able to explain characteristics of Japanese culture.
- To be able to analyze specific aspects of Japanese culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each class is mainly conducted with a lecture and discussion on a specific theme. Students will give presentations on themes that they find interesting. Submitting a reaction paper is required after each class. Feedback and comments will be given in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance of the course/ Defining the concept of culture
2	An overview of Japanese Culture	Concepts of Japan, Japanese culture, and the Japanese
3	Japan's emic conceptions	Etic and emic perspectives in analysis of culture
4	Language	History and characteristics of Japanese language
5	Family culture	The Japanese family in sociohistorical contexts
6	School culture	Diversity of school cultures and their characteristics
7	Work culture	Japan's economic development and work ethos
8	Political culture	Variations and diversity of Japanese political culture
9	Buraku culture	Minority groups in contemporary Japan
10	Mid-term	Test on covered themes
11	Preparation for presentation	Deciding themes and gathering information
12	Presentations 1	Student presentations & feedback
13	Presentations 2	Student presentations & feedback
14	Review	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Previewing the textbook and reviewing class materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Yoshio Sugimoto ed. Cambridge Companion to Modern Japanese Culture. Cambridge UP, 2009

【参考書】

Roger J. Davies, Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. Tuttle Publishing, 2002

【成績評価の方法と基準】

Midterm: 30%, Presentation: 30%, Participation: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Midterm feedback will be provided in the next class.

【Outline (in English)】

This course introduces basic knowledge and concepts of modern Japanese culture. By examining diverse aspects of Japanese culture and society, students will learn various conceptual tools and perspectives to better understand the modern Japanese culture in which they live.

PHL100CA
Japanese Culture B
李 址遠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will read "The Chrysanthemum and the Sword," one of the most influential studies on Japanese culture. By examining its contents, students will learn the underpinning concepts of Japanese culture and the importance of a critical understanding of culture.

【到達目標】

- To be able to explain underpinning concepts of Japanese culture.
- To be able to critically assess various discourses on Japanese culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The course proceeds with summarizing and discussing the contents of the textbook and criticisms toward it. Students will have to take charge of summarizing one chapter and giving a presentation. Submitting a reaction paper is required. Feedback will be done in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance of the course
2	Reading Chapters 1-2	Aims and methods of the research
3	Reading Chapters 3-4	Historical backgrounds
4	Reading Chapters 5	'On' (恩)
5	Reading Chapter 6	'Gimu' (義務)
6	Reading Chapter 7	'Giri' (義理) to the world
7	Reading Chapter 8	'Giri' (義理) to one's name
8	Reading Chapter 10	Socialization
9	Reading Chapter 12	Shame culture
10	Review	Summary of the book
11	Examining Criticisms	Positive and negative evaluations
12	Preparation for presentation	Deciding themes and gathering information
13	Presentations 1	Student presentations & feedback
14	Presentations 2	Student presentations & feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Previewing the textbook and reviewing class materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Ruth Benedict, The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture. Mariner Books, 2006[1946]

【参考書】

Roger J. Davies, Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. Tuttle Publishing, 2002

【成績評価の方法と基準】

Reaction papers: 20%, Presentation: 50%, Class participation: 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

In this course, students will read "The Chrysanthemum and the Sword," one of the most influential studies on Japanese culture. By examining its contents, students will learn the underpinning concepts of Japanese culture and the importance of a critical understanding of culture.

POL100CA
政治学 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国内政治過程を対象とし、政治に求められる役割、その中心的な主体となる国家の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の政治を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	政治のとらえ方	授業概要、市場の失敗、分析視角
第 2 回	政治権力と秩序	財の種類とフリーライダー、集合行為問題、政治の役割、政治の失敗
第 3 回	国家という枠組み	国家とは、国民とは。国家のある世界・ない世界、国家の役割
第 4 回	政治体制 I	政治体制の分類、民主化の波
第 5 回	政治体制 II	政治体制の移行とその要因、福祉国家
第 6 回	戦後の日本政治	戦後から 55 年体制へ、経済復興と自民党長期政権、政治改革
第 7 回	民主主義と選挙	選挙と選挙制度、投票行動、日本における政治参加・投票行動
第 8 回	政党と政党システム	政党の役割（意見の表出と集約機能）、政党システム、政党と政治家
第 9 回	執政とアカウンタビリティ	政権のタイプ、選挙制度と政権のタイプ、戦後日本の首相
第 10 回	権力の分割	議院内閣制と大統領、立法における権力の分割、司法機関の独立
第 11 回	国会	国会の特徴、立法過程、国会の評価
第 12 回	官僚制と政官関係	政策過程、官僚の役割、官僚制問題、日本の官僚制
第 13 回	利益団体	ロビー活動とレント、政治家・官僚・利益団体
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15025-6

【参考書】

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝（2011）『政治学 補訂版』有斐閣。定価 3,672 円（本体 3,400 円）ISBN 978-4-641-05377-9
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1
上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6
飯田健・松林哲也・大村華子（2015）『政治行動論 有権者は政治を変えられるのか（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 1,944 円（本体 1,800 円）ISBN978-4-641-15029-4

【成績評価の方法と基準】

本授業は、小テスト（30%）と期末試験（70%）にて評価を行う。小テストは、学習支援システムを用いてオンラインで実施するが、期末試験は、指定の日にち・時間内に教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline (in English)】

This course introduces key concepts of political science with particular attention to domestic politics. The topics include the state, the nation, political institutions (democracy and autocracy), elections, institutions of governance (executives, legislature, and court), and interest groups. Rather than detailing political life, this course intends to provide students with some theoretical tools that clarify causal relations and mechanisms on political phenomena. These objectives help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of domestic politics.

POL100CA
政治学 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国家間関係を対象とし、戦争と平和をめぐる国際関係の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	政治学 A の復習	前学期の復習、授業概要
第 2 回	マスメディアと政治	世論、統計資料でみる内閣支持率と政治信頼、メディアと世論
第 3 回	国と地方の関係	単一国家と連邦国家、本人代理人関係、地方分権
第 4 回	地方自治	首長、地方議会、住民による統制、条例
第 5 回	市民社会と国民国家	市民社会、ナショナリズムとコスモポリタニズム
第 6 回	国内社会と国際社会	国内社会と国際関係との比較：アナーキー
第 7 回	主権国家システムの拡大	封建的国際システム・主権国家システム、ナショナリズム
第 8 回	伝統的国際政治の視点	リアリズム、勢力均衡論、リベラリズム、国際制度と国際協調
第 9 回	国際制度	調整の手段としての制度、制度の形成、覇権安定論・新自由主義制度論
第 10 回	安全保障と平和	統計資料で見る戦争、アナーキーと国際関係、安全保障のジレンマ
第 11 回	非伝統的安全保障	テロリズム、内戦、海賊
第 12 回	国際政治経済 I	経済的相互依存の拡大、自由貿易、非対称的な相互依存
第 13 回	国際政治経済 II	貧困、貧困とガバナンス、開発援助
第 14 回	復習	学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

【参考書】

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1
 上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6
 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）（2017）『国際紛争 理論と歴史』有斐閣。定価 3,240 円（本体 3,000 円）ISBN978-4-641-14917-5

【成績評価の方法と基準】

本授業は、小テスト (30%) と期末試験 (70%) にて評価を行う。小テストは、学習支援システムを用いてオンラインで実施するが、期末試験は、指定の日にち・時間内に教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline (in English)】

This course introduces key concepts of political science with particular attention to domestic politics and international politics. The first half of this course covers the topics: media, local government, and civil society. The second half covers the basic concepts of international politics such as sovereignty, anarchy, traditional theories of international relations (realism, liberalism, and constructivism), war and peace, and development. Rather than detailing political life, this course intends to provide students with some theoretical tools that clarify causal relations and mechanisms on political phenomena. These objectives help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of domestic and international politics.

GEO100CA
地理学 A
朴 宗玄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造をどのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。
4	企業の支店配置の原理	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圈と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。
11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。
12	支社立地と日本の国土構造	企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。

- 13 本社配置と日本の国土構造 企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
- 14 まとめ 地理学で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（60%）、定期試験（40%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

GEO100CA
地理学 B
朴 宗玄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地理学のモデルー都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地帯モデル	多核心モデルと三地帯モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	大都市圏の工業機能の変化	首都圏の工業機能の変化の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィ入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（60%）、定期試験（40%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

CUA100CA
文化人類学 A
横田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。文化人類学 A は基礎・入門編。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な考え方や方法を学び、理解する。異なる社会の異なる慣習を学ぶことで、自分をとりまく社会環境を相対化して見ることができるようになる。1) 文化人類学の基礎知識を身につける。2) 文化人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 文化人類学の基礎概念を用いて、社会現象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 2 日前にアップするので、ダウンロードまたはプリントアウトをして受講のこと。他に映像や画像も見せる。

授業時間が終わってもダウンロード可能としておく。次の授業までに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目的、方針の説明
第 2 回	文化概念と文化相対主義	文化人類学における「文化」の定義と文化相対主義について学ぶ
第 3 回	フィールドワークと民族誌	方法としてのフィールドワークと成果としての民族誌について知る
第 4 回	人種とエスニシティ	人種論の形成過程と、それが引き起こす現代の諸問題について学ぶ
第 5 回	生態と文化	生態適応の諸類型とその文化について学ぶ
第 6 回	家族と親族	現代の家族・親族のあり方について、生殖医療の進展を視野に入れて学ぶ
第 7 回	結婚	インセスト・タブーや連帯理論などから現代の結婚まで学ぶ
第 8 回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーの多様性や性の多義性を学ぶ
第 9 回	宗教	人間と宗教の関わりについて、近年の宗教人類学の議論を視野に入れて学ぶ
第 10 回	儀礼	通過儀礼を中心に説明し、人間は何のために儀礼を行うのか学ぶ
第 11 回	法と文化	人間はどのようにもめごとを解決してきたのか民族誌から学ぶ
第 12 回	贈与と交換	人はなぜモノをもらったらお返しをするのか民族誌から学ぶ
第 13 回	観光と文化	観光と文化の関係を真正性をキーワードとして学ぶ
第 14 回	まとめと復習	全体のまとめと復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

綾部恒雄・桑山敬己（編）『よくわかる文化人類学【第 2 版】』（ミネルヴァ書房、2010）。
川口幸大『ようこそ文化人類学へ』（昭和堂、2017 年）。
その他、授業中に適宜、指示する。参考書の購入は必須ではない。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70%。平常点（リアクションペーパーの提出）30 %。総計 60%以上を合格とする。詳細はいずれ発表する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすくなるよう努力する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回プリントアウトまたはダウンロードして持参すること。パソコンまたはタブレットが望ましい。WIFI 環境を必要とする。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology aims to understand various “others” living around the globe, with a focus on society and culture. Its most prominent feature involves empirically and positively examining different cultures and societies based on the methodology of fieldwork (participant observation), as well as writing ethnographies. This task also involves not only relativizing dominant values in our society but also exploring the universal nature of human beings. Through 15 classes, this course aims to allow students to acquire a cultural anthropological perspective that embraces both the universality and diversity of human beings.

CUA100CA
文化人類学B
横田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。この授業は応用編として文化人類学の視点から中国社会についての解説を行う。

【到達目標】

(1) 授業を通して中国の社会と文化の多様性、複雑さを理解できるようになること、(2) 中国社会の成り立ちと現状について大まかに把握できるようになること、を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の2日前にアップするので、プリントアウトまたはダウンロードをして受講のこと。他に映像や画像も見せる。授業時間が終わってからもダウンロード可能としておく。次の授業までに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、方針、評価の方法について
第2回	中国社会の基礎知識	内的な多様性、支配体制、戸籍制度などについての説明
第3回	1949年以降の現代中国史	現代中国の重要なターニングポイントについて学ぶ
第4回	中国人の人間関係	行動原理としての「関係」、「面子」、「人情」
第5回	家族とその変容	中国の理念的な家族と、父系出自集団「宗族」、現代の家族が直面する問題について学ぶ
第6回	中国の民族問題	民族問題の起源と現在について学ぶ
第7回	現代中国の年中行事	特に「春節」と「清明節」を中心に年中行事の過ごし方について知る
第8回	風水	中国における環境認識の方法としての風水について学ぶ
第9回	食文化の多様性	中国の食文化の多様性、民俗的健康観、食事のマナーなどについて学ぶ
第10回	中華圏のポップミュージック	中華圏のポップミュージックについて社会的背景も踏まえながら学ぶ
第11回	I Tと監視社会化	スマホ以降の中国社会の変化と監視社会化する現状について学ぶ
第12回	香港と台湾	中国の台頭にともなう両者との関係の変化について学ぶ
第13回	華僑華人の現在	華僑華人の定義、歴史と現状について日本社会の状況も踏まえて解説する
第14回	まとめと復習	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材の箇所）を読んで予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業内で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70%。平常点（リアクションペーパー）30%。

【学生の意見等からの気づき】

リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII を多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。このシステムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology aims to understand various “others” living around the globe, with a focus on society and culture. Its most prominent feature involves empirically and positively examining different cultures and societies based on the methodology of fieldwork (participant observation), as well as writing ethnographies. This task also involves not only relativizing dominant values in our society but also exploring the universal nature of human beings. Through 15 classes, this course aims to allow students to acquire a cultural anthropological perspective that embraces both the universality and diversity of human beings. This class is an applied course that provides an explanation of Chinese society from the perspective of cultural anthropology.

HIS100CA
日本史 A
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係緊張の中で生まれた日本国家の形成と展開の特色を理解する。次に武士の台頭が対外関係の変化を背景とし、日本の諸地域ごとに独自性をもったことを把握する。さらに、国際的環境が日本史を通じた分散と統合の重要な要素であることを認識する。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係への留意など歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

日本の都市の特色から日本の伝統と文化の原点を押さえる。そして、軍事的緊張の中で成立した日本の律令国家の特質を理解する。次に、その統一国家が 10 世紀以降王朝国家へと移行する古代国家の変容を考える。さらに、新体制としての荘園・公領が生まれ、何回かの戦乱を通じて武士が政権を掌握していく、我が国独自の歴史過程を考察する。最後に国家形成だけでなく、国際的環境の変化が、中世から近代まで統合と分散の要素でありつづけた問題を学ぶ。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題回答のメモ（字数 300 字程度）と文章化された一つの課題回答ペーパー（600 字程度）を授業中に毎回 hoppii に提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	我が国の伝統と文化の特色	防壁なき都市、権力と権威の分離、国際的環境と国家形成、日本史の教育における本授業の意味
2	軍事国家としての律令国家	戸籍と軍団制、新羅、蝦夷、隼人、東夷の小帝国
3	律令国家から王朝国家へ	対外関係変化、弓馬の士と俘囚、郡司と律令支配、時代区分
4	武士の源流	群盗蜂起、最初の武士、武器・武装の変化、地域文化の接触、弓馬と刀
5	承平・天慶の乱	反逆の論理、東国自立の伝統、群盗蜂起、西国武士の特色、乱後の武士
6	源氏と平氏	平忠常の乱、源頼信と関東、浅間山噴火、田地荒廃と再開墾、荘園公領制
7	前九年合戦と後三年合戦	蝦夷支配の歴史、清原氏内紛、源義家と藤原清衡、平泉文化
8	院政開始と源氏・平氏	伊勢平氏の登場、河内源氏の没落、院政という政治形態
9	保元の乱・平治の乱	武士と貴族、武者の世への転換、親政と院政、平氏政権への道

10	平氏政権	厳島社の保護、日宋貿易、西国国家、海洋国家構想、治承3年のクーデター
11	治承寿永の内乱	以仁王の挙兵、頼朝挙兵と東国独立、義仲挙兵、天下三分、十月宣旨
12	寿永の内乱	源平の合戦、平家滅亡、朝廷改造と地頭設置、奥州戦争
13	日本史における分散と統合	東と西の関係、幕府と朝廷、関東公方と将軍、地域の文化
14	国際環境と国内統合	得宗政権、義満政権、織豊政権、幕末維新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義プリントとパワーポイントの pdf、動画等を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

竹内理三『武士の成立』中公文庫、2009 年改版第 2 刷、高橋典幸・保谷徹・山田邦明『日本軍事史』吉川弘文館、2006 年

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加平均で評価する（90 %）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を副次的に考慮して（10 %）、総合評価を行う。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるとの指摘があるので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、ノート PC またはタブレット

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course introduces the characteristics of the formation and development of the Japanese nation that was born in the midst of tensions in international relations. At the end of the course, students are expected to acquire historical thinking ability such as learning the variety of interpretations. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HIS100CA
日本史 B
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は中世国家の形成と展開に軸をすえつつ前後の時代も見通すことで、日本社会の統合と地域の特色や地域の自立の歴史について理解を深めることをめざす。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力を獲得することを目的とする

【到達目標】

治承寿永の乱、承久の乱をへて東西に分かれた日本が、蒙古襲来を契機に統合に向かい、その反発として建武政権が成立する。その後わが国は動乱の時代に入り、義満による統合をへて、さらに戦国大名領国へと分裂し、再統合をへて近世社会・近代社会を迎える。こうしたわが国の統合と地域自立の歴史的ダイナミズムについて考察する。いくつかのテーマを論述する活動とその評価を通じて、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立することを理解し、同時に事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード資料、(時に動画等)）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。授業中に課題の内1つの回答（600 字程度）を完成（文章化）させ、他の課題のメモ（300 字程度）とともに毎回提出してもらう予定である。授業後、採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地域と統合、承久の乱	地理的環境と文化、東と西の分裂、乱の影響、中世的枠組みの成立
2	御成敗式目と北条泰時	戦乱と紛争、本所と地頭御家人の対立、北条泰時書状の意味
3	鎌倉幕府と中世国家	幕府裁判の意味、強制力の存在形態、中央と地方の関係変化、法秩序の転換
4	得宗専制論をめぐる	合議と専制、鎌倉幕府御家人制度の特色、北条政権の可能性
5	蒙古襲来とその影響	モンゴル帝国の世界への影響、幕府による統合、経緯と影響
6	後醍醐天皇の倒幕運動	天皇不執政の伝統と専制、天皇御謀叛、朝廷による統合
7	鎌倉幕府の滅亡	討幕運動の広がり、楠木正成の伝説と実像、鎌倉時代の足利氏
8	建武新政	高氏と護良、旧御家人層の動き、恩賞不公平、造宮と造幣、天皇専制
9	南北朝の動乱	諸国の反乱、南北朝の分裂、北畠顕家の長征、後醍醐の死と人物論
10	室町幕府の成立	幕府とは何か、全武士の組織、建武式目、足利直義の思想
11	乱世の人間像	高師直の伝説と実像、執事としての師直、下剋上の原型、婆娑羅の文化
12	観応の擾乱	尊氏と直義、兄弟の相克、個人と党派、伝統と変革
13	武家統一政権の形成	武家による統合、朝廷と守護の圧伏、北山邸の造営と北山文化
14	近世社会・近代社会の展望	幕府と藩、帰属意識、国民国家の形成、方言と共通語、国民意識と儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロード。

【参考書】

佐藤進一『南北朝の動乱』中公文庫、2009 年改版第 2 刷。網野善彦『日本社会の歴史（上）（中）（下）』岩波新書、1997 年。

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加平均で評価する（90 %）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を副次的に考慮して（10 %）、総合評価を行う。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

内容が細かすぎる回があったとの指摘があったので分量を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。なお私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、ノート PC またはタブレット。授業終了後すみやかに課題を提出するため情報機器が必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書（あるいは『新もういちど読む山川日本史』（山川出版社）など）を購入し自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course introduces the formation and development of a medieval nation. The aim of this course is to deepen understanding of the integration of Japanese society and the history of regional characteristics. At the end of the course, students are expected to acquire historical thinking ability such as learning the variety of interpretations. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HIS100CA
世界史 A
太田 啓子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。

授業の目的：

現在の「世界史」の問題点を認識した上で、世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究に触れる。この過程を通じて世界史を学ぶことの意義を考える。

【到達目標】

1. 現在の「世界史」が抱える問題点を具体的に指摘できる。
2. 世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究を理解し、それを自分の言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本学からの要請により、本授業はオンラインでの開講となる（資料配信型）。

具体的には各回の講義スライドを学習支援システムにアップロードする。また、必要に応じて適宜、課題図書を提示する。

受講者は各自スライドをダウンロードし、課題図書を参照しつつ在宅での学習に取り組む。

講義においては毎回小テストを課す。受講者は講義後、学習支援システムから小テストの解答を提出する（提出は必須）。

また、講義への感想、質問があれば入力する（こちらの入力は任意）。これに対して次の講義で教員より解説・補足説明等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	「世界史」の成立	現在の「世界史」が成立した経緯について概観する。
第 3 回	「世界史」の問題点	現在の「世界史」が抱える問題点について学ぶ。
第 4 回	新しい世界史/グローバル・ヒストリーとは何か	新しい世界観と歴史認識、グローバル・ヒストリーの特徴について学ぶ。
第 5 回	ヨーロッパとアジア	近世までのアジアの歴史的発展を検証し、ヨーロッパ中心の歴史観を批判した諸研究について学ぶ。
第 6 回	主観性を超えて：発展とは何か (1)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 7 回	主観性を超えて：発展とは何か (2)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 8 回	「新しい世界史」の視角	疫病、人口変動、環境など、従来の歴史研究ではほとんど分析対象とされることがなかった歴史学の新たな視角について学ぶ。
第 9 回	移動と交易	人・モノ・情報の移動が地域にもたらした歴史的変化、形成してきた地域間構造について考える。

第 10 回	モノの世界史	「モノ」に着目し、「モノ」を通じて世界史を概観した諸研究について学ぶ。
第 11 回	地域と世界システム	近代以前の世界システムについて考える。
第 12 回	世界市場をめぐる議論	世界市場の形成が、世界の発展のあり方にどのような影響を及ぼしたかを考察する。
第 13 回	思想のグローバル・ヒストリー	知識・思想・学問の形成・伝播が世界史に与えた影響について考える。
第 14 回	授業のまとめと到達目標の確認	春学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校時代に使用した世界史の教科書を事前に一読することが望ましい。また、テキスト、参考書にもあらかじめ目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水島司『グローバル・ヒストリー入門（世界史リブレット 127）』、山川出版社、2010 年。

【参考書】

羽田正『新しい世界史へ：地球市民のための構想』、岩波書店、2011 年。
水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』、山川出版社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

課題（小テスト）：100%

毎回の講義後に提出を課している課題（小テスト）の提出状況で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

学生から寄せられた講義への感想、提案を講義に反映させる。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this course is to help students learn how to grasp the world history from new perspectives.

Learning objectives:

The goals of this course are to gain better understandings of world history and contemporary issues through learning previous researches that provide new perspectives on world history.

HIS100CA
世界史 B
太田 啓子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：
高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。

授業の目的：

春学期の「世界史 A」に引き続き、新たな視点から世界史を捉え直し、その中に自分自身を位置づけることを試みる。秋学期は具体的な「モノ」に着目してテーマを設定し、そのテーマを通じて世界史を概観する。「世界史 A」を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

1. 講義で取り上げる「モノ」を通じて世界史を概観し、自分の言葉で説明することが出来る。
2. 講義で出てきた地域、国、都市等の地理的情報についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本学からの要請により、本授業はオンラインでの開講となる（資料配信型）。

具体的には各回の講義スライドを学習支援システムにアップロードする。また、必要に応じて適宜、課題図書を提示する。

受講者は各自スライドをダウンロードし、課題図書を参照しつつ在宅での学習に取り組む。

講義においては毎回小テストを課す。受講者は講義後、学習支援システムから小テストの解答を提出する（提出は必須）。

また、講義への感想、質問があれば入力する（こちらの入力任意）。これに対して次の講義で教員より解説・補足説明等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	乳香と乳香をめぐる文化	乳香というファクターに着目し、「ヨーロッパ必需品の生産地としてのアジア」を考える。
第 3 回	香辛料が作る世界史	インド洋貿易で行われていた多様な商品取引の中で、なぜ香辛料が着目されたのかを考える。
第 4 回	ガラス器の展開	国際取引品としてのガラス器の歴史を概観し、ヨーロッパとアジアの関係について考える。
第 5 回	モスク建築の変遷	モスク建築の変遷の歴史を学び、建築と権力の関係について考える。
第 6 回	世界飲料としてのコーヒー	コーヒーの伝播の歴史を概観し、なぜコーヒーが世界飲料となり得たのかを考察する。
第 7 回	タバコの受容と伝播	タバコが嗜好品として世界に広がっていく経緯を概観し、なぜタバコが受容されていったのかについて考える。

第 8 回 砂糖と生活

砂糖の精製技術がアジアからヨーロッパ、新大陸へと広まっていった経緯について学び、砂糖が国際関係にもたらした影響について考察する。

第 9 回 お茶とイギリス帝国

世界飲料の 1 つである茶に着目し、その歴史的影響を考察する。貨幣の発展の歴史について概観し、交易を支えるファクターとしての貨幣の機能を考える。

第 10 回 貨幣と交易

第 11 回 石油を支配する者 (1)

近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する（19 世紀～第二次世界大戦）。

第 12 回 石油を支配する者 (2)

近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する（第二次世界大戦～現代）。

第 13 回 ワイン

世界飲料の 1 つであるワインに着目し、その歴史的影響を考察する。

第 14 回 講義のまとめと到達目標の確認

秋学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートのまとめなどを通じて講義の復習をしておくこと。講義内で出てきた地域、国、都市などについても地図中に落とし込めるようにしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

シドニー・ミンツ『甘さと権力：砂糖が語る近代史』、平凡社、1988 年。そのほか、各回の授業テーマに応じて適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題（小テスト）：100%

毎回の講義後に提出を課している課題（小テスト）の提出状況で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

学生から寄せられた講義への感想、提案を講義に反映させる。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this course is to help students learn how to grasp the world history from new perspectives.

Learning objectives:

The goals of this course are to reconsider the world history from new perspectives. In particular, we will set themes focusing on specific "things", and give an overview of world history through those themes.

LAW100CA
法学 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。特に、市場の基本構造を形成している契約法について学ぶ。

【到達目標】

良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。わが国における市場を支える契約法の基本構造がわかるとともに、さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を挿入された PDF ファイルやパワーポイントファイル、または録画済み Zoom 動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学部生のための法	「1. はじめに」 学入門 1
第 2 回	経済学部生のための法	「2. 法的思考様式」 学入門 2
第 3 回	経済学部生のための法	「3. 法的議論を行うということ」 学入門 3 と一法的三段論法の習得」
第 4 回	経済学部生のための法	「4. 法を解釈すること」 学入門 4
第 5 回	契約法を学ぶ	契約の成立、契約書の作成
第 6 回	意思表示に問題があるとき	・心裡留保 ・虚偽表示
第 7 回	意思表示に問題があるとき	・錯誤
第 8 回	意思表示に問題があるとき	・詐欺 ・強迫
第 9 回	相手が契約を守らないとき 1	同時履行の抗弁、契約の解除
第 10 回	相手が契約を守らないとき 2	契約不適合責任
第 11 回	相手が契約を守らないとき 3	損害賠償責任
第 12 回	消費者としての私たち	約款問題
第 13 回	総合復習	最終課題の作成に向けた指導
第 14 回	総括	最終課題に関する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）
六法全書（どの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is to study Japanese Law, particularly the Law of Contracts, as it has established the Market from the end of the 19th century, with some limited comparison with English law. A feature of the course is that the student learns how a desired legal result can be achieved, or a legal hazard avoided, by selection of an appropriate contract structure. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW100CA
法学B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自由で公正な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。さらに、法学Aで学んだ日本の契約法の基礎知識を元に、イギリスの契約法との異同について学ぶ。

【到達目標】

自覚ある消費者市民として、市場社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、イギリス契約法を知ることによって、グローバルな取引に備えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を入れたPDFファイルやパワーポイントファイル、または録画済みZoom動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イギリス契約法の基礎理論1	・法学Aの総復習 ・契約法、消費者法の役割、機能 ・市場の活動の促進と「人為的な信頼」の創設
第2回	イギリス契約法の基礎理論2	イギリス契約法の特徴 ・約因法理 ・客観性 ・厳格責任 ・契約違反に対する救済措置
第3回	イギリス契約法の基礎理論3	リスクの予防と契約条項 ・錯誤 ・状況の変化
第4回	イギリス契約法の基礎理論4	契約における良心とは① ・契約終了権の制御 ・申し出の撤回 ・禁反言の原則 ・違約罰
第5回	イギリス契約法の基礎理論5	契約における良心とは② ・非良心的契約 ・不実表示 ・強迫 ・不当な影響力
第6回	イギリス契約法の基礎理論6	契約の自由の限界① ・司法 ・投票 ・臓器提供

第7回	イギリス契約法の基礎理論7	契約の自由の限界② ・権利の放棄 ・フォールアウト
第8回	イギリス契約法の基礎理論8	日本法とイギリス法の比較 ・公序良俗違反 ・権利濫用の禁止 ・信義誠実の原則 ・クリーンハンズの原則 ・不法原因給付
第9回	イギリス契約法の基礎理論9	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法① ・不可抗力、 ・履行不能 ・事情変更の原則
第10回	イギリス契約法の基礎理論10	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法② ・解除不可 ・執行停止 ・再交渉義務
第11回	イギリス契約法の基礎理論11	贈与の約束の効力
第12回	イギリス契約法の基礎理論12	契約内容の修正の効力
第13回	総合①	市場の活性化と公正な競争
第14回	総合②	グローバリゼーションの時代と契約法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

菅富美枝『イギリス契約法の基本思想』（成文堂）

【参考書】

法学Aの指定テキストである、村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）

【成績評価の方法と基準】

「秋学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【その他の重要事項】

法学Aで修得した日本の契約法に関する知識が前提となるため、法学Aを履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

In the autumn semester students will study the functions of contract law in the fair and free markets more profoundly. The purpose of the course is to enhance your understanding of consumer rights. With the knowledge which you have acquired in the spring semester, you will recognize common principles and, at the same time, different policies between Japanese and English contract law. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW100CA
法学 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。特に、市場の基本構造を形成している契約法について学ぶ。

【到達目標】

良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。わが国における市場を支える契約法の基本構造がわかるとともに、さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を挿入された PDF ファイルやパワーポイントファイル、または録画済み Zoom 動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学部生のための法	「1. はじめに」 学入門 1
第 2 回	経済学部生のための法	「2. 法的思考様式」 学入門 2
第 3 回	経済学部生のための法	「3. 法的議論を行うということ」 学入門 3 と一法的三段論法の習得」
第 4 回	経済学部生のための法	「4. 法を解釈すること」 学入門 4
第 5 回	契約法を学ぶ	契約の成立、契約書の作成
第 6 回	意思表示に問題があるとき	・心裡留保 ・虚偽表示
第 7 回	意思表示に問題があるとき	・錯誤
第 8 回	意思表示に問題があるとき	・詐欺 ・強迫
第 9 回	相手が契約を守らないとき 1	同時履行の抗弁、契約の解除
第 10 回	相手が契約を守らないとき 2	契約不適合責任
第 11 回	相手が契約を守らないとき 3	損害賠償責任
第 12 回	消費者としての私たち	約款問題
第 13 回	総合復習	最終課題の作成に向けた指導
第 14 回	総括	最終課題に関する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）
六法全書（どの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is to study Japanese Law, particularly the Law of Contracts, as it has established the Market from the end of the 19th century, with some limited comparison with English law. A feature of the course is that the student learns how a desired legal result can be achieved, or a legal hazard avoided, by selection of an appropriate contract structure. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW100CA
法学B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自由で公正な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。さらに、法学Aで学んだ日本の契約法の基礎知識を元に、イギリスの契約法との異同について学ぶ。

【到達目標】

自覚ある消費者市民として、市場社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、イギリス契約法を知ることによって、グローバルな取引に備えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を入れたPDFファイルやパワーポイントファイル、または録画済みZoom動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イギリス契約法の基礎理論1	・法学Aの総復習 ・契約法、消費者法の役割、機能 ・市場の活動の促進と「人為的な信頼」の創設
第2回	イギリス契約法の基礎理論2	イギリス契約法の特徴 ・約因法理 ・客観性 ・厳格責任 ・契約違反に対する救済措置
第3回	イギリス契約法の基礎理論3	リスクの予防と契約条項 ・錯誤 ・状況の変化
第4回	イギリス契約法の基礎理論4	契約における良心とは① ・契約終了権の制御 ・申し出の撤回 ・禁反言の原則 ・違約罰
第5回	イギリス契約法の基礎理論5	契約における良心とは② ・非良心的契約 ・不実表示 ・強迫 ・不当な影響力
第6回	イギリス契約法の基礎理論6	契約の自由の限界① ・司法 ・投票 ・臓器提供

第7回	イギリス契約法の基礎理論7	契約の自由の限界② ・権利の放棄 ・フォールアウト
第8回	イギリス契約法の基礎理論8	日本法とイギリス法の比較 ・公序良俗違反 ・権利濫用の禁止 ・信義誠実の原則 ・クリーンハンズの原則 ・不法原因給付
第9回	イギリス契約法の基礎理論9	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法① ・不可抗力、 ・履行不能 ・事情変更の原則
第10回	イギリス契約法の基礎理論10	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法② ・解除不可 ・執行停止 ・再交渉義務
第11回	イギリス契約法の基礎理論11	贈与の約束の効力
第12回	イギリス契約法の基礎理論12	契約内容の修正の効力
第13回	総合①	市場の活性化と公正な競争
第14回	総合②	グローバリゼーションの時代と契約法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

菅富美枝『イギリス契約法の基本思想』（成文堂）

【参考書】

法学Aの指定テキストである、村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）

【成績評価の方法と基準】

「秋学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

法学Aで修得した日本の契約法に関する知識が前提となるため、法学Aを履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

In the autumn semester students will study the functions of contract law in the fair and free markets more profoundly. The purpose of the course is to enhance your understanding of consumer rights. With the knowledge which you have acquired in the spring semester, you will recognize common principles and, at the same time, different policies between Japanese and English contract law. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

SOC100CA
社会学 A
松下 峻也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、社会学が提起したいいくつかの概念を学んだうえで、日本の「高度経済成長期」を再考する。現在を生きる学生が、「戦後」が抱える問題に気がつき、それを自分自身で考える力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、社会における「意味」と「表象」、「記憶」と「記録」の理論と思想を学び、「戦後」日本が「豊かさ」を追い求めるなかで発生した水俣病事件をふりかえる。社会学的な概念をふまえて、現在の視点から過去の出来事を読み解くことの意義を、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、オンラインでの文書・映像資料の配布形式でおこなう。また、学生からのリアクションペーパーにたいするリプライペーパー・動画を別途配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	「あたりまえ」や「日常」を「問う」ことの意義を共有する。
2	イントロダクション②	「社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
3	社会的における意味の成り立ち	「シンボリック相互作用論」について考える。
4	記号としての意味の成り立ち①	言語の意味の成立を記号学から考える。
5	記号としての意味の成り立ち②	現実の意味の成立を記号学から考える。
6	記号として読み解く人間、社会、技術	人間、社会、技術の歴史を記号学から考える。
7	社会における過去の意味の成り立ち①	「過去の再構成」としての「記憶」を考える。
8	社会における過去の意味の成り立ち②	「集合的記憶」について考える。
9	水俣病事件という記憶	水俣病事件の「現在」を考える。
10	水俣病事件の記録と表象①	1950 年代末の水俣病事件を考える。
11	水俣病事件の記録と表象②	1960 年代以降の水俣病事件を考える。
12	水俣病事件の記録と表象③	1970 年代以降の「水俣の闘い」を考える。
13	水俣病事件の想起	水俣病事件の現在を「未解決」の問題として再考する。
14	鏡としての水俣病事件を研く	水俣病事件の複雑な様相を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

小林直毅編著、2006、『「水俣」の言説と表象』藤原書店。
原田正純、1972、『水俣病』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 % とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説を丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC と動画再生が可能な通信環境

【Outline (in English)】

This course introduces some of ideas that raised by sociology and the history of Minamata Disease to students taking this course. At the end of the course, students are expected to re-consider the rapid economy growth of post-war Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(100%).

SOC100CA
社会学 B
松下 峻也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、社会学が提起したいくつかの概念を学んだうえで、日本の「敗戦」と「復興」を再考する。現在を生きる学生が、「戦後」を自分自身の問題として考える力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、「言説」の理論と思想を学び、言語や映像の記録から核エネルギー利用の歴史をふりかえる。過去の記録を辿ることで、「敗戦」と「被爆」、「復興」と「原子力開発」が現在の自分自身につながる問題であると、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、オンラインでの文書・映像資料の配布形式でおこなう。また、学生からのリアクションペーパーにたいするリプライペーパー・動画を別途配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	社会を過去、現在、未来の連続として「問う」ことの意義を共有する。
2	イントロダクション②	「常識」と「規範」について考える。
3	社会の再帰性	社会の「再生産」と「変化」を考える。
4	現実の社会的構築	意味の社会的な成立を言説の思想から考える。
5	相互監視と主体の生産	subject という概念を言説の思想から考える。
6	言説分析にむけて①	「知の考古学」を考える。
7	言説分析にむけて②	言説編制の解明を考える。
8	核エネルギー言説の分析にむけて	核を意味づけることばの多様性を考える。
9	福島原発事故を語る言説	原子力災害をめぐる「知」の欠如を考える。
10	「被爆」の言説史	「唯一の戦争被爆国」を再考する。
11	「原子力開発」の言説史①	敗戦から 1950 年代までの原子力開発を再考する。
12	「原子力開発」の言説史②	1960 年代から今日までの原子力開発を再考する。
13	核をめぐる「知」の回復にむけて①	「低線量被曝」という視点から核の歴史を再考する。
14	核をめぐる「知」の回復にむけて②	「生活と営みの破壊」という視点から核の歴史を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

福岡良明、2006、『「反戦」のメディア史——戦後日本における世論と輿論の拮抗』世界思想社。
山本昭宏、2012、『核エネルギー言説の戦後史 1945-1960 ——「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 %とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説を丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC と動画再生が可能な通信環境

【Outline (in English)】

This course introduces some of ideas that raised by sociology and the history of the use of nuclear energy to students taking this course. At the end of the course, students are expected to re-consider the defeat and the revival of Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(100%).

SOC100CA
社会学 A
松下 峻也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、社会学が提起したいいくつかの概念を学んだうえで、日本の「高度経済成長期」を再考する。現在を生きる学生が、「戦後」が抱える問題に気がつき、それを自分自身で考える力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、社会における「意味」と「表象」、「記憶」と「記録」の理論と思想を学び、「戦後」日本が「豊かさ」を追い求めるなかで発生した水俣病事件をふりかえる。社会学的な概念をふまえて、現在の視点から過去の出来事を読み解くことの意義を、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、オンラインでの文書・映像資料の配布形式でおこなう。また、学生からのリアクションペーパーにたいするリプライペーパー・動画を別途配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	「あたりまえ」や「日常」を「問う」ことの意義を共有する。
2	イントロダクション②	「社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
3	社会的における意味の成り立ち	「シンボリック相互作用論」について考える。
4	記号としての意味の成り立ち①	言語の意味の成立を記号学から考える。
5	記号としての意味の成り立ち②	現実の意味の成立を記号学から考える。
6	記号として読み解く人間、社会、技術	人間、社会、技術の歴史を記号学から考える。
7	社会における過去の意味の成り立ち①	「過去の再構成」としての「記憶」を考える。
8	社会における過去の意味の成り立ち②	「集合的記憶」について考える。
9	水俣病事件という記憶	水俣病事件の「現在」を考える。
10	水俣病事件の記録と表象①	1950 年代末の水俣病事件を考える。
11	水俣病事件の記録と表象②	1960 年代以降の水俣病事件を考える。
12	水俣病事件の記録と表象③	1970 年代以降の「水俣の闘い」を考える。
13	水俣病事件の想起	水俣病事件の現在を「未解決」の問題として再考する。
14	鏡としての水俣病事件を研	水俣病事件の複雑な様相を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

小林直毅編著、2006、『「水俣」の言説と表象』藤原書店。
原田正純、1972、『水俣病』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 % とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説を丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC と動画再生が可能な通信環境

【Outline (in English)】

This course introduces some of ideas that raised by sociology and the history of Minamata Disease to students taking this course. At the end of the course, students are expected to re-consider the rapid economy growth of post-war Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(100%).

SOC100CA
社会学 B
松下 峻也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、社会学が提起したいいくつかの概念を学んだうえで、日本の「敗戦」と「復興」を再考する。現在を生きる学生が、「戦後」を自分自身の問題として考える力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

履修する学生は、「言説」の理論と思想を学び、言語や映像の記録から核エネルギー利用の歴史をふりかえる。過去の記録を辿ることで、「敗戦」と「被爆」、「復興」と「原子力開発」が現在の自分自身につながる問題であると、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、オンラインでの文書・映像資料の配布形式でおこなう。また、学生からのリアクションペーパーにたいするリプライペーパー・動画を別途配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	社会を過去、現在、未来の連続として「問う」ことの意義を共有する。
2	イントロダクション②	「常識」と「規範」について考える。
3	社会の再帰性	社会の「再生産」と「変化」を考える。
4	現実の社会的構築	意味の社会的な成立を言説の思想から考える。
5	相互監視と主体の生産	subject という概念を言説の思想から考える。
6	言説分析にむけて①	「知の考古学」を考える。
7	言説分析にむけて②	言説編制の解明を考える。
8	核エネルギー言説の分析にむけて	核を意味づけることばの多様性を考える。
9	福島原発事故を語る言説	原子力災害をめぐる「知」の欠如を考える。
10	「被爆」の言説史	「唯一の戦争被爆国」を再考する。
11	「原子力開発」の言説史①	敗戦から 1950 年代までの原子力開発を再考する。
12	「原子力開発」の言説史②	1960 年代から今日までの原子力開発を再考する。
13	核をめぐる「知」の回復にむけて①	「低線量被曝」という視点から核の歴史を再考する。
14	核をめぐる「知」の回復にむけて②	「生活と営みの破壊」という視点から核の歴史を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

福岡良明、2006、『「反戦」のメディア史——戦後日本における世論と輿論の拮抗』世界思想社。
山本昭宏、2012、『核エネルギー言説の戦後史 1945-1960 ——「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 %とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説を丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC と動画再生が可能な通信環境

【Outline (in English)】

This course introduces some of ideas that raised by sociology and the history of the use of nuclear energy to students taking this course. At the end of the course, students are expected to re-consider the defeat and the revival of Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on Term-end report(100%).

PSY100CA
心理学 A
高木 佐保
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業ではほとんど解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業である。毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされる。授業動画アップロードしてから 5 日以内に任意の簡単な小テストの提出日が設定される。詳細は初回の授業で説明する。

授業の配信および質問に対するフィードバックのために Google Classroom を用いる。詳細は、授業日第 1 週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方やこの授業で扱うトピックについて
2	心理学という学問	「心」への科学的なアプローチについて
3	視覚	モノの見え方、錯視について
4	聴覚	モノの聞こえ方、錯聴について
5	注意	視覚的注意の仕組みについて
6	古典的学習	古典的学習の基本原則
7	オペラント学習	オペラント学習の基本原則
8	基本的な認知	カテゴリ・言語・ストループ効果について
9	複雑な認知	心の理論・メタ認知について
10	記憶の仕組み	記憶の一般的なモデルの説明
11	記憶と情動・睡眠の関係	記憶とその他の心理学的な要素との関連性について
12	思考	問題解決・洞察と試行錯誤・ヒューリスティックについて
13	情動	基本 5 感情・表情・感情の理論について
14	試験・まとめと解説	オンラインで試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。
任意の小テスト課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書はもっていない。

【参考書】

トピックごとに授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験 (100%) で評価する。期末試験はオンラインで Google Form を用いたものを使用予定である。
毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小テスト) の提出は任意であるが、期末試験で点数が足りなかった者に対しては、小テストの成績を加味して加点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the findings of modern psychology regarding the mechanisms of the "mind". We will discuss a wide range of topics, such as how we see things, how we think, and how the mind works in relation to language, with explanations for beginners based on scientific empirical research.

PSY100CA
心理学 B
高木 佐保
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業である。毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされる。授業動画アップロードしてから5日以内に任意の簡単な小テストの提出日が設定される。詳細は初回の授業で説明する。授業の配信および質問に対するフィードバックのためにGoogleClassroomを用いる。詳細は、授業日第1週目に学習支援システム(Hoppi)のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、この授業で扱うトピックについて
2	生理	心理学と生理的反応について
3	神経	心理学と脳神経の反応について
4	認知の発達	認知がどのように発達するのか
5	言語の発達	言語がどのように発達するのか
6	愛着	愛着の形成について
7	パーソナリティ	人々の性格特性について
8	社会心理学	他者から受ける影響について基本的な事項の確認
9	発展的な社会心理学	より応用的な社会心理学について
10	説得的コミュニケーション	ヒトを説得するときに有効なコミュニケーションについて
11	身体化された認知	心と身体の相互作用について
12	比較認知科学	動物の心理学
13	家畜化	家畜化によって変化する心の働きについて
14	試験・まとめと解説	オンラインでテストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。
任意の小テスト課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書はもっていない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験(100%)で評価する。期末試験はオンラインでGoogle Formを用いたものを使用予定である。
毎週の授業動画内で課す課題(授業トピックに関する毎週の小テスト)の提出は任意であるが、期末試験で点数が足りなかった者に対しては、小テストの成績を加味して加点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のためGoogle Classroomを使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the findings of modern psychology regarding the mechanisms of the "mind". We will discuss a wide range of topics, such as how we see things, how we think, and how the mind works in relation to language, with explanations for beginners based on scientific empirical research.

PSY100CA
心理学 A
高木 佐保
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業である。毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされる。授業動画アップロードしてから5日以内に任意の簡単な小テストの提出日が設定される。詳細は初回の授業で説明する。授業の配信および質問に対するフィードバックのために GoogleClassroom を用いる。詳細は、授業日第1週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方やこの授業で扱うトピックについて
2	心理学という学問	「心」への科学的なアプローチについて
3	視覚	モノの見え方、錯視について
4	聴覚	モノの聞こえ方、錯聴について
5	注意	視覚的注意の仕組みについて
6	古典的学習	古典的学習の基本原則
7	オペラント学習	オペラント学習の基本原則
8	基本的な認知	カテゴリ・言語・ストループ効果について
9	複雑な認知	心の理論・メタ認知について
10	記憶の仕組み	記憶の一般的なモデルの説明
11	記憶と情動・睡眠の関係	記憶とその他の心理学的な要素との関連性について
12	思考	問題解決・洞察と試行錯誤・ヒューリスティックについて
13	情動	基本5感情・表情・感情の理論について
14	試験・まとめと解説	オンラインで試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。
任意の小テスト課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書はもっていない。

【参考書】

トピックごとに授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験 (100%) で評価する。期末試験はオンラインで Google Form を用いたものを使用予定である。
毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小テスト) の提出は任意であるが、期末試験で点数が足りなかった者に対しては、小テストの成績を加味して加点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the findings of modern psychology regarding the mechanisms of the "mind". We will discuss a wide range of topics, such as how we see things, how we think, and how the mind works in relation to language, with explanations for beginners based on scientific empirical research.

PSY100CA
心理学 B
高木 佐保
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業である。毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされる。授業動画アップロードしてから5日以内に任意の簡単な小テストの提出日が設定される。詳細は初回の授業で説明する。授業の配信および質問に対するフィードバックのために GoogleClassroom を用いる。詳細は、授業日第1週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、この授業で扱うトピックについて
2	生理	心理学と生理的反応について
3	神経	心理学と神経の反応について
4	認知の発達	認知がどのように発達するのか
5	言語の発達	言語がどのように発達するのか
6	愛着	愛着の形成について
7	パーソナリティ	人々の性格特性について
8	社会心理学	どのように他者から影響を受けるのかについて
9	より発展的な社会心理学	社会と密接に関連した社会心理学
10	説得的コミュニケーション	ヒトはどのように説得されるのか
11	身体化された認知	心と身体の相互作用について
12	比較認知科学	動物の心理学
13	家畜化	家畜化によって変化する心の働き
14	試験・まとめと解説	オンラインで試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。
任意の小テスト課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

【テキスト（教科書）】
教科書はもっていない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験(100%)で評価する。期末試験はオンラインで Google Form を用いたものを使用予定である。毎週の授業動画内で課す課題(授業トピックに関する毎週の小テスト)の提出は任意であるが、期末試験で点数が足りなかった者に対しては、小テストの成績を加味して加点する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the findings of modern psychology regarding the mechanisms of the "mind". We will discuss a wide range of topics, such as how we see things, how we think, and how the mind works in relation to language, with explanations for beginners based on scientific empirical research.

PLN100CA
数学 A
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

解析学は変化する量を扱う科学です。経済学は不断に変動する経済量を分析します。本講義では、経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します。A では1変数および多変数の微分法を、B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します。

【到達目標】

経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です。特に、ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に基づき授業を進めます。100 分の授業のうち、80 分を講義にあて、残りの 20 分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます。毎回、それを提出し、次の授業時に答え合わせをして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	数学と経済学 (1)	等式
第 2 回	数学と経済学 (2)	関数
第 3 回	数学と経済学 (3)	数学と経済学の関係
第 4 回	1 変数連続関数 (1)	関数の連続性
第 5 回	1 変数連続関数 (2)	連続関数の逆関数
第 6 回	1 変数連続関数 (3)	連続関数の合成関数
第 7 回	1 変数関数の微分法 (1)	微分の基礎、合成関数の微分法
第 8 回	1 変数関数の微分法 (2)	積と商の微分法、逆関数の微分法
第 9 回	1 変数関数の微分法 (3)	指数関数、対数関数
第 10 回	1 変数関数の微分法 (4)	需要の価格弾力性、接線と 1 次近似
第 11 回	1 変数関数の最適化 (1)	極値の 1 階の条件
第 12 回	1 変数関数の最適化 (2)	凸関数
第 13 回	1 変数関数の最適化 (3)	2 次近似と 2 階の条件
第 14 回	まとめ	理解度の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所を事前に読んで授業に出席することが求められます。必要に応じて、適宜宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』、東洋経済新報社、2015 年

【参考書】

高校レベルの数学の復習が必要な学生には、次のテキストを推奨します。

[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』、改訂版、日本評論社、2013 年

本講義のレベルを超えて、さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます。

[2] 武隈慎一・石村直之『基礎コース 経済数学』、新世社、2003 年

[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』、勁草書房、1994 年

[4] A.C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎 (第 4 版)』、シーエーピー出版、2010 年

数学に関する面白い読み物として、次のものを薦めます。

[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明— 100 万ドルを拒否した天才数学者』、文藝春秋、2009 年

[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』、新潮文庫、2006 年

[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』、岩波新書、2008 年

[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』、草思社、2000 年

[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』、シュプリンガー・フェアラーク東京、1994 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。試験は持ち込み不可で行います。振り替え試験、レポート提出による成績評価は一切行いません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。最大 7 回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

In this course elementary calculus is lectured. Differentiation with multivariable is the main theme.

PLN100CA
数学B
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

解析学は変化する量を扱う科学です。経済学は不断に変動する経済量を分析します。本講義では、経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します。A では1変数および多変数の微分法を、B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します。

【到達目標】

経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です。特に、微積分のミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力点を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に基づき授業を進めます。100分の授業のうち、80分を講義にあて、残りの20分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます。毎回、それを提出し、次の授業時に答え合わせをして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	2変数関数の微分法 (1)	R^2 の世界
第2回	2変数関数の微分法 (2)	2変数関数、2変数関数の連続性
第3回	2変数関数の微分法 (3)	2変数関数の微分可能性、偏微分
第4回	2変数関数の微分法 (4)	接平面、合成関数の微分法
第5回	2変数関数の最適化 (1)	制約なしの極値問題、等値線
第6回	2変数関数の最適化 (2)	制約付き極値問題、陰関数（関係の中に隠れている関数）
第7回	2変数関数の最適化 (3)	ラグランジュ未定乗数法と陰関数、消費者と需要関数
第8回	1変数関数の積分法 (1)	定積分、不定積分
第9回	1変数関数の積分法 (2)	置換積分法、部分積分法
第10回	1変数関数の積分法 (3)	無限区間上の定積分と確率密度関数
第11回	2変数関数の積分法 (1)	2変数関数の積分
第12回	2変数関数の積分法 (2)	1次元正規分布の確率密度関数
第13回	2変数関数の積分法 (3)	R^2 上の積分と2次元正規分布、確率密度関数の行列表示
第14回	まとめ	理解度の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の講義箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。必要に応じて、適宜宿題を課します。毎回の講義につき、予習1時間、復習2時間、宿題1時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』、東洋経済新報社、2015年

【参考書】

高校レベルの数学の復習が必要な学生には、次のテキストを推奨します。

[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』、改訂版、日本評論社、2013年

本講義のレベルを超えて、さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます。

[2] 武隈慎一・石村直之『基礎コース 経済数学』、新世社、2003年

[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』、勁草書房、1994年

[4] A.C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎（第4版）』、シーエーピー出版、2010年

数学に関する面白い読み物として、次のものを薦めます。

[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明—100万ドルを拒否した天才数学者』、文藝春秋、2009年

[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』、新潮文庫、2006年

[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』、岩波新書、2008年

[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』、草思社、2000年

[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』、シュブリンガー・フェアラーク東京、1994年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）と平常授業時に行う問題演習（20%）の総合評価。試験は持ち込み不可で行います。振り替え試験、レポート提出による成績評価は一切行いません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。最大7回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

In this course elementary calculus is lectured. Lagrange multiplier method is the main theme.

PHY100CA
物理学 A
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
 ・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次の授業時に資料として配信します。
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する

14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】

・最終課題の提出 【50%】

の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.

At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA
物理学 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がいまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最新の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA
物理学 A
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
 ・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次の授業時に資料として配信します。
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する

14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】

・最終課題の提出 【50%】

の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.

At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PHY100CA
物理学 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がいまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.

At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on short report on each class (50%), and the term-end report (50%).

PLN100CA
地学 A
山川 信之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地学が対象とする研究分野は地形や地質だけでなく、天文や気象、古生物など多岐にわたる。本授業では、地学の研究対象分野の中から地形・地質分野を中心に学習する。また、地球を取り巻く環境問題についても論じていく。それによって地球の姿がどのように形作られてきたのかについて理解することを目的とする。

【到達目標】

- ①地球の成り立ちについて理解する。
- ②地形を作るさまざまな力について理解する。
- ③地球を取り巻く環境問題や自然災害について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は、コロナウィルス感染拡大防止のため、オンデマンド方式のオンライン授業とする。学習資料は、学習支援システムの教材欄に PDF で、毎週水曜日に配信する。動画の配信や Zoom 等でのリアルタイムでの講義は行わない。なお、毎回の学習資料がワークシート形式になっているので、フィードバックとして次回に配信する学習資料の中で、前回の解答と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 講	地球について知ろう	ガイダンスとして地学の研究内容や学問的位置づけについて紹介する。また、地球の大きさや内部構造、地球を取り巻く大気など地球の概観について学習する。それによって地球がどのような特色を持つ天体であるかを理解する。
第 2 講	地球の歴史を概観する	地球の歴史を地質時代順に概観し、現在の地球環境が成り立つまでにどのような環境変化や地学的イベントが起こったかについて学習する。それによって地球の生い立ちについての概略を理解する。
第 3 講	世界の大地形	大陸移動や海溝、大山脈の形成および造陸運動や造山運動など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それによって地球の陸地は 3 つの形成時代の異なる地形から成り立っていることを理解する。
第 4 講	地殻を構成する物質と岩石のでき方	地殻の成り立ちや地殻を構成する物質としての岩石、鉱物および火成岩、堆積岩、変成岩のできかたなどについて学習する。それによって地表に見られる岩石の一般的な特徴や性質について理解する。
第 5 講	地震と災害	地震が引き起こされるメカニズムと地震によって起こる災害について学習する。それによって日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。
第 6 講	火山がつくる地形と火山災害	火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害についても言及する。それによって日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。
第 7 講	中間試験および河川がつくる地形	河川の流域に形成されるさまざまな地形や微地形について学習する。それによって河川地形形成作用の働き方の違いや河川の流域で見られる地形の形成時代や形成環境について理解する。
第 8 講	海岸地形	海岸に発達するさまざまな地形や微地形について学習する。それによって海岸地形の形成のされ方や形成時代、形成環境について理解する。

第 9 講 乾燥帯の地形

乾燥帯に発達するさまざまな地形や微地形について学習する。また、乾燥帯での人々の生活と関連付けて砂漠化などの環境問題にも言及する。それによって乾燥帯における地形形成のメカニズムや乾燥帯における環境問題について理解する。

第 10 講 氷河時代の環境と氷河地形

第四紀の気候変動の中で起こったヴェルム氷期に焦点を当て、氷河作用によって形成された地形や氷河時代の環境について学習する。それによって氷河時代の存在は、現在の自然環境に大きな影響を及ぼしたことを理解する。

第 11 講 永久凍土と周氷河環境

北極海沿岸や高山帯などの周氷河地域において永久凍土がつくる地形とその形成のメカニズムについて学習する。それによって地球上には周氷河帯とよばれる特殊な地形形成作用が働く地域があることを理解する。

第 12 講 石灰岩がつくるカルスト地形

石灰岩の溶食によって形成されるさまざまな地形について学習する。また、石灰岩地域に分布する土壌についても言及する。それによって石灰岩の溶食は異なる気候環境では個別に働き、その気候環境特有のカルスト地形が形成されることを理解する。

第 13 講 土壌の成り立ち

岩石が風化する過程と土壌の生成について学習する。それによって岩石の種類によって風化の過程は異なり、岩石の性質に応じて土壌が生成されることを理解する。

第 14 講 期末試験および人為が引き起こすさまざまな環境問題

熱帯雨林の伐採にともなう熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、過剰な施肥による土壌汚染、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それによって地球環境の維持にどのような施策が必要であるかについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配信する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については各回の学習資料の中で指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎時間、学習資料を配布（配信）する。

【参考書】

『図説・地球科学』杉村新・中村保夫・井田喜明編、岩波書店。
『地球の科学・大陸は移動する』竹内均・上田誠也著、NHK ブックス。
『地震の教室』神沼克伊著、古今書院。
『火山を読む・自然景観の読み方 1』守屋以智雄著、岩波書店。
『地形学』町田貞著、大明堂。
『自然環境の生い立ち』田淵洋編、朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

今年度はオンデマンド方式のオンライン授業になるため、学習支援システムを使って一斉テストを 2 回行い、講義内容の理解度を確認する。出題範囲は、授業の到達目標に合わせ、第 6 講までの地球の成り立ちと内的営力に関するもので 40 点、第 7 講から第 14 講までの外的営力と環境問題に関するもので 60 点、合計 100 点で評価する。中間試験は第 7 講の配信時に行う。解答期間については、別途に指示する。期末試験は第 14 講の配信時に行う。解答期間については、別途に指示する。なお、2 回の試験ともフィードバックとして解答と解説を学習支援システムより配信する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容についての質問や要望があれば、学習支援システムから質問してください。次回の学習資料配信時に回答します。なお、質問や要望に対してはできるだけ受講者全員に共有できるようにお答えします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。高校の時に使った地図帳や地学、地理の教科書などがあれば準備してください。

【その他の重要事項】

学習内容の関連から、後期の地学 B と合わせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

His research interests include not only topography and geology, but also astronomical texts, weather, and paleontology. In this class, students will learn mainly in the fields of geomorphology and geology from among the fields of research in geotechnical science. We will also discuss environmental issues surrounding the earth. The aim is to understand how the earth has been shaped by it.

PLN100CA
地学B
山川 信之
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地学が対象とする研究分野は地形・地質だけでなく、天文や気象、古生物など多岐にわたる。本授業では、地学の研究対象分野の中から気象・気候分野を中心に学習する。それによって地球を取り巻く大気の循環やそれによって生じる気候について理解することを目的とする。また、地球を取り巻く環境問題にも触れ、その原因や対策についても論じていく。

【到達目標】

- ①地球の大気の循環によって生じる気象現象や気候帯の成り立ちについて理解する。
- ②植生帯や土壌分布は気候の影響を受けて成立することを理解する。
- ③第四紀の気候変動とそれによって起こった諸現象について理解する。
- ④地球を取り巻く環境問題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は、コロナウィルス感染拡大防止のため、オンライン授業とする。学習資料は、学習支援システムの教材欄に PDF で、毎週水曜日に配信する。動画の配信や Zoom 等でのリアルタイムでの講義は行わない。なお、毎回の学習資料がワークシート形式になっているので、フィードバックとして次回に配信する学習資料の中で、前回の解答と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 講	自然環境における気象や気候の働き	ガイダンスとして世界および日本の様々な自然景観を取り上げ、その景観がどのようにして成り立っているのかについて紹介する。それにより自然景観を作る要素のひとつとして気候環境が影響していることを理解する。
第 2 講	気候の成り立ち	地球の大気の循環のメカニズムと気候要素および気候因子について学習する。それにより世界の気候帯が成立していることを理解する。
第 3 講	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方	ケッペンの気候区分の考え方や基本的な気候区分のしかたについて学習する。それによりケッペンの気候区分が気温、降水量の分布と植生帯との対応によって合理的に気候帯を区分していることを理解する。
第 4 講	熱帯・乾燥帯の気候	熱帯および乾燥帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それによって熱帯および乾燥帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 5 講	温帯の気候	温帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それによって温帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 6 講	亜寒帯・寒帯の気候	亜寒帯および寒帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それにより亜寒帯および寒帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 7 講	中間試験および日本の気候と気候区分	日本の気候と気候区分について学習する。また、日本の気候に影響を与える気団やさまざまな気象現象についても言及する。それによって日本の各気候区における気候の特色について理解する。
第 8 講	気象災害	日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それによって日本がさまざまな気象災害が起こる地域であることを理解するとともに防災に対する理解を深める。

第 9 講 日本の植生帯

日本の植生帯と植生帯が成り立つ環境について学習する。それによって日本の植生帯は気候環境に応じて植生帯が成り立っていることを理解する。

第 10 講 熱帯・乾燥帯の土壌

熱帯および乾燥帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それによって熱帯および乾燥帯に分布する土壌の性質と特徴について理解する。

第 11 講 温帯・亜寒帯・寒帯の土壌

温帯、亜寒帯および寒帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それによって温帯、亜寒帯および寒帯に分布する土壌の性質と特徴について理解する。

第 12 講 日本の土壌

日本に分布する土壌とその特質について学習する。日本の土壌分布は、複雑な地形や亜熱帯から亜寒帯まで分布する気候環境および異なる母材の性質によって規定されていることを理解する。

第 13 講 第四紀の気候変動

第四紀に起きた水河期や小氷期、亜間氷期の気候変動について地形や堆積物の研究からどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。

第 14 講 期末試験および地球温暖化と自然環境への影響

地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それによって温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配信する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については各回の学習資料の中で指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎時間、学習資料を配布する。

【参考書】

『気候学入門』水越允治・山下脩二著、古今書院。
『気象ハンドブック』NHK 放送文化研究所編、NHK 出版。
『世界の自然環境』山本正三・田中真吾・太田勇編、大明堂。
『日本の気候・日本の自然 5』中村和郎・木村竜治・内嶋善兵衛著、岩波書店
『土壌地理学序説』松井健著、築地書館。

【成績評価の方法と基準】

今年度はオンライン授業になるため、学習支援システムを使って一斉テストを 2 回行い、講義内容の理解度を確認する。出題範囲は、授業の到達目標に合わせ、第 6 講までの気候の成り立ちと気候区分に関するもので 40 点、第 7 講から第 14 講までの日本の気候と植生帯、世界の土壌と環境問題に関するもので 60 点、合計 100 点で評価する。中間テストは第 7 講の配信時に行う。解答期間については、別途支持する。期末テストは第 14 講の配信時に行う。解答期間については、別途に指示する。なお、2 回のテストともフィードバックとして学習支援システムより解答と解説を配信する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容についての質問や要望があれば、学習支援システムから質問してください。次回の学習資料配信時に回答します。なお、質問や要望に対してはできるだけ受講者全員に共有できるようお答えします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、高校で使った地図帳があれば手元にあると便利です。

【その他の重要事項】

学習内容の関連から、前期の地学 A と合わせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

The research fields of geosciences cover not only topography and geology, but also a wide range of fields, including astronomy, weather, and paleontology. In this class, students will focus on the fields of meteorology and climate from the fields of geodisciplinary research. The purpose of this program is to understand the circulation of the atmosphere surrounding the earth and the climate that arises from it. In addition, we will touch on environmental problems surrounding the earth and discuss the causes and countermeasures.

BSC100CA
化学A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。この授業での学習は、身近なところにある“物質”や“反応”を題材にします。受講者は、物質によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて理解を深めます。

【到達目標】

「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。講義の中でデモ実験、ネットワーク学習（学習支援システム）、映像教材を取り入れ、授業内容の理解を促します。ほぼ毎回リアクションペーパーまたは課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第 2 回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第 3 回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第 4 回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質質量とモル
第 5 回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第 6 回	『スケート靴、ボンボン船』	物質の状態変化
第 7 回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第 8 回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第 9 回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第 10 回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』	酸と塩基
	『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸化と還元
第 11 回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第 12 回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第 13 回	『食品と食品包装プラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第 14 回	総合復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。

【参考書】

- 1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010 年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 60 %、課題（毎回の授業後）や授業中の取り組み等の平常点を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。演習や実験を多く取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

The knowledge of chemistry is important to understand the various natural phenomena around us. In this class, we will use familiar substances and reactions as the main topics of study. Through "chemistry," students will deepen their understanding of our bodies and the global environment, which are supported by materials, as well as the rapid development of science and technology.

BSC100CA
化学B
細川 さとみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験を多く取り入れ、身近な現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた内容を体験的に学ぶ。

【到達目標】

化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な知識内容に加え、演習（実験）、映像教材などを通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。課題は添削後、学生に返却して授業内で解説する。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上または対面に対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと「元素の化学」および「元素発見の歴史」	化学の基礎を確認し、2回目以降の準備をする。
第2回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。自宅で使える器具についても考える。
第3回	基礎実験1	酸・アルカリの実験
第4回	基礎実験2	酸化・還元反応に関する実験
第5回	応用実験1	自分で設定したテーマについて動画を作成する。
第6回	生活の中の化学1	家庭にある身近な化学を見つける。
第7回	生活の中の化学2	家庭にある身近な化学を見つける。
第8回	基礎実験3	光と色の実験：基本実験により、光と色に関する理解を深める。
第9回	調べ学習とプレゼン	自分のテーマについて調査した結果を報告する。
第10回	分析化学（実験）	中和滴定：実験を通して、水溶液の調整、濃度の測定等の基本操作を学ぶ。
第11回	環境を守る化学（実験）	環境浄化、環境保全に役立つ化学について学習する。
第12回	基礎実験4	有機化学の基礎実験。簡単な有機合成を体験する。
第13回	食品、医薬品、環境	食品、医薬品、環境に見る化学について学習する。
第14回	総復習とレポート提出およびプレゼンテーション	秋学期の授業全体についての復習とレポート提出を行い、レポートの内容紹介を行って学習者同士で理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。毎回復習プリントを提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

【参考書】

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題や実験の取組みを70%、平常点を30%として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

映像や演習課題を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、インターネット接続環境、パソコンまたはスマホによる動画編集アプリ

【その他の重要事項】

- ・この授業では、実験・実習を行います。丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（40名以内）。
- ・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
- ・初回授業に参加していない方は2回目以降、受講できません。
- ・履修確定者は教科書（化学資料集）を必ず購入してください。
- ・別途、必要な資料は配布します。

【Outline (in English)】

It is important to understand chemistry in modern society. In this course, we learn the basics of chemistry through experiments.

BAB100CA
生物学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】

生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始はガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1－生命現象をあらわすキーワード、2－DNAとデジタルコピー、3－遺伝情報から生体が組み立てられるメカニズム、4－バイオテクノロジーの発展と、バイオビジネスの展開以上の4つのサブテーマから構成され、生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方、バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	生物を構成する物質 1	無機物と有機物・ミユラーの実験・化学進化
3	生物を構成する物質 2	アミノ酸・タンパク質・ペプチド結合
4	生物を構成する物質 3	一次構造～四次構造・構造と機能
5	生物を構成する物質 4	生命の設計図 遺伝子・DNA・RNAの構造
6	セントラルドグマ 1	DNAの自己複製メカニズム・コピーミスと発ガン
7	セントラルドグマ 2	遺伝情報の流れ・転写と翻訳からタンパク質の合成
8	セントラルドグマ 3	環状DNAと線状DNA、テロメアの役割
9	セントラルドグマ 4	遺伝子の完全なコピー vs 遺伝子のシャッフル
10	バイオテクノロジー 1	古代の技術・納豆・酒・チーズ・ヨーグルト
11	バイオテクノロジー 2	現代の技術・遺伝子組み替えと遺伝子産物の利用
12	バイオテクノロジー 3	遺伝子組み替え作物・遺伝子診断と差別・生命倫理
13	バイオテクノロジー 4	遺伝子の個人差・移植用臓器の生産・クローン生物
14	バイオテクノロジー 5	幹細胞と再生医療・ES細胞・iPS細胞の作成と臓器への分化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に生物学・環境・医療・食品などの分野）。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにてその週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

BAB100CA
生物学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】

生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要としては、1－生命現象をあらわすキーワード、2－生命とエネルギー、3－細胞の構築メカニズム、4－バイオテクノロジーの発展とバイオビジネスの展開 以上の4つのサブテーマから構成され、生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方、バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生物を構成する物質 1	人間に必要な栄養素・基礎代謝
2	生物を構成する物質 2	炭水化物と各種の糖
3	生物を構成する物質 3	エネルギー貯蔵物質・脂質
4	生物を構成する物質 4	ビタミン・ミネラル・食物繊維の役割
5	エネルギー代謝 1	生物が利用することができるエネルギーは？
6	エネルギー代謝 2	糖からエネルギーを取り出す（呼吸 1）
7	エネルギー代謝 3	脂質からエネルギーを取り出す（呼吸 2）
8	エネルギー代謝 4	生命のエネルギー通貨 ATP
9	エネルギー代謝 5	効率的なエネルギー利用と酸素の役割・活性酸素とは何か？
10	細胞の構造 1	細胞内小器官とその役割
11	細胞の構造 2	体細胞分裂と減数分裂のメカニズムとその意義
12	細胞の構造 3	細胞の分化と遺伝子の役割
13	細胞の構造 4	生物の進化と性の役割・テロメアと細胞分裂回数の限界
14	生命とは何か？	生命の定義と環境応答 日本のノーベル賞研究 再生医療と iPS 細胞の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に生物学・環境・医療・食品などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

SHS100CA
科学史 A
河野 俊哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くのの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえて科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、リスク社会とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し科学リテラシーの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。【オンライン授業の場合】学習支援システムや Googleclassroom にレジュメ、音声付きパワーポイントをアップし、授業の後半は zoom で授業を行い課題提出。【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび「科学」の誕生（前半）	講義の概要、成績評価等について説明。アンケート実施。要出席。
第 2 回	「科学」の誕生（後半）	「歴史観」について説明。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「宇宙論」等。
第 4 回	「錬金術と絵画」	『ハリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	12 世紀ルネサンスと大学の誕生について説明
第 6 回	「科学革命論」再考Ⅰ	「中国の科学」と「暦の誕生」
第 7 回	「科学革命論」再考Ⅱ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明。ガリレオ、コペルニクス、ケプラー映画『薔薇の名前』。
第 8 回	「科学革命論」再考Ⅲ	「魔術的自然観」と「機械論的自然観」
第 9 回	「科学革命論」再考Ⅳ：「化学革命の検討」	「化学革命」再考。『にのいの歴史』、『パピュム』
第 10 回	「科学革命論」再考Ⅴ：「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命
第 11 回	BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）、原発問題と科学コミュニケーション。
第 12 回	研究不正	論文の捏造・改竄・盗用
第 13 回	新型コロナウイルスと社会	北里柴三郎と感染症
第 14 回	本講義のまとめ	リスク社会・科学リテラシー、「教養教育の再構築」。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習:配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業の前に目を通してきて下さい。復習:授業を基に課題を提出します。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学史学会編『科学史への招待』（オーム社、2019 年）
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート）40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 %

【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

時間配分には配慮しますが、短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム、【オンライン授業の場合】Google Classroom を導入します。

【Outline (in English)】

As you can see from the new coronavirus and the problem of nuclear power plants, it is becoming essential for many people, both literary and scientific, to be familiar with scientific research and the meaning of its results (scientific literacy). Based on that, the purpose is to historically consider what science is and to deepen the understanding of science. Learning Objectives: After understanding the difference between "science" and "technology" based on historical cases, we also understand the characteristics of modern society, which is also called a risk society, and aim to acquire scientific literacy. Learning activities outside of classroom : We will give you instructions on the relevant parts of the handouts and designated textbooks, so please read them before class. Review: Submit assignments based on the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading Criteria/Policy : Normal score (small report in class) 40% Out-of-class report 30% Exam 30% [For online lessons] Normal points (tasks) 70% Out-of-class reports 30%

SHS100CA
科学史 B
河野 俊哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえ本講義では科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

適宜視聴覚教材を用いたり、クリッカーを使用する等して双方向の授業を目指す。【オンライン授業の場合】LMS や Googleclassroom にレジュメ、音声付き ppt をアップし後半は zoom で授業を行い課題提出【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィンと進化論	進化論の衝撃：アンケート実施
第 2 回	社会ダーウィニズムと日本における進化論	社会ダーウィニズムや日本における進化論の受容
第 3 回	「ダーウィニズムとウェルズ」	『タイムマシン』や『宇宙戦争』について考察します。
第 4 回	『フランケンシュタイン』の科学的考察	『フランケンシュタイン』を科学的に考察してみましょう。
第 5 回	「戦争と科学」	ハーバーの生涯と業績、毒ガス開発
第 6 回	レイチェル・カーソン：科学・文学・環境	カーソンの事例を通して、DDT の功罪について考察。
第 7 回	病気の文化史：『JIN-仁』、華岡青洲	江戸における病気や医学
第 8 回	『長州ファイブ』山尾庸三、ダイアール	『長州ファイブ』、山尾庸三、御雇外国人、工部大学校。
第 9 回	ジェンダーと科学：マリー・キュリー	キュリーを事例に「ジェンダーと科学」について
第 10 回	「緑の革命」、環境倫理について説明します。	「あいのり」を通してみる「緑の革命」
第 11 回	環境問題：気候変動または、ダークウォーターズ	永遠の化学物質：PFAS 汚染
第 12 回	池田菊苗：理学と応用の相克	2021 ノーベル生理学・医学賞～旨味の発見、夏日漱石、味の素
第 13 回	野口英世・再考	偉人伝から研究倫理の対象に～そして再評価へ
第 14 回	本講義のまとめ	「教養教育」の再構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習:配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業の前に目を通してきて下さい。復習:授業を基に課題を提出します。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）。
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】

授業内小レポート 40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 % 【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム【オンライン授業の場合】Google Classroom を導入します。

【Outline (in English)】

As you can see from the new coronavirus and the problem of nuclear power plants, it is becoming essential for many people, both literary and scientific, to be familiar with scientific research and the meaning of its results (scientific literacy). Based on that, the purpose is to historically consider what science is and to deepen the understanding of science. Learning Objectives: After understanding the difference between "science" and "technology" based on historical cases, we also understand the characteristics of modern society, which is also called a risk society, and aim to acquire scientific literacy. Learning activities outside of classroom : We will give you instructions on the relevant parts of the handouts and designated textbooks, so please read them before class. Review: Submit assignments based on the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading Criteria/Policy : Normal score (small report in class) 40% Out-of-class report 30% Exam 30% [For online lessons] Normal points (tasks) 70% Out-of-class reports 30%

NAS100CA
自然科学特講
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、自然科学の実験を通して、実験・観察の方法について学ぶ。また、相対性理論のごく初歩的な内容を初心者向けの書籍を通じて理解する。

【到達目標】

- ・基礎的な実験を通じて自然法則を理解し、身の回りのさまざまな現象について科学的に説明できること。
- ・相対性理論の初歩的な内容を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の前半は、身の回りの道具を用いて、幅広い科学分野の実験・観察を行い、各自がその実験マニュアルを作成する。後半は、相対性理論を初学者に伝えるために書かれた名著とされる『不思議の国のトムキンス』を参考にしながら、相対性理論について理解する。・課題や質問等に対するフィードバックは、授業時に全体に対して回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する 物理学実験の基礎項目を学ぶ
2	地図の作成	歩測によって距離を測り、地図を作成する
3	自然放射線の理解	自然放射線を計測し、線量分布図を作成する
4	望遠鏡の作成	身近な材料で作成できる望遠鏡を作成する
5	太陽の観測	天体望遠鏡を用いて太陽を観測する
6	水を含む化学製品の理解	ゲル状物質を作成し、水がどのように保持されるかを理解する
7	乳製品について理解を深める	市販の牛乳を用いて、乳製品の特徴を理解する
8	相対性理論の基礎	相対性理論はどのようなときに必要とされる法則であるかを理解する
9	光速の有限性	「のろい町」から光の速度について理解する
10	相対性の理解	「相対性理論に関する教授の講演」から相対的について理解する
11	時間の進みと遅れ	「休息の一日」から時間の長さの変化について理解する
12	空間の歪み	「空間の湾曲、重力および宇宙に関する教授の講演」から空間の湾曲について理解する
13	宇宙論	「脈動する宇宙」から宇宙論について理解する
14	宇宙の将来とまとめ	「宇宙オペラ」から宇宙の将来を理解し、この授業で学んだことについて振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・前半（第 7 回まで）は、毎回の実験課題に取り組み、中学生程度が理解できるような実験マニュアルを作成する。
- ・後半（第 8 回以降）は、予め配付した資料を読み、相対性理論の概略を理解する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

不思議の国のトムキンス〈復刻版〉／ジョージ・ガモフ（著）／伏見康治（訳）／白揚社／2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・実験への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
 - ・相対性理論に関する毎回の小課題の評価 (50%)
- とし、60%以上の得点率で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するので、準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・この授業は、実験・実習を行う授業であり、実験装置等に限りがあることから、受講人数の上限を定めている。受講者を初回授業時に抽選するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。
- ・初回授業の集合場所は、研究・実験棟（12 号館）1 階 101 教室となる。2 回目以降の授業は、研究・実験棟（12 号館）2 階 201 教室を予定している。
- ・授業後半で扱う相対性理論については、文系の学生でも理解しやすい内容とする。

【Outline (in English)】

This course deals with the science experiments and relativistic theory. The goals of this course are to create a manual for each experiments and to understand the relativistic theory. Your required study time is at least four hour for each class meeting. Grading will be decided based on lab reports (50%) at front-half, and the short reports (50%) at back-half.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Human Population; Ch.8	Demography, Population and Society
WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate

WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Review of this semester	Presentation or Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

"E-textbook" is strongly recommended for this course.

DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%), Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

【Outline (in English)】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment B
DOUGLAS HUNGWE、山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanization, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Adjustment, Review	Essay/Report, Q&A
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel

WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Total Review	Presentation and Q&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is TWO HOURS each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%), Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

LANe100CA
English Communication IA
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course mainly focuses on listening and speaking within several different topics. However, there will be some short reading and writing exercises as well.

【到達目標】

Students will improve their ability to listen and speak in English more fluently. In addition, students will learn new vocabulary and deepen their knowledge of known vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will work with a textbook and class activities will include speaking and listening, and vocabulary development. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Homework will mainly focus on listening skills. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions	Types of Listening Tasks Clarification
	Intro Unit: Learning to Listen	Apologizing
week 2	Unit 1: Living in the City	Renting an Apartment Advantages and Disadvantages Similar Sentences
week 3	Unit 2: Bargaining	Understanding Sales Pitches Consumer Goods Sentence Stress
week 4	Bargaining Discussions	Fluency Speaking Activities
week 5	Unit 3: Different Jobs	Inquiring at Job Fairs Types of Jobs Question Stress
week 6	Unit 4: Asian Food	Ordering Food Restaurant Descriptions Gerunds and Nouns
week 7	Asian Food Discussions	Fluency Speaking Activities
week 8	Unit 5: At the Airport	Making Vacation Plans Personal Information Polite Requests
week 9	Unit 6: Geography	Promoting a Tour Geographical Information Syllable Stress
week 10	Geography Discussions	Fluency Speaking Activities
week 11	Unit 7: Tours	Taking a City Tour Descriptions of Places Tag Question
week 12	Unit 8: Stress and Relaxation	Doing a Stress Interview Methods of Relaxation Question Intonation
week 13	Stress and Relaxation Discussions	Fluency Speaking Activities
week 14	Review of Units 1-8	Wrap-up Tasks Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textbook homework including listening and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

Nunan, D., Adams, B., Listen In Book 2 Updated Edition - Student Book, Cengage Learning, ISBN: 978-9814272629

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%, Homework 40%, Speaking Tests 20%, Final Exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

If possible, please bring a smartphone to class. Basic applications (timer, etc.) will be used in class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be motivated to speak a lot to improve their fluency and general communication skill.

LANe100CA
English Communication IB
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course mainly focuses on listening and speaking within several different topics. However, there will be some short reading and writing exercises as well.

【到達目標】

Students will improve their ability to listen and speak in English more fluently. In addition, students will learn new vocabulary and deepen their knowledge of known vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will work with a textbook and class activities will include speaking and listening, and vocabulary development. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Homework will mainly focus on listening skills. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions	Fluency Speaking Activities
week 2	Unit 9: Personal Descriptions	Introducing New Friends Personal Characteristics Sentence Stress
week 3	Unit 10: School Subjects	Choosing the Right Job Strengths and Weaknesses Intonation
week 4	School Subjects Discussions	Fluency Speaking Activities
week 5	Unit 11: Personal Problems	Giving Advice Advice and Solutions Stress for Annoyance
week 6	Unit 12: Social Interactions	Being Sensitive in Social Interactions Various Social Situations Reported Speech
week 7	Social Interactions Discussions	Fluency Speaking Activities
week 8	Unit 13: The News	Understanding the News Sequence of Events Pauses for Commas
week 9	Unit 14: Personalities	Giving Praise Personal Qualities Adjective and Noun Stress
week 10	Personalities Discussions	Fluency Speaking Activities
week 11	Unit 15: Amazing Stories	Telling Stories Main Points Stress for Disbelief
week 12	Unit 16: At the Movies	Describing Behavior Survey Questions Word Stress Patterns
week 13	At the Movies Discussions	Fluency Speaking Activities
week 14	Review of Units 9-16	Wrap-up Tasks Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textbook homework including listening and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

Nunan, D., Adams, B., Listen In Book 2 Updated Edition - Student Book, Cengage Learning, ISBN: 978-9814272629

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%, Homework 40%, Speaking Tests 20%, Final Exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

If possible, please bring a smartphone to class. Basic applications (timer, etc.) will be used in class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be motivated to speak a lot to improve their fluency and general communication skill.

LANe100CA
English Communication IA
ROBERT D STROUD
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students to discuss topics such as hobbies, food, homes, jobs, people, entertainment, and life choices.

【到達目標】

Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations, such as meeting people, traveling, and work. They will learn English skills related to expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions, and giving advice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will use fun and interactive activities within the class. These include online games, entertaining animations, and real-world discussion practices. Each class focuses on important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural English. Feedback on assignments will be given through Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction.	Introduction to the teacher, course focuses, activities, online games, animation videos, and grading system
Week 2	Hobby preferences	Skills for sharing hobby preferences, online preference language game, and discussing a 'hobby' animation video
Week 3	Hobby discussions	Real-world hobby discussion practices, online team language game, and extended language activities for giving preferences
Week 4	Food preferences	Skills for comparing different food/restaurants, online language game, and discussing a 'restaurant' animation video
Week 5	Food discussions	Real-world food discussion practices, online team language game, and extended language activities for comparing
Week 6	Home preferences	Skills for choosing where to live and why, online language game, and discussing a 'home choice' animation video
Week 7	Home discussions and speech prep	Real-world home choice discussion practices, extended language activities, and speech 1 prep (planning a party)
Week 8	Class speeches 1	Speeches in small groups about planning a party
Week 9	Job/people preferences	Asking questions about jobs/people, online language game, and discussing a 'job choice' animation video
Week 10	Job/people discussions	Real-world job discussion practices, online team language game, and summary language activities for asking questions
Week 11	Entertainment preferences	Skills for giving advice about entertainment, online language game, and discussing an 'entertainment' animation video
Week 12	Entertainment discussions	Real-world entertainment discussion practices, online team language game, and summary language activities for advice

Week 13	Life choices and speech prep	Real-world discussion practices about life choices and speech 2 prep (planning a trip)
Week 14	Classes speeches 2	Speeches in small groups about planning a trip

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 30 minutes of reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SMART Communication 1, SMART Class Series (2nd edition)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation (25%), Homework (25%), Speech 1 (25%) and Speech 2 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

Based on the teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Please bring a charged smartphone to class if possible (for classroom games).

【その他の重要事項】

None

LANe100CA
English Communication IB
ROBERT D STROUD
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present, and future lives.

【到達目標】

Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively for explaining experiences and memories, current habits/routines, and future hopes/dreams.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will use fun and interactive activities within the class. These include online games, entertaining animations, and real-world discussion practices. Each class focuses on important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural English. Feedback on assignments will be given through Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction	Introduction to the teacher, course focuses, activities, online games, animation videos, and grading system
Week 2	My past experiences	Skills for sharing experiences, online preference language game, and discussing an 'experience' animation video
Week 3	Past experience discussions	Real-world experience opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 4	My best memories	Skills for sharing memories, online preference language game, and debating about a 'memory' animation video
Week 5	Best memory discussions	Real-world memory opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 6	Look at my life	Skills for sharing routines/habits, online preference language game, and debating about a 'routine/habit' animation video
Week 7	My life discussions	Real-world routines/habits opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 8	Class speeches 1	Speeches in small groups about varying opinions
Week 9	My life changes	Skills for sharing desired changes, online preference language game, and debating about a 'life changes' animation video
Week 10	My life changes discussions	Real-world life changes opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 11	My dreams	Skills for sharing dreams, online preference language game, and debating about a 'dreams' animation video
Week 12	My dreams discussion	Real-world dreams opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 13	My future discussion	Real-world future targets opinionated discussions, online language game, and extended language activities

Week 14 Classes speeches 2 Speeches in small groups about varying opinions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 30 minutes of reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SMART Communication 2, SMART Class Series (2nd edition)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation (25%), Homework (25%), Speech 1 (25%) and Speech 2 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

Based on the teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Please bring a charged smartphone to class if possible (for classroom games).

【その他の重要事項】

None

LANe100CA
English Communication IA
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course mainly focuses on listening and speaking within several different topics. However, there will be some short reading and writing exercises as well.

【到達目標】

Students will improve their ability to listen and speak in English more fluently. In addition, students will learn new vocabulary and deepen their knowledge of known vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will work with a textbook and class activities will include speaking and listening, and vocabulary development. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Homework will mainly focus on listening skills. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions	Types of Listening Tasks Clarification
	Intro Unit: Learning to Listen	Apologizing
week 2	Unit 1: Living in the City	Renting an Apartment Advantages and Disadvantages Similar Sentences
week 3	Unit 2: Bargaining	Understanding Sales Pitches Consumer Goods Sentence Stress
week 4	Bargaining Discussions	Fluency Speaking Activities
week 5	Unit 3: Different Jobs	Inquiring at Job Fairs Types of Jobs Question Stress
week 6	Unit 4: Asian Food	Ordering Food Restaurant Descriptions Gerunds and Nouns
week 7	Asian Food Discussions	Fluency Speaking Activities
week 8	Unit 5: At the Airport	Making Vacation Plans Personal Information Polite Requests
week 9	Unit 6: Geography	Promoting a Tour Geographical Information Syllable Stress
week 10	Geography Discussions	Fluency Speaking Activities
week 11	Unit 7: Tours	Taking a City Tour Descriptions of Places Tag Question

week 12	Unit 8: Stress and Relaxation	Doing a Stress Interview Methods of Relaxation Question Intonation
week 13	Stress and Relaxation Discussions	Fluency Speaking Activities
week 14	Review of Units 1-8	Wrap-up Tasks Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textbook homework including listening and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

Nunan, D., Adams, B., Listen In Book 2 Updated Edition - Student Book, Cengage Learning, ISBN: 978-9814272629

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%, Homework 40%, Speaking Tests 20%, Final Exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

If possible, please bring a smartphone to class. Basic applications (timer, etc.) will be used in class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be motivated to speak a lot to improve their fluency and general communication skill.

LANe100CA
English Communication IB
ジェイ マツオ タナカ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course mainly focuses on listening and speaking within several different topics. However, there will be some short reading and writing exercises as well.

【到達目標】

Students will improve their ability to listen and speak in English more fluently. In addition, students will learn new vocabulary and deepen their knowledge of known vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will work with a textbook and class activities will include speaking and listening, and vocabulary development. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Homework will mainly focus on listening skills. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions	Fluency Speaking Activities
week 2	Unit 9: Personal Descriptions	Introducing New Friends Personal Characteristics Sentence Stress
week 3	Unit 10: School Subjects	Choosing the Right Job Strengths and Weaknesses Intonation
week 4	School Subjects Discussions	Fluency Speaking Activities
week 5	Unit 11: Personal Problems	Giving Advice Advice and Solutions Stress for Annoyance
week 6	Unit 12: Social Interactions	Being Sensitive in Social Interactions Various Social Situations Reported Speech
week 7	Social Interactions Discussions	Fluency Speaking Activities
week 8	Unit 13: The News	Understanding the News Sequence of Events Pauses for Commas
week 9	Unit 14: Personalities	Giving Praise Personal Qualities Adjective and Noun Stress
week 10	Personalities Discussions	Fluency Speaking Activities
week 11	Unit 15: Amazing Stories	Telling Stories Main Points Stress for Disbelief
week 12	Unit 16: At the Movies	Describing Behavior Survey Questions Word Stress Patterns

week 13	At the Movies Discussions	Fluency Speaking Activities
week 14	Review of Units 9-16	Wrap-up Tasks Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textbook homework including listening and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 4 hours per week).

【テキスト（教科書）】

Nunan, D., Adams, B., Listen In Book 2 Updated Edition - Student Book, Cengage Learning, ISBN: 978-9814272629

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%, Homework 40%, Speaking Tests 20%, Final Exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

If possible, please bring a smartphone to class. Basic applications (timer, etc.) will be used in class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be motivated to speak a lot to improve their fluency and general communication skill.

LANe100CA
English Communication I A
Kregg Johnston
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business. Students will learn key phrases and grammar related to the business topics covered in each unit. The students will also develop their listening comprehension skills by listening to interviews with business people and short talks. The students will also practice using this knowledge by taking part in role plays and end of unit case discussions. The students will learn and practice how to summarize their case discussions in the form of email correspondence.

【到達目標】

This course aims to develop communicative competence necessary to understand what others say, state their opinions through role plays and case discussions, and briefly summarize the results of their discussions in written form for a variety of situations encountered in business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The first day of class will be held on April 21, 2020 via Zoom at the normal class time: 1:40 pm. Please refer to the announcement on Hoppii for the URL and login details.

This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with the textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. After completing the case discussion at the end of each unit, the students will be expected to submit a written summary of their discussions.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 1 Introductions	State nationalities Using the verb "To be" Introducing yourself & others
Week 3	Unit 1 Introductions	Asking & answering Wh-questions Conversation & role play: Introducing yourself & others
Week 4	Unit 1 quiz and case discussion	Unit 1 quiz U1 case:choose job candidate to meet Written summary of discussion
Week 5	Unit 2 Work & leisure	Word partnerships for Routines, leisure activities Days, months, dates & prepositions of time Discussing routines

Week 6	Unit 2 Work & leisure	Simple present tense Adverbs and expressions of frequency Asking questions Expressing feelings
Week 7	Unit 2 quiz and case discussion	Unit 2 quiz U2 case: Decide 3 changes for company Written summary of discussion
Week 8	Unit 3 Problems	State Problems at work adjectives with "too" & "enough" Listen to interview on work problems
Week 9	Unit 3 Problems	Phoning: Solving problems Present tense: Negatives sentences & Questions
Week 10	Unit 3 quiz and case discussion	Unit 3 quiz U3 case:Discuss advertising policy in groups Working across cultures: restaurant etiquette Written summary of discussion
Week 11	Unit 4 Travel	Talk about travel Listen to travel information Use "Can/Can't" to state ability or possibility State existence: "there is/there are"
Week 12	Unit 4 Travel	Listening:arranging plans on the phone Checking arrangements: telephone role play
Week 13	Unit 4 quiz and case discussion	Unit 4 quiz U4 case: Scheduling different conferences at a conference center. Written summary of discussion
Week 14	Units 1-4 Review	Review of units 1-4, conclusion activities for course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【参考書】

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【成績評価の方法と基準】

Student grades will be calculated in the following way:
Quizzes-55%

Homework-10%

Attendance & Participation 15%

Writing assignments:business correspondence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】

Increased work on vocabulary development & discussion skills during class.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook

【その他の重要事項】

None

LANe100CA
English Communication I B
Kregg Johnstone
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business. Students will learn key phrases and grammar related to the business topics covered in each unit. The students will also develop their listening comprehension skills by listening to interviews with business people and short talks. The students will also practice using this knowledge by taking part in role plays and end of unit case discussions. The students will learn and practice how to summarize their case discussions in the form of email correspondence.

【到達目標】

This course aims to develop communicative competence necessary to understand what others say, state their opinions through role plays and case discussions, and briefly summarize the results of their discussions in written form for a variety of situations encountered in business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with the textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. After completing the case discussion at the end of each unit, the students will be expected to submit a written summary of their discussions.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 7 People	Describing People Use adjectives to describe people Past simple: negatives & questions Listen to an interview on managing people
Week 3	Unit 7 People	Question forms Stating and dealing with problems Reading: Asking questions about Andrea Jung & Steve Jobs
Week 4	Unit 7 quiz and case discussion	Unit 7 quiz U7 case: Advice on work problems Written summary of discussion
Week 5	Unit 8 Advertising	Advertising quiz Talk about Advertising & markets Read about VW advertising and answer questions

Week 6	Unit 8 Advertising	Explaining graphs and using quantifiers Stating opinions and making comparisons Comparing car features Comparative/Superlative Discussing Marketing strategy
Week 7	Unit 8 quiz and case discussion	Unit 8 quiz U8 case:Advertising for a chocolate bar Written summary of discussion
Week 8	Unit 9 Companies	Describing companies Listening:interview on favorite company Using the present continuous tense Reading: Wind-energy business
Week 9	Unit 9 Companies	Grammar:Present continuous vs simple Role play: show visitor around company Starting a presentation
Week 10	Unit 9 quiz and case discussion	Unit 9 quiz U9 case:Present your company to an audience Written summary of presentation
Week 11	Unit 10 Communication	Doing business abroad Article:Methods of communication Listen to interview on social networking Stating future plans: fixed arrangements vs intended plans
Week 12	Unit 10 Communication	Making offers Making arrangements by phone Article on Vodafone CEO
Week 13	Unit 10 quiz and case discussion	Unit 10 quiz U10 case:Discuss how to communicate bad news to employees. Written summary of discussion
Week 14	Review Units 7-10	Review of units 7-10, conclusion activities for course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【参考書】

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【成績評価の方法と基準】

Student grades will be calculated in the following way:
Quizzes-55%
Homework-10%

Attendance & Participation 15%

Writing assignments:business correspondence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】

Increased work on vocabulary development & discussion skills during class.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
English Communication IIA
ROBERT D STROUD
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve real-world English communication skills by focusing on opinion giving skills. A variety of important communication topics and situations will help students better understand how to use English with others.

【到達目標】

Students will get better at overall communication skills and become more fluent at exchanging ideas and opinions. They will also be able to understand the opinions of others more easily and respond to them with support or criticism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

They will work in small groups, in pairs and with the whole class using English in an enjoyable and communicative way. They will participate in weekly discussions and debates about interesting topics. Feedback on assignments will be provided on an ongoing in-class basis and via Google Classroom (students will be asked to submit work on Google Classroom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance and grading system explanation
2	City life opinions	Opinion phrases, city life opinion activities, online language game and animated video listening activity
3	City life discussions	Real-world city life discussion practices, online team language game and extended language activities for giving opinions
4	Study opinions	Support phrases, study opinion activities, online language game and animated video listening activity
5	Study discussions	Real-world study discussion practices, online team language game and extended language activities for supporting opinion
6	Fashion opinions	Persuasion phrases, fashion opinion activities, online language game and animated video listening activity
7	Fashion discussions	Real-world fashion discussion practices, extended language activities for persuading others
8	Review speech 1	Opinion speeches in small groups about junk food (using phrases from classes 2-7)
9	Technology opinions	Checking opinions, technology opinion activities, online language game and animated video listening activity
10	Technology discussions	Real-world technology discussion practices, online team language game and summary language activities for checking opinions
11	Travel opinions	Reaction phrases, travel opinion activities, online language game and animated video listening activity
12	Travel discussions	Real-world travel discussion practices, online team language game and summary language activities for reacting to opinions

13	Fame and fortune opinions and discussions	Opinion challenge phrases, fame and fortune opinion activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Opinion speeches in small groups about part-time jobs (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 30 minutes of reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SMART Communication 2, SMART Class Series (2nd Edition)

【参考書】

A good dictionary will be helpful. Also, please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games).

【成績評価の方法と基準】

25%: Class attendance and participation

25%: Textbook homework

25%: Review speech 1

25%: Review speech 2

【学生の意見等からの気づき】

Adjustments will be made to course topics and assessment following feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

LANe200CA
English Communication IIB
ROBERT D STROUD
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve real-world English communication skills by focusing on critical thinking within interactions. A variety of important communication topics and situations will help students better understand how to use English with others.

【到達目標】

Students will get better at overall critical thinking and communication skills in English. They will also be able to understand the opinions of others more easily and respond to them with support or criticism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

They will work in small groups, in pairs and with the whole class using English in an enjoyable and communicative way. They will participate in weekly discussions and debates about interesting topics. Feedback on assignments will be provided on an ongoing in-class basis and via Google Classroom (students will be asked to submit work on Google Classroom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance and grading system explanation
2	Meeting new people discussions	Opinion phrases, city life opinion activities, online language game and animated video listening activity
3	Getting to know people critical thinking tasks	Real-world city life discussion practices, online team language game and extended language activities for giving opinions
4	World cultures discussions	Support phrases, study opinion activities, online language game and animated video listening activity
5	Culture sharing critical thinking tasks	Real-world study discussion practices, online team language game and extended language activities for supporting opinion
6	Human motivation discussions	Persuasion phrases, fashion opinion activities, online language game and animated video listening activity
7	Motivating people critical thinking tasks	Real-world fashion discussion practices, extended language activities for persuading others
8	Review speech 1	Opinion speeches in small groups about junk food (using phrases from classes 2-7)
9	Life skills and talents discussions	Checking opinions, technology opinion activities, online language game and animated video listening activity
10	Life skills critical thinking tasks	Real-world technology discussion practices, online team language game and summary language activities for checking opinions
11	Future world discussions	Reaction phrases, travel opinion activities, online language game and animated video listening activity
12	Future world critical thinking tasks	Real-world travel discussion practices, online team language game and summary language activities for reacting to opinions

13	Human happiness discussions	Opinion challenge phrases, fame and fortune opinion activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Opinion speeches in small groups about part-time jobs (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 30 minutes of reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SMART Communication 3, SMART Class Series (2nd Edition)

【参考書】

A good dictionary will be helpful. Also, please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games).

【成績評価の方法と基準】

25%: Class attendance and participation

25%: Textbook homework

25%: Review speech 1

25%: Review speech 2

【学生の意見等からの気づき】

Adjustments will be made to course topics and assessment following feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

LANe200CA
English Communication IIA
JOHN LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn how to give an impromptu speech and an informative speech.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at a high-intermediate level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Impromptu speeches	Making an impromptu speech
Week 3:	Informative speeches (1)	Choosing a topic
Week 4:	Informative speeches (2)	Skeleton outline
Week 5:	Informative speeches (3)	Final outline
Week 6:	Informative speeches (4)	Visual aids
Week 7:	Informative speeches (5)	Introduction
Week 8:	Informative speeches (6)	Body
Week 9:	Informative speeches (7)	Conclusion
Week 10:	Informative speeches (8)	First draft
Week 11:	Informative speeches (9)	Revisions
Week 12:	Informative speeches (10)	Final draft
Week 13:	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14:	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Students will select their own topics for the speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
English Communication IIB
JOHN LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn how to give a research speech on a topic related to the students' areas of study which requires academic research.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at a high-intermediate level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Research speeches (1)	Choosing a topic
Week 3:	Research speeches (2)	Doing research
Week 4:	Research speeches (3)	Visual aids
Week 5:	Research speeches (4)	Skeleton outline
Week 6:	Research speeches (5)	Final outline
Week 7:	Research speeches (6)	Introduction
Week 8:	Research speeches (7)	Body
Week 9:	Research speeches (8)	Conclusion
Week 10:	Research speeches (9)	First draft
Week 11:	Research speeches (10)	Revisions
Week 12:	Research speeches (11)	Final draft
Week 13:	Research speeches (12)	Final revisions as necessary
Week 14:	Review	Review as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the research speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe300CA

English Communication IIIA

JOHN LACEY

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on giving a persuasive speech.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the persuasive speeches will be determined by the students in consultation with the professor. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Persuasive speeches (1)	Choosing a thesis
Week 3:	Persuasive speeches (2)	Doing research
Week 4:	Persuasive speeches (3)	Visual aids
Week 5:	Persuasive speeches (4)	Skeleton outline
Week 6:	Persuasive speeches (5)	Final outline
Week 7:	Persuasive speeches (6)	Introduction
Week 8:	Persuasive speeches (7)	Body
Week 9:	Persuasive speeches (8)	Conclusion
Week 10:	Persuasive speeches (9)	First draft
Week 11:	Persuasive speeches (10)	Revisions
Week 12:	Persuasive speeches (11)	Final draft
Week 13:	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14:	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Students will select their own topics for the speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe300CA
English Communication IIIB
JOHN LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to five advanced levels of speech communication: (1) debate; (2) discussion; (3) negotiation theory; (4) intercultural communication; and (5) international management.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Debates (1)	Read handout and write propositions
Week 3:	Debates (2)	Prepare constructives
Week 4:	Debates (3)	Prepare rebuttals
Week 5:	Debates (4)	Concluding the debate
Week 6:	Discussion	Discussion exercise
Week 7:	Negotiations (1)	Negotiation theory
Week 8:	Negotiations (2)	Negotiation exercise
Week 9:	Intercultural communication (1)	Lecture by the teacher
Week 10:	Intercultural communication (2)	Response to the lecture
Week 11:	International management (1)	Gung Ho movie 1st half
Week 12:	International management (2)	Gung Ho movie 2nd half
Week 13:	International management (3)	Written response to Gung Ho
Week 14:	Review	Review as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the intercultural communication and intercultural negotiations sections. Students will select their own topics for the debates and discussions, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANd100CA
ドイツ語コミュニケーション IA
北岡 幸代
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

【到達目標】

初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2022 年度は対面授業が基本方針ですが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業は対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。

授業の進め方と方法は以下の通りです。

- (1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
- (2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
- (3) ペアワーク、グループワークによる発話練習を行います。
- (4) 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方について。 みんなでドイツ語を話してみよう。
02	人と知り合う（1）	挨拶をしよう。 名前・出身をたずねよう。
03	人と知り合う（2）	友達を別の友達に紹介しよう。
04	人と知り合う（3）	調子・気分をきこう。
05	買い物をしよう（1）	家具製品の語彙。 百万までの数字。
06	買い物をしよう（2）	家具店で買い物をしよう。 値段に関する表現。
07	買い物をしよう（3）	アドバイスを求める表現。 品物について述べる。
08	事物を評価しよう（1）	動詞 <i>finden</i> を使う表現。 品物の名称をたずねる表現、答える表現。
09	事物を評価しよう（2）	眼鏡ショップの広告を読む。 材質・色・形に関する語彙。
10	事物を評価しよう（3）	品物をオークションにかけよう。 インターネットで注文しよう。
11	仕事と通信機器（1）	電話の会話を聴く。 オフィスに関する語彙。
12	仕事と通信機器（2）	SMS を使う。
13	仕事と通信機器（3）	電話会話のストラテジー。
14	口頭試験	口頭試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』（Hueber）

【参考書】

辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒヤリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、口頭試験（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。

・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の映画やドイツ語圏の文化・生活に関する動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスには必ず出席してください。

学期中に、受講者の興味関心・学習進度に応じて、シラバスの内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a beginner's German class for students who are new to the language.

Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.

【Learning Objectives】

The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.

【Learning activities outside of classroom】

Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANd100CA
ドイツ語コミュニケーション IB
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

【到達目標】

初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2022 年度は対面授業が基本方針ですが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業は対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。

授業の進め方と方法は以下の通りです。

- (1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
- (2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
- (3) ペアワーク、グループワークによる発話練習を行います。
- (4) 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業の進め方の再確認。 秋学期の内容確認。 ドイツ語圏の最新トピックの紹介。 一日の時間の流れと所在場所。
02	予定を伺う（1）	時刻の表現。
03	予定を伺う（2）	予定の確認や取り消し。
04	予定を伺う（3）	好きな食べ物について。
05	食事について（1）	話法の助動詞 mögen と möchte
06	食事について（2）	食事に招待する。
07	食事について（3）	食事会の会話。 ドイツ語圏の料理。
08	交通機関（1）	構内放送を聴く。 交通に関する語彙。
09	交通機関（2）	分離動詞を使う。
10	交通機関（3）	旅や乗り換えに関する表現。
11	季節の行事（1）	季節・時期・行事に関する語彙。 ドイツ語圏のお祭り。
12	季節の行事（2）	季節の行事を調べてみよう。
13	口頭試験	口頭試験 復習
14	期末筆記試験 秋学期の振り返り	筆記試験 秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】

参考書等は、授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒヤリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、口頭試験（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語圏の映画やドイツ語圏の文化・生活に関する動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスには必ず出席してください。

学期中に、受講者の興味関心・学習進度に応じて、シラバスの内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a beginner's German class for students who are new to the language.

Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.

【Learning Objectives】

The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.

【Learning activities outside of classroom】

Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANd200CA

ドイツ語コミュニケーション IIA

北岡 幸代

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーションⅠを履修していないくても本科目の履修に問題はありません。

【到達目標】

・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
・ドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2022 年度は語学の授業は対面授業の実施となりますが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業も対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。

授業の進め方と方法は以下の通りです。

1. 特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学ぶ。
2. 映像教材・音声教材を使い、視聴による理解を深める練習をする。
3. 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4. 必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
5. 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業の進め方と準備作業。 ・授業中に使用するドイツ語表現。
02	家族・活動・出来事（1）	・家族メンバーの職業 復習：所有冠詞
03	家族・活動・出来事（2）	・家族の歴史 口頭練習：所有冠詞
04	家族・活動・出来事（3）	・親戚の話 復習：現在完了形
05	家族・活動・出来事（4）	・子供の頃の記憶 口頭練習：現在完了形
06	自然と景観（1）	・ドイツ語圏の街 復習：動詞 gefallen
07	自然と景観（2）	・観光ツアーの広告を読む。 習得：自然・風景に関する語彙
08	自然と景観（3）	・観光ツアーの広告を読む。 文法：名詞の形成について
09	自然と景観（4）	・風景を叙述する。 表現：自分の好みを述べる。
10	食品の買い出し（1）	・買い物メモ 語彙：食品、包装形態、頻度、量
11	食品の買い出し（2）	・食料品を買う 文法：形容詞の語尾変化（不定冠詞のとき）
12	食品の買い出し（3）	・今週の買い物 練習：接続法Ⅱ式、現在完了形
13	食品の買い出し（4）	・カフェのモーニングメニュー 練習：注文時の会話
14	春学期の振り返り	・口頭試験と春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Menschen A2.1 Kursbuch』（Hueber）

（注）昨年度まで使用していた教科書『Menschen A1.2』と版が異なりますので、注意して下さい。今年度は『Menschen A2.1』を使用します。

【参考書】

・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。

・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上で合格とします。

・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

文法については、必要に応じて適宜説明を行います。すでに学習した文法の教科書を、本授業の進度に合わせて復習として大いに利用しましょう。

【その他の重要事項】

・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。

・学期中に、受講者の興味関心・理解度に応じて、シラバス内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will develop their communication skills in German in anticipation of a short stay in a German-speaking country and friendships with people from German-speaking countries. Students will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

【Learning Objectives】

To learn the basic grammar, vocabulary, features of expressions, and correct pronunciation used in each theme, while acquiring the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a well-balanced manner, and to be able to use them as one's own expressions.

To be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds through the study of German.

【Learning activities outside of classroom】

As preparation for the class, students will study the meaning and pronunciation of important vocabulary used in the theme using the application, and will be given practice print assignments to review the class content. The standard preparation and review time for this class is approximately one hour each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

A quiz (hearing and written) will be given at the end of each topic. There will be an oral exam at the end of the term.

Grades will be based on a comprehensive evaluation of homework and class assignments (30%), in-class written tests (35%), and in-class oral exams and presentations (35%).

If the number of absences without a valid reason exceeds 30% of the total number of classes, the student will not be graded.

LANd200CA
ドイツ語コミュニケーション IIB
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。

・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーションⅠを履修していなくても本科目の履修に問題はありません。

【到達目標】

・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。

・ドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2022 年度は語学の授業は対面授業の実施となりますが、コロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。初回授業も対面授業を予定していますが、念のため授業形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。

授業の進め方と方法は以下の通りです。

1. 特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に適った表現を学ぶ。
2. 映像教材・音声教材を使い、視聴による理解を深める練習をする。
3. 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
4. 必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
5. 課題等の提出・フィードバックは、対面授業の場合は、配布物・対面フィードバックを行い、オンライン授業では主に「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業内容、進め方の再確認。 ・ウォームアップとしての会話練習。
02	ドイツ語圏での観光計画（1）	・旅先で観光したいこと。 練習：興味関心を述べる。
03	ドイツ語圏での観光計画（2）	・旅先からの話がきを読む。 習得：観光に関する語彙。
04	ドイツ語圏での観光計画（3）	・Köln のお薦めの観光スポット。 文法：形容詞の語尾変化（定冠詞を使う場合）。
05	ドイツ語圏での観光計画（4）	・友人を観光案内する。 発話練習：観光計画を発表しよう。
06	私の好きなイベントは（1）	・ドイツ語圏のさまざまなイベント・お祭り。 習得：イベント・お祭りに関する語彙。
07	私の好きなイベントは（2）	・ドイツ語圏の夏のイベントに関するコラムを読む。
08	私の好きなイベントは（3）	・いつからその行事を楽しみにしていたの？ 文法：期間を示す前置詞の表現。
09	私の好きなイベントは（4）	・イベントへのお誘いとその返事。 会話練習：提案の仕方と、同意や断る表現。
10	レストランで（1）	・レストランでの行動。 習得：レストランをめぐるさまざまな語彙。
11	レストランで（2）	・食べたい料理がないときは？ 文法：接続詞 dass を使う副文の表現。
12	レストランで（3）	・レストランでのさまざまな会話。 復習：接続法Ⅱ式を使う丁寧な表現。
13	レストランで（4）	・美味しかったですか？ 会話練習：苦情を言う場合。
14	秋学期のまとめ	・口頭試験と秋学期のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習としてはテーマで使用する重要語彙の意味と発音をアプリで学習し、授業内容の復習として練習プリントの課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Menschen A2.1 Kursbuch』（Hueber）

（注）昨年度まで使用していた教科書『Menschen A1.2』と版が異なりますので、注意して下さい。今年度は『Menschen A2.1』を使用します。

【参考書】

・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

・文法については、必要に応じて適宜説明を行います。すでに学習した文法の教科書を、本授業の進度に合わせて復習として大いに利用しましょう。

【その他の重要事項】

・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。
・学期中に、受講者の興味関心・理解度に応じて、シラバス内容を若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will develop their communication skills in German in anticipation of a short stay in a German-speaking country and friendships with people from German-speaking countries. Students will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

【Learning Objectives】

To learn the basic grammar, vocabulary, features of expressions, and correct pronunciation used in each theme, while acquiring the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a well-balanced manner, and to be able to use them as one's own expressions.

To be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds through the study of German.

【Learning activities outside of classroom】

As preparation for the class, students will study the meaning and pronunciation of important vocabulary used in the theme using the application, and will be given practice print assignments to review the class content. The standard preparation and review time for this class is approximately one hour each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

A quiz (hearing and written) will be given at the end of each topic. There will be an oral exam at the end of the term.

Grades will be based on a comprehensive evaluation of homework and class assignments (30%), in-class written tests (35%), and in-class oral exams and presentations (35%).

If the number of absences without a valid reason exceeds 30% of the total number of classes, the student will not be graded.

LANf100CA
フランス語コミュニケーション A
余 語 毅 憲
開講時期：春学期授業/Spring 単 位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的なフランス語表現を学習し、他人との簡単なやり取りができる会話能力を身につける。

【到達目標】

簡単なフランス語を使って個人情報についてのやり取りができるようになる。仏検 4 級に合格可能なレベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にアンケートを毎回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	挨拶表現など
2	やり取りの基本表現	返事するときの表現、呼びかけの表現
3	「私は～です」	Je voudrais の使いかた
4	好みの表現	「～が/～するのが好きです」
5	依頼表現	「～してもらえますか？」
6	提案・勧誘	「～しましょうか？」
7	義務表現	「～しなくちゃならない」
8	疑問詞を使った基本表現	「いつ/どのに～しますか？」
9	数や量を尋ねる表現	combien など
10	シチュエーション 1	Dans la cour d'une université...
11	シチュエーション 2	Dans la cuisine dans l'appartement
12	シチュエーション 3	Dans un magasin d'électronique...
13	シチュエーション 4	Dans la salle de bain dans l'appartement...
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：前回の範囲を見直しておく 復習：音読や発音の確認。本授業の準備・復習の目安（各 2 時間）

【テキスト（教科書）】

授業ごとに配布。

【参考書】

授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70％ 平常点：30％

【学生の意見等からの気づき】

実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】

This class is designed to provide an opportunity for students to improve basic conversation proficiency through interactive activities. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 70% ; in class contribution : 30%

LANf100CA
フランス語コミュニケーション B
余語 毅憲
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的なフランス語表現を学習し、他人との簡単なやり取りができる会話能力を身につける。

【到達目標】

簡単なフランス語を使って個人情報についてのやり取りができるようになる。仏検 4 級に合格可能なレベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にアンケートを毎回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、飛行機内で使いそうな表現	Qu'est-ce que vous prenez comme boisson ?
2	空港で使いそうな表現	Quel est le but de votre séjour ?
3	ホテルで使いそうな表現	Je voudrais réserver une chambre simple. Bonsoir. Vous êtes combien ?
4	レストランに入るときに使いそうな表現	Je n'ai pas pris de bière.
5	カフェで使いそうな表現	Vous prenez autre chose ?
6	ファストフード店で使いそうな表現	Madame, vous désirez ?
7	マーケット（市場）で使いそうな表現	Où est-ce qu'on peut acheter des billets ?
8	チケットを買うときに使いそうな表現	Au fait, qu'est-ce que vous allez faire demain soir ?
9	予定を尋ねられたときに使いそうな表現	Tu as un projet pour ce week-end ?
10	誘われたときに使いそうな表現	Qu'est-ce que vous avez ?
11	体調が悪いときに使いそうな表現	C'est pour combien de personnes ?
12	予約するときに使いそうな表現	Quel est le plat du jour ?
13	注文するときに使いそうな表現	期末試験／今期の総括
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：前回の範囲を見直しておく 復習：音読や発音の確認。本授業の準備・復習の目安（各 2 時間）

【テキスト（教科書）】

授業ごとに配布。

【参考書】

授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 % 平常点：30 %

【学生の意見等からの気づき】

実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】

This class is designed to provide an opportunity for students to improve basic conversation proficiency through interactive activities. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 70% ; in class contribution : 30%

LANf200CA
資格をめざすフランス語 A
小室 廉太
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。

資格を取得することは、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。

【到達目標】

フランス語の初級文法が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。
仏検 4 級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

1 年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題を取りあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。

授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

もしコロナ禍でオンライン授業を行うことになった場合は、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 仏検 4 級解説 発音規則	授業、評価方法紹介 仏検 4 級の出題解説 発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞 数字の聞きとり	前置詞の用法 数字（1～100）の聞きとり
8	疑問文 1	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文 2	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究 1	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究 2	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（2時間）。

授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（1時間）。

毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各30分）。

【テキスト（教科書）】

初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】

1年次に使用した文法の教科書

『仏検4級スピード合格』（富田正二著、三修社）

『仏検3級スピード合格』（富田正二著、三修社）

『《データ本位》で順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）と、小テストおよび平常点（40％）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はコロナ禍のため履修者は少なかったのですが、初めてフランス語を学ぶ1年生が春学期で3級合格しました。

昨年度履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline (in English)】

We aim to improve our French skills while relying on the questions of the Practical French test (仏検).

By acquiring a diploma, you can not only record your study of French at university, but also have an advantage in studying abroad and finding employment.

LANf200CA

資格をめざすフランス語 B

小室 廉太

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。

資格を取得することは、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけでなく、留学や就職にも有利です。

【到達目標】

フランス語の初級文法が習得できる。

フランス語の表現や語彙を習得できる。

フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。

仏検4級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

1年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題を取りあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。

授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

もしコロナ禍でオンライン授業を行うことになった場合は、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 仏検4級解説 発音規則	授業、評価方法紹介 仏検4級の出題解説 発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞 数字の聞きとり	前置詞の用法 数字（1～100）の聞きとり
8	疑問文1	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文2	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究1	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究2	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（2時間）。
授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（1時間）。
毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各30分）。

【テキスト（教科書）】

初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】

1年次に使用した文法の教科書
『仏検4級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検3級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》で順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）と、小テストおよび平常点（40％）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はコロナ禍のため履修者は少なかったのですが、初めてフランス語を学ぶ1年生が春学期で3級合格しました。
昨年度履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline (in English)】

We aim to improve our French skills while relying on the questions of the Practical French test (仏検).
By acquiring a diploma, you can not only record your study of French at university, but also have an advantage in studying abroad and finding employment.

LANs100CA
スペイン語コミュニケーション IA
マリア ドローレス
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】

日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目はスペイン語でのコミュニケーション能力を高めるための授業です。従って、授業は Zoom によるリアルタイムでの口頭練習を中心に進めます。
対面授業では質問・解答を繰り返し修正しながら進め、課題等は直接提出又は Hoppii を活用する。オンライン授業では Zoom を通じて同様の授業形態を採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日常生活に関する表	再帰動詞 現、会話
2	習慣について、待ち合	相互再帰動詞 わせをする
3	最近の出来事について	現在完了形 話す
4	経験や過去の出来事に	頻度を表す副詞 ついて話す、意向を表 現する
5	未来について話す、仮	未来形 定の話
6	旅行を計画する、家に	関係代名詞を使った文章 ついて話す
7	1回～6回までの復習	復習
8	同時進行する出来事	現在分詞
9	比較する、身体部分名	比較級、最上級 称の言い方、スポー ツ、国名
10	過去の習慣的行動を思	線過去 い出す、レジャー
11	歴史について話す、病	過去形 院で
12	過去の出来事について	点過去 話す、歌詞を訳す
13	町中での行動、旅行、	過去形 ラテンアメリカについ て
14	8回～13回までの復	復習 習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

著者 Eugenio Del Prado, Hanako Saito, Shinji Nakamichi

出版社 朝日出版

¥2500

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

試験 66 %

平常点 34%

【学生の意見等からの気づき】

外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンライン授業が中心となるため、Zoom に対応したデバイス (PC、タブレット端末など)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the intermediate level of Spanish, especially speaking ability.

LANs100CA

スペイン語コミュニケーション IB

マリア ドローレス

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】

日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目はスペイン語でのコミュニケーション能力を高めるための授業です。従って、授業は Zoom によるリアルタイムでの口頭練習を中心に進めます。

対面授業では質問・解答を繰り返し修正しながら進め、課題等は直接提出又は Hoppii を活用する。オンライン授業では Zoom を通じて同様の授業形態を採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	有名人の伝記、歴史上の人物について	3 種類の過去形
2	Eメールの書き方、あの行動の継続性	頻度を表す副詞
3	料理レシピ、命令、指示の仕方	命令形
4	目的地への道順、友人を紹介する	命令形
5	完了した過去の出来事、職場・家庭での会話	過去完了
6	時の表現の復習、パプ	時を表す副詞句での会話
7	1 回～6 回までの復習	復習
8	政治、社会問題について議論する、希望・要求の言い方	接続法現在
9	空港での会話、アドバイスと助言・勧告	接続法現在
10	買い物、室内装飾	接続法過去、条件法
11	丁寧な表現、希望と夢の表現、時事問題について議論する	条件法
12	パーティーでの会話、他者の言葉を再現する	間接話法
13	金言・名言集、他者のメッセージを伝える、メモを残す	間接話法
14	8 回～13 回までの復習	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

著者 Eugenio Del Prado, Hanako Saito, Shinji Nakamichi

出版社 朝日出版

¥2500

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

試験 66 %

平常点 34%

【学生の意見等からの気づき】

外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンライン授業が中心となるため、Zoom に対応したデバイス (PC、タブレット端末など)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the intermediate level of Spanish, especially speaking ability.

LANs200CA

スペイン語コミュニケーション IIA

YENG A J FERNANDO

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語コミュニケーションの力を発展させるクラス。会話を中心としたアクティビティを通じ、少しずつ正しく表現出来るようになり、自信を持ってスペイン語で話し理解できるレベルに到達する。

【到達目標】

直説法の現在形・過去形を用いた一通りの表現を使いこなせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価等について。 ・既習事項の確認。
第 2 回	学校生活・趣味活動 (1)	<語彙> ・学生生活に関連する動詞、科目、生活習慣
第 3 回	学校生活・趣味活動 (2)	<表現練習> ・名前を訊く。 ・同時進行の行為・行動の表現。
第 4 回	人の一生 (1)	<語彙> ・過去を表わす副詞句、位置関係語、親族語、人の一生に関わる動詞
第 5 回	人の一生 (2)	<表現練習> ・休暇中の活動。 ・年表作成。 ・自分史を書く。
第 6 回	昔と今 (1)	<語彙> ・mente 副詞、施設や店舗、品質形容詞
第 7 回	昔と今 (2)	<表現練習> ・過去のある時期の活動や習慣などを表現する。
第 8 回	まとめ	第 2 回授業～第 7 回授業
第 9 回	習得確認	第 2 回～第 8 回授業
第 10 回	旅行報告 (1)	<語彙> ・活動動詞、携行品、天候
第 11 回	旅行報告 (2)	<表現練習> ・旅行報告書を書く。 ・事件記事を読む、書く。
第 12 回	余暇活動 (1)	<語彙> 余暇活動、勧誘表現、買い物、ファッション

第 13 回 余暇活動 (2)	＜表現練習＞ ・今を含む期間に行った行動、活動。 ・経験。
第 14 回 習得確認&総括	習得確認 第 10 回～13 回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習 1. 各課の「文法」部分の練習問題。
文法は既習事項なので、授業前にやっておくこと。

予習 2. 各課の「語彙」部分。
「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Entre amigos 2 2a. edición』（総合スペイン語コース 中級 改訂版）
スペイン語教材研究会編、朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55075-6

【参考書】

必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

教科書と辞書は必須です。

【Outline (in English)】

The goal of the course is to develop students' Spanish language skills and abilities to interact more naturally in Spanish, and provide students with an active approach to increasing their critical thinking skills in Spanish through reading, speaking and listening.

LANs200CA
スペイン語コミュニケーション IIB
YENG A J FERNANDO
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語コミュニケーションの力を発展させるクラス。会話を中心としたアクティビティを通じ、少しずつ正しく表現出来るようになり、自信を持ってスペイン語で話し理解できるレベルに到達する。

【到達目標】

スペイン語の直説法現在の未来形・命令形・接続法を用いた一通りの表現を使いこなせるようになることを目指します。習得した語を使ってコミュニケーションの練習を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

『Entre amigos 2』の教科書を用いて文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その後練習問題を解きます。毎回の授業会話練習行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価について
第 2 回	将来は... (1)	・春期の学習内容の確認 ＜語彙＞ ・未来を表す副詞句 ・推測 ・確実性を表す表現
第 3 回	将来は... (2)	＜表現練習＞ ・25 年後の自分は... ・学長選挙公約と結果
第 4 回	時系列で過去を語る (1)	＜語彙＞ ・直説法動詞 ・家具と調度品
第 5 回	時系列で過去を語る (2)	＜表現練習＞ ・10 年前の我が家と今 ・プロフィール ・窃盗事件の経緯
第 6 回	命令・指示する (1)	＜語彙＞ ・食品・その分類名 ・単位 ・体の動き
第 7 回	命令・指示する (2)	＜表現練習＞ ・運動のやり方を指示 ・アドバイスする
第 8 回	まとめ	第 1 回～8 回授業
第 9 回	習得確認	第 1 回～8 回授業
第 10 回	願望・依頼・命令表現 (1)	＜語彙＞ ・大きな数字 ・地理 ・環境問題 ・対応策
第 11 回	願望・依頼・命令表現 (2)	＜表現練習＞ ・意見交換する ・理想の国を述べる ・環境問題を考える

- 第12回 事実と異なる仮定表現 <語彙>
(1) ・接続法過去動詞活用
・抽象名詞
・事実と異なる仮定
・願望表現
- 第13回 事実と異なる仮定表現 <表現練習>
(2) ・Ojalá～願望表現
・もし～なら
- 第14回 習得確認&総括 習得確認
第10回～13回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習1. 各課の「文法」部分の復習。
文法は既習事項なので、授業には復習して臨むこと。
- 予習2. 各課の「語彙」部分。
「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Entre amigos 2 2a. edición』(総合スペイン語コース 中級 改訂版)
スペイン語教材研究会編、朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55075-6

【参考書】

必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

教科書と辞書は必須です。

【Outline (in English)】

The goal of the course is to develop students' Spanish language skills and abilities to interact more naturally in Spanish, and provide students with an active approach to increasing their critical thinking skills in Spanish through reading, speaking and listening.

LANC100CA
中国語コミュニケーション IA
将邑 劍平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。
中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる歓びを体験。

【到達目標】

目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。

現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字、語彙が配列されているので、音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは、中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように、中国語の発音のスキルを常にチェックし、中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき、正しく発音することができるまで、発音の練習に多くの時間が割かれる。

文法、語彙については、教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

中国語を使えるようにするには、かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので、予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように、常に繰り返し練習しておくこと。

毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

小テストや課題などのフィードバックは授業時間内で講評・解説する予定ですが、できない場合は「学習支援システム」を通して行う。

授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介
	発音1	発音1
第2回	発音2 第1課	発音2 第1課 ☑多关照！
第3回	発音3 第1課	発音3 第1課 ☑多关照！
第4回	第2課	第2課 你去哪儿？
第5回	第2課	第2課 你去哪儿？
第6回	第3課	第3課 ☑是什么？
第7回	第3課	第3課 ☑是什么？
第8回	第4課	第4課 你有☑☑？
第9回	第4課	第4課 你有☑☑？
第10回	第5課	第5課 你家在哪儿？
第11回	第5課	第5課 你家在哪儿？
第12回	第6課	第6課 暑假做什么了？
第13回	第6課	第6課 暑假做什么了？
第14回	まとめなど	まとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習に予習・復習は欠かせない。中国語を美しく発音できることを目標にして、予習・復習をして授業に参加する。

授業にのぞむにあたって、予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておく。声をしっかり出して、新出語句をはじめ、例文や本文などを暗記するほど繰り返し読む。授業が終わった後は宿題をやりながら、学習した内容を復習し、更に実際に使ってみて、応用できるようにする。

準備学習・復習時間は、毎日それぞれ少なくとも20分ずつ行い、週に4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シンプルチャイニーズ 東京 会話編』 早稲田大学理工学術院中国語部会 編（朝日出版社） 2,530 円（本体 2,300 円+税）

【参考書】

日中辞典及び中日辞典（電子版も可）

相原茂・石田知子・戸沼市子著、『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』、同出版社

守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 東方書店

【成績評価の方法と基準】

小テスト点及び発表点（欠席は一回5%マイナス）で評価する。100点満点で合計60点以上が合格。

授業の3分の1以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻3回で欠席1回と計算され、大幅な遅刻は欠席とみなす。

履修登録する前に必ず確認してください

準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生が中国語の発音の基本をしっかりマスターできるよう、発音重視の小テストや発表を引き続き毎回実施します。

【その他の重要事項】

初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。

中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。

・初回のガイダンスは必ず出席すること。（再履修の場合は特に）

・3分の2以上出席していない場合、期末試験の受験不可。

・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。

・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席（遅刻）理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後2週間以内に提出すること。

・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。

・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。

・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。

・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。

・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。

・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数の質問には答えない。

【Outline (in English)】

It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese. Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC100CA
中国語コミュニケーション IB
将邑 劍平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。

中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる歓びを体験。

【到達目標】

目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。

現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字、語彙が配列されているので、音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは、中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように、中国語の発音のスキルを常にチェックし、中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき、正しく発音することができるまで、発音の練習に多くの時間が割かれる。

文法、語彙については、教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

中国語を使えるようにするには、かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので、予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように、常に繰り返し練習しておくこと。

毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

小テストや課題などのフィードバックは授業時間内で講評・解説する予定ですが、できない場合は「学習支援システム」を通して行う。

授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 又は 第7課	授業の進め方の紹介 又は 第7課 祝你生日快☑！
第2回	第7課	第7課 祝你生日快☑！
第3回	第8課	第8課 你会打☑球☑？
第4回	第8課	第8課 你会打☑球☑？
第5回	第9課	第9課 味道怎么☑？
第6回	第9課	第9課 味道怎么☑？
第7回	第10課	第10課 我家离学校不太☑。
第8回	第10課	第10課 我家离学校不太☑。
第9回	第11課	第11課 你在干什么呢？
第10回	第11課	第11課 你在干什么呢？
第11回	第12課	第12課 你都准☑好了☑？
第12回	第12課	第12課 你都准☑好了☑？
第13回	寸劇作成など	寸劇作成・練習
第14回	発表	寸劇発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習に予習・復習は欠かせない。中国語を美しく発音できることを目標にして、予習・復習をして授業に参加する。

授業にのぞむにあたって、予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておく。声をしっかり出して、新出語句をはじめ、例文や本文などを暗記するほど繰り返し読む。授業が終わった後は宿題をやりながら、学習した内容を復習し、更に実際に使ってみて、応用できるようにする。

準備学習・復習時間は、毎日それぞれ少なくとも20分ずつ行い、週に4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シンプルチャイニーズ 東京 会話編』 早稲田大学理工学術院中国語部会 編（朝日出版社） 2,530 円（本体 2,300 円+税）

【参考書】

日中辞典及び中日辞典（電子版も可）

相原茂・石田知子・戸沼市子著、『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』、同学社

守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 東方書店

【成績評価の方法と基準】

小テスト点及び発表点（欠席は一回5%マイナス）で評価する。100点満点で合計60点以上が合格。

授業の3分の1以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻3回で欠席1回と計算され、大幅な遅刻は欠席とみなす。

履修登録する前に必ず確認してください

準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期から履修される学生は中国語の発音の基本をしっかり復習しておくべきだが、自力でできない場合は発音の基本をもう一度最初から受講することを勧める。

【その他の重要事項】

初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。

中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。
・初回のガイダンスは必ず出席すること。（再履修の場合は特に）

・3分の2以上出席していない場合、期末試験の受験不可。

・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。

・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席（遅刻）理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後2週間以内に提出すること。

・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。

・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。

・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。

・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。

・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。

・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数の質問には答えない。

【Outline (in English)】

It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese. Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC200CA
中国語コミュニケーション IIA
張 欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の授業を1年以上受けた人を対象とします（中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません）。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。中国語が母国語の学生は履修できません。

【到達目標】

中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課 大学校园 (1)	読解、会話
第2回	第1課 大学校园 (2)	読解、会話、練習
第3回	第2課 南京路步行街 (1)	読解、会話
第4回	第2課 南京路步行街 (2)	読解、会話、練習
第5回	第3課 晨练 (1)	読解、会話
第6回	第3課 晨练 (2)	読解、会話、練習
第7回	第4課 豫园 (1)	読解、会話
第8回	第4課 豫园 (2)	読解、会話、練習
第9回	第5課 国宝大熊猫 (1)	読解、会話
第10回	第5課 国宝大熊猫 (2)	読解、会話、練習
第11回	第6課 世界遺産九寨沟 (1)	読解、会話
第12回	第6課 世界遺産九寨沟 (2)	読解、会話、練習
第13回	看电影	中国映画鑑賞
第14回	試験・まとめ	授業内試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。
③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー DVDで学ぶ中国文化』金星堂、2012年、2700円

【参考書】

『中日辞典』、『日中辞典』 小学館

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、授業内試験50%。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて発音をはじめ一年生で習った内容を復習します。言葉が持つ文化的背景等についても折りに触れて説明します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

LANC200CA
中国語コミュニケーション IIB
張 欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の授業を1年以上受けた人を対象とします(中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。中国語が母国語の学生は履修できません。

【到達目標】

中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7課 大学の社团活動(1)	読解、会話
第2回	第7課 大学の社团活動(2)	読解、会話、練習
第3回	第8課 故宫博物院(1)	読解、会話
第4回	第8課 故宫博物院(2)	読解、会話、練習
第5回	第9課 北京 798 艺术区(1)	読解、会話
第6回	第9課 北京 798 艺术区(2)	読解、会話、練習
第7回	第10課 秦始皇兵马俑(1)	読解、会話
第8回	第10課 秦始皇兵马俑(2)	読解、会話、練習
第9回	第11課 少数民族(1)	読解、会話
第10回	第11課 少数民族(2)	読解、会話、練習
第11回	第12課 丽江古城(1)	読解、会話
第12回	第12課 丽江古城(2)	読解、会話、練習
第13回	看电影	中国映画鑑賞
第14回	試験・まとめ	授業内試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー DVDで学ぶ中国文化』金星堂、2012年、2700円

【参考書】

『中日辞典』、『日中辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、授業内試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて発音をはじめ一年生で習った内容を復習します。言葉が持つ文化的背景等についても折りに触れて説明します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

NAS100CA

総合講座 I

藤田 貢崇、KALENGA N JOHN

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習は、専門的な内容を深く掘り下げて学ぶものです。そのような中で、自分が専門としない分野の知識を積極的に学ぶことは、自らの専門に新しい気づきをもたらしたり、研究手法について新しい方法を見出すことにつながります。

この授業では2名の授業担当者のそれぞれの専門分野の講義から、受講者は新しい世界への視野を広げ、さらなる理解のためにどのような情報源にあたるべきか、何に留意して情報の取捨選択を行うかを学ぶことができます。

【到達目標】

- ・アフリカ諸国における多面的な視点からの現状を理解し、国際コミュニケーションの重要性について理解できる。
- ・インターネットやテレビ、新聞などで扱われる科学ニュースを正しく理解するために、どのような点に留意するべきかを認識できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・それぞれの回について、講義を主体に行う。グループ活動や発表を行う場合もある。講師によって、資料の与え方、参考図書の示し方が異なるので、それぞれの担当者の指示に従うこと。
- ・授業時のフィードバックは講師の担当中に回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (藤田)	(1) いろいろな分野の知識を得ることの重要性について説明する (2) 担当者別の授業スケジュールを提示する
2	アフリカ開発会議:TICAD (カレンガ)	メディアのパワーについて考える
3	アフリカの資源問題 (カレンガ)	イメージを分析する
4	アフリカの社会と文化 (カレンガ)	コミュニケーションスキルについて学ぶ
5	教育とジェンダー問題 (カレンガ)	情報のコスト分析について学ぶ
6	アフリカにおける天然資源 (カレンガ)	資源と経済について考える
7	最近のアフリカのリーダーシップの問題 (カレンガ)	リーダーシップについて考える
8	科学技術とは何なのか (藤田)	これまで学んできた「理科」と、現在の最先端科学の違いや共通点を理解する
9	最近の科学ニュースの動向 (物理・化学分野)	物理・化学分野では、どのような話題がニュースで多く扱われているかを知る
10	最近の科学ニュースの動向 (生物・地学分野)	生物・地学分野では、どのような話題がニュースで多く扱われているかを知る
11	科学技術と私たち (藤田)	科学技術と私たちの生活との関わりを理解する
12	科学技術とニュース (藤田)	科学についての報道をどのように受け入れるかを理解する

- 13 科学技術の向かう方向 科学技術はどのような方向に進むべ
(藤田) きなのか、私たちの意見をどのよ
うに反映させるべきかを考える
- 14 試験・まとめと解説 これまでの授業で得られた知識や
(藤田) 理解の定着を図る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で活用する資料などを事前に読むこと
- ・授業内で示された課題に取り組むこと
- ・日々、どのような話題がニュースで扱われているかを新聞などで確認することが必要となる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

それぞれの担当者から必要に応じて参考書等が示される。

【成績評価の方法と基準】

- ・各授業担当者による小課題の提出… 50 %
 - ・最終レポート（2 名の担当者が作成する課題 2 題のうちから 1 題を選択）… 50 %
- の比率で評価を行い、60 % 以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するので、準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・この授業は、カレンガ ゴイ ジョン／藤田 貢崇の 2 名で実施する。
- ・上記に示されている授業計画のうち、担当者の順番については初回のオリエンテーションで提示する。
- ・全体についての事務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの担当者の指示を仰ぐこと。

【Outline (in English)】

This course deals with international communication between African countries and Japan, and communication literacy for journalistic science issues. The goals of this course are to understand the current state of African countries, modern issues in the field of science, and importance of communication. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process; short reports on each class (50%), the term-end examination (50%).

SOS100CA
総合講座Ⅱ
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、自然科学の実験を通して、実験・観察の方法について学ぶ。また、量子理論のごく初歩的な内容を初心者向けの書籍を通じて理解する。

【到達目標】

- ・基礎的な実験を通じて自然法則を理解し、身の回りのさまざまな現象について科学的に説明できること。
- ・量子理論の初歩的な内容を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本授業の前半は、身の回りの道具を用いて、幅広い科学分野の実験・観察を行い、各自がその実験マニュアルを作成する。後半は、相対性理論を初学者に伝えるために書かれた名著とされる『原子の国のトムキンス』を参考にしながら、量子理論について理解する。
- ・課題や質問等に対するフィードバックは、授業時に全体に対して回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 光に関する実験	授業の進め方、評価方法について説明する 光を主体にした実験を行い、光の特徴を理解する
2	身の回りの力学に関する実験	簡単な実験から、力のはたらきについて理解する。
3	熱に関する実験	簡単な実験から、熱の物理的な性質について理解する
4	食品に関する実験	食品に活用されている物理・化学的な性質・特性を理解する
5	電気に関する実験	簡単な実験からダイオードに関する法則を理解する
6	物性に関する実験	水蒸気の性質などの実験から、物性に関する法則を理解する
7	素粒子に関する実験	素粒子のふるまいについて理解する実験を行う
8	量子論の基礎	量子論はどのようなときに必要とされる法則であるかを理解する
9	量子の特徴	「量子玉突き」から量子の特徴について理解する
10	波動	「量子ジャングル」から波動について理解する
11	エントロピー	「マクスウェルの魔」からエントロピーについて理解する
12	電子	「陽気な電子群」から原子内の電子について理解する
13	原子核の構成	「原子核内の世界」から原子核の構成について理解する
14	まとめ	この授業で学んだことについて振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・前半（第 7 回まで）は、毎回の実験課題に取り組み、中学生程度が理解できるような実験マニュアルを作成する。
- ・後半（第 8 回以降）は、予め配付した資料を読み、量子理論の概略を理解する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

トムキンスの冒険/ジョージ・ガモフ（著）/伏見康治ほか（訳）/白揚社/2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・実験への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
 - ・量子理論に関する毎回の小課題の評価 (50%)
- とし、60%以上の得点率で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するので、準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・この授業は、実験・実習を行う授業であり、実験装置等に限りがあることから、受講人数の上限を定めている。受講者を初回授業時に抽選するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。
- ・初回授業の集合場所は、研究・実験棟 (12 号館)1 階 101 教室となる。2 回目以降の授業は、研究・実験棟 (12 号館)2 階 201 教室を予定している。
- ・授業後半で扱う相対性理論については、文系の学生でも理解しやすい内容とする。

【Outline (in English)】

This course deals with the science experiments and relativistic theory. The goals of this course are to create a manual for each experiments and to understand the quantum theory. Your required study time is at least four hour for each class meeting. Grading will be decided based on lab reports (50%) at front-half, and the short reports (50%) at back-half.

ECN100CB
経済学入門 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。
学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	嗜好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったか ご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内では教員独自のスライドを利用するので、特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（確認テストや教材の視聴状況等）40 %、学期末試験 60 % とする。
(同一名称の科目を 3 名の担当者で分担しているが、扱う内容は概ね統一されるよう事前合意がなされており、成績評価の際にも、各々の教員が成績評価の分布の状況を共有しあってクラス割り当てによる不利益がないように考慮がなされる。)

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の事前配布に対する要望が多いため、学生の受講状況をみながら今年度も極力、対応したい。

【その他の重要事項】

春学期開講の経済学入門 A では、主にミクロ経済学の基本事項を扱い、秋学期開講の経済学入門 B では、主にマクロ経済学の基本事項を扱う。両方を履修することで経済学の全体的な基本事項の鳥瞰が得られる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to develop abilities for acquiring the minimum necessary knowledge as a starting point for studying economics systematically by smoothly bridging the content of "politics and economics" studied at high school to the content of "economics" studied at university,

ECN100CB
経済学入門 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

なお、各回の講義内容については、適宜、変更が加えられることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内では教員独自のスライドを利用するので、特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（確認テストや教材の視聴状況等）40 %、学期末試験 60 %とする。

（同一名称の科目を 3 名の担当者で分担しているが、扱う内容は概ね統一されるよう事前合意がなされており、成績評価の際にも、各々の教員が成績評価の分布の状況を共有しあってクラス割り当てによる不利益がないように考慮がなされる。）

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の事前配布に対する要望が多いため、学生の受講状況をみながら今年度も極力、対応したい。

【その他の重要事項】

春学期開講の経済学入門 A では、主にミクロ経済学の基本事項を扱い、秋学期開講の経済学入門 B では、主にマクロ経済学の基本事項を扱う。両方を履修することで経済学の全体的な基本事項の鳥瞰が得られる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to develop abilities for acquiring the minimum necessary knowledge as a starting point for studying economics systematically by smoothly bridging the content of "politics and economics" studied at high school to the content of "economics" studied at university,

ECN100CB
経済学入門 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で確認する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式等の復習をしておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（小テスト等）：60%と期末テスト：40%で評価する。小テストと期末テストのいずれも、学習支援システム上でおこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

- ・基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。
- ・授業内での演習を多めにおこなうことで、理解度に応じた講義に努めたい。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire an elementary knowledge of micro-economics as a starting point for learning college-level economics.

ECN100CB

経済学入門 B

酒井 正

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ、近年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で確認する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式等の復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（小テスト等）：60%と期末テスト：40%で評価する。小テストと期末テストのいずれも、学習支援システム上でおこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

- ・基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。
- ・授業内での演習を多めにおこなうことで、理解度に応じた講義に努めたい。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to acquire an elementary knowledge of macro-economics as a starting point for learning college-level economics.

ECN100CB
経済学入門A
菊地 和也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として教室で授業を行うが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。小テストに関する解説や講評は学習支援システムまたは授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB
経済学入門 B
菊地 和也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として教室で授業を行うが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。小テストに関する解説や講評は学習支援システムまたは授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ？
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出了た練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CA
社会経済学基礎 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどのような経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何かや資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差や貧困、金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係や資本の蓄積、信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について学びます。
第 2 回	労働価値論	価値とは何かを学びます。
第 3 回	労働の二重性	労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何かを学びます。
第 5 回	貨幣論 1 - 価値尺度機能と価格の度量標準	価値尺度機能とは何かを学びます。
第 6 回	貨幣論 2 - 流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何かを学びます。
第 7 回	貨幣論 3 - インフレーション	インフレーションの本質について学びます。
第 8 回	貨幣論 4 - 蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何かを学びます。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1 - 絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのかを学びます。
第 11 回	剰余価値の生産 2 - 相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態を学びます。
第 12 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 13 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷慎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to learn the nature of the capitalism through Marx's economics. Students will be expected to understand its basic theory and moreover to think about various issues such as economic gaps, poverty and financial crisis.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN100CA

社会経済学基礎 B

大友 敏明

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどのような経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何かや資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差や貧困、金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係や資本の蓄積、信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題を取り上げ、理論と現実を考察します。
第 2 回	再生産とは何か－アダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 3 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行われる場合の条件を学びます。
第 4 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行われる場合の条件を深く考察します。
第 5 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとでの均衡条件を学びます。
第 6 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとでの均衡条件を深く学びます。
第 7 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について学びます。
第 8 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について学びます。
第 9 回	銀行信用 1	銀行とは何かについて学びます。
第 10 回	銀行信用 2	手形の割引や銀行券について学びます。
第 11 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 12 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割について学びます。
第 13 回	金本位制	金本位制の特質について学びます。
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）と期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to learn the nature of the capitalism through Marx's economics. Students will be expected to understand its basic theory and moreover to think about various issues such as economic gaps, poverty and financial crisis.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN100CA

社会経済学基礎 A

大友 敏明

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどのような経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何かや資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差や貧困、金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係や資本の蓄積、信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について学びます。
第 2 回	労働価値論	価値とは何かを学びます。
第 3 回	労働の二重性	労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何かを学びます。
第 5 回	貨幣論 1－価値尺度機能と価格の度量標準	価値尺度機能とは何かを学びます。
第 6 回	貨幣論 2－流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何かを学びます。
第 7 回	貨幣論 3－インフレーション	インフレーションの本質について学びます。
第 8 回	貨幣論 4－蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何かを学びます。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1－絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのかを学びます。
第 11 回	剰余価値の生産 2－相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態を学びます。
第 12 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 13 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷慎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回 (30 %) および期末試験 (70 %) の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to learn the nature of the capitalism through Marx's economics. Students will be expected to understand its basic theory and moreover to think about various issues such as economic gaps, poverty and financial crisis.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN100CA

社会経済学基礎 B

大友 敏明

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどのような経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何かや資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差や貧困、金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係や資本の蓄積、信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について考察します。
第 2 回	再生産とは何か－アダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 3 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行われる場合の条件を学びます。
第 4 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行われる場合の条件を深く考察します。
第 5 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとでの均衡条件を学びます。
第 6 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとでの均衡条件を深く学びます。
第 7 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について学びます。
第 8 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について学びます。
第 9 回	銀行信用 1	銀行とは何かについて学びます。
第 10 回	銀行信用 2	手形の割引や銀行券について学びます。
第 11 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 12 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割について学びます。
第 13 回	金本位制	金本位制の特質について学びます。
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）と期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to learn the nature of the capitalism through Marx's economics. Students will be expected to understand its basic theory and moreover to think about various issues such as economic gaps, poverty and financial crisis.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN100CA

社会経済学基礎 A

宮田 惟史

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代社会が直面している経済諸問題を念頭に、資本主義とはどのような経済システムなのかについて学ぶ。現実の具体的な経済現象を理解するためには、現代社会を根本的に規定している資本主義の基礎理論や歴史の把握がかかせない。社会経済学では、マルクス経済学にもとづき、資本主義の基礎概念や現状を学ぶ。A（春学期）では、主に基礎概念を、B（秋学期）では、資本主義のより具体的な総過程を理解する。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基礎理論・歴史について理解する。
2. 社会経済学応用やその他の専門諸科目で学ぶために必要な基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、配布資料を用いて講義する。適宜、DVDなどを用いて理論と現実の諸問題をわかりやすく解説する。また積極的な質問を歓迎する。
- ・リアクションペーパーによる質疑応答を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学の対象と課題 ①	講義の概要／社会経済学とは何か
第 2 回	社会経済学の対象と課題 ②	社会経済学と現代との関係性
第 3 回	資本主義の発展と社会経済学の形成	社会経済学はどのように確立したか
第 4 回	市場経済 ①	商品とはなにか
第 5 回	市場経済 ②	貨幣発生との必然性
第 6 回	市場経済 ③	貨幣の諸機能
第 7 回	資本と剰余価値 ①	資本の運動形態と目的
第 8 回	資本と剰余価値 ②	労働力の売買と賃労働
第 9 回	資本と剰余価値 ③	労働過程と価値増殖過程
第 10 回	絶対的剰余価値 ①	絶対的剰余価値の生産とは何か
第 11 回	絶対的剰余価値 ②	労働日の延長と短縮／現代の労働時間
第 12 回	相対的剰余価値の生産とその諸方法 ①	相対的剰余価値の生産と協業・分業
第 13 回	相対的剰余価値の生産とその諸方法 ②	機械と大工業／資本の生産過程における矛盾
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の整理と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
合わせて、毎回、授業時に資料を配布する。

【参考書】

- ・小西一雄『資本主義の成熟と終焉ーいま私たちはどこにいるのか』桜井書店、2020 年。
- ・角田修一『概説 社会経済学』文理閣、2011 年。

・ヨハン・モスト原著、カール・マルクス改訂、大谷禎之介訳『マルクス自身の手による資本論入門』大月書店、2009年。
・ミヒャエル・ハインリッヒ著、明石英人他訳『『資本論』の新しい読み方』堀之内出版、2014年。
その他、授業内に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, you will study the economic system of capitalism with a view to the economic problems facing modern society. In order to understand concrete economic phenomena in our society, it is essential to grasp the basic theory and history of capitalism, which fundamentally shapes our modern society. In political economy, we examine the basic concepts and current situations of capitalism, through looking at Marxian economics. In the spring semester (A), you will mainly learn the basic concepts, and in the autumn semester (B), we will look at the process of capitalist production as a whole.

● Learning Objectives

- 1.To examine the basic theory and history of capitalist economy.
- 2.To understand the foundations for the study of political economy and applied topics.

● Learning activities outside of classroom

The standard preparation and revision time for this course is approximately two hours for each lecture.

● Grading Criteria /Policy

Regular exams 100%.

ECN100CA

社会経済学基礎B

宮田 惟史

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代社会が直面している経済諸問題を念頭に、資本主義とはどのような経済システムなのかについて学ぶ。現実の具体的な経済現象を理解するためには、現代社会を根本的に規定している資本主義の基礎理論や歴史の把握がかかせない。社会経済学では、マルクス経済学にもとづき、資本主義の基礎概念や現状を学ぶ。A（春学期）では、主に基礎概念を、B（秋学期）では、資本主義のより具体的な総過程を理解する。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基礎理論・歴史について理解する。
2. 社会経済学応用やその他の専門諸科目で学ぶために必要な基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、配布資料を用いて講義する。適宜、DVDなどを用いて理論と現実の諸問題をわかりやすく解説する。また積極的な質問を歓迎する。
- ・リアクションペーパーによる質疑応答を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の内容について	秋学期の概説と春学期の復習の概説
第2回	労働市場と賃金	賃金の本質と現象形態
第3回	資本の単純再生産	資本の単純再生産とはなにか
第4回	資本の拡大再生産	資本蓄積と商品生産の所有法則批判
第5回	資本蓄積と相対的過剰人口①	相対的過剰人口の形成
第6回	資本蓄積と相対的過剰人口②	相対的過剰人口の存在形態／富の蓄積と貧困の蓄積
第7回	資本の流過程と再生産	資本の循環・回転・再生産
第8回	平均利潤率の形成と利潤率の傾向的低下法則	利潤率の傾向的低下法則の概念と展開
第9回	商業資本と商業利潤	商業資本と商業利潤について
第10回	貨幣資本と銀行制度①	利子生み資本（貨幣資本）と利子
第11回	貨幣資本と銀行制度②	銀行制度の基礎的な仕組み
第12回	貨幣資本と銀行制度③	架空資本／過剰貨幣資本と金融投機
第13回	景気循環と恐慌	景気循環と恐慌はなぜ生じるのか
第14回	講義のまとめ	講義の整理と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、2001年。
合わせて、毎回、授業時に資料を配布する。

【参考書】

・小西一雄『資本主義の成熟と終焉－いま私たちはどこにいるのか』桜井書店、2020 年。
 ・角田修一『概説 社会経済学』文理閣、2011 年。
 ・ヨハン・モスト原著、カール・マルクス改訂、大谷禎之介訳『マルクス自身の手による資本論入門』大月書店、2009 年。
 ・ミヒャエル・ハインリッヒ著、明石英人他訳『『資本論』の新しい読み方』堀之内出版、2014 年。
 その他、授業内に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, you will study the economic system of capitalism with a view to the economic problems facing modern society. In order to understand concrete economic phenomena in our society, it is essential to grasp the basic theory and history of capitalism, which fundamentally shapes our modern society. In political economy, we examine the basic concepts and current situations of capitalism, through looking at Marxian economics. In the spring semester (A), you will mainly learn the basic concepts, and in the autumn semester (B), we will look at the process of capitalist production as a whole.

● Learning Objectives

- 1.To examine the basic theory and history of capitalist economy.
- 2.To understand the foundations for the study of political economy and applied topics.

● Learning activities outside of classroom

The standard preparation and revision time for this course is approximately two hours for each lecture.

● Grading Criteria /Policy

Regular exams 100%.

ECN100CA

社会経済学基礎 A

宮田 惟史

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代社会が直面している経済諸問題を念頭に、資本主義とはどのような経済システムなのかについて学ぶ。現実の具体的な経済現象を理解するためには、現代社会を根本的に規定している資本主義の基礎理論や歴史の把握が欠かせない。社会経済学では、マルクス経済学にもとづき、資本主義の基礎概念や現状を学ぶ。A(春学期)では、主に基礎概念を、B(秋学期)では、資本主義のより具体的な総過程を理解する。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基礎理論・歴史について理解する。
2. 社会経済学応用やその他の専門諸科目で学ぶために必要な基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、配布資料を用いて講義する。適宜、DVDなどを用いて理論と現実の諸問題をわかりやすく解説する。また積極的な質問を歓迎する。

・リアクションペーパーによる質疑応答を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学の対象と課題 ①	講義の概要／社会経済学とは何か
第 2 回	社会経済学の対象と課題 ②	社会経済学と現代との関係性
第 3 回	資本主義の発展と社会経済学の形成	社会経済学はどのように確立したか
第 4 回	市場経済 ①	商品とはなにか
第 5 回	市場経済 ②	貨幣発生との必然性
第 6 回	市場経済 ③	貨幣の諸機能
第 7 回	資本と剰余価値 ①	資本の運動形態と目的
第 8 回	資本と剰余価値 ②	労働力の売買と賃労働
第 9 回	資本と剰余価値 ③	労働過程と価値増殖過程
第 10 回	絶対的剰余価値 ①	絶対的剰余価値の生産とは何か
第 11 回	絶対的剰余価値 ②	労働日の延長と短縮／現代の労働時間
第 12 回	相対的剰余価値の生産とその諸方法 ①	相対的剰余価値の生産と協業・分業
第 13 回	相対的剰余価値の生産とその諸方法 ②	機械と大工業／資本の生産過程における矛盾
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の内容整理と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
 合わせて、毎回、授業時に資料を配布する。

【参考書】

・小西一雄『資本主義の成熟と終焉－いま私たちはどこにいるのか』桜井書店、2020 年。
 ・角田修一『概説 社会経済学』文理閣、2011 年。

・ヨハン・モスト原著、カール・マルクス改訂、大谷禎之介訳『マルクス自身の手による資本論入門』大月書店、2009年。
・ミヒャエル・ハイน์リッヒ著、明石英人他訳『『資本論』の新しい読み方』堀之内出版、2014年。
その他、授業内に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, you will study the economic system of capitalism with a view to the economic problems facing modern society. In order to understand concrete economic phenomena in our society, it is essential to grasp the basic theory and history of capitalism, which fundamentally shapes our modern society. In political economy, we examine the basic concepts and current situations of capitalism, through looking at Marxian economics. In the spring semester (A), you will mainly learn the basic concepts, and in the autumn semester (B), we will look at the process of capitalist production as a whole.

● Learning Objectives

- 1.To examine the basic theory and history of capitalist economy.
- 2.To understand the foundations for the study of political economy and applied topics.

● Learning activities outside of classroom

The standard preparation and revision time for this course is approximately two hours for each lecture.

● Grading Criteria /Policy

Regular exams 100%.

ECN100CA

社会経済学基礎B

宮田 惟史

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代社会が直面している経済諸問題を念頭に、資本主義とはどのような経済システムなのかについて学ぶ。現実の具体的な経済現象を理解するためには、現代社会を根本的に規定している資本主義の基礎理論や歴史の把握がかかせない。社会経済学では、マルクス経済学にもとづき、資本主義の基礎概念や現状を学ぶ。A(春学期)では、主に基礎概念を、B(秋学期)では、資本主義のより具体的な総過程を理解する。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基礎理論・歴史について理解する。
2. 社会経済学応用やその他の専門諸科目で学ぶために必要な基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、配布資料を用いて講義する。適宜、DVDなどを用いて理論と現実の諸問題をわかりやすく解説する。また積極的な質問を歓迎する。

・リアクションペーパーによる質疑応答を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の内容について	秋学期の概説と春学期の復習の概説
第2回	労働市場と賃金	賃金の本質と現象形態
第3回	資本の単純再生産	資本の単純再生産とはなにか
第4回	資本の拡大再生産	資本蓄積と商品生産の所有法則批判
第5回	資本蓄積と相対的過剰人口①	相対的過剰人口の形成
第6回	資本蓄積と相対的過剰人口②	相対的過剰人口の存在形態／富の蓄積と貧困の蓄積
第7回	資本の流過程と再生産	資本の循環・回転・再生産
第8回	平均利潤率の形成と利潤率の傾向的低下法則	利潤率の傾向的低下法則の概念と展開
第9回	商業資本と商業利潤	商業資本と商業利潤について
第10回	貨幣資本と銀行制度①	利子生み資本（貨幣資本）と利子
第11回	貨幣資本と銀行制度②	銀行制度の基礎的な仕組み
第12回	貨幣資本と銀行制度③	架空資本／過剰貨幣資本と金融投機
第13回	景気循環と恐慌	景気循環と恐慌はなぜ生じるのか
第14回	講義のまとめ	講義の整理と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷禎之介『図解 社会経済学』桜井書店、2001年。
合わせて、毎回、授業時に資料を配布する。

【参考書】

・小西一雄『資本主義の成熟と終焉－いま私たちはどこにいるのか』桜井書店、2020 年。
 ・角田修一『概説 社会経済学』文理閣、2011 年。
 ・ヨハン・モスト原著、カール・マルクス改訂、大谷楨之介訳『マルクス自身の手による資本論入門』大月書店、2009 年。
 ・ミヒャエル・ハインリッヒ著、明石英人他訳『『資本論』の新しい読み方』堀之内出版、2014 年。
 その他、授業内に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】**● Course outline**

In this course, you will study the economic system of capitalism with a view to the economic problems facing modern society. In order to understand concrete economic phenomena in our society, it is essential to grasp the basic theory and history of capitalism, which fundamentally shapes our modern society. In political economy, we examine the basic concepts and current situations of capitalism, through looking at Marxian economics. In the spring semester (A), you will mainly learn the basic concepts, and in the autumn semester (B), we will look at the process of capitalist production as a whole.

● Learning Objectives

- 1.To examine the basic theory and history of capitalist economy.
- 2.To understand the foundations for the study of political economy and applied topics.

● Learning activities outside of classroom

The standard preparation and revision time for this course is approximately two hours for each lecture.

● Grading Criteria /Policy

Regular exams 100%.

ECN100CA
現代経済学基礎 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では入門レベルのミクロ経済学を学びます。ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのように関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業の目的は、経済的相互依存関係がもたらす恩恵や、需要と供給の作用、公共政策の効果、市場の失敗を理解することです。

【到達目標】

- ・経済的相互依存関係がもたらす恩恵を理解する。
- ・市場における需要と供給の作用を理解する。
- ・公共政策の効果を理解する。
- ・市場の効率性や課税の費用を理解する。
- ・市場の失敗とその解決策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	経済学の十大原理	経済学を中心となる考え方
2	相互依存と交易の利益	絶対優位、比較優位
3	需要と供給（1）	競争市場、需要曲線
4	需要と供給（2）	供給曲線、市場均衡
5	弾力性（1）	需要の価格弾力性、需要の所得弾力性
6	弾力性（2）	供給の価格弾力性、供給の所得弾力性
7	政府の政策	価格規制、課税の効果
8	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰
9	課税の費用	課税の死荷重、死荷重と税収
10	国際貿易（1）	貿易の決定要因、貿易の利益と損失
11	国際貿易（2）	関税、貿易政策
12	外部性（1）	外部性と市場の非効率性、負の外部性
13	外部性（2）	正の外部性、外部性に対する公共政策
14	さまざまな種類の財	公共財、共有資源

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版」N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2019 年
 （電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfgf> ）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
 （複数回実施する試験により評価します）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。（パソコンは必須ではありません）

【その他の重要事項】

秋学期の「現代経済学基礎 B」は、春学期の「現代経済学基礎 A」の内容を前提とした講義になります。

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics. Microeconomics is the study of individuals, households, and firms' behavior in decision-making and allocation of resources. It generally applies to markets of goods and services and deals with individual and economic issues. At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.
The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN100CA
現代経済学基礎 B
檜野 智子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では入門レベルのミクロ経済学を学びます。ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのようにに関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業の目的は、企業の意思決定や、企業が市場にもたらす非効率性、労働市場、家計の意思決定、情報の非対称性を理解することです。

【到達目標】

- ・競争市場における企業の意思決定を理解する。
- ・市場支配力を持つ企業の意思決定を理解する。
- ・市場支配力を持つ企業が市場にもたらす非効率性を理解する。
- ・労働市場の特徴を理解する。
- ・家計の意思決定を理解する。
- ・情報の非対称性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	生産の費用	生産と費用、費用の尺度、短期と長期の費用
2	競争市場（1）	競争市場、企業の利潤最大化、競争企業の供給曲線
3	競争市場（2）	操業停止の決定、埋没費用、市場への退出・参入
4	独占（1）	独占企業の生産および価格の決定、独占企業の利潤最大化
5	独占（2）	独占の死荷重、価格差別、独占に対する公共政策
6	独占的競争	短期・長期における独占的競争企業、広告
7	寡占（1）	複占、寡占、ゲーム理論
8	寡占（2）	寡占に対する公共政策
9	消費者選択の理論（1）	予算制約線、選好、無差別曲線
10	消費者選択の理論（2）	消費者の最適選択、所得効果と代替効果
11	生産要素市場（1）	企業の労働需要、労働の供給
12	生産要素市場（2）	労働市場の均衡、他の生産要素（土地、資本）
13	ミクロ経済学のフロンティア（1）	モラルハザード、逆選択、シグナリング、スクリーニング
14	ミクロ経済学のフロンティア（2）	コンドルセのパラドックス、アローの不可能性定理、中位投票者定理、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期の「現代経済学基礎 A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の1～10章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マンキュー経済学 I ミクロ編 第4版」N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2019 年
(電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbgf>)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
(複数回実施する試験により評価します)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

【Outline (in English)】

This lecture deals with the basics of microeconomics. Microeconomics is the study of individuals, households, and firms' behavior in decision-making and allocation of resources. It generally applies to markets of goods and services and deals with individual and economic issues.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of microeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN100CA

現代経済学基礎 A

山本 英子

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この現代経済学基礎 A では、ミクロ経済学の基礎を学修する。ミクロ経済学は、消費者や生産者が一定の資源と予算制約の中でそれぞれの需要や利潤を満たすための意思決定をどのように行い、個々の意思決定が市場における資源配分にどのように作用し合うかを研究する領域である。この授業では、各経済主体が合理的に行動する市場メカニズムの分析の基礎概念を理解し修得することを目的とする。

【到達目標】

- ・市場における消費者行動と生産者行動の分析の基礎を理解できる。
- ・市場の効率的な資源配分を理解し、市場の失敗や独占が及ぼす作用を分析できる。
- ・情報の非対称性による影響を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行う予定となっている。授業の中で提示される5回のミクロ課題を、履修者は学習支援システムを通じて提出することで、理解を定着させていく。第4回までのミクロ課題については、各提出期限後に授業の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、マンキュー「経済学の十大原理」
2	消費者行動（1）	需要曲線、均衡、弾力性、消費者余剰
3	生産者行動（1）	供給曲線、費用曲線、生産者余剰
4	市場取引	価格メカニズム、余剰分析 ミクロ課題①
5	消費者行動（2）	無差別曲線、予算制約線、限界代替率
6	消費者行動（3）	所得効果、代替効果、賃金と労働供給
7	生産者行動（2）	生産関数、費用最小化 ミクロ課題②
8	最適資源配分	パレート最適、ボックス・ダイアグラム
9	独占	独占の非効率性 ミクロ課題③
10	ゲーム理論	囚人のジレンマ、繰り返しゲーム、協調
11	市場の失敗	外部性、公共財 ミクロ課題④
12	不完全情報	モラルハザード、逆選択
13	異時点間の資源配分	ライフプラン、割引現在価値
14	授業の総括	ミクロ経済学が扱う諸問題 ミクロ課題⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の該当箇所についてテキストを読み、講義資料を復習することが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

『ミクロ経済学』（第3版）伊藤元重、日本評論社、2018年

【参考書】

『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』（第4版）N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

ミクロ課題5回分で100%評価する。各課題は学習支援システムを通じての提出となる。各回の提出期限を厳守すること。本人の思考によるものでないことが明らかな解答と、提出期限までに未提出の場合とについては、得点としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への参加に必要なネット環境とデバイス

【その他の重要事項】

ミクロ経済学の基本的な概念や分析方法を確実に修得することをめざす。

【Outline (in English)】

This course deals with basic microeconomics of decision making by each agent and resource allocation in the market. The aim of this course is to acquire basic knowledge of microeconomic theory on consumer and producer behavior, market efficiency, monopoly, and information asymmetry.

ECN100CA
現代経済学基礎B
山本 英子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この現代経済学基礎Bでは、マクロ経済学の基礎を学修する。マクロ経済学は、各経済主体全体としての経済活動が、市場全体に及ぼす現象や影響を研究する領域である。この授業では、集計量としての経済主体の意思決定や行動が、国家の政策と、国家間の関係にも影響されながら、市場をどのように変化させるのかについての分析の基礎概念を理解し修得することを目的とする。

【到達目標】

- ・GDPや物価指数などマクロ経済学の基本概念を理解できる。
- ・貯蓄、投資、利子率、貨幣量の関係を理解し説明できる。
- ・IS-LMやAD-ASモデルを用いて財政・金融政策の効果を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行う予定となっている。授業の中で提示される5回のマクロ課題を、履修者は学習支援システムを通じて提出することで、理解を定着させていく。第4回までのマクロ課題については、各提出期限後に授業の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、マクロ経済学で何を学ぶか
2	国民所得	GDP、三面等価
3	有効需要の理論	限界消費性向、乗数理論 マクロ課題①
4	貨幣システム	中央銀行の役割
5	貨幣需要	貨幣量と利子率 マクロ課題②
6	財政政策	税制度、政府支出
7	金融政策	金利調整、フィリップス曲線、 IS-LMモデル
8	総需要・総供給	AD-ASモデル マクロ課題③
9	労働市場	失業、賃金の方硬直性
10	景気	インフレーション、デフレーション
11	国際金融市場	流動性の罫、為替レート マクロ課題④
12	通貨制度	固定・変動為替制度、マンデル＝ フレミング・モデル
13	経済成長	成長メカニズム、ソロー・モデル
14	授業の総括	マクロ経済政策の諸問題 マクロ課題⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の該当箇所についてテキストを読み、講義資料を復習することが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

『マクロ経済学』（第2版）伊藤元重、日本評論社、2012年

【参考書】

『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』（第4版）N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

マクロ課題5回分で100%評価する。各課題は学習支援システムを通じての提出となる。各回の提出期限を厳守すること。本人の思考によるものでないことが明らかな解答と、提出期限までに未提出の場合とについては、得点としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への参加に必要なネット環境とデバイス

【その他の重要事項】

マクロ経済学の基本的な概念や分析方法を確実に修得することをめざす。

【Outline (in English)】

This lecture deals with basic macroeconomics that studies the phenomena and effects of the entire market by the activities of each economic agent as a whole. The aim of this course is to acquire basic knowledge of macroeconomic terms such as GDP or price index, analysis of the effects of fiscal and monetary policy using IS-LM or AD-AS models, and economic growth.

ECN100CA
経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いかに住むか、いかに働くか、いかに支配を受けるかは、経済の重要な構成要素となる。経済史の前期は、「環境・集住・労働・権力」をテーマとして、経済・政治・社会上の仕組みの変化を辿っていく。農業の発明や都市文明の形成など古代にも十分考慮しながら、資本主義経済が形成されていく1500 - 1800年の近世期までの理解を深める。

【到達目標】

- ・現代経済の重要な構成要素となる経済・政治・社会上の仕組みが、歴史的にどのように形成されていったかを理解する。
- ・高校の世界史・日本史の理解から、大学の経済学・経済分析の枠組みへの橋渡しをする。
- ・

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。毎回、文章形式の講義テキストをオンラインレクチャーまでに HOPPII の教材にアップし、理解テストを「テスト・アンケート」に挙げる。この講義テキストを解説する形で ZOOM でオンラインレクチャーを行い、テスト・アンケートのやりかたも補佐する。オンラインレクチャー後、三日以内に理解テストを HOPPII に提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	「人類はいかに地球に 住み、働き、支配・統 制されてきたのか」― 経済史への招待	環境と人間関係を視点に、経済シ ステムの歴史発展をとらえなおす という授業の目的を紹介
2	定住が先か、農耕が先 か：一万年前の農耕革 命を位置付け直す	農耕開始をめぐる最新学説を紹介 し、農耕が不可逆のサイクルを開 始させたことを理解する。
3	森林と田園：人類の定 住と環境へのまなざし	人類が集住することが「森林：を 新たに生み出した。都市文化が発 達すると「田園」の憧憬が生み出 された。一万年というタイムス パンで人類がどのように森林・田 園など環境へのまなざしを概念化 したかを理解する
4	1年～2000年までの 人口と都市と都市化	紀元1年から現在にいたるまで の人口成長を概観したあと、時代 ごとの大都市を位置付け、どの ように変化したかを理解する。
5	信用の力―貨幣の誕生 と金融システム	目の前に見えない価値を信用する 仕組みが経済を動かしてきたこと を歴史的枠組みから理解する
6	地域の誕生―市場圏と 都市ネットワーク論	モノやカネの交換は、人が物理的 に移動できる範囲を超えた空間 圏で動き出す。市場圏と都市ネッ トワークの歴史的モデルを理解する ；

7	中近世の様々な権力と経済システム	中近世社会では領主・王・教会・都市・帝国と様々な権力が併存した。 それぞれが生み出した経済システムを具体的な事例を紹介しながら対比する。
8	労働における自由	奴隷、奉公人、契約労働の歴史をたどることで、不自由な労働と自由な労働との違いを把握する。
9	ビジネスにおける自由—営業の自由から独占禁止まで	中近世に経済活動をギルドや仲間の統制することから営業の自由が獲得されていく過程を説明する。さらに権力に独占特権が付与された特権会社の解体をみて自由競争がいかに成立したかを考察する。
10	国際関係の中の自由	主権国家体制が世界経済システムと結びついたときにでてくる地域間の自由と不自由を、自由貿易・保護貿易や自由労働・不自由労働とむすびつけて考えていく。
11	女性が働き、財産をもつこと	かつて女性に就業を禁止したり、財産をもたせないようにしたことの背景を探り、女性の経済活動が歴史的にどのように評価されてきたのかを概観する。
12	家族と子ども経済史	資本主義の進展とともに家庭はますます経済の核となっていく。児童労働や教育投資を軸にみながら、近現代の家族の意義を経済史の視点から理解する。
13	権力は社会の異端者をどう扱ってきたか	フーコーの「狂気の歴史」「監獄の誕生」を紹介しながら、権力による監視・統制が制度化していった過程を概観する。
14	授業のまとめ	授業をふりかえり、全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに理解テストを出すので、そのなかで復習し、調査する時間が、毎回 2 時間ほど生じる。
授業で示した参考文献をはじめ、興味をもった文献を大いに読んで、経済史の世界に触れてほしい。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストを HOPPII 教材にアップする。参考資料もあわせて提示する。

【参考書】

河崎信樹, 村上衛, 山本千映『グローバル経済の歴史』 有斐閣アルマ、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テストの平均点が 50 %、最終試験が 50 %。理解テストの提出が遅延した場合減点する。しかし遅延しても必ずすべての回について提出することを、最終試験を受ける要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

初回担当につき該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM でオンラインレクチャーを聴講し、課題を HOPPII に提出するための通信機器、情報機器（パソコン）が必要。

【その他の重要事項】

事前に履修すべき科目はない。春学期・秋学期を合わせて履修する必要はないが、秋学期は春学期を履修したほうが理解しやすい。

【Outline (in English)】

How people lived, worked and governed are the essential factors for the economy. The course introduces the participants to the understanding of historical development of the economic systems setting 'environment, settlement, labour and power' as the key themes.

ECN100CA
経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では経済発展の歴史をみるうえで、古くから経済活動の根幹にあった糸布衣の生産と取引と使用に注目する。古代から現代までに繊維品がどのように変化し、その産業がどのように経済や社会とかかわり、世界的な地域分業がどのように進化したかを通して、経済の仕組みの発展を理解する。原料である綿花から糸、織物、衣服、古着、ぼろまでの、生産・流通・消費・再利用を視点にいれて、経済全体を考察していく。

【到達目標】

具体的な産業の展開のなかに、経済史・経済学の重要な概念を位置付けられるようにする
特定のモノとそれを生み出した産業に注目することで、歴史的展開を具体的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、講義テキストを HOPPII にアップする。指定された講義時間にオンラインレクチャーを行い、講義テキストにもとづいて解説を行う。講義ごとに理解テストを行う。オンラインレクチャーではそれを答えるための補佐も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	経済史における繊維品と繊維産業の位置	繊維製品とはなにかを定義し、経済史における繊維の位置、産業史・経営史・企業史との区分、繊維産業を分析するうえでのキーワードを提示する。
2	古代における繊維品の開発—西アジアとインド	古代西アジアとインド毛絹麻を中心とした繊維製品づくりがどのように発達したのかを概説する
3	古代・中世ヨーロッパの羊毛経済	紀元前 1000 年～後 1200 年までのヨーロッパ地域を対象に、羊毛を中心とした繊維品がどのような経済の仕組みを生み出したのかを概説する
4	古代・中世の東アジアの繊維品の展開	ユーラシアの他の地域と対比させながら、日本・朝鮮半島・中国における繊維品の開発を概説する
5	三大陸をつなげた交易が繊維品にもたらしたこと	15 世紀後半以降、アメリカ大陸とユーラシア大陸の交易が進展し、アフリカ大陸もこれに接合していた。この三大陸間の交易が繊維品にもたらした変化を解説する
6	イギリスの「産業革命」	純綿品を大量生産することをキーワードに、イギリスの産業革命の意義を繊維業の視点から経済の仕組みを変えたものとして捉えなおす

7	グローバルなサプライチェーンと労働調達	19 世紀の段階で繊維品を生産するのにどのようなサプライチェーンが成立し、地域間分業が行われていたのかをみる。奴隷・移民をはじめとした繊維業における労働調達を概観する。
8	キング・コットン：19 世紀後半からの綿花生産の変容	1860 年代の南北戦争前後からのアメリカ綿業を自由貿易・保護貿易の観点から説明する。現在にいたるまでの綿花生産を概観する
9	幕末から第一次世界大戦までの日本繊維業	開国とともに日本の繊維産業がどのように変容していったのかを概説する
10	第一次世界大戦から 20 世紀後半の日本繊維産業—繊維大国に	第一次世界大戦後、日本繊維業は輸出を拡大し成長しつづける。その過程を絹、綿、衣服にわけて説明する
11	20 世紀後半からの繊維品	戦後の繊維産業の新発展を、合成繊維という新産業部門の形成、流通革新を軸にみる。
12	衣服の再利用が生み出した産業と交易	衣服の再利用は、反毛産業や古着交易と世界的な規模の産業を生み出し、繊維品を変容させている。その歴史を現代までつなげて解説する
13	繊維産業はイノベーション産業になれるのか	繊維産業の抱える課題と挑戦を、ファッションとリサイクルをキーワードに整理し、イノベーションの基礎概念とあわせて学習する。
14	まとめ	授業全体の振り返りを行い、最終レポートの注意事項を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとの理解テストをこたえるために復習し、調査するために週 2 時間ほどの時間を必要とする。
最終レポートの作成のための準備が必要である。
授業で示した参考文献をはじめ、興味をもった文献を大いに読んで、経済史の世界に触れてほしい。

【テキスト（教科書）】

毎回講義テキストを HOPPII にアップし、参考資料もあわせて提示する。

【参考書】

永原慶二「新木綿以前のこ—苧麻から木綿へ」岩波新書、1990 年。
ピエトラ・リボリ『あなたの T シャツはどこから来たのか—誰も書かなかったグローバルゼーションの真実』
東洋経済、2007 年
河崎 信樹、村上 衛、山本千映『グローバル経済の歴史』、有斐閣アルマ、2022 年

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行う理解テスト 50 %、最終レポート課題で評価する。
最終レポートについては、授業内で形式と書き方を指導する。
また授業内の質問や課題に積極的に答えた生徒に対してはボーナス点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

初回担当につき該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインレクチャーを ZOOM ででき、学生支援システム (HOPPII) を資料配布・課題提出に利用するため、それに接続できるパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

事前に履修すべき科目はなく、同教員が担当する経済史 A（春学期）を履修していなくても経済史 B のみで履修できる。関連科目は日本経済史、世界経済史である。
高校レベルの世界史や日本史の基礎事項を知っているほうが授業の時代・地域区分が理解できるかもしれないが、履修後、必要に応じて学習することで対応できると考えている。

【Outline (in English)】

The participant of this course will be able to understand the long-term historical development of industrialization. The course focuses on the textile industry and describes the key moments of its development from the ancient period to the 20th century, with a global perspective.

ECN100CA
経済史 A
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。
 授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

到達目標は以下の2点である。
 (1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになること。
 (2) またそのさい、「史実」とその「理論- 論理」的理解を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

(0) この講義はオンライン講義となります。またその講義スタイルは、以下の(1)～(6)の過程を取り入れた「リアル・タイム」講義（Zoom）です。なお以下の「成績評価の方法と基準」からも分かるように出欠状況を採点の対象とはしませんが、講義改善のために、Zoom の機能を用いて不定期に出欠「状況」を確認します。
 (1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。
 (2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。
 (3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。
 (4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。
 (5) 講義の最後に10分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。
 (6) 最終授業では、(5)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	「経済」史とは何か	いわゆる歴史学と経済史との関係を「経済」概念に重点を置いて概説する。

第2回	経済「史」とは何か	経済史はどのように経済理論と関係しているかを概説する。 資料「概念図」(1)と「ノート」(1)を配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第3回	「経済史」が描き出す「対象」とは何か？	経済史の「対象」としての「資本」の成り立ちを「経済理論」的に概説する。 資料「概念図」(1)を講義中に受講生の目の前で「改訂し」、第4回講義へ接続させる。
第4回	「資本- 主義」的システムが歴史的にどのように形成されてきたかを俯瞰する——時間編——。	第3回講義で「改訂」された資料「概念図」(1)を教員がさらに整理した資料「概念図」(2)を用いて、「資本- 主義」的システムの歴史的形成的出発点を「大航海時代」として提示する。
第5回	「資本- 主義」的システムが歴史的にどのように形成されてきたかを俯瞰する——空間編——。	大航海時代における「中心」と「周辺」の変遷過程を具体的に論ずる。資料「概念図」(2)を講義中に受講生の目の前で「改訂し」、第6回講義へ接続させる。
第6回	ポルトガルとスペインという2つの「帝国」の大航海時代における展開とその展開方法の相違を論ずる。	これまでの講義を踏まえて、視点としての「流通」と「生産」の歴史的かつ経済的な「相違」を「ノート」(1)を用いて概説する。
第7回	第6回講義を受けて「世界」という概念を「世界市場」という視点から考える。	前回配布した「資料」(3)に加えて、数種類の「世界地図」を地勢的に比較しながら、「世界」という概念が「世界市場」という概念として広がることを確認する。
第8回	第7回における「世界市場」という視点から「流通」と「生産」の相違を「オランダ」において論ずる。	オランダはなぜイギリスにならなかったのか？ 「ノート」(2)を配布する。
第9回	第8回講義を受けて、資本主義の形成という視点から見た「オランダ」の先進性と限界を論ずる。	ふたたび資本とは何かを「商人資本」と「産業資本」との「異同」として確認する。資料「概念図」(2)をさらに受講生とともに改訂し、受講生とともに資料「概念図」(3)を講義中に改訂する。
第10回	第9回講義を確認された「オランダ」の先進性と限界を「市民革命」との関係で論ずる。	いわゆる「イギリス」とは？ 本当に「典型」だったのか？
第11回	第10回講義で論じられた経済史的意味における「市民革命」を「技術革新」を視野に入れて整理する。	ノート(3)を配布し、このノートに受講生とともに農業革命・産業革命などの技術における変革を整理する。
第12回	第11回講義の続き。	同上、続き。最低限の「史実」を中心に講義を進める。
第13回	大航海時代からイギリスにおけるいわゆる「産業資本」の形成を廻行的に整理し、春学期の講義の「総括」を行う。	資料「概念図」(3)を総括的に完成させ、資本- 主義の形成過程を図式的に理解する。
第14回	なぜ資本主義は「変化」するのか？	資料「概念図」(3)を総括的に完成させ、資本- 主義の形成過程を図式的に理解する。また前回配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための「手引き」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書のタイトルに「歴史」という文字が入っている書籍を少なくとも 1 冊は読みとおし、経済史へのそれぞれのイメージを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

【参考書】

■ 金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第 3 刷（2014 年、2,800 円＋税）：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウントした PC あるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

『敗北と憶想』航思社、2019 年

「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021 年

【Outline (in English)】

(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).

(2) Based on (1), our class is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA
経済史 B
長原 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という 2 つの視点から整理する。
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

到達目標は以下の 2 点である。

- (1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになる。
- (2) またそのさい、「史実」とその「理論＝論理」的理解を説明できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

(0) この講義はオンライン講義となります。またその講義スタイルは、以下の (1) ～ (6) の過程を取り入れた「リアル・タイム」講義（Zoom）です。なお以下の【成績評価の方法と基準】からも分かるように出欠状況を採点の対象とはしませんが、講義改善のために、Zoom の機能を用いて不定期に出欠「状況」を確認します。

(1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。

(2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。

(3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。

(4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。

(5) 講義の最後に 10 分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。

(6) 最終授業では、(5) で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	自由主義世界の経済史的構造 (1)	「1820 年代以降」の世界の構造を整理する。資料「俯瞰図」と「講義の要」を配布する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。

2	1825 年恐慌の「経済的」意義	産業資本のイングランドにおける自律的運動の意味を整理する。資料「産業資本と『自己』」を配布する。
3	いわゆる「平和の百年」をパクス・ブリタニカという視点から把握する。	イングランドにおける 1840 年代政治過程の意味を第 2 回講義との対比で考える。
4	恐慌の反復 (1)	恐慌の反復と産業資本の「変質」との関係を整理する。資料「恐慌 1」と「恐慌 2」を配布する。
5	恐慌の反復 (2)	第 4 回講義の続き。史実と統計数値を軸にして。
6	19 世紀における「成長と衰退」と「貿易構造」(1)	イングランドを基軸国したシステムにおける基軸通貨の意味を考える。資料「決済システム」と「国際金本位制」を配布する。
7	19 世紀における「成長と衰退」と「貿易構造」(2)	第 6 回講義の続き。統計を視点にして。
8	「19 世紀」の生産構造	恐慌を繰り返すなかでの生産構造の変化を恐慌史的に俯瞰する。
9	〈長い 19 世紀〉と「平和の百年」(1)	19 世紀を資本の世紀と考えるための 18 世紀末と 20 世紀初頭:資料「長い 19 世紀」の配布
10	〈長い 19 世紀〉と「平和の百年」(2)	第 9 回講義の続き。とくに国民経済の「個性」に関わって。先発と後発との対比。
11	国民経済の個性と国民国家	なぜ資本主義に「国名」がつくのか？
12	〈長い 19 世紀〉と「平和の百年」という時期区分のズレ	国家と資本との緊張と政治あるいは支配的資本の変遷
13	第 1 次世界大戦の経済的意味	短い 20 世紀と介入主義的国家的「普遍性」
14	経済史 B の総括と質問日	レポート作成のための「手引き」(通称「単位への道」)を配布し、秋学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さらに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

【参考書】

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第 3 刷、2014 年、2800 円＋税：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウントした PC あるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年
「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021 年

【Outline (in English)】

(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).

(2) Based on (1), our class is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA
統計学 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計、記述統計について講義を行います。

【到達目標】

経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニックを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式である。講義はテキストに沿って行う。第1～8回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第1回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第2～4回は産業ベースの統計、第5～7回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第8回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第9～13回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニックを学ぶ。そして第14回に記述統計から推測統計（統計学B）への橋渡しを行う。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）	経済センサス
3	経済統計（3）	経済構造実態調査
4	経済統計（4）	産業連関表
5	経済統計（5）	国勢調査
6	経済統計（6）	家計調査
7	経済統計（7）	消費者物価指数
8	経済統計（8）	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム、平均（1）
10	記述統計（2）	平均（2）
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計から推測統計へ	記述統計から推測統計へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

Excelを含む実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8回）3850円

【参考書】

福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9回目以降）2640円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必須ではないが、授業においてExcelを用いた計算方法を紹介する）

【Outline (in English)】

Lecture on economic statistics and descriptive statistics

ECN100CA
統計学 B
阿部 俊弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が普段何気なく眺めているデータに対して、統計学の立場では、このデータに対してなんらかの法則（確率分布）に従うという仮定をします。このことを理解するために、まず、統計学 A で学習した記述統計に基づいて離散型確率分布について学習します。また、確率分布に従うとはどういうことかを理解するために、PC を用いて確率分布から乱数を発生させ、視覚的に理解をしていきます。特に、代表的な連続型確率分布として、正規分布を取り上げ、この分布が（大学で学ぶ）統計学では何故避けては通ることのできないものであるのかを説明します。また、正規分布に関連したカイ 2 乗分布や t 分布についても背景にどのような事情があったのかを考えながら学習していきます。さらに、データに正規分布を仮定したときの区間推定や検定についても学んでいきます。

【到達目標】

1. 確率分布にどのようなものがあるのか知っている。
2. 確率分布の性質を理解し、乱数の発生をさせることができる。
3. 様々な確率分布を用いた区間推定・検定ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式であり、Zoom を用いて実施します。また、Microsoft Word や Microsoft Excel を用いた課題を提出します。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	統計学とその意義	身近な統計データと統計の考え方
第 2 回	標本空間と確率	確率の定義と考え方
第 3 回	条件付確率と独立性	ベイズの定理と乱数を用いた例
第 4 回	確率分布とその特性値	期待値と分散
第 5 回	離散型確率分布	ベルヌーイ分布・二項分布・ポアソン分布
第 6 回	離散データと連続データ	乱数発生・データ要約
第 7 回	連続型確率分布の必要性	離散データによる連続データの理解
第 8 回	連続型確率分布入門	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理	ド・モアブル＝ラプラスの定理
第 10 回	正規分布に関連した連続型確率分布	カイ 2 乗分布と t 分布
第 11 回	正規母集団における区間推定	母平均・母分散の区間推定
第 12 回	二項母集団における母比率の区間推定	母比率の区間推定
第 13 回	正規母集団における母平均の検定	母平均・母分散の検定
第 14 回	二項母集団における母比率の検定	母比率の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

宮田庸一 (2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【参考書】

篠崎 信雄, 竹内 秀一 (2009) 『統計解析入門 (MS ライブラリ)』、サイエンス社
田中勝人 (2010) 『基礎コース統計学 第 2 版』、新世社

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

数学的に難解にならないよう説明します。また、必要に応じて Microsoft Excel や Microsoft Word を用いることで、実践的な授業になるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・(Microsoft Word と Microsoft Excel がインストールされた) パソコンが必要です。

・学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

From a statistical viewpoint, we usually assume that the observed data follow some rule (probability distribution).

To understand the situation, we first learn the fundamental discrete probability distributions based on the descriptive statistics in Statistics A. Also, in order to understand the probability distribution more in detail, we generate random numbers from the probability distribution. In particular, we study the normal distribution as the most fundamental continuous probability density function and learn why the normal distribution is inevitable in statistics (of undergraduate). In addition, we study the chi-square distribution and Student's t distribution as well as their background. Finally, we study the (statistical) confidence intervals and testing when the normal distribution is a generator of the data.

ECN100CA
統計学 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計、記述統計について講義を行います。

【到達目標】

経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニックを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。講義はテキストに沿って行う。第1～8回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第1回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第2～4回は産業ベースの統計、第5～7回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第8回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第9～13回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニックを学ぶ。そして第14回に記述統計から推測統計（統計学 B）への橋渡しを行う。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）センサス	経済センサス
3	経済統計（3）標本調査	工業統計調査、経済構造実態調査
4	経済統計（4）加工統計	産業連関表
5	経済統計（5）センサス	国勢調査
6	経済統計（6）標本調査	家計調査
7	経済統計（7）加工統計	消費者物価指数
8	経済統計（8）加工統計	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム、平均（1）
10	記述統計（2）	平均（2）
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計から推測統計へ	記述統計から推測統計へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

Excelを含む実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8回）3850円

【参考書】

福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9回目以降）2640円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必須ではないが、授業において Excel を用いた計算方法を紹介する）

【Outline (in English)】

Lecture on economic statistics and descriptive statistics

ECN100CA
統計学 B
阿部 俊弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が普段何気なく眺めているデータに対して、統計学の立場では、このデータに対してなんらかの法則（確率分布）に従うという仮定をします。このことを理解するために、まず、統計学 A で学習した記述統計に基づいて離散型確率分布について学習します。また、確率分布に従うとはどういうことかを理解するために、PC を用いて確率分布から乱数を発生させ、視覚的に理解をしていきます。特に、代表的な連続型確率分布として、正規分布を取り上げ、この分布が（大学で学ぶ）統計学では何故避けては通ることのできないものであるのかを説明します。また、正規分布に関連したカイ 2 乗分布や t 分布についても背景にどのような事情があったのかを考えながら学習していきます。さらに、データに正規分布を仮定したときの区間推定や検定についても学んでいきます。

【到達目標】

1. 確率分布にどのようなものがあるのか知っている。
2. 確率分布の性質を理解し、乱数の発生をさせることができる。
3. 様々な確率分布を用いた区間推定・検定ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式であり、Zoom を用いて実施します。また、Microsoft Word や Microsoft Excel を用いた課題を提出します。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	統計学とその意義	身近な統計データと統計の考え方
第 2 回	標本空間と確率	確率の定義と考え方
第 3 回	条件付確率と独立性	ベイズの定理と乱数を用いた例
第 4 回	確率分布とその特性値	期待値と分散
第 5 回	離散型確率分布	ベルヌーイ分布・二項分布・ポアソン分布
第 6 回	離散データと連続データ	乱数発生・データ要約
第 7 回	連続型確率分布の必要性	離散データによる連続データの理解
第 8 回	連続型確率分布入門	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理	ド・モアブル＝ラプラスの定理
第 10 回	正規分布に関連した連続型確率分布	カイ 2 乗分布と t 分布
第 11 回	正規母集団における区間推定	母平均・母分散の区間推定
第 12 回	二項母集団における母比率の区間推定	母比率の区間推定
第 13 回	正規母集団における母平均の検定	母平均・母分散の検定
第 14 回	二項母集団における母比率の検定	母比率の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【参考書】

篠崎 信雄、竹内 秀一（2009）『統計解析入門（MS ライブラリ）』、サイエンス社
田中勝人（2010）『基礎コース統計学 第 2 版』、新世社

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

数学的に難解にならないよう説明します。また、必要に応じて Microsoft Excel や Microsoft Word を用いることで、実践的な授業になるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・（Microsoft Word と Microsoft Excel がインストールされた）パソコンが必要です。
- ・学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

From a statistical viewpoint, we usually assume that the observed data follow some rule (probability distribution).

To understand the situation, we first learn the fundamental discrete probability distributions based on the descriptive statistics in Statistics A. Also, in order to understand the probability distribution more in detail, we generate random numbers from the probability distribution. In particular, we study the normal distribution as the most fundamental continuous probability density function and learn why the normal distribution is inevitable in statistics (of undergraduate). In addition, we study the chi-square distribution and Student's t distribution as well as their background. Finally, we study the (statistical) confidence intervals and testing when the normal distribution is a generator of the data.

PRI100CA
コンピューター入門 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。最後に、「コンピューター入門 B」への導入として、データ処理の基本を学ぶ。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定であるが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義を受ける準備として「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の最後に、表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

課題等の提出・フィードバックは、授業内や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムとファイル操作	・オペレーティングシステムの操作 ・ファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法（1）	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法
第 4 回	文書作成ソフトの利用法（2）	・数式の入力 ・飾り文字を多用した文書の作成
第 5 回	文書作成ソフトの利用法（3）	ビジネス文書の作成
第 6 回	文書作成ソフトの利用法（4）	英文文書の作成

第 7 回	ホームページの作成（1）	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	ホームページの作成（2）	自身を紹介するホームページの作成
第 9 回	プレゼンテーション資料の作成（1）	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 10 回	プレゼンテーション資料の作成（2）	表や画像、動画を取り入れたプレゼンテーション資料の作成
第 11 回	プレゼンテーション資料の作成（3）	スライドショーによるプレゼンテーション
第 12 回	表計算ソフトの基本（1）	表計算ソフトの基本操作の習得
第 13 回	表計算ソフトの基本（2）	・新しい変数の作成 ・条件による処理
第 14 回	授業のまとめと小テスト	・授業のまとめ ・小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（1 時間）・復習（1 時間）と講義内で課された課題の作成（2 時間）

【テキスト（教科書）】

宮脇・小沢・坂本・安藤・新村著「実践コンピュタリテラシー入門」実教出版、2013 年 10 月

【参考書】

必要に応じて、講義の途中で指示、配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点	40 %
課題	30 %
小テスト	30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時に前回の授業の復習と確認を行い、演習を通じて理解を深めるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等学外で予習復習をするうえで、Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のバージョンがインストールされている PC を用意すること。（この講義は、Mac には対応していません。）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the mechanism of computers and networks, and learn the basic usage of computers such as how to send and receive data on information networks, how to create and search data, and so on. Next, understand how to create business documents and presentation materials, and the principles of Web pages. Finally, as a preparation to "Computer Introduction B", you will learn the basics of data analysis.

【Learning Objectives】

1. Learn how to use computers and networks.
2. Learn how to send and receive data through networks.
3. Learn how to create and search data.
4. Learn how to create business documents and presentation materials.
5. Understand how to create web pages.
6. Learn the basics of data analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation / review of textbooks and assignments.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (40%)

Assignment (30%)

Quiz (30%)

PRI100CA
コンピューター入門 B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コンピューター入門 A」で培った知識を基に、表計算ソフトを用いたデータ処理の基本を身に付け、数値データおよびカテゴリーデータの解析方法を理解する。さらに応用として時系列データの処理や最適化、マクロプログラムの作成方法を学ぶ。

【到達目標】

- ① データ処理の基本と数値データとカテゴリーデータの解析法を習得する。
- ② 時系列データの解析や最適化の方法を理解する。
- ③ 簡単なマクロプログラムを作成する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。

表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を身につけたうえで、応用として回帰分析や最適化について学習する。最後に、マクロプログラムの作成から実行までを学ぶ。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーにより最適解を求める
第 11 回	VBA によるプログラミング（1）	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	VBA によるプログラミング（2）	繰り返し処理
第 13 回	VBA によるプログラミング（3）	条件による処理

第 14 回 授業のまとめと小テスト ・授業のまとめ
ト ・小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（1 時間）・復習（1 時間）と講義内で課された課題の作成（2 時間）

【テキスト（教科書）】

宮脇・小沢・坂本・安藤・新村著「実践コンピュータリテラシー入門」実教出版、2013 年 10 月

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で成績を評価します。

平常点	40 %
課題	30 %
小テスト	30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時に前回の授業の復習と確認を行い、演習を通じて理解を深めるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等学外で予習復習をするうえで、Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のバージョンがインストールされている PC を用意すること。（この講義は、Mac には対応していません。）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the knowledge cultivated in "Introduction to Computers A", you will acquire the basics of data analysis using spreadsheet software and understand how to analyze numerical data and category data. Furthermore, as applications, you will learn optimization method, how to analyze time-series data, and how to create macro programs.

【Learning Objectives】

1. Learn the basics of data analysis and how to analyze numerical data and category data.
2. Understand optimization method and how to analyze time-series data.
3. Learn how to create macro programs.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation / review of textbooks and assignments.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (40%)

Assignment (30%)

Quiz (30%)

PRI100CA
コンピューター入門 A
斉藤 典明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2022 年度は教室での実施を予定しているが、万が一、オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める場合は、大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メール利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 50%、試験相当の最終課題が 50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 90%、試験相当の最終課題が 10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

教室で授業を実施する場合は、大学の PC 設備を用いる。オンラインで授業を実施する場合は、各自でネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【その他の重要事項】

授業計画は同一名称の科目で統一したものを基本としていますが、担当教員の進め方により、多少の調整があります。詳細は授業にて説明します。

【Outline (in English)】

In this lesson, students will learn a structure of a computer and computer networks, and master the technique some basic operation methods such as; data exchange method, data construction method, information searching method, and so on.

Next, students will master how to make business documents, presentation materials, and Web pages.

Additionally, students will be able to understand basic method for data processing and data analysis.

PRI100CA
コンピューター入門 B
斉藤 典明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2022 年度は教室での実施を予定しているが、万が一、オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める場合は、大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

・講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 50 %、試験相当の最終課題が 50 %。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 90 %、試験相当の最終課題が 10 %。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

教室で授業を実施する場合は、大学の PC 設備を用いる。オンラインで授業を実施する場合は、各自でネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【その他の重要事項】

授業計画は同一名称の科目で統一したものを基本としていますが、担当教員の進め方により、多少の調整があります。詳細は授業にて説明します。

【Outline (in English)】

In this lesson, students will learn a structure of a computer and computer networks, and master the technique some basic operation methods such as; data exchange method, data construction method, information searching method, and so on.

Next, students will master how to make business documents, presentation materials, and Web pages.

Additionally, students will be able to understand basic method for data processing and data analysis.

PRI100CA
コンピューター入門 A
斉藤 典明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2022 年度は教室での実施を予定しているが、万が一、オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める場合は、大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 50%、試験相当の最終課題が 50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 90%、試験相当の最終課題が 10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

教室で授業を実施する場合は、大学の PC 設備を用いる。オンラインで授業を実施する場合は、各自でネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【その他の重要事項】

授業計画は同一名称の科目で統一したものを基本としていますが、担当教員の進め方により、多少の調整があります。詳細は授業にて説明します。

【Outline (in English)】

In this lesson, students will learn a structure of a computer and computer networks, and master the technique some basic operation methods such as; data exchange method, data construction method, information searching method, and so on.

Next, students will master how to make business documents, presentation materials, and Web pages.

Additionally, students will be able to understand basic method for data processing and data analysis.

PRI100CA
コンピューター入門 B
斉藤 典明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2022 年度は教室での実施を予定しているが、万が一、オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める場合は、大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

- ・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 50 %、試験相当の最終課題が 50 %。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
- ・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題 14 個の合計が 90 %、試験相当の最終課題が 10 %。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。
- ・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

教室で授業を実施する場合は、大学の PC 設備を用いる。オンラインで授業を実施する場合は、各自でネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【その他の重要事項】

授業計画は同一名称の科目で統一したものを基本としていますが、担当教員の進め方により、多少の調整があります。詳細は授業にて説明します。

【Outline (in English)】

In this lesson, students will learn a structure of a computer and computer networks, and master the technique some basic operation methods such as; data exchange method, data construction method, information searching method, and so on.

Next, students will master how to make business documents, presentation materials, and Web pages.

Additionally, students will be able to understand basic method for data processing and data analysis.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、情報検索方法等コンピューターの基本的な仕組みの理解と利用法を習得する。HTML タグを組み立てて Web ページを作成することで理論的思考を養い、インターネットの仕組みや Web サイトの仕組みを体系的に理解する。次に Office を利用したビジネス文書やレポートの作成方法、プレゼンテーション資料の作成方法、数値データの視覚化について理解する。これらの実習を通して情報社会で必要とする基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの仕組みと利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法と情報検索方法を習得する。
- ③ Web ページの作成方法や仕組みを体系的に理解し理論的思考を養う。
- ④ ビジネス文書、レポート、プレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データの視覚化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応して任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び情報の作成方法とその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業の目的と講義概要 ・ コンピューターおよびネットワーク環境の紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とその仕組み ・ 学習支援システムの操作説明とファイル管理 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	OS の操作法とファイル操作	・ OS の操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ コンピューターの情報表現と文字コード ・ 数値や様々な文字の入力法 ・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法

第 4 回	文書作成の基本	・ 文書作成ソフトの基本設定 ・ 作成の基礎練習 ・ テキスト・図・数式
第 5 回	文書編集の基本	・ 画像の引用とフリーの意味 ・ ビジネス文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ 定型文書と「引用」の理解 ・ 英文入力支援機能と英文入力のルール
第 7 回	実践：レポート形式文書作成	・ 文字フォントと画像ファイル ・ レポートの編集
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	・ プレゼンテーションソフトの基本操作 ・ スライドの構成とアピール効果
第 9 回	プレゼンテーション	・ プレゼンテーション ・ スライドショー
第 10 回	実践：レポートとプレゼンテーション	・ レポートの作成 ・ レポートをプレゼンする
第 11 回	表計算ソフトの基本操作	・ 数値データの処理 ・ グラフ作成
第 12 回	HTML：Web ページの作成	・ インターネットの仕組み ・ HTML の記述とタグ辞典 ・ HTML ソースプログラムの作成
第 13 回	例題サイトの作成	・ サイトマップ ・ プログラムの実行とリンク ・ ファイルの圧縮
第 14 回	演習サイトの作成	・ 自分のサイトを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示された例題と課題ファイルを実習します。本授業の課題ファイルの作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

（授業の例題は学習支援システムの「教材」で配信するため購入は任意）

【参考書】

必要に応じて講義の途中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業毎の課題、試験相当とする演習課題の合計点を 100% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外の実習となるため、授業時間外の質問にも対応し受講生の進捗と理解度を把握して柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。Microsoft Office 2016 以降で PowerPoint がインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of a computer and the information network and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to exchange data and to search information on the network. To systematically understand the mechanism of the network, we create webpages in HTML. Secondly, we learn the way to create business documents, reports, presentation materials and data visualization in MS Office. Through these practices we acquire the basic skills which is essential in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、表計算ソフト Excel を利用しデータ処理とデータ分析の基本を理解し操作を習得する。これらの実習を通して情報社会におけるデータの利活用の基本的スキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したオープンデータの収集方法を習得する。
- ③ データ処理の基本とデータ分析の基本を理解する。
- ④ 表計算ソフト Excel の利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応し任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び、データの処理方法と分析の基本を理解しその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	・データ入力と書式 ・数式の入力と関数の利用 ・絶対参照と相対参照の理解
第 2 回	表計算ソフトの演算処理	・オートフィルの利用 ・配列を利用した計算
第 3 回	数値データと文字データ	・コンピューターの数値と文字 ・数値計算と数値の型 ・論理演算と関数のネスト
第 4 回	データの集計	・カテゴリーデータの集計 ・フィルタでデータを区分する
第 5 回	データの分布	・カテゴリーデータの度数分布表とグラフ ・数値データの度数分布表とヒストグラム
第 6 回	データ分析の利用①	・基本統計量 ・グラフを数値化する
第 7 回	データ分析の利用②	・2 変数の関係 ・散布図と相関係数
第 8 回	時系列データ	・移動平均と時系列グラフの作成 ・オープンデータの利用
第 9 回	授業内試験①	・第 2 回～第 8 回の復習と確認
第 10 回	データ分析の利用③	・単回帰分析 ・重回帰分析
第 11 回	ソルバー：最適解を得る	・シミュレーション ・ソルバーの利用

第 12 回 アンケートデータの分析①
・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 13 回 アンケートデータの分析②
・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 14 回 授業内試験②
・第 8 回～第 13 回の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された課題の作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、授業内試験①、授業内試験②の合計点を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外に実習するため、授業時間外の質問に対応し受講生の理解度を把握し柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の実習を可能とするため、ネットワーク環境と Microsoft Office が利用できるコンピューターが必要となります。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of information processing and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to search information on the information network. Secondly, we learn the way to process and analyze data in MS Excel.

Through these practices we acquire the basic skills to utilize data in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、情報検索方法等コンピューターの基本的な仕組みの理解と利用法を習得する。HTML タグを組み立てて Web ページを作成することで理論的思考を養い、インターネットの仕組みや Web サイトの仕組みを体系的に理解する。次に Office を利用したビジネス文書やレポートの作成方法、プレゼンテーション資料の作成方法、数値データの視覚化について理解する。これらの実習を通して情報社会で必要とする基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの仕組みと利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法と情報検索方法を習得する。
- ③ Web ページの作成方法や仕組みを体系的に理解し理論的思考を養う。
- ④ ビジネス文書、レポート、プレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データの視覚化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応して任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び情報の作成方法とその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業の目的と講義概要 ・ コンピューターおよびネットワーク環境の紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とその仕組み ・ 学習支援システムの操作説明とファイル管理 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	OS の操作法とファイル操作	・ OS の操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ コンピューターの情報表現と文字コード ・ 数値や様々な文字の入力法 ・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法

第 4 回	文書作成の基本	・ 文書作成ソフトの基本設定 ・ 作成の基礎練習 ・ テキスト・図・数式
第 5 回	文書編集の基本	・ 画像の引用とフリーの意味 ・ ビジネス文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ 定型文書と「引用」の理解 ・ 英文入力支援機能と英文入力のルール
第 7 回	実践：レポート形式文書作成	・ 文字フォントと画像ファイル ・ レポートの編集
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	・ プレゼンテーションソフトの基本操作 ・ スライドの構成とアピール効果
第 9 回	プレゼンテーション	・ プレゼンテーション ・ スライドショー
第 10 回	実践：レポートとプレゼンテーション	・ レポートの作成 ・ レポートをプレゼンする
第 11 回	表計算ソフトの基本操作	・ 数値データの処理 ・ グラフ作成
第 12 回	HTML：Web ページの作成	・ インターネットの仕組み ・ HTML の記述とタグ辞典 ・ HTML ソースプログラムの作成
第 13 回	例題サイトの作成	・ サイトマップ ・ プログラムの実行とリンク ・ ファイルの圧縮
第 14 回	演習サイトの作成	・ 自分のサイトを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示された例題と課題ファイルを実習します。

本授業の課題ファイルの作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

（授業の例題は学習支援システムの「教材」で配信するため購入は任意）

【参考書】

必要に応じて講義の途中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業毎の課題、試験相当とする演習課題の合計点を 100% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外の実習となるため、授業時間外の質問にも対応し受講生の進捗と理解度を把握して柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。
Microsoft Office 2016 以降で PowerPoint がインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of a computer and the information network and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to exchange data and to search information on the network. To systematically understand the mechanism of the network, we create webpages in HTML. Secondly, we learn the way to create business documents, reports, presentation materials and data visualization in MS Office. Through these practices we acquire the basic skills which is essential in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、表計算ソフト Excel を利用しデータ処理とデータ分析の基本を理解し操作を習得する。これらの実習を通して情報社会におけるデータの利活用の基本的スキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したオープンデータの収集方法を習得する。
- ③ データ処理の基本とデータ分析の基本を理解する。
- ④ 表計算ソフト Excel の利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応し任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び、データの処理方法と分析の基本を理解しその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	・データ入力と書式 ・数式の入力と関数の利用 ・絶対参照と相対参照の理解
第 2 回	表計算ソフトの演算処理	・オートフィルの利用 ・配列を利用した計算
第 3 回	数値データと文字データ	・コンピューターの数値と文字 ・数値計算と数値の型 ・論理演算と関数のネスト
第 4 回	データの集計	・カテゴリーデータの集計 ・フィルタでデータを区分する
第 5 回	データの分布	・カテゴリーデータの度数分布表とグラフ ・数値データの度数分布表とヒストグラム
第 6 回	データ分析の利用①	・基本統計量 ・グラフを数値化する
第 7 回	データ分析の利用②	・2 変数の関係 ・散布図と相関係数
第 8 回	時系列データ	・移動平均と時系列グラフの作成 ・オープンデータの利用
第 9 回	授業内試験①	・第 2 回～第 8 回の復習と確認
第 10 回	データ分析の利用③	・単回帰分析 ・重回帰分析
第 11 回	ソルバー：最適解を得る	・シミュレーション ・ソルバーの利用

第 12 回 アンケートデータの分 析① ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 13 回 アンケートデータの分 析② ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 14 回 授業内試験② ・第 8 回～第 13 回の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された課題の作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、授業内試験①、授業内試験②の合計点を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外に実習するため、授業時間外の質問に対応し受講生の理解度を把握し柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の実習を可能とするため、ネットワーク環境と Microsoft Office が利用できるコンピューターが必要となります。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of information processing and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to search information on the information network. Secondly, we learn the way to process and analyze data in MS Excel.

Through these practices we acquire the basic skills to utilize data in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、情報検索方法等コンピューターの基本的な仕組みの理解と利用法を習得する。HTML タグを組み立てて Web ページを作成することで理論的思考を養い、インターネットの仕組みや Web サイトの仕組みを体系的に理解する。次に Office を利用したビジネス文書やレポートの作成方法、プレゼンテーション資料の作成方法、数値データの視覚化について理解する。これらの実習を通して情報社会で必要とする基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの仕組みと利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法と情報検索方法を習得する。
- ③ Web ページの作成方法や仕組みを体系的に理解し理論的思考を養う。
- ④ ビジネス文書、レポート、プレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データの視覚化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応して任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び情報の作成方法とその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業の目的と講義概要 ・ コンピューターおよびネットワーク環境の紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とその仕組み ・ 学習支援システムの操作説明とファイル管理 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	OS の操作法とファイル操作	・ OS の操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ コンピューターの情報表現と文字コード ・ 数値や様々な文字の入力法 ・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法

第 4 回	文書作成の基本	・ 文書作成ソフトの基本設定 ・ 作成の基礎練習 ・ テキスト・図・数式
第 5 回	文書編集の基本	・ 画像の引用とフリーの意味 ・ ビジネス文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ 定型文書と「引用」の理解 ・ 英文入力支援機能と英文入力のルール
第 7 回	実践：レポート形式文書作成	・ 文字フォントと画像ファイル ・ レポートの編集
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	・ プレゼンテーションソフトの基本操作 ・ スライドの構成とアピール効果
第 9 回	プレゼンテーション	・ プレゼンテーション ・ スライドショー
第 10 回	実践：レポートとプレゼンテーション	・ レポートの作成 ・ レポートをプレゼンする
第 11 回	表計算ソフトの基本操作	・ 数値データの処理 ・ グラフ作成
第 12 回	HTML：Web ページの作成	・ インターネットの仕組み ・ HTML の記述とタグ辞典 ・ HTML ソースプログラムの作成
第 13 回	例題サイトの作成	・ サイトマップ ・ プログラムの実行とリンク ・ ファイルの圧縮
第 14 回	演習サイトの作成	・ 自分のサイトを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示された例題と課題ファイルを実習します。

本授業の課題ファイルの作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピューターリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

（授業の例題は学習支援システムの「教材」で配信するため購入は任意）

【参考書】

必要に応じて講義の途中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業毎の課題、試験相当とする演習課題の合計点を 100% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外の実習となるため、授業時間外の質問にも対応し受講生の進捗と理解度を把握して柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。Microsoft Office 2016 以降で PowerPoint がインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of a computer and the information network and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to exchange data and to search information on the network. To systematically understand the mechanism of the network, we create webpages in HTML. Secondly, we learn the way to create business documents, reports, presentation materials and data visualization in MS Office. Through these practices we acquire the basic skills which is essential in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、表計算ソフト Excel を利用しデータ処理とデータ分析の基本を理解し操作を習得する。これらの実習を通して情報社会におけるデータの利活用の基本的スキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したオープンデータの収集方法を習得する。
- ③ データ処理の基本とデータ分析の基本を理解する。
- ④ 表計算ソフト Excel の利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応し任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び、データの処理方法と分析の基本を理解しその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	・データ入力と書式 ・数式の入力と関数の利用 ・絶対参照と相対参照の理解
第 2 回	表計算ソフトの演算処理	・オートフィルの利用 ・配列を利用した計算
第 3 回	数値データと文字データ	・コンピューターの数値と文字 ・数値計算と数値の型 ・論理演算と関数のネスト
第 4 回	データの集計	・カテゴリーデータの集計 ・フィルタでデータを区分する
第 5 回	データの分布	・カテゴリーデータの度数分布表とグラフ ・数値データの度数分布表とヒストグラム
第 6 回	データ分析の利用①	・基本統計量 ・グラフを数値化する
第 7 回	データ分析の利用②	・2 変数の関係 ・散布図と相関係数
第 8 回	時系列データ	・移動平均と時系列グラフの作成 ・オープンデータの利用
第 9 回	授業内試験①	・第 2 回～第 8 回の復習と確認
第 10 回	データ分析の利用③	・単回帰分析 ・重回帰分析
第 11 回	ソルバー：最適解を得る	・シミュレーション ・ソルバーの利用

第 12 回 アンケートデータの分 析① ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 13 回 アンケートデータの分 析② ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 14 回 授業内試験② ・第 8 回～第 13 回の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された課題の作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、授業内試験①、授業内試験②の合計点を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外に実習するため、授業時間外の質問に対応し受講生の理解度を把握し柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の実習を可能とするため、ネットワーク環境と Microsoft Office が利用できるコンピューターが必要となります。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of information processing and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to search information on the information network. Secondly, we learn the way to process and analyze data in MS Excel.

Through these practices we acquire the basic skills to utilize data in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、情報検索方法等コンピューターの基本的な仕組みの理解と利用法を習得する。HTML タグを組み立てて Web ページを作成することで理論的思考を養い、インターネットの仕組みや Web サイトの仕組みを体系的に理解する。次に Office を利用したビジネス文書やレポートの作成方法、プレゼンテーション資料の作成方法、数値データの視覚化について理解する。これらの実習を通して情報社会で必要とする基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの仕組みと利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法と情報検索方法を習得する。
- ③ Web ページの作成方法や仕組みを体系的に理解し理論的思考を養う。
- ④ ビジネス文書、レポート、プレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データの視覚化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応して任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び情報の作成方法とその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業の目的と講義概要 ・ コンピューターおよびネットワーク環境の紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とその仕組み ・ 学習支援システムの操作説明とファイル管理 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	OS の操作法とファイル操作	・ OS の操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ コンピューターの情報表現と文字コード ・ 数値や様々な文字の入力法 ・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法

第 4 回	文書作成の基本	・ 文書作成ソフトの基本設定 ・ 作成の基礎練習 ・ テキスト・図・数式
第 5 回	文書編集の基本	・ 画像の引用とフリーの意味 ・ ビジネス文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ 定型文書と「引用」の理解 ・ 英文入力支援機能と英文入力のルール
第 7 回	実践：レポート形式文書作成	・ 文字フォントと画像ファイル ・ レポートの編集
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	・ プレゼンテーションソフトの基本操作 ・ スライドの構成とアピール効果
第 9 回	プレゼンテーション	・ プレゼンテーション ・ スライドショー
第 10 回	実践：レポートとプレゼンテーション	・ レポートの作成 ・ レポートをプレゼンする
第 11 回	表計算ソフトの基本操作	・ 数値データの処理 ・ グラフ作成
第 12 回	HTML：Web ページの作成	・ インターネットの仕組み ・ HTML の記述とタグ辞典 ・ HTML ソースプログラムの作成
第 13 回	例題サイトの作成	・ サイトマップ ・ プログラムの実行とリンク ・ ファイルの圧縮
第 14 回	演習サイトの作成	・ 自分のサイトを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示された例題と課題ファイルを実習します。

本授業の課題ファイルの作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピューターリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

（授業の例題は学習支援システムの「教材」で配信するため購入は任意）

【参考書】

必要に応じて講義の途中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業毎の課題、試験相当とする演習課題の合計点を 100% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外の実習となるため、授業時間外の質問にも対応し受講生の進捗と理解度を把握して柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。
Microsoft Office 2016 以降で PowerPoint がインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of a computer and the information network and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to exchange data and to search information on the network. To systematically understand the mechanism of the network, we create webpages in HTML. Secondly, we learn the way to create business documents, reports, presentation materials and data visualization in MS Office. Through these practices we acquire the basic skills which is essential in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、表計算ソフト Excel を利用しデータ処理とデータ分析の基本を理解し操作を習得する。これらの実習を通して情報社会におけるデータの利活用の基本的スキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したオープンデータの収集方法を習得する。
- ③ データ処理の基本とデータ分析の基本を理解する。
- ④ 表計算ソフト Excel の利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応し任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び、データの処理方法と分析の基本を理解しその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	・データ入力と書式 ・数式の入力と関数の利用 ・絶対参照と相対参照の理解
第 2 回	表計算ソフトの演算処理	・オートフィルの利用 ・配列を利用した計算
第 3 回	数値データと文字データ	・コンピューターの数値と文字 ・数値計算と数値の型 ・論理演算と関数のネスト
第 4 回	データの集計	・カテゴリーデータの集計 ・フィルタでデータを区分する
第 5 回	データの分布	・カテゴリーデータの度数分布表とグラフ ・数値データの度数分布表とヒストグラム
第 6 回	データ分析の利用①	・基本統計量 ・グラフを数値化する
第 7 回	データ分析の利用②	・2 変数の関係 ・散布図と相関係数
第 8 回	時系列データ	・移動平均と時系列グラフの作成 ・オープンデータの利用
第 9 回	授業内試験①	・第 2 回～第 8 回の復習と確認
第 10 回	データ分析の利用③	・単回帰分析 ・重回帰分析
第 11 回	ソルバー：最適解を得る	・シミュレーション ・ソルバーの利用

第 12 回 アンケートデータの分 析① ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 13 回 アンケートデータの分 析② ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 14 回 授業内試験② ・第 8 回～第 13 回の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された課題の作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、授業内試験①、授業内試験②の合計点を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外に実習するため、授業時間外の質問に対応し受講生の理解度を把握し柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の実習を可能とするため、ネットワーク環境と Microsoft Office が利用できるコンピューターが必要となります。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of information processing and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to search information on the information network. Secondly, we learn the way to process and analyze data in MS Excel.

Through these practices we acquire the basic skills to utilize data in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、情報検索方法等コンピューターの基本的な仕組みの理解と利用法を習得する。HTML タグを組み立てて Web ページを作成することで理論的思考を養い、インターネットの仕組みや Web サイトの仕組みを体系的に理解する。次に Office を利用したビジネス文書やレポートの作成方法、プレゼンテーション資料の作成方法、数値データの視覚化について理解する。これらの実習を通して情報社会で必要とする基本的なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの仕組みと利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法と情報検索方法を習得する。
- ③ Web ページの作成方法や仕組みを体系的に理解し理論的思考を養う。
- ④ ビジネス文書、レポート、プレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データの視覚化を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応して任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び情報の作成方法とその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業の目的と講義概要 ・ コンピューターおよびネットワーク環境の紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とその仕組み ・ 学習支援システムの操作説明とファイル管理 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	OS の操作法とファイル操作	・ OS の操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ コンピューターの情報表現と文字コード ・ 数値や様々な文字の入力法 ・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法

第 4 回	文書作成の基本	・ 文書作成ソフトの基本設定 ・ 作成の基礎練習 ・ テキスト・図・数式
第 5 回	文書編集の基本	・ 画像の引用とフリーの意味 ・ ビジネス文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ 定型文書と「引用」の理解 ・ 英文入力支援機能と英文入力のルール
第 7 回	実践：レポート形式文書作成	・ 文字フォントと画像ファイル ・ レポートの編集
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	・ プレゼンテーションソフトの基本操作 ・ スライドの構成とアピール効果
第 9 回	プレゼンテーション	・ プレゼンテーション ・ スライドショー
第 10 回	実践：レポートとプレゼンテーション	・ レポートの作成 ・ レポートをプレゼンする
第 11 回	表計算ソフトの基本操作	・ 数値データの処理 ・ グラフ作成
第 12 回	HTML：Web ページの作成	・ インターネットの仕組み ・ HTML の記述とタグ辞典 ・ HTML ソースプログラムの作成
第 13 回	例題サイトの作成	・ サイトマップ ・ プログラムの実行とリンク ・ ファイルの圧縮
第 14 回	演習サイトの作成	・ 自分のサイトを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示された例題と課題ファイルを実習します。本授業の課題ファイルの作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
（授業の例題は学習支援システムの「教材」で配信するため購入は任意）

【参考書】

必要に応じて講義の途中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業毎の課題、試験相当とする演習課題の合計点を 100% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外の実習となるため、授業時間外の質問にも対応し受講生の進捗と理解度を把握して柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。
Microsoft Office 2016 以降で PowerPoint がインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of a computer and the information network and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to exchange data and to search information on the network. To systematically understand the mechanism of the network, we create webpages in HTML. Secondly, we learn the way to create business documents, reports, presentation materials and data visualization in MS Office. Through these practices we acquire the basic skills which is essential in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、表計算ソフト Excel を利用しデータ処理とデータ分析の基本を理解し操作を習得する。これらの実習を通して情報社会におけるデータの利活用の基本的スキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したオープンデータの収集方法を習得する。
- ③ データ処理の基本とデータ分析の基本を理解する。
- ④ 表計算ソフト Excel の利用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の全ては「学習支援システムシステム」を利用して行われる。授業は画面を参照しコンピューターを操作する実習授業がハイフレックス形態で行われる。本授業のハイフレックス形態とはコンピューター実習室での対面授業を前提としつつ事情に対応し任意の場所から同時に Zoom で受講できる形態である。課題ファイルは同システムの「課題」に提出し添削され返却される。授業時間外の質問は「授業内掲示板」に質問投稿し回答が返信される。授業実習と課題実習を積み重ねることで体系的なコンピューターの利用法を学び、データの処理方法と分析の基本を理解しその操作を習得する。今後の状況によりハイフレックス形態からオンライン形態に切り替える場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	・データ入力と書式 ・数式の入力と関数の利用 ・絶対参照と相対参照の理解
第 2 回	表計算ソフトの演算処理	・オートフィルの利用 ・配列を利用した計算
第 3 回	数値データと文字データ	・コンピューターの数値と文字 ・数値計算と数値の型 ・論理演算と関数のネスト
第 4 回	データの集計	・カテゴリーデータの集計 ・フィルタでデータを区分する
第 5 回	データの分布	・カテゴリーデータの度数分布表とグラフ ・数値データの度数分布表とヒストグラム
第 6 回	データ分析の利用①	・基本統計量 ・グラフを数値化する
第 7 回	データ分析の利用②	・2 変数の関係 ・散布図と相関係数
第 8 回	時系列データ	・移動平均と時系列グラフの作成 ・オープンデータの利用
第 9 回	授業内試験①	・第 2 回～第 8 回の復習と確認
第 10 回	データ分析の利用③	・単回帰分析 ・重回帰分析
第 11 回	ソルバー：最適解を得る	・シミュレーション ・ソルバーの利用

第 12 回 アンケートデータの分 析① ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 13 回 アンケートデータの分 析② ・ピボットテーブル
・独立性の検定

第 14 回 授業内試験② ・第 8 回～第 13 回の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された課題の作成時間は 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題、授業内試験①、授業内試験②の合計点を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業時間外に実習するため、授業時間外の質問に対応し受講生の理解度を把握し柔軟に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の実習を可能とするため、ネットワーク環境と Microsoft Office が利用できるコンピューターが必要となります。

【Outline (in English)】

The Objective of this class is to understand the basic mechanism of information processing and to learn the basic way to utilize them. Firstly, we learn the way to search information on the information network. Secondly, we learn the way to process and analyze data in MS Excel.

Through these practices we acquire the basic skills to utilize data in the information society.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は担当教員から「学習支援システム」を通じて案内を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。
なお、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示するおとがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、
授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、
期末試験（Excel の実習形式）30%とする。
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。
また試験は期末課題に代える
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。
オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。
また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。
ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。
環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方

第12回 プログラミング入門 プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う

第13回 各種応用ソフトウェアの紹介 GISや代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。

第14回 秋学期最終課題 秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

その他、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示をすることがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、期末試験（Excelの実習形式）30%とする。ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。また試験は期末課題に代える。その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習を可能とするため、ネットワーク環境とPC環境を用意すると効率は良い。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は担当教員から「学習支援システム」を通じて案内を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。
なお、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示するおとがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、
授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、
期末試験（Excel の実習形式）30%とする。
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。
また試験は期末課題に代える
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。
オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。
また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。
ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。
環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方

第12回 プログラミング入門 プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う

第13回 各種応用ソフトウェアの紹介 GISや代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。

第14回 秋学期最終課題 秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

その他、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示をすることがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、期末試験（Excelの実習形式）30%とする。ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。また試験は期末課題に代える。その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習を可能とするため、ネットワーク環境とPC環境を用意すると効率は良い。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は担当教員から「学習支援システム」を通じて案内を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。
なお、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示するおとがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、
授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、
期末試験（Excel の実習形式）30%とする。
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。
また試験は期末課題に代える
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。
オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。
また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。
ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。
環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方

第12回 プログラミング入門 プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う

第13回 各種応用ソフトウェアの紹介 GISや代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。

第14回 秋学期最終課題 秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

その他、若干の資料をファイルなどで追加予定。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示をすることがある。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、授業時に出席される複数回の課題の提出 50%、期末試験（Excelの実習形式）30%とする。ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。また試験は期末課題に代える。その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習を可能とするため、ネットワーク環境とPC環境を用意すると効率は良い。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

【その他の重要事項】

本科目は、原則として、奇数回を対面、偶数回をオンライン形式で実施する。オンライン形式はオンデマンド型とするので、授業時間に合わせて視聴しなくてもよい。また対面授業においては教場にて授業を実施するが受講生は、オンデマンド型に対応した教材は配信するので、どこで受講してもよい。ただし、ほぼ毎回の課題が出題されるため、各課題を所定の期日までに提出すること。環境により、自宅での作成が困難な場合は、大学内での作成を推奨する。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
小沢 和浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・ はがきサイズの文書の作成 ・ レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・ 新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・ インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ ヒストグラムの作成 ・ 複合グラフの作成 ・ 積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。

授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100% として評価する。
課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of computer systems and their communication networks; 2) acquiring the basic skills of using computers for creating data sets, and searching data sending/receiving on the information networks; 3) learning the methods of creating business documents and materials for presentation, and the basic structures of Web pages; 4) and understanding the basic methods of computer-based calculation for simple data analyses including numerical data analyses using computers.

PRI100CA
コンピューター入門 B
小沢 和浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。

授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100% として評価する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
小沢 和浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・Web メール利用法 ・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順

第 14 回 統計処理を利用したサン プルデータからの情報抽出（演習問題） 各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100%として評価する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。
Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of computer systems and their communication networks; 2) acquiring the basic skills of using computers for creating data sets, and searching data sending/receiving on the information networks; 3) learning the methods of creating business documents and materials for presentation, and the basic structures of Web pages; 4) and understanding the basic methods of computer-based calculation for simple data analyses including numerical data analyses using computers.

PRI100CA
コンピューター入門 B
小沢 和浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

教室での授業は実習室の PC・ネットワークを用いて進めるとともに、大学で用意している「学習支援システムシステム」を利用して教材を表示し課題を提出する。なお、コロナ禍によりキャンパスでの授業が行われない場合は、オンライン方式で講義を進める。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100%として評価する。
課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

自宅で予習復習をする場合には、以下の点に注意してください。
Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
坂部 創一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコロナの事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることもあり得る。大学で用意している「学習支援システム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法

第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【Outline (in English)】

Students will learn how computers and networks work, how to send and receive data on information networks, how to create and search for data, and how to use computers in a basic way. Next, students will learn how to create business documents and presentation materials, and understand the principles of HP. In addition, the course aims to provide students with an understanding of the basics of data processing and calculation methods for numerical data analysis.

The class format for each session is yet to be determined, but details will be announced through the learning support system.

PRI100CA
コンピューター入門 B
坂部 創一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム

第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度はコロナの事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることもあり得る。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【Outline (in English)】

Students will understand the mechanism of information processing by computers and learn basic computer usage such as how to search for data on information networks. Next, students will understand the basics of data processing and calculation methods for numerical data analysis. Next, students will learn how to create business documents and presentation materials based on the above.

The class format for each session is yet to be determined, but details will be announced through the learning support system.

PRI100CA
コンピューター入門 A
坂部 創一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコロナの事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることもあり得る。大学で用意している「学習支援システム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法

第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【Outline (in English)】

Students will learn how computers and networks work, how to send and receive data on information networks, how to create and search for data, and how to use computers in a basic way. Next, students will learn how to create business documents and presentation materials, and understand the principles of HP. In addition, the course aims to provide students with an understanding of the basics of data processing and calculation methods for numerical data analysis.

The class format for each session is yet to be determined, but details will be announced through the learning support system.

PRI100CA
コンピューター入門 B
坂部 創一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム

第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度はコロナの事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることもあり得る。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

【Outline (in English)】

Students will understand the mechanism of information processing by computers and learn basic computer usage such as how to search for data on information networks. Next, students will understand the basics of data processing and calculation methods for numerical data analysis. Next, students will learn how to create business documents and presentation materials based on the above.

The class format for each session is yet to be determined, but details will be announced through the learning support system.

PRI100CA
コンピューター入門 A
堀 亜砂実
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用方法、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを実習を通して学ぶ。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターとネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ② データの作成や取得方法を習得する。
- ③ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成方法を習得する。
- ④ Web ページの仕組みを理解する。
- ⑤ データ処理と数値データ解析の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は情報実習室での対面授業を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン授業を併用する場合もある。毎週の授業前に「学習支援システム」などで確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

基本的に、課題の提出は「学習支援システム」を通じて、フィードバックは対面授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本操作とネットワーク環境	・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境およびネットワーク環境の紹介 ・ID の管理の重要性 ・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作
第 2 回	ファイル・フォルダ操作の基本と電子メール	・メール伝送の仕組み、Web メール ・HTML メールや Web ページ表示の仕組み ・フォルダの圧縮と解凍
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	プレゼンテーション資料の作成	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成用方法

第 7 回	プレゼンテーション資料の活用	プレゼンテーション資料を用いた発表
第 8 回	中間課題	これまでに学んだ内容をプレゼンテーション資料の形にまとめる
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	テキストデータの扱いやデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	期末課題	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

初回授業時までに入手し、毎週の授業に欠かさず持参すること。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題）:60%

・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）：40 %
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンライン授業だったため、周囲の様子がわからず不安に感じた人、逆に自分のペースで勉強しやすく感じた人、様々だったようです。

対面授業では授業時間中に集中して手際よく実習を進めることも必要です。コンピューターの操作に不安がある人は、焦らず実習できるように教科書を授業前によく読んで来てください。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習のため、コンピューターとインターネット接続環境を整えることを推奨する。

コンピューターには Microsoft Office(Word、Powerpoint、Excel) が搭載されている必要がある。また授業を行う情報実習室は Windows 環境で教科書も Windows を前提とした内容であるため、Windows 搭載のコンピューターを選ぶよう推奨する。

【Outline (in English)】

This course will help you to get computer literacies especially the basics of data processing.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Send and receive data via network.
- Create or get data which correspond to purposes.
- Create business documents and presentation materials.
- Understand how the web page works.
- Understand basics of data processing and data analysis.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

PRI100CA
コンピューター入門 B
堀 亜砂実
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用方法、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を実習を通して学ぶ。さらに、初歩的なプログラミングの実習により、コンピューターによるデータ処理の利点や活用法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① ネットワークを介したデータの送受信方法を習得する。
- ② データの作成や取得方法を習得する。
- ③ データ処理と数値データ解析の基礎を習得する。
- ④ プログラミングの開発環境を利用できるようになる。
- ⑤ コンピューターによるデータ処理の利点や活用法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は情報実習室での対面授業を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン授業を併用する場合もある。毎週の授業前に「学習支援システム」などで確認すること。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

基本的に、課題の提出は「学習支援システム」を通じて、フィードバックは対面授業時に口頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データのソートや関数、グラフ作成の基本を確認する
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出
第4回	カテゴリータデータの集計	アンケートによる調査データの処理法
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	変動や移動平均を算出し折れ線グラフにより可視化する
第7回	中間課題	アンケートデータを題材とした演習
第8回	単回帰分析	回帰分析の基礎とパラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作成	初歩的なマクロプログラムを作成する

第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境で簡単なプログラムを作成し実行する
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GISや代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法
第14回	期末課題	時系列データを題材とした演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

初回授業時までに入手し、毎週の授業に欠かさず持参すること。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題）：60%

・大課題の合計（試験に相当し、学期中に2回出題予定）：40%
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンライン授業だったため、周囲の様子がわからず不安に感じた人、逆に自分のペースで勉強しやすく感じた人、様々なようでした。

対面授業では授業時間中に集中して手際よく実習を進めることも必要です。コンピューターの操作に不安がある人は、焦らず実習できるよう教科書を授業前によく読んで来ててください。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習のため、コンピューターとインターネット接続環境を整えることを推奨する。

コンピューターにはMicrosoft Office(Word、Powerpoint、Excel)が搭載されている必要がある。また授業を行う情報実習室はWindows環境で教科書もWindowsを前提とした内容であるため、Windows搭載のコンピューターを選ぶよう推奨する。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand the basics of data processing and programming.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Send and receive data via network.
- Create or get data which correspond to purposes.
- Understand basics of data processing and data analysis.
- Use one of the IDEs.
- Understand the benefits and uses of computer-based data processing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get a grade E.

PRI100CA
コンピューター入門 A
堀 亜砂実
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用方法、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを実習を通して学ぶ。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターとネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ② データの作成や取得方法を習得する。
- ③ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成方法を習得する。
- ④ Web ページの仕組みを理解する。
- ⑤ データ処理と数値データ解析の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は情報実習室での対面授業を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン授業を併用する場合もある。毎週の授業前に「学習支援システム」などで確認すること。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習を行う。

基本的に、課題の提出は「学習支援システム」を通じて、フィードバックは対面授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本操作とネットワーク環境	・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境およびネットワーク環境の紹介 ・ID の管理の重要性 ・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作
第 2 回	ファイル・フォルダ操作の基本と電子メール	・メール伝送の仕組み、Web メール ・HTML メールや Web ページ表示の仕組み ・フォルダの圧縮と解凍
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	プレゼンテーション資料の作成	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成用方法

第 7 回	プレゼンテーション資料の活用	プレゼンテーション資料を用いた発表
第 8 回	中間課題	これまでに学んだ内容をプレゼンテーション資料の形にまとめる
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	テキストデータの扱いやデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	期末課題	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

初回授業時までに入手し、毎週の授業に欠かさず持参すること。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題）:60%

・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 2 回出題予定）：40 %
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンライン授業だったため、周囲の様子がわからず不安に感じた人、逆に自分のペースで勉強しやすく感じた人、様々だったようです。

対面授業では授業時間中に集中して手際よく実習を進めることも必要です。コンピューターの操作に不安がある人は、焦らず実習できるように教科書を授業前によく読んで来てください。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習のため、コンピューターとインターネット接続環境を整えることを推奨する。

コンピューターには Microsoft Office(Word、Powerpoint、Excel) が搭載されている必要がある。また授業を行う情報実習室は Windows 環境で教科書も Windows を前提とした内容であるため、Windows 搭載のコンピューターを選ぶよう推奨する。

【Outline (in English)】

This course will help you to get computer literacies especially the basics of data processing.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Send and receive data via network.
- Create or get data which correspond to purposes.
- Create business documents and presentation materials.
- Understand how the web page works.
- Understand basics of data processing and data analysis.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get the grade E.

PRI100CA
コンピューター入門 B
堀 亜砂実
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用方法、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を実習を通して学ぶ。さらに、初歩的なプログラミングの実習により、コンピューターによるデータ処理の利点や活用法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① ネットワークを介したデータの送受信方法を習得する。
- ② データの作成や取得方法を習得する。
- ③ データ処理と数値データ解析の基礎を習得する。
- ④ プログラミングの開発環境を利用できるようになる。
- ⑤ コンピューターによるデータ処理の利点や活用法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は情報実習室での対面授業を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン授業を併用する場合もある。毎週の授業前に「学習支援システム」などで確認すること。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

基本的に、課題の提出は「学習支援システム」を通じて、フィードバックは対面授業時に口頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データのソートや関数、グラフ作成の基本を確認する
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出
第4回	カテゴリータデータの集計	アンケートによる調査データの処理法
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	変動や移動平均を算出し折れ線グラフにより可視化する
第7回	中間課題	アンケートデータを題材とした演習
第8回	単回帰分析	回帰分析の基礎とパラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作成	初歩的なマクロプログラムを作成する

第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境で簡単なプログラムを作成し実行する
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GISや代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法
第14回	期末課題	時系列データを題材とした演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

初回授業時までに入手し、毎週の授業に欠かさず持参すること。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題）：60%

・大課題の合計（試験に相当し、学期中に2回出題予定）：40%
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンライン授業だったため、周囲の様子がわからず不安に感じた人、逆に自分のペースで勉強しやすく感じた人、様々なようでした。

対面授業では授業時間中に集中して手際よく実習を進めることも必要です。コンピューターの操作に不安がある人は、焦らず実習できるよう教科書を授業前によく読んで来てください。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習のため、コンピューターとインターネット接続環境を整えることを推奨する。

コンピューターにはMicrosoft Office(Word、Powerpoint、Excel)が搭載されている必要がある。また授業を行う情報実習室はWindows環境で教科書もWindowsを前提とした内容であるため、Windows搭載のコンピューターを選ぶよう推奨する。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand the basics of data processing and programming.

As the goals of this course, students should be able to do the followings:

- Send and receive data via network.
- Create or get data which correspond to purposes.
- Understand basics of data processing and data analysis.
- Use one of the IDEs.
- Understand the benefits and uses of computer-based data processing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- in-class works: 60%
- midterm and final works: 40%

If you will skip midterm or final work, you'll get a grade E.

PRI100CA
コンピューター入門 A
新村 隆英
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。その場合、大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。オンライン方式の場合、課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：学習対象のシステムの概要	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作
第 2 回	インターネットの利用と注意	データの検索とセキュリティ、学内 Web メール の使い方。
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法
第 4 回	定型文書の作成 (1)	仕事の文書の形式と基礎
第 5 回	定型文書の作成 (2)	レポート形式の文書の作成。画像データの利用と加工。
第 6 回	定型文書の作成 (3)	英文の文書の作成と校正。
第 7 回	簡単な Web ページの作成	Web ページの構成。ハイパーリンク形式のファイルの作成 と HTML

第 8 回	表計算ソフトの概要と基本機能	表計算ソフトの基本操作と各種機能の利用法
第 9 回	データの読み込みと簡単な計算	テキストデータの利用と整形法。
第 10 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 11 回	基本的なグラフ	棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなどの作成方法
第 12 回	条件付き処理	複数の条件を多重に組み合わせデータの処理
第 13 回	基本的な統計	簡単な統計とその意味および算出手順
第 14 回	春学期最終課題	春学期の理解度を試す課題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情によりオンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることがある。その場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。そのため、各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（Windows は Windows 8 以降、Office は 2013 以降であれば ver. は問わないがオンライン版は機能が限られるので注意）ただし機材の関係で Mac には対応できないので注意。

【Outline (in English)】

This course is aimed at students who expect to obtain basic understanding and skills on computer and networks, such as creating data, sending/receiving data over the information network, searching, and other information processing. Practical exercises for business document processing, creating presentation materials, and web pages are included. Further, basic understanding of data processing including numerical data analyses is studied through example exercises.

Learning objectives:

By the end of this course students are expected to master skills and knowledge on:

- 1) using personal computers and their networks;
- 2) data exchange procedures over computer networks;
- 3) authoring, editing, and searching data;
- 4) creating business documents and materials;
- 5) authoring simple web pages;
- 6) basic numerical data processing and analyses;

Learning activities outside of classroom:

Reading textbook sections prior to the class and reviewing materials practiced in the class;

(Preparation and review of this course assumes a standard time of two hours)

Grading criteria/policy:

Practical exercises on example problems in every class (Submission is essential) – 70%;

Examination problems at the end of spring/fall semester – 30%.

If the submission of regular exercises falls short of 70% of required total numbers without any explained causes such as illness, the term-end examination is disqualified.

Equipment student needs to prepare:

In this term, all the class activities are expected to be personally performed at the Computer Exercise Room. However, in case of uncontrollable conditions, it may be necessary to use Hosei Learning Support System (Hoppii) for substitute studies. Follow the instructions posted on the Learning Support System. In such cases, students are expected to prepare a personal computer capable of running Windows and Microsoft Office applications (any version of or later than Office 2013 but not the on-line edition nor the Mac edition).

PRI100CA
コンピューター入門 B
新村 隆英
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義（リアルタイムではない）を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システム」などの講義情報を確認すること。オンライン方式で講義を進める場合は、大学で用意している「学習支援システム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	簡単な統計とヒストグラム	ヒストグラムの作成と加工
第 3 回	各種統計量の計算	基本統計量、標準偏差の計算
第 4 回	時系列データの処理	折れ線グラフによる可視化。変動と移動平均の算出
第 5 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 6 回	単回帰分析の基礎	回帰分析の基礎（データの計測とモデル作成の基礎）
第 7 回	最適化ツールによる単回帰分析	回帰モデルのパラメータの計算 ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 8 回	最適化ツールによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 9 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。

第 10 回	マクロとプログラミング	マクロプログラムの作成と入力。プログラムの開発環境から簡単な演習を行う。
第 11 回	プレゼンテーション資料の作り方 (1)	プレゼンテーション資料の作り方。アプリケーションの利用と資料作成方法。
第 12 回	プレゼンテーション資料の作り方 (2)	コンテンツの挿入と操作よりよいプレゼンテーションのための基礎知識
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	代数計算ソフトなどの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期の理解度を試す課題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情によりオンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進めることがある。その場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (Windows は Windows 8 以降、Office は 2013 以降であれば ver. は問わないがオンライン版は機能が限られるので注意) ただし機材の関係で Mac には対応できないので注意。

【Outline (in English)】

This course is aimed at students who expect to obtain basic understanding and skills on computer and networks, such as creating data, sending/receiving data over the information network, searching, and other information processing. Practical exercises for business document processing, creating presentation materials, and web pages are included. Further, basic understanding of data processing including numerical data analyses is studied through example exercises.

Learning objectives:

By the end of this course students are expected to master skills and knowledge on:

- 1) authoring, editing, and searching data using networked computers;
- 2) numerical data processing for economic analyses;
- 3) creating business documents and materials for presentation;
- 4) simple programming and developing environment.

Learning activities outside of classroom:

Reading textbook sections prior to the class and reviewing materials practiced in the class;

(Preparation and review of this course assumes a standard time of two hours)

Grading criteria/policy:

Practical exercises on example problems in every class (Submission is essential) – 70%;

Examination problems at the end of spring/fall semester – 30%.

If the submission of regular exercises falls short of 70% of required total numbers without any explained causes such as illness, the term-end examination is disqualified.

Equipment student needs to prepare:

In this term, all the class activities are expected to be personally performed at the Computer Exercise Room. However, in case of uncontrollable conditions, it may be necessary to use Hosei Learning Support System (Hoppii) for substitute studies. Follow the instructions posted on the Learning Support System. In such cases, students are expected to prepare a personal computer capable of running Windows and Microsoft Office applications (any version of or later than Office 2013 but not the on-line edition nor the Mac edition).

PRI100CA
コンピューター入門 A
新村 隆英
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。その場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の機材の使い方。オペレーティングシステムとファイル操作を理解する。
第 2 回	インターネットの利用と注意	データの検索とセキュリティ、学内 Web メールの使い方
第 3 回	文書作成ソフトの基礎	文書作成ソフトの概要とファイルの作成・保存
第 4 回	定型文書の作成 (1)	ビジネス文書の形式と基礎
第 5 回	定型文書の作成 (2)	レポート形式の文書の作成。画像データの利用と加工
第 6 回	定型文書の作成 (3)	英文の文書の作成と校正
第 7 回	簡単なウェブページの作成	ウェブページの構成。ハイパーリンク形式のファイルの作成、HTML 言語の紹介
第 8 回	表計算ソフトの概要と基本機能	表計算ソフトの概要と基本機能
第 9 回	データの読込みと簡単な計算	テキストデータの利用と整形法

第 10 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 11 回	基本的なグラフ	棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなどの作成方法
第 12 回	条件付き処理	複数の条件を多重に組み合わせデータの処理
第 13 回	基本的な統計	簡単な統計とその意味および算出手順
第 14 回	春学期最終課題	春学期の理解度を試す課題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情によりオンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることがある。その場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（Windows は Windows 8 以降、Office は 2013 以降であれば ver. は問わないがオンライン版は機能が限られるので注意）ただし機材の関係で Mac には対応できないので注意。

【Outline (in English)】

This course is aimed at students who expect to obtain basic understanding and skills on computer and networks, such as creating data, sending/receiving data over the information network, searching, and other information processing. Practical exercises for business document processing, creating presentation materials, and web pages are included. Further, basic understanding of data processing including numerical data analyses is studied through example exercises.

Learning objectives:

By the end of this course students are expected to master skills and knowledge on:

- 1) using personal computers and their networks;
- 2) data exchange procedures over computer networks;
- 3) authoring, editing, and searching data;
- 4) creating business documents and materials;
- 5) authoring simple web pages;
- 6) basic numerical data processing and analyses;

Learning activities outside of classroom:

Reading textbook sections prior to the class and reviewing materials practiced in the class;

(Preparation and review of this course assumes a standard time of two hours)

Grading criteria/policy:

Practical exercises on example problems in every class (Submission is essential) – 70%;

Examination problems at the end of spring/fall semester – 30%.

If the submission of regular exercises falls short of 70% of required total numbers without any explained causes such as illness, the term-end examination is disqualified.

Equipment student needs to prepare:

In this term, all the class activities are expected to be personally performed at the Computer Exercise Room. However, in case of uncontrollable conditions, it may be necessary to use Hosei Learning Support System (Hoppii) for substitute studies. Follow the instructions posted on the Learning Support System. In such cases, students are expected to prepare a personal computer capable of running Windows and Microsoft Office applications (any version of or later than Office 2013 but not the on-line edition nor the Mac edition).

PRI100CA
コンピューター入門 B
新村 隆英
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	簡単な統計とヒストグラム	ヒストグラムの作成と加工
第 3 回	各種統計量の計算	基本統計量、標準偏差の計算
第 4 回	時系列データの処理	折れ線グラフによる可視化。変動と移動平均の算出
第 5 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 6 回	単回帰分析の基礎	・ 回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・ パラメータ決定のアルゴリズム
第 7 回	最適化ツールによる回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 8 回	最適化ツールによる解の探索	最適化ツールによる解の探索
第 9 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。

第10回	マクロとプログラミング デ	マクロプログラムの作成と入力。 プログラムの開発環境から簡単な 演習を行う。
第11回	プレゼンテーション資 料の作り方 (1)	プレゼンテーション資料の作り 方。アプリケーションの利用と資 料作成方法。
第12回	プレゼンテーション資 料の作り方 (2)	よりよいプレゼンテーションのた めの知識
第13回	各種応用ソフトウェア の紹介	代数計算ソフトなどの紹介と簡単 な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期の理解度を試す課題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成・授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900
＋税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情によりオンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進めることがある。その場合は大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（Windows は Windows 8 以降、Office は 2013 以降であれば ver. は問わないがオンライン版は機能が限られるので注意）ただし機材の関係で Mac には対応できないので注意。

【Outline (in English)】

This course is aimed at students who expect to obtain basic understanding and skills on computer and networks, such as creating data, sending/receiving data over the information network, searching, and other information processing. Practical exercises for business document processing, creating presentation materials, and web pages are included. Further, basic understanding of data processing including numerical data analyses is studied through example exercises.

Learning objectives:

By the end of this course students are expected to master skills and knowledge on:

- 1) authoring, editing, and searching data using networked computers;
- 2) numerical data processing for economic analyses;
- 3) creating business documents and materials for presentation;
- 4) simple programming and developing environment.

Learning activities outside of classroom:

Reading textbook sections prior to the class and reviewing materials practiced in the class;

(Preparation and review of this course assumes a standard time of two hours)

Grading criteria/policy:

Practical exercises on example problems in every class (Submission is essential) – 70%;

Examination problems at the end of spring/fall semester – 30%.

If the submission of regular exercises falls short of 70% of required total numbers without any explained causes such as illness, the term-end examination is disqualified.

Equipment student needs to prepare:

In this term, all the class activities are expected to be personally performed at the Computer Exercise Room. However, in case of uncontrollable conditions, it may be necessary to use Hosei Learning Support System (Hoppii) for substitute studies. Follow the instructions posted on the Learning Support System. In such cases, students are expected to prepare a personal computer capable of running Windows and Microsoft Office applications (any version of or later than Office 2013 but not the on-line edition nor the Mac edition).

ECN100CA
ビジネス数学入門 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経験していない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経験している人にはビジネスで活用できる数学の修得をめざす。

【到達目標】

経済学部の講義を受講するのに必要となる基本的な数学の知識と考え方を習得し、簡単な練習問題が解けるようになることを目標とする。Students learn basic mathematics necessary to attend micro-and macroeconomics classes provided in the standard economics courses.

Basic mathematical skills to model and evaluate the activities of firms and governments are targeting goals, too.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的な講義形式は資料配信型のオンライン授業であるが、必要に応じて Zoom を利用する。受講生は毎週配布する資料を読んで練習問題を解く。理解度の確認と成績評価のためミニテスト（複数回を予定）を学習支援システム上にて実施する。また、ミニテストの結果で理解度が不十分と考えられるところについては補足するなど、授業にフィードバックして理解度に応じた授業計画の修正を適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済・社会を数学を用いて考えることの意味、モデルという発想、いまだ聞けないことの確認、動機づけ。
2	関数入門（数と数との関係を考える）	変数と定数、直線の式とグラフ、切片、傾きの意味、軸の見方、増加関数、減少関数。
3	関数の利用（ものの値段の決まり方）	2つの関数の交点を求める、需要／供給曲線、売上額をグラフで見る、値段を高くしたら売上は上がるか下がるか？
4	集団を代表する数	和、平均値、加重平均、期待値、最頻値、中央値、GDP、日経平均など。
5	比率によってものごとをとらえる	失業率、利子率、インフレ率
6	直線的でない関係 (1)	反比例、べき乗、平方根に対応する関数
7	直線的でない関係 (2)	2次関数と一般形
8	ミニテスト 1	第 2 回～ 7 回授業の理解度の確認
9	直線的でない関係 (3)	2次関数の応用、平方完成と最大化問題
10	逆関数	逆関数の考え方と応用
11	最大化問題の応用	寡占市場での企業の利潤最大化
12	指数関数と対数関数 (1)	対数関数と指数関数、単利と複利の考え方

13	指数関数と対数関数 (2)	対数法則、自然対数、複利計算と割引現在価値
14	ミニテスト 2	第 9～13 回授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

第 1 回：(1) オリエンテーションの説明を受けたあと、自分のレベルにあった補助教材（授業内に指示）を入手する（2 時間）、(2) 数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ（2 時間）

第 2～14 回：(1) 復習として、授業内に取上げた小問題の見直し、参考書や補助教材の演習問題を解く（2 時間）、(2) 他の授業で出てきた数学の問題を見直し、解き直す（1 時間）、(3) SPI の問題を解く（1 時間）、(4) としおり、(2)(3) に替えて、数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ（2 時間）

Students will be required to submit some homework assignments after working at the lecture materials. Other self-studies such as reading newspapers and TV programs on current Japanese and world economies will also be required.

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で行う宿題 (30%) およびミニテスト (70%) で評価する。

homeworks(30%) and mini tests(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（授業コード：K6671）を済ませること。ミニテストの受験もこちらで受けることになる。なお、PDF の閲覧と Word を使えるように準備すること。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings. Topics include linear function, ratio and proportion, quadratic function, exponent, logarithm, sequence and series, and their application to economic models.

ECN100CA
ビジネス数学入門B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経っていない人は初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人はビジネスで数学の活用できるスキルの修得をめざす。

【到達目標】

数学的な論理、微分や確率の知識がどのように経済学やビジネスに応用されているか説明できるようになることを目標とする。

Students learn basic mathematics necessary to attend micro-and macroeconomics classes provided in the standard economics courses.

Basic mathematical skills to model and evaluate the activities of firms and governments are targeting goals, too.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には資料配布型のオンライン授業であるが、必要に応じてZoomを利用する。毎週配布される講義資料を読んで練習問題を解く。授業内容の理解度の確認と成績評価のため、複数回のミニテストを学習支援システム上でこなす。また、ミニテストの結果で理解が不十分と考えられるところについては補足するなど、授業にフィードバックして理解度に応じた授業計画の修正を適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「ビジネス数学入門A」の復習、今後の学習の動機づけ。
2	数列と級数 (1)	数列とは（複利計算、経済成長）、等差数列、等比数列
3	数列と級数 (2)	数列の和と級数、有効需要の原理
4	微分 (1)	関数の限界的な変化、導関数と微分係数
5	微分 (2)	基本的な微分の性質（べき乗関数、合成関数、関数の積・商、逆関数の微分）
6	微分 (3)	基本的な微分の性質（対数関数、指数関数、べき乗関数（一般形）の微分）、関数の最大化と微分
7	ミニテスト 1	第 2～6 回授業の理解度の確認
8	微分の応用	企業の利潤最大化問題（完全競争市場、独占市場、寡占市場）
9	確率論の基礎 (1)	確率と事象、場合の数
10	確率論の基礎 (2)	条件付き確率、ベイズの定理
11	確率変数と確率分布	離散型確率変数、確率分布の例（サイコロ投げ、一様分布、二項分布）、2 つの確率変数（同時確率分布と周辺分布）
12	確率分布の特性値 (1)	期待値、期待効用理論
13	確率分布の特性値 (2)	分散、共分散、相関係数、条件付き期待値と分散
14	ミニテスト 2	第 8～13 回授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

第 1 回：(1) 予習として、春学期の授業内容を復習しておく（4 時間）
第 2～14 回：(1) 復習として、授業内に取り上げた小問題の見直し、参考書や補助教材の演習問題を解く（2 時間）、(2) 他の授業で出てきた数学の問題を見直し、解き直す（1 時間）、(3)SPI の問題を解く（1 時間）、(4) ときおり、(2)(3) に替えて、数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ（2 時間）

Students will be required to submit some homework assignments after working at the lecture materials. Other self-studies such as reading newspapers and TV programs on current Japanese and world economies will also be required.

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年。また、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で行う宿題 (30%) およびミニテスト (70%) で成績評価する。

homeworks(30%) and mini tests(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行う。練習問題への回答やミニテストもこちらで受けることになる。学習支援システムに自分が登録されているかを確認して欲しい。履修変更などをした学生は学習支援システムへの登録も行っておくこと。なお、PDF の閲覧と Word を使えるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings. Topics include differentiation(single variable), set theory, probability, and their application to economic models.

ECN100CC
英語で学ぶ経済学入門 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解します。本講義では、教科書である“Economics”(筆者：Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.) のうち、イントロパートおよび経済学に関わるいくつかのトピックについて学びます。

【到達目標】

- (1) 人間の経済行動を理解するために必要な考え方の基礎を学ぶ。
- (2) 意思決定をする際に有用なツールを知る。
- (3) 分析的・批判的思考のためのスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書をベースとしたスライドを用いた講義形式の授業を行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General introduction, The Principles and Practice of Economics (ch.1)	Organization of the Class / The Scope of Economics / Three Principles of Economics / The First Principle of Economics: Optimization
2	General introduction (ch.1, cont.), Economic Methods and Economic Questions (ch.2)	The Second Principles of Economics: Equilibrium / The Third Principle of Economics: Empiricism / Is Economics Good for You? The Scientific Method / Causation and Correlation
3	Economic Methods and Economic Questions (ch.2, cont.), Optimization (ch.3)	Economic Questions and Answers / Constructing and Interpreting Charts and Graphs / Optimization: Choosing the Best Feasible Option / Optimization Application: Renting the Optimal Apartment
4	Optimization (ch.3, cont.)	Optimization Using Marginal Analysis
5	Demand, Supply, and Equilibrium (ch.4)	Markets / How Do Buyers Behave?
6	Demand, Supply, and Equilibrium (ch.4, cont.)	How Do Sellers Behave? / Supply and Demand in Equilibrium

7	Demand, Supply, and Equilibrium (ch.4, cont.), Consumers and Incentives (ch.5)	What Would Happen if Government Tried to Dictate the Price of Gasoline? / The Buyer's Problem / Putting It All Together / From the Buyer's Problem to the Demand Curve
8	Consumers and Incentives (ch.5, cont.)	Quiz / Consumer Surplus / Demand Elasticities
9	Trade (ch.8)	The Production Possibilities / Comparative Advantage / Trade between States
10	Trade (ch.8, cont.)	Trade between Countries / Arguments Against Free Trade
11	Markets for Factors of Production (ch.11)	The Competitive Labor Market / The Supply of Labor / Wage Inequality
12	Markets for Factors of Production (ch.11, cont.), Introduction to Game Theory (ch.13)	The Markets for Other Factors of Production / Simultaneous Move Games / Nash Equilibrium
13	Introduction to Game Theory (ch.13, cont.)	Applications of Nash Equilibria / How Do People Actually Play Such Games? / Extensive-Form Games
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、宿題・小テストのない回で3～4時間、宿題・小テストのある回で4～6時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Economics、出版社 Pearson、筆者：Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

【参考書】

特になし/None

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし/None

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces students to the fundamentals of economics. The course covers introductory chapters and some of the topics of “Economics” written by Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

【Learning Objectives】

- (1) to build a foundation for understanding human economic behavior,
- (2) to introduce some useful decision making tools,
- (3) to develop critical and analytical thinking skills.

【Methods】

The textbook is your major tool for learning the material of this course. My responsibility will be to try to guide you through the material, emphasize the important points, answer your questions, and to iron out any problems that might arise. I will mainly cover the economic models and leave the detailed descriptions in the textbook for you to study on your own.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Your responsibility is to do the assigned reading, submit each homework before the due date, to think about and learn the material, and to ask questions when the material is unclear. The class goes very fast.

(Average workload for each class is as follows: reading assignment of 1 to 2 hours, working on homework/quiz of 1 to 2 hours, class preparation time of 1 hour and review time of 1 hour)

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 20%, Homeworks: 30%

ECN100CC
英語で学ぶ経済学入門 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解します。本講義では、教科書である“Economics”(筆者：Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.) のうち、イントロパートおよび経済学に関わるいくつかのトピックについて学びます。

【到達目標】

- (1) 人間の経済行動を理解するために必要な考え方の基礎を学ぶ。
- (2) 意思決定をする際に有用なツールを知る。
- (3) 分析的・批判的思考のためのスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書をベースとしたスライドを用いた講義形式の授業を行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General introduction, The Wealth of Nations (ch.19)	Organization of the Class / Macroeconomic Questions / National Income Account
2	The Wealth of Nations (ch.19, cont.)	What Isn't Measured by GDP? / Real vs. Nominal Productivity and the Aggregate Production Function
3	Aggregate Incomes (ch.20)	Inequality Around the World / Productivity and the Aggregate Production Function
4	Aggregate Incomes (ch.20, cont.)	The Role and Determinants of Technology / The Mathematics of Aggregate Production Functions
5	Employment and Unemployment (ch.23)	Measuring Employment and Unemployment / Equilibrium in the Labor Market / Why Is There Unemployment?
6	Equilibrium in the Macro: Credit Markets (ch.23, cont.)	Wage Rigidity and Structural Unemployment / Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
7	Credit Markets (ch.24)	What Is the Credit Market? / Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets (ch.24, cont.)	Quiz, What Banks Do

9	The Monetary System (ch.25)	Money / Money, Prices, and GDP
10	The Monetary System (ch.25, cont.),	Inflation / The Federal Reserve
11	The Monetary System (ch.25, cont.), Short-run Fluctuations (ch.26)	Bank Reserves and the Plumbing of the Monetary System / Economic Fluctuations and Business Cycles
12	Short-run Fluctuations (ch.26, cont.),	Macroeconomic Equilibrium and Economic Fluctuations / Modeling Expansions
13	Countercyclical Macroeconomic Policy (ch.27)	The Role of Countercyclical Policies in Economic Fluctuations / Countercyclical Monetary Policy / Countercyclical Fiscal Policy
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、宿題・小テストのない回で3～4時間、宿題・小テストのある回で4～6時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Economics、出版社 Pearson、筆者：Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

【参考書】

特になし/None

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし/None

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces students to the fundamentals of economics. The course covers introductory chapters and some of the topics of“Economics” written by Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

【Learning Objectives】

- (1) to build a foundation for understanding human economic behavior,
- (2) to introduce some useful decision making tools,
- (3) to develop critical and analytical thinking skills.

【Methods】

The textbook is your major tool for learning the material of this course. My responsibility will be to try to guide you through the material, emphasize the important points, answer your questions, and to iron out any problems that might arise. I will mainly cover the economic models and leave the detailed descriptions in the textbook for you to study on your own.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Your responsibility is to do the assigned reading, submit each homework before the due date, to think about and learn the material, and to ask questions when the material is unclear. The class goes very fast.

(Average workload for each class is as follows: reading assignment of 1 to 2 hours, working on homework/quiz of 1 to 2 hours, class preparation time of 1 hour and review time of 1 hour)

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 20%、Homeworks: 30%

ECN100CC
英語で学ぶ経済学入門 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.

【到達目標】

We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter. Submissions of homework and feedback to those are conducted through the online learning support system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Basic concepts in economics
2	Is facebook free?	Evidence for the 1st section
3	Economic Methods and Economic Questions	Economic reasoning
4	Is college worth it?	Evidence for the 2nd section
5	Optimization: Doing the Best You Can	Economic behavior
6	How does location affect the rental cost of housing?	Evidence for the 3rd section
7	Demand, Supply, and Equilibrium	Market mechanism
8	How much more gasoline would people buy if its price were lower?	Evidence for the 4th section
9	Foundations of Microeconomics: Consumers and Incentives	Consumer behavior
10	Would a smoker quit the habit for \$100 a month?	Evidence for the 5th section
11	Sellers and Incentives	producer behavior
12	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?:	Evidence for the 6th section

13	Perfect Competition and the Invisible Hand	What is competitive equilibrium?
14	Can markets composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?	Evidence for the 7th section

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to study at least 4 hours for this course.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Pearson

【参考書】

Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

【成績評価の方法と基準】

Your grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the term paper or final exam (60%).

【学生の意見等からの気づき】

We study the basic concepts of economics repeatedly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students learn economic reasoning in English. By the end of this course, students should be able to read economics textbooks in English. Students are expected to solve problem sets assigned. Final grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the term paper or final exam (60%).

ECN100CC
英語で学ぶ経済学入門 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English. We focus on macroeconomics this semester.

【到達目標】

We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter. Submissions of homework and feedback to those are conducted through the online learning support system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Macroeconomics: The Wealth of Nations	Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates
2	In the United States, what is the total market value of annual economic production?	Evidence for the 1st section
3	Aggregate Incomes	The target of macroeconomics
4	Why is the average American so much richer than the average Indian?	Evidence for the 2nd section
5	Economic Growth	How to improve our standard of living
6	Why are you so much more prosperous than your great-great-grandparents were?:	Evidence for the 3rd section
7	Why Isn't the Whole World Developed?	Economic inequality
8	Are tropical and semitropical areas condemned to poverty by their geographies?	Evidence for the 4th section
9	Equilibrium in the Macroeconomy: Employment and Unemployment	Labor market

10	What happens to employment and unemployment if local employers go out of business?	Evidence for the 5th section
11	Credit Markets	Bank, loan, and securities
12	How often do banks fail?:	Evidence for the 6th section
13	The Monetary System	Money, interest rate, and price level
14	What caused the German hyperinflation of 1922 - 1923?	Evidence for the 7th section

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to study at least 4 hours for this course.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Pearson

【参考書】

Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

【成績評価の方法と基準】

Your grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the term paper or final examination (60%).

【学生の意見等からの気づき】

We will learn the basic concepts of economics repeatedly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students learn economic reasoning in English. By the end of this course, students should be able to read economics textbooks in English. Students are expected to solve problem sets assigned. Final grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the term paper or final exam (60%).

ECN100CA
データで知る世界経済 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学科の入門講義として、「世界経済」の現状をオンラインデータベースの最新のデータによって理解を深めることを目的とする。本講義で使用するデータ検索・抽出は、主に世銀データベースを利用するが、必要に応じて様々なデータベースを紹介する。その上で「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」について項目ごとに詳しく学ぶ

【到達目標】

世界の現状について、様々なデータベースからデータを抽出することを目指す。さらに得られたデータをもとに世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目で詳しく分析を行えるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では以下の流れで講義を行う。1. 基本用語や概念の説明 → 2. 使用するデータベースの説明 → 3. データ検索 → 4. 得られたデータを用いて考察。講義の中盤以降は、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目について詳しく学び、考察を深める。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、様々なオンラインデータベースの紹介
第 2 回	世銀データベース 1	各経済指標と基礎、および世銀データベースの使い方とデータ検索
第 3 回	世銀データベース 2	演習
第 4 回	持続可能な開発目標 (SDGs)	ミレニアム開発目標と SDGs の概要
第 5 回	SDGs 1-1	貧困 1 貧困 1 ターゲット、貧困線など
第 6 回	SDGs 1-2	貧困 2 貧困 2 絶対的貧困、相対的貧困など
第 7 回	SDGs 2-1	飢餓 1 ターゲット、日本のケースなど
第 8 回	SDGs 2-2	飢餓 2 世界の飢餓状況など
第 9 回	SDGs 3-1	健康と福祉 1 ターゲット、マラリアなど
第 10 回	SDGs 3-2	健康と福祉 2 妊産婦死亡率、幼児死亡率など
第 11 回	SDGs 4-1	教育 1 ターゲット、教育の不平等など
第 12 回	SDGs 4-2	教育 2 世界の例、学歴と生涯賃金など
第 13 回	講義のまとめ	講義のまとめ
第 14 回	総括	試験・解説・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データベースの取り扱いに慣れるため、学習したデータベースを用いて様々な検索をすることを薦める。本授業の予習は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各データベースは講義中に指示する。主なものは世界銀行、国連（特に SDGs）、国連商品貿易統計、OECD、ILO、JETRO、外務相、世界の統計など。URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基つき成績評価（100 %）を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講生がズーム参加人数を超えたため、ズームによるリアルタイム講義を断念し、オンデマンドビデオやオンデマンド教材による講義を中心に進めた。オンデマンドビデオは課題が課される内容以外は視聴回数が低く、オンデマンド教材による講義に切り替えた。本年度は受講人数がズーム参加人数を超えた場合は、出席番号などで時間ごとに区切るのか、オンデマンド教材を中心とした講義を行うのか、適宜受講生の要望をくみ取りつつ授業形態をフレキシブルに対応させていきたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B ともに履修することを推奨する。Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn basic skills of how to search and extract from economic data base and how to analyze using those data. Data bases using in this class are such as World Bank open data base and UN data base. Next, you learn about Sustainable Development Goals (SDGs) in detail. As outside studies, I hope one hour before classroom and three hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN100CA
データで知る世界経済 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データで知る世界経済 A に引き続き、「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」について項目ごとに詳しく学ぶ。SDGs を学ぶことで、現代世界が抱える課題、世界各国の方向性を取り組み、その成果について詳しく学ぶことができ、世界の様々な出来事の基本的潮流を理解する一助となろう。

【到達目標】

世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目における世界の現状を理解し、世界がどのような取り組みを行い、どのように各国の努力が進展しているのかを、データをもとに詳しく理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

持続可能な開発目標（SDGs）の各項目について詳しく学び、考察を深める。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、政府開発援助、持続可能な開発目標
第 2 回	SDGs 5-1	ジェンダー 1 ターゲット、ジェンダー不平等など
第 3 回	SDGs 5-2	ジェンダー 2 ジェンダーギャップ、日本の状況など
第 4 回	SDGs 6-1	水と衛生 1 ターゲット、水指標など
第 5 回	SDGs 6-2	水と衛生 2 世界のケース、ODA など
第 6 回	SDGs 7-1	地球環境問題・エネルギー 1 ターゲット、世界の状況など
第 7 回	SDGs 7-2	地球環境問題・エネルギー 2 再生可能エネルギー、気候変動枠組み条約など
第 8 回	SDGs 8-1	労働・働きがい 1 ターゲット、ディーセントワークなど
第 9 回	SDGs 8-2	労働・働きがい 2 ILO、働き方改革など
第 10 回	SDGs 9-1	産業・インフラ 1 ターゲット、レリジエント都市など
第 11 回	SDGs 9-2	産業・インフラ 2 産業化、国土強靱化基本法など
第 12 回	SDGs 10-1	不平等是正 1 ターゲット、世界のケースなど
第 13 回	SDGs 10-2	不平等是正 2 改善のためのアプローチなど
第 14 回	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した SDGs のデータソースにアクセスし、内容の理解を深めることを勧める。本授業の予習は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

A と同様

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基き成績評価（100 %）を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講生がズーム参加人数を超えたため、ズームによるリアルタイム講義を断念し、オンデマンドビデオやオンデマンド教材による講義を中心に進めた。オンデマンドビデオは課題が課される内容以外は視聴回数が低く、オンデマンド教材による講義に切り替えた。本年度は受講人数がズーム参加人数を超えた場合は、出席番号などで時間ごとに区切るのか、オンデマンド教材を中心とした講義を行うのか、適宜受講生の要望をくみ取りつつ授業形態をフレキシブルに対応させていきたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B とともに履修することを推奨する。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn about the Sustainable Development Goals (SDGs) in detail, continuously A. By learning SDGs, you learn variety of Global issues and trend of policies, efforts and progress regards Global issues. As outside studies, I hope one hour before classroom and three hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN100CA
Japan and the Global Economy A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Japan's economy witnessed a fast growth after world war II. But ever since 1989, Japan's imploding stock bubble threw the country into a deep financial crisis, resulting in the famous "lost decades". And the stagnation continues especially after the world economic crisis hit in 2008. This will be one-year course. In the 1st semester, we will mainly take a macroeconomic perspective, and look at the reality and problems of Japanese economy from 1980s in a big picture, such as economic growth, financial and monetary policies, "the lost decade" and Abenomics.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

This will be an on-demand course. Videos and teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. The combination of response papers, homework and a final exam will be used.

The answers to the representative questions in the response papers will be provided in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	The general introduction of this course
2	GDP, demand and supply, and other basic concepts	To understand the definition of GDP, equilibrium and other basic economic terms
3	Rise of Japanese economy after World War 2	How Japanese economy developed after the war
4	The growth engine and Japan's "economic miracle"	To explain the Japan's fast economic growth using growth theory
5	National savings and economic growth in Japan	How Japan's economic growth can be explained by national savings
6	Japan's financial policy	To introduce the basic fiscal policies of Japan, from the perspective of investment and savings (taxation, government expenditure)
7	Japan's monetary policy	To introduce the basic monetary policies of Japan (interest rate, money supply)

8	The lost decade (1)	How the bubble in Japan was formed?
9	The lost decade (2)	The burst of the bubble and the stagnation of the economy in Japan
10	Subprime loan and world financial crisis	How the world financial crisis was triggered by subprime loan problem (in comparison to Japan's bubble economy)
11	From inflation to deflation: does Abenomics work?	How deflation hurt Japan and three arrows of Abenomics
12	Appreciation of yen and balance of payment & Japanese economy	Introduction of exchange rate and how that affects the Japanese economy
13	Japan's labor market	Introduction of the history and trend from lifetime to "irregular" employment, from a macro perspective
14	Japan's energy economy and sustainable development	How Japan's energy economy and sustainable development have developed

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out these teaching materials before each class.

【参考書】

Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.

Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004

Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014

Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

Japan's economy witnessed a fast growth after world war II. But ever since 1989, Japan's imploding stock bubble threw the country into a deep financial crisis, resulting in the famous "lost decades". And the stagnation continues especially after the world economic crisis hit in 2008. This will be one-year course. In the 1st semester, we will mainly take a macroeconomic perspective, and look at the reality and problems of Japanese economy from 1980s in a big picture, such as economic growth, financial and monetary policies, "the lost decade" and Abenomics.

ECN100CA
Japan and the Global Economy B
梶 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will start by investigating how Japan's international trade and foreign direct investment evolve with the development of globalization, followed by discussion on some of the latest topics concerning Japan's integration with the world economy.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

This will be an on-demand course. Videos and teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. The combination of response papers, homework and a final exam will be used.

The answers to the representative questions in the response papers will be provided in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the contents to be covered in the second semester
2	Japan's trade with other countries	Why Japan promoted export and the benefit of trade liberalization
3	Japanese trade policies and the impact on world economy	The export and import policies that Japan adopted and its impact on world economy: the case of TPP
4	Firm structure and recruiting system in Japan	What does a firm consist of? What's the recruiting system in Japan like compared to other countries? The case of Toyota multinational firms
5	The basics of FDI and Japanese multinational firms	To introduce the types of FDI and other basic knowledge of FDI
6	"Hollowing out" of Japan's manufacturing sector through overseas FDI	Japan's outward FDI and its connection with "hollowing out" impact: the case of Manga industry
7	Doing business in Japan	To introduce the benefits and difficulties of doing business in Japan: the case study of TripAdvisor

8	Japan's recent economic stagnation	The declining economic growth is thought to be caused by insufficient domestic consumption: what to do
9	Shrinking population and immigration policy	How Japan can increase its working force, e.g. by using the immigration policy: the case of Germany
10	Ageing problem in Japan	The problem lies in the unbalanced pension system: how Japan can learn from other developed economies
11	ICT and innovation	How ICT promotes trade and FDI through the channel of innovation: case study (by JETRO report)
12	Structural reform of Japan	Structural reforms are vital for Japan, especially for agricultural farmers small and medium-sized firms
13	Sharing economy in Japan	The development and prosperity of sharing economy in Japan, in comparison to China
14	EU, ASEAN and Japan's economic integration	How Japan can learn from EU and ASEAN to be integrated into global economy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out the teaching materials before each class.

【参考書】

Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

We will start by investigating how Japan's international trade and foreign direct investment evolve with the development of globalization, followed by discussion on some of the latest topics concerning Japan's integration with the world economy.

ECN100CA
Practical Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の Chapter1 から Chapter12 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Is Facebook free?
2	Economic Methods and Economic Questions	How much more do workers with a college education earn?
3	Economic Methods and Economic Questions	How much do wages increase when an individual is compelled by law to get an extra year of schooling?
4	Optimization: Doing the Best You Can	How does location affect the rental cost of housing?
5	Demand, Supply and Equilibrium	How much more gasoline would people buy if its price were lower?
6	Consumers and Incentives	Would a smoker quit the habit for \$100 per month?
7	Sellers and Incentives	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?
8	Perfect Competition and the Invisible Hand	Can a market composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?
9	Trade	Will free trade cause you to lose your job?
10	Externalities and Public Goods	How can the queen of England lower her commute time to Wembley Stadium?

11	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	What is the optimal size of government?
12	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	The Efficiency of Government Versus Privately Run Expeditions
13	Markets for Factors of Production	Do Wages Really Go Down if Labor Supply Increases?
14	Review and Final Exam	Final review of material covered and Final Exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours and review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CA
Practical Economics B
JESS DIAMO N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter13 から Chapter27 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウィルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand.Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation
2	Markets for Factors of Production	Is there discrimination in the labor market?
3	Basic Finance	The basics of business and finance part 1
4	Basic Finance	The basics of business and finance part 2
5	Monopoly	Can a monopoly ever be good for society?
6	Game Theory and Strategic Play	Is there value in putting yourself into someone else's shoes?
7	Oligopoly and Monopolistic Competition	How many firms are necessary to make a market competitive?
8	Trade-Offs Involving Time and Risk	Time and Risk
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What is the total market value of annual economic production?
10	Aggregate Incomes	Inequality
11	Economic Growth	Japan's Post-World War II Economic Growth
12	The Monetary System	Hyperinflation

13	Short-Run Fluctuations	Mutual Funds and Index Investing
14	Review and Final Exam	Final review of material covered and Final Exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CD
企業と経済・基礎 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は、企業、消費者、政府を含めた経済全体の仕組みを、マクロ的に分析する体系化された学問であるが、この講義は、特に「現代ビジネス学科」1 年生向けに、企業とビジネス活動という切り口を中心として、理論と実際の両面から、経済学入門を提供するものである。

【到達目標】

受講生は、講義を通じてマクロの基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対しての問題意識を持つようになることが期待される。なお、2016 年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため、2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による授業でおこなう。春学期には、第 5 回授業終了後（予定）に課題を支援システムの「課題」にアップする。ほぼ 1 週間を提出期間として授業支援システムの「課題」に提出してもらう。締め切り直後の講義内で、模範解答を解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本経済の状況を過去と比較及び国際間で比較	GDP 及び物価指数の長期時系列データでの比較、GDP の国際比較統計での国際比較
第 2 回	日本経済の状況を把握する統計 I	GDP、実質 GDP および産業別生産額
第 3 回	日本経済の状況を把握する統計 II	物価統計と物価指数の作成例
第 4 回	日本経済の状況を把握する統計 (SNA) III	国民所得の分配の内訳としての分配勘定
第 5 回	日本経済の状況を把握する統計 (SNA) IV	消費、投資などを項目として含む支出勘定
第 6 回	消費の水準の変化は何か原因か？ I	GDP と消費の相関、限界消費性向
第 7 回	消費の水準の変化は何か原因か？ II	金利、物価水準などの消費への効果
第 8 回	投資の水準の変化は何か原因か？ I	GDP の成長の投資への効果：加速度原理、利潤原理
第 9 回	投資の水準の変化は何か原因か？ II	機会費用としての金利の投資への効果：投資関数
第 10 回	GDP 決定の理論 I	「45 度線」分析の紹介（図解により）
第 11 回	GDP 決定の理論 II	「45 度線」分析の紹介（数式により）
第 12 回	GDP 決定の理論 III	投資および政府支出の乗数効果、なぜこれらは 1 より大きい？
第 13 回	政府支出増加と減税	政府支出乗数と租税乗数
第 14 回	日本経済の状況を把握する統計	金利および失業率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度、および復習を通じて行うこと。その他詳細は授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

講義内で適宜紹介したいと思う。要望があれば、基本的な経済学入門の教科書を数冊、講義の際に持参するので、手にとって確かめることができるようにしたいと思う。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績に従って、評価をつけることにする。定期試験点数による評価 90%、1 回の課題の提出の有無に 10%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

大学 1 年次の基本科目ということもあり、授業内容を丁寧に、そして適切に講義し、到達目標の達成につなげていきたい。また大教室授業ということもあり、教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to get the view for present economic performance of Japan as referring the figures of basic economic indicators; GDP, and Price indices, etc., get statistical differences among the macroeconomic statistical indicators; nominal GDP, and real GDP, and several price indices, etc., and understand tables of System of National Accounts (S.N.A). Moreover, the multiplier effect of Governmental Expenditure on GDP could be understood, based on simple Keynesian model.

ECN100CD
企業と経済・基礎 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期 A の講義に続いて、秋学期 B の講義では、「現代ビジネス学科」1 年生が、企業とビジネス活動という切り口を中心に、理論と実際の両面から、経済学の基礎的な考え方、分析の仕方を学ぶ。B では「ミクロ経済学」を中心に学習する。

【到達目標】

受講生は、講義を通じてミクロ経済学やゲーム理論の基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対してアプローチするための問題意識を持つことが期待される。なお、本科目は「必修科目」であるので、2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業の形で進める。ただ、昨年度の Zoom での動画配信やハイフレックス授業も概ね好評だったことから、その経験やコンテンツを活かしつつ、丁寧に進めて行く。受講生には、Hoppii の「お知らせ」を通じて連絡し、「教材」や「課題」から授業資料や課題を入手できるようにする。課題提出へのフィードバックは、大人数授業のため、重要なポイントに絞って、適切に行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の概観	授業の概説：需要・供給と市場メカニズム。ゲーム理論について。
第 2 回	消費者行動の理論①	予算制約（消費可能性集合）、消費者の選好、効用と無差別曲線の概念。
第 3 回	消費者行動の理論②	予算制約下の効用最大化、需要関数の導出①。
第 4 回	消費者行動の理論③	予算制約下の効用最大化、需要関数の導出② → 集計。いくつかの比較静学。
第 5 回	消費者行動の理論④	応用：消費者余剰、飲み放題、ディズニールンドの料金設定（二部料金制）など
第 6 回	企業行動の理論①	企業とは。生産関数とその意味。限界生産性の概念。
第 7 回	企業行動の理論②	利潤最大化の問題と企業の供給関数の導出 → 集計
第 8 回	企業行動の理論③	新古典派企業理論、岩井法人理論、企業統治の多様性。
第 9 回	練習問題（提出課題）の解説。消費者理論、企業理論。	最適化の 1 階条件などを使った計算問題の解き方。消費者理論、企業理論の計算問題。
第 10 回	市場の需要、供給曲線とその応用	市場の均衡と需要供給曲線を使った「政策効果」の分析。高校の「政治経済」との接続。
第 11 回	ゲーム理論入門①	ゲーム理論～ゲームとは何か。「囚人のジレンマ」とその応用。
第 12 回	ゲーム理論入門②	チキンゲーム、立地ゲームなどの紹介。「ナッシュ均衡」の概念。

第 13 回 ゲーム理論入門③ 調整ゲームなど、ゲームのさらなる紹介と応用例。

第 14 回 インセンティブの経済学 企業の経営者や従業員の「やる気」を引き出す。制度設計への応用。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノートおよび配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。配布資料は「授業支援システム」にアップするので、利用すること。

【テキスト（教科書）】

前半については、授業内でレジュメや参考資料を配布する。後半については、鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第 2 版』（勁草書房）を教科書とする。

【参考書】

①ミクロ経済学：伊藤元重『はじめての経済学』日経文庫、同『入門経済学』日本評論社 ②ゲーム理論：岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣、武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫 ③日本経済：池上彰『経済のニュースが面白いほどわかる本』中経文庫 ④企業経営、組織の経済学：岩井克人『会社はこれからどうなるのか』平凡社、新原浩朗『日本の優秀企業研究』日経ビジネス文庫、中島隆信『こうして組織は失敗する』中公新書

【成績評価の方法と基準】

数回の課題提出（30%）および期末試験（70%）の合計で評価する。課題提出へのフィードバックは、大人数授業のため、ポイントを絞って適切に行う。

【学生の意見等からの気づき】

1 年次の経済学の基本科目であるので、授業内容を丁寧に、適切に講義し、目標達成につなげていきたい。提出課題へのフィードバック（解説と補足説明）は好評であったので、継続したい。教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

【Outline (in English)】

Following Spring Semester A, in the Fall Semester B, the first-year students of Department of Business Economics will learn the basic way of thinking and analysis of economics from both theoretical and practical perspectives, focusing on the perspectives of firms and business activities. In B, students will study Microeconomics. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Final Grade will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and Three assignments (problem sets) (30%).

MAN100CA
簿記 I A
倉井 潔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないのでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で表現することを目的とします。

【到達目標】

- ・ 企業が行う経済活動の二面性を理解する。
- ・ 簿記のルールを理解する。
- ・ 決算書の作成方法を習得する。

これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。演習問題および試験の解答と解説は Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス-簿記を学ぶにあたって-	簿記ができると何ができるようになる？ どのように役立てる？
第 2 回	貸借対照表と損益計算書を実際に作ってみよう/両者の関係/利益はお金じゃない？	簡単なケースを用いて貸借対照表と損益計算書を実際に作成します。
第 3 回	経済活動の二面性と仕訳	経済活動の二面性について理解し、これらを仕訳に変換するための法則と方法を学習します。
第 4 回	取引の仕訳と勘定記入	仕訳から総勘定元帳への転記の方法について学習します。
第 5 回	試算表の作成	合計残高試算表の作成方法について学習します。
第 6 回	損益振替仕訳と元帳の締め切り、6 桁式精算表、貸借対照表と損益計算書の作成	決算振替仕訳の意義と各勘定の締め切り、6 桁式精算表と貸借対照表、損益計算書の作成方法について学習します。
第 7 回	簿記一巡の手続き	仕訳から決算書の作成に至るプロセスについて演習します。
第 8 回	中間試験および解説	第 7 回までの内容について中間試験および解説を行います。
第 9 回	三分法による商品売買取引の会計処理①	三分法の意義と売上原価の算定に関する決算整理仕訳について学習します。
第 10 回	三分法による商品売買取引の会計処理②	三分法による商品売買取引の会計処理について問題演習を行います。
第 11 回	仕入諸掛と売上諸掛/仕入戻しと売上戻り/仕入帳と売上帳	仕入諸掛と売上諸掛、商品の返品の会計処理および仕入帳と売上帳の記入方法について学習します。
第 12 回	売掛金と買掛金	得意先元帳と仕入先元帳の記入方法について学習します。
第 13 回	商品有高帳	商品売買取引に関する仮定と商品有高帳の記入方法、売上高・売上原価・売上総利益の計算方法について学習します。
第 14 回	期末試験および解説	春学期の内容について期末試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部裕豆, 片山覚, 北村敬子編著『検定簿記講義 3 級商業簿記』（講義開始時における最新版）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 15% (5 点満点 ×3 回)、中間試験 35% (35 点満点)、期末試験 50% (50 点満点) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn how to express corporate activities in monetary value by learning the rules of bookkeeping to learn how to prepare financial statements.

< Goal > By the end of the course, students should be able to do the following

A. Understanding the duality of a company's economic activity

B. Understanding the rules of bookkeeping

C. Learn how to create financial statements

Through these understandings, the goal is for students to acquire "Nissho Bookkeeping Examination Level 3" level knowledge.

< Work to be done outside of class (preparation, etc.) >

Students are expected to answer the exercises that could not complete during the lecture and the homework that is required separately by the next lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content .

< Grading criteria >

Your overall grade in the class will be decided based on the following 15% quizzes (3 x 5 points), 35% mid-term exam (35 points), and 50% final exam (50 points)

MAN100CA
簿記 I B
倉井 潔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記 I A で学習した内容の理解を前提として、各種取引の会計処理について学習する。決算整理仕訳を含めた簿記一巡の流れを理解し、決算書の作成を行うことができるようになる。

【到達目標】

・各種取引の意義を理解し、会計処理を習得する。
・決算整理の意義を理解し、8 桁式精算表の作成方法を習得する。
最終的には日商簿記 3 級の合格レベルの知識と技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。演習問題および試験の解答と開設は Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現金預金取引	当座預金、当座借越、当座預金出納帳、小口現金
第 2 回	現金過不足	現金過不足の会計処理、記入漏れと誤記入に対する修正仕訳
第 3 回	売掛金・買掛金以外の債権・債務	クレジット売掛金、前払金と前受金、貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券と商品券、差入保証金
第 4 回	手形取引	手形債権と手形債務の会計処理、受取手形記入帳と支払手形記入帳の記入方法
第 5 回	有形固定資産取引①	有形固定資産の種類、取得時の会計処理、減価償却（定額法）の会計処理と記帳方法（直接法、間接法）
第 6 回	有形固定資産取引②	有形固定資産の売却取引、期中取得と期中売却
第 7 回	中間試験および解説	第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	売上債権と貸倒れ	売上債権の貸倒時の会計処理、貸倒引当金の設定方法
第 9 回	株式の発行と繰越利益剰余金の分配	株式会社の設立および増資時の会計処理、繰越利益剰余金の分配と利益準備金の計上
第 10 回	経過勘定科目①	収益・費用の未収・未払・前受・前払の意義と会計処理、消耗品の期末処理
第 11 回	経過勘定科目②	経過勘定科目の会計処理に関する演習問題
第 12 回	株式会社の税金	租税公課、法人税、消費税の会計処理
第 13 回	総合問題演習	8 桁式精算表の作成を中心とした総合問題演習
第 14 回	期末試験および解説	第 13 回までの内容について期末試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部裕豆、片山覚、北山敬子編著『検定簿記講義』（講義開始時における最新版）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 15%（5 点満点 ×3 回）、中間試験 35%（35 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline (in English)】

Assuming that you understand what you learned in the Bookkeeping IA course, you will learn about accounting for various transactions. You will be able to understand the flow of bookkeeping, including financial statement journals, and create financial statements.

< Goal >

By the end of the course, students should be able to do the following

A. Understand the meaning of various transactions and learn accounting.

B. Understand the meaning of adjustment and learn how to create an 8-digit worksheet.

Eventually, students will acquire the knowledge and skills to pass the Level 3 Nissho Bookkeeping Examination.

< Work to be done outside of class (preparation, etc.) >

Students are expected to answer the exercises that could not complete during the lecture and the homework that is required separately by the next lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content .

< Grading criteria >

Your overall grade in the class will be decided based on the following 15% quizzes (3 x 5 points), 35% mid-term exam (35 points), and 50% final exam (50 points)

MAN100CA
簿記 I A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。講義では、複式簿記のシステムに従って、企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、最終的に損益計算書と貸借対照表にまとめるまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの流れを理解する、4. 損益計算書・貸借対照表を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業会計の意義	会計の意義と種類、経営活動と会計、簿記の基本原則
第 2 回	貸借対照表の仕組み	資産・負債・資本、貸借対照表を用いた損益計算
第 3 回	損益計算書の仕組み	収益と費用、損益計算書を用いた損益計算、B/S と P/L の関係
第 4 回	勘定と取引	勘定の意義、簿記上の取引、取引要素と取引の二重性
第 5 回	仕訳と転記	貸借平均の原理、仕訳のルール、元帳への転記
第 6 回	試算表	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
第 7 回	現金預金	通貨代用証券、現金過不足の処理、現金出納帳
第 8 回	当座預金	当座預金、当座預金出納帳
第 9 回	小口現金	インプレスト・システム、小口現金出納帳
第 10 回	商品売買①	分記法、三分法、掛け売買、手付金・内金の処理
第 11 回	商品売買②	商品券、返品処理、諸掛りの処理
第 12 回	商品売買③	売掛金元帳、買掛金元帳
第 13 回	商品売買④	商品有高帳、売上原価の計算
第 14 回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容、特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of double-entry bookkeeping system.(Learning Objectives)At the end of the course, students are expected to acquire the principles of bookkeeping system and produce financial statements.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN100CA
簿記 I B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。講義では、複式簿記のシステムに従って、企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、最終的に損益計算書と貸借対照表にまとめるまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの流れを理解する、4. 損益計算書・貸借対照表を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	手形取引	約束手形、手形記入帳、手形による借入れ・貸付け
第 2 回	各種帳簿、電子記録債権・債務	主要簿と補助簿、各種帳簿の関係、電子記録債権・債務
第 3 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却・賃借
第 4 回	債権債務	未収入金・未払金、仮払金・仮受金、立替金・預り金
第 5 回	決算	決算の意味、決算手続き
第 6 回	決算整理①	租税公課、貯蔵品の処理
第 7 回	決算整理②	売上原価を算定するための仕訳と勘定記入
第 8 回	決算整理③	貸倒引当金の設定
第 9 回	決算整理④	有形固定資産の減価償却
第 10 回	決算整理⑤	前払費用、前受収益、未払費用、未収収益
第 11 回	精算表	8 桁精算表の作成
第 12 回	帳簿の締切と財務諸表	損益振替、繰越利益剰余金勘定、財務諸表の作成
第 13 回	株式会社の会計	株式の発行、利益剰余金の配当・処分、税金
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容、特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of double-entry bookkeeping system.(Learning Objectives)At the end of the course, students are expected to acquire the principles of bookkeeping system and produce financial statements.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN100CA
簿記 I A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記は、企業の経済活動を記録するためのシステムであり、企業経営や企業評価に欠かせません。この講義では、簿記の基本的なルールを学び、企業の日々の経済活動の記録から、企業の一年間の成果である損益計算書・貸借対照表を作成するまでのプロセスを理解します。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 企業が行う経済活動の二面性を理解することができる、2. 企業の日々の取引を仕訳することができる、3. 損益計算書・貸借対照表を作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下の方法で進めます。

①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②問題演習：指定のテキストを使って問題を解いてもらい、解説を行います。

③確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簿記の目的	簿記の目的
2	貸借対照表のしくみ	貸借対照表の見方
3	損益計算書のしくみ	損益計算書の見方
4	経済活動の二面性と仕訳	経済活動の二面性と仕訳
5	仕訳と転記	仕訳から総勘定元帳への転記の方法
6	試算表	合計残高試算表の作成方法
7	簿記一巡の手続き	仕訳から財務諸表を作成するまでのプロセス
8	現金預金	現金預金の会計処理
9	現金過不足	現金過不足の会計処理
10	小口現金	小口現金の会計処理
11	商品売買（1）3 分法	3 分法
12	商品売買（2）諸掛と返品、仕入帳と売上帳	諸掛と返品時の処理、仕入帳と売上帳への記入方法
13	商品売買（3）商品有高帳	商品有高帳への記入方法
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

講義時間内の演習時に、以下に指定するテキストを使用します。

・渡辺裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級 商業簿記』中央経済社

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること（講義時間内の演習時に必要となります）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge of the Official Business Skills Test in Bookkeeping 3rd grade. Bookkeeping is the system of recording the business activities, and which is essential to business administration and analysis of the business activities.

【Learning Objectives】

In this course students will learn the way of daily journal entry and the preparation of financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN100CA
簿記 I B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記は、企業の経済活動を記録するためのシステムであり、企業経営や企業評価に欠かせません。この講義では、簿記の基本的なルールを学び、企業の日々の経済活動の記録から、企業の一年間の成果である損益計算書・貸借対照表を作成するまでのプロセスを理解します。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 企業が行う経済活動の二面性を理解することができる、2. 企業の日々の取引を仕訳することができる、3. 損益計算書・貸借対照表を作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下の方法で進めます。

①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②問題演習：指定のテキストを使って問題を解いてもらい、解説を行います。

③確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	手形取引	約束手形、手形記入帳、手形による借入れ・貸付け
2	各種帳簿、電子記録債権・債務	主要簿と補助簿、各種帳簿の関係、電子記録債権・債務
3	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却・賃借
4	債権債務	未収入金・未払金、仮払金・仮受金、立替金・預り金
5	決算	決算の意味、決算手続き
6	決算整理①	租税公課、貯蔵品の処理
7	決算整理②	売上原価を算定するための仕訳と勘定記入
8	決算整理③	貸倒引当金の設定
9	決算整理④	有形固定資産の減価償却
10	決算整理⑤	前払費用、前受収益、未払費用、未収収益
11	精算表	8 桁精算表の作成
12	帳簿の締切と財務諸表	損益振替、繰越利益剰余金勘定、財務諸表の作成
13	株式会社の会計	株式の発行、利益剰余金の配当・処分、税金
14	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

講義時間内の演習時に、以下に指定するテキストを使用します。

・渡辺裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓（12 桁表示のものが望ましい）を用意すること（講義時間内の演習時に必要となります）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge of the Official Business Skills Test in Bookkeeping 3rd grade. Bookkeeping is the system of recording the business activities, and which is essential to business administration and analysis of the business activities.

【Learning Objectives】

In this course students will learn the way of daily journal entry and the preparation of financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN100CA
簿記 I A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないのでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で測定することを目的とします。

【到達目標】

- ・企業が行う経済活動の二面性を理解する。
- ・簿記のルールを理解する。
- ・決算書の作成方法を習得する。

これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行った上で、講義内容に関する問題演習を行います。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行います。小テスト、中間試験、期末試験は対面で行います。小テスト、中間試験の答えは採点の上、すべて返却します。期末試験の答えについては、希望者に返却します。演習問題および試験の解答と解説は Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／複式簿記の意義と役割／貸借対照表と損益計算書を実際に作ってみよう/利益はお金じゃない？	簡単なケースを用いて決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成します。
第 2 回	経済活動の二面性と仕訳	簡単な経済活動を用いて経済活動の二面性を理解し、仕訳の法則の理解につなげます。
第 3 回	仕訳と勘定記入	仕訳の次のステップである勘定記入について学習します。
第 4 回	決算手続と貸借対照表・損益計算書の作成	試算表の作成、決算振替仕訳、帳簿の締め切り、6 桁式精算表の作成、決算書の作成について学習します。
第 5 回	簿記一巡の流れ、小テスト (1)	個々の取引の仕訳から決算書作成に至る一連のプロセスについて演習を行います。小テスト (1) を実施します。
第 6 回	諸取引の会計処理と決算書の作成	取引の仕訳から決算書の作成に至るまでの一連の流れについて演習を行います。
第 7 回	T 勘定を用いた実践練習問題	T 勘定を用いた実践問題について、反復練習を行います。
第 8 回	中間試験および解説	第 7 回までの内容について中間試験および解説を行います。

第 9 回	三分法による商品売買取引の会計処理	三分法の意義、および売上原価の算定に関する決算整理仕訳について学習します。
第 10 回	仕入諸掛と売上諸掛／仕入戻しと売上戻り／仕入帳と売上帳	仕入活動と売上活動に関する諸取引の処理、および仕入帳と売上帳の記入方法について学習します。
第 11 回	売掛金と買掛金、小テスト (2)	得意先元帳と仕入先元帳の記入方法について学習します。第 11 回までの内容について小テストを実施します。
第 12 回	商品有高帳の意義と作成方法	先入先出法と移動平均法による商品有高帳の記入方法について学習し、売上総利益の算定過程について理解します。
第 13 回	現金預金取引	簿記上の「現金」、小切手と当座預金、当座借越、および現金過不足の会計処理について学習します。
第 14 回	期末試験および解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントの演習問題は、対面での講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。オンライン授業の場合は繰り返し視聴することによって理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義 3 級商業簿記』、中央経済社（講義開始時における最新版）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10%（5 点満点 ×2 回）、中間試験 40%（40 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course introduces the method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

At the end of the course, students are expected to be able to convert corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following, (a) 2 times quiz (mini test): 20%, (b) mid-term exam: 30%, term-end exam: 50%.

MAN100CA
簿記 I B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記 I A で学習した内容の理解を前提として、各種取引の会計処理について学習する。決算整理仕訳を含めた簿記一巡の流れを理解し、決算書の作成を行うことができるようになる。

【到達目標】

- ・各種取引の意義を理解し、会計処理を習得する。
 - ・決算整理の意義を理解し、8 桁式精算表の作成方法を習得する。
- 最終的には日商簿記 3 級の合格レベルの知識と技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行った上で、講義内容に関する問題演習を行います。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行います。小テスト、中間試験、期末試験は対面で行います。小テスト、中間試験の答えは採点の上、すべて返却します。期末試験の答えについては、希望者に返却します。演習問題および試験の解答と解説は Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／売掛金・買掛金以外の債権・債務	前払金と前受金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、差入保証金などの債権債務について学習します。
第 2 回	手形取引	手形債権と手形債務の会計処理、受取手形記入帳と支払手形記入帳の記入方法について学習します。
第 3 回	有形固定資産の取得原価と減価償却	有形固定資産の種類と意義、なぜ取得原価に付随費用を含めるのか、減価償却（定額法）について学習します。
第 4 回	減価償却の記帳方法と有形固定資産の売却	減価償却に関する記帳方法（表示方法）、および有形固定資産の売却処理（期中取得、期中売却を含む）について学習します。
第 5 回	有形固定資産取引に関する演習問題、小テスト (1)	有形固定資産の取得、減価償却、および売却処理に関する演習問題に集中的に取り組みます。小テスト (1) を実施します。
第 6 回	売上債権の貸倒れと貸倒損失、貸倒引当金	売上債権（売掛金、受取手形）の貸倒れと貸倒引当金の意義および会計処理について学習します。
第 7 回	株式会社の資本（純資産）	株式会社の設立および増資時の会計処理、繰越利益剰余金の分配と利益準備金の計上について学習します。
第 8 回	中間試験および解説	第 7 回までの内容について中間試験および解説を行います。
第 9 回	収益と費用の未収、未払、前受、前払（経過勘定科目）、消耗品、収入印紙	経過勘定科目の意義と会計処理、再振替仕訳の必要性、消耗品費、収入印紙の期末処理について学習します。

第 10 回	経過勘定科目に関する演習問題、小テスト (2)	経過勘定科目、消耗品費、収入印紙の会計処理に関する演習問題に集中的に取り組めます。小テスト (2) を実施します。
第 11 回	株式会社の税金	株式会社の法人税について、確定申告、中間申告と納付、および消費税の会計処理について学習します。
第 12 回	伝票	入金伝票、出金伝票、売上伝票、仕入伝票、振替伝票の起票と、仕訳日計表および帳簿への記入方法について学習します。
第 13 回	総合問題演習	各講義で学習した期中取引、および決算整理事項の会計処理に基づく 8 桁式精算表の作成と決算書の作成について演習問題に取り組めます。
第 14 回	期末試験および解説	第 13 回までの内容について期末試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。オンライン授業の場合は繰り返し動画を視聴することによって理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部裕巨、片山覚、北山敬子編著『検定簿記講義』（講義開始時ににおける最新版）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10%（5 点満点 ×2 回）、中間試験 40%（40 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course introduces the method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

At the end of the course, students are expected to be able to convert corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following, (a) 2 times quiz (mini test): 20%, (b) mid-term exam: 30%, term-end exam: 50%.

MAN100CA
企業経営入門 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営入門 A では、基礎的な企業の経営手法を学びます。グローバル企業における組織及び経営の基礎ノウハウなどの語彙及び具体的な内容についての講義を行います。

【到達目標】

企業経営に興味があり、何か自分で将来できるのか？ という事を切欠に企業経営を理解できるようになります。また、学生が企業経営を評価できることで自分自身の将来の進路を決める時に役立ちます。最終的に学生が専門的な企業経営内容の質疑に適切に応えることができるようになることが目標とする講義です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ② 毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③ 教員からのコメントや資料の意味についての説明を行います。
- ④ 講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤ 前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	企業組織とは何か？	組織図のパターンから読み取る会社の特性と将来
②	企業経営とは？	目標値の設定と日程管理
③	目標値達成手法について	コミットとターゲットとの両立方法
④	企業評価手法（初級）	外から何を評価されているのか？
⑤	企業評価手法（中級）	営業手法から商品について
⑥	企業評価手法（上級）	商品原価内訳について
⑦	企業評価手法（上級プラス）	税金の不思議について
⑧	商品とマーケット評価	海外（アメリカ、欧州、中国）と日本の違い
⑨	商品性とは？	自動車、パソコン、スマホ服飾など異なる商品毎に評価軸を議論します。
⑩	国際ルールと商法を含めた法律、税金	海外や日本の商法の概要説明
⑪	労務費とその他費目	製造会社に必要な費目説明
⑫	収益の最大化手法	あるべき原価とは？
⑬	海外事業の成功の鍵	コミュニケーションが全て
⑭	利益の次は、還元	次への準備、どのように還元するのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、可能であればキーワードのテーマと内容から自分なりにネットで調べてください。

復習は、公開情報の確認を行い、一般的にはどのように進めるのかを確認ください。

本講義の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要時には当日配布しますので活用ください。

【参考書】

講義内で使用した専門語彙からネットで検索ください。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回目の講義時に途中確認試験（50 %）を行い、最終講義終了後マークシート方式または、正誤テスト（50%）を行います。この合計 100%分で成績評価を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

他の講義実績から対話形式を可能な限りの試みます。

【学生が準備すべき機器他】

通常の講義ではスマホなどの機器を持参し、その場で確認できる状況にしてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Corporate Management Basic

1.Learn basic corporate management methods.

2.Lectures on vocabulary and specific contents such as basic know-how of organization and management in global companies.

Learning Objectives:

1.Interested in corporate management, what can you do in the future? With that as a starting point, you will be able to understand corporate management.

2.Also, being able to evaluate corporate management helps students decide their own future course.

3.Ultimately, the goal of this lecture is to enable students to properly answer questions about professional corporate management.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

MAN100CA

企業経営入門 B

川邊 安彦

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営入門 B では、テクニカルなノウハウと共に海外に弱い日本企業の体質の説明をします。

目的は、今後今まで以上に海外が身近な世界になる経済界においてグローバルビジネスの理解度向上を行い競争力のある人材の教育をおこないたいと考えています。

【到達目標】

日本の海外での評価や現状認識を行うことで日本の現状の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。

④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	経営戦略とは？	自動車生産を基に海外市場の特異性を説明し、異なる商品毎に市場要求が異なる理解を深めてもらう。
②	商品戦略と企業戦略	商品戦略と企業戦略の説明
③	SWOT分析	商品戦略と企業戦略の説明
④	戦略作成の方法	自動車業界とリチウム電池の戦略マップの説明
⑤	品質と要求性能の関係	自動車の衝突安全性能の向上を事例に安全の商品価値の説明
⑥	マーケティング戦略	自動車のマーケティング手法から戦略の定義の理解を説明
⑦	戦略策定	収益性向上の戦略について
⑧	競争優位の戦略	日本の自動車業界がなぜ飛躍的に伸びたのか？ 今後の展望は？
⑨	日本の製造業の明暗	もの作りの伝統と現状
⑩	何故、ダイムラー・BMW なのか？	世界 No. 1 を維持できる理由
⑪	何故、アップル・ダイソンなのか？	人間の求めるものに依る商品戦略
⑫	知的財産戦略	今までの日本の優位性と今後
⑬	技術優位で勝てない日本企業	オープンマインドの弱さ
⑭	標準化	ルールが創れない社会構造
⑮	自由な発想	今、何が求められているのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、可能であればキーワードのテーマと内容から自分なりにネットで調べてください。

復習は、公開情報の確認を行い、一般的にはどのように進めるのかを確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて当日配布しますので活用ください。

【参考書】

講義内で使用した専門語彙はネットで検索ください。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回目の講義時に途中確認試験（50 %）を行い、最終講義終了後マークシート方式または、正誤テスト（50%）を行います。この合計 100%分で成績評価を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

他の講義経験から対話形式を可能な限り試みます。

【学生が準備すべき機器他】

通常の講義ではスマホなどの機器を持参し、その場で確認できる状況にしてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Corporate Management Basic

1.Learn basic corporate management methods.

2.Lectures on vocabulary and specific contents such as basic know-how of organization and management in global companies.

Learning Objectives:

1.Interested in corporate management, what can you do in the future? With that as a starting point, you will be able to understand corporate management.

2.Also, being able to evaluate corporate management helps students decide their own future course.

3.Ultimately, the goal of this lecture is to enable students to properly answer questions about professional corporate management.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1年次の「企業と経済・基礎」（ミクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』を使って授業を進める。この講義では、昨年好評だった「Zoomによる動画配信」のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 v s 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別）
		3つのモデルの比較（余剰分析）
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT 出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（65 %）、レポートの合計点（30 %）、リアクションペーパーの合計点（5 %）で考えている。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45° 線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1 回課題を出すので、1 週間を日途に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後に、授業内で正解の解説を行う。コロナの感染状況がかなり悪ければ、zoom による授業に切り替える可能性がある。その際は、授業支援システムの「お知らせ」により周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に板書により解説した図解をノートのファイルにして授業支援システムの「教材」にアップしておく。各自、ノートのファイルをダウンロードして、自分で再現できるようになってほしい。そのため、2 時間程度は必要かと思う。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末に出す課題の解答を授業支援システムの「課題」にアップしてもらいその素点に関して 85%、1 回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level, and interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model

ECN200CA

社会経済学応用 A

大友 敏明

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ビール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣双書、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA

社会経済学応用 B

大友 敏明

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を理論的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA

社会経済学応用 A

大友 敏明

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ビール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣双書、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA

社会経済学応用 B

大友 敏明

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を理論的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA

マクロ経済学 A

松尾 朋紀

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDP について（1）	GDP とは
第3回	GDP について（2）	GDP を見る・分析する
第4回	GDP について（3）	予備・質問の受付：GDP について
第5回	GDP についての総括	確認テスト1：GDP について
第6回	長期モデル1（1）	総供給と総需要
第7回	長期モデル1（2）	財市場の均衡
第8回	長期モデル1（3）	予備・質問の受付：長期モデル1
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2（1）	貨幣と貨幣需要
第11回	長期モデル2（2）	貨幣市場の均衡と政策の効果
第12回	長期モデル2（3）	予備・質問の受付：長期モデル2
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018 年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces economic indicators and basic macroeconomic models to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis

2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%、Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA

マクロ経済学B

松尾 朋紀

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション/ 短期モデル（1）	ガイダンス/短期モデルにおける 財市場
第2回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第3回	短期モデル（3）	短期モデルによる政策効果分析
第4回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第5回	人々の将来予想と経済 変動（1）	家計の将来予想
第6回	人々の将来予想と経済 変動（2）	企業による価格設定
第7回	人々の将来予想と経済 変動（3）	企業の将来予測
第8回	人々の将来予想と経済 変動の総括	確認テスト2：人々の将来予想と 経済変動
第9回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造と生産関数
第10回	経済成長モデル（2）	ソロー・スワン経済成長モデル
第11回	経済成長モデル（3）	人口成長と技術進歩の役割
第12回	経済成長モデルの総括	確認テスト3：経済成長モデル
第13回	日本経済とマクロ経済 学	最近の日本経済
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces economic indicators and basic macroeconomic models to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis
2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%、Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
マクロ経済学 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の対面授業を行います。
- ・講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック、新古典派の投資理論
7	設備投資と在庫投資 (3)	ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習して下さい。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

(複数回実施する試験により評価します)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

【その他の重要事項】

・秋学期の「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。
・各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。

【Outline (in English)】

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society from an independent perspective.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of macroeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN200CA

マクロ経済学B

檜野 智子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

・今日の日本経済における問題が何か理解する。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

・講義形式の対面授業を行います。
・講義資料は学習支援システムで配布します。
・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム
3	経済政策の有効性 (3)	非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ディマンドプル・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長とは何か、経済成長の源泉、経済成長理論
11	経済成長理論 (2)	成長会計、収束の概念
12	経済成長理論 (3)	内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の1～6章を自習しておいてください。
・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第5版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

(複数回実施する試験により評価します)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、オンライン試験、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

【その他の重要事項】

各回の授業形態は予定です。詳細は「学習支援システム」で通知します。

【Outline (in English)】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

At the end of the course, students are expected to understand the basic theory of macroeconomics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

The final grade will be calculated according to the examination (100%).

ECN200CA
ミクロ経済学 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基礎知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（＝ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。

本講義は、すべての回を対面に実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論 (1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論 (2)	企業の意思決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論 (3)	限界費用と平均費用、企業の意思決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論 (4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論 (5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論 (6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論 (7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定 (1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定 (2)	リスクに対する態度 (危険回避、中立、愛好) について。
11	戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームについて (さまざまな例の提示)。
12	戦略形ゲーム (2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム (3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。
各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

・「需要と供給の理論」の講義資料は、学習支援システムに掲載する。
・第 9 回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年

1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年

2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

教場試験（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。「試験直前のみに勉強する」という無意味なことは、やめてください。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will acquire the basic knowledge needed to analyze real-world problems from the perspective of microeconomics. First, we will review the theory of supply and demand, which is a basic concept in the market transaction theory. Next, we will study "game theory" as a tool for analyzing interdependence among multiple entities. In this lecture, students will learn about the application of strategic-form games and a few equilibrium concepts (i.e., Nash equilibria).

The objective of this lecture is to acquire the ability to analyze the interdependence between people, companies, nations, and other entities in the modern economy from a microeconomic perspective.

Students are required to prepare for and review the contents of this lecture for at least four hours per week. Students are expected to solve practice problems before and after the lecture to check their understanding.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture and Hoppii.

ECN200CA

ミクロ経済学 B

篠原 隆介

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学 A に引き続き、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

ミクロ経済学 A に引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学 A の講義内容を前提として、講義を行う。本講義は、すべての回を対面にて実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学 A との関連について。
2	戦略形ゲームの応用 (1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用 (2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調 (1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調 (2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム (1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム (2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム (1)	2 回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム (2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。
12	繰り返しゲーム (3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1。

13	繰り返しゲーム (4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2 。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年
学習支援システムにて、補助資料を配布する。

【参考書】

- 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
- 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
- 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

教場試験（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。「試験直前のみに勉強する」という無意味なことは、やめてください。

【その他の重要事項】

- ①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
- ②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。
- ③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, following Microeconomics A, students will acquire the basic knowledge needed to analyze economic problems from the perspective of microeconomics. First, we will apply the theory of strategic-form games to the Cournot oligopoly market and the voluntary provision of public goods. These two applications are very famous in economic theory. Second, to examine the relationship between group rationality and individual rationality, we study the concept of Pareto optimality and apply it to the above two games. Third, we will learn sequential games and their applications. Students will learn the formulation of extensive-form games. Finally, students will learn about repeated games by applying the basic knowledge that they have acquired so far. Continuing from Microeconomics A, the objective of this course is to understand the game theory, which analyzes interdependent relationships among various economic agents in the modern economy. Students are required to prepare for this class and review the content of this class for at least four hours per week. Students have to solve problem sets before and after the lecture to check their understanding. Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture and Hoppii.

ECN200CA
ミクロ経済学 A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。シラバス執筆時点（1 月中旬）では対面で講義をおこなう予定である。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・数 学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線 による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産 要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の 導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット、S.、ゲールズビー、A.、サイヴァーソン、C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット、S.、ゲールズビー、A.、サイヴァーソン、C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スピードが上がりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA

ミクロ経済学B

平井 俊行

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。シラバス執筆時点（1月中旬）では対面で講義をおこなう予定である。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、数学準備	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オークション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	不完全競争市場 (1)	独占市場
6	不完全競争市場 (2)	数量競争寡占市場
7	不完全競争市場 (3)	価格競争寡占市場
8	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
9	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
10	ゲーム理論 (6)	繰返しゲーム、カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピグー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN200CA

財政学 A

小林 克也

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定をしていかなければなりません。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学びます。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて学びます。後半では、日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となりました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を 10 回程度出します。私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
11	プライマリーバランス	プライマリーバランスの考え方
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式
14	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとの授業もわかりやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%の評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問へのお答えや提出された課題の採点の活動を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形で作ります。印刷環境を整えて、自分で講義ノートに書き混みを入れながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government needs to cope with the several issues of a huge government debt, increases in the social security costs coming from the aging and low birth rate, and the economic policy against the low growth. In this course, students understand these issues which the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy. Students should be able to consider these roles and Japanese government finance logically and normatively.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN200CA

財政学 B

小林 克也

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の制度や現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、一国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となっていました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を 10 回程度出します。私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
2	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
3	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
4	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

財政学 A の内容を前提に話を進めますので、財政学 A の履修を強く推奨します。経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形で作ります。印刷環境を整えて、自分で講義ノートに書き混みを入れながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider the effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) のの方が基本的な内容。

- (1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社
- (2) 小塩隆士 (2016)『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社
- (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0 %)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

The long-pending problems of the Japanese government are the huge national debt, the increasing cost of social security, and the fiscal policies to tackle the slumping economy. The main aims of this course are two-fold. Its first half deals with the situations where the government interventions in markets are required. Its second half would help the students understand the functions and features of the Japanese government.

Before/After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following
Short tests in classes (100%), Examinations (0%).

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税のしくみ、租税原則
第 7 回	消費税の歴史・制度	導入の歴史、消費税に関わる制度、軽減税率
第 8 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 9 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 10 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 11 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 13 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 14 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

(1) 『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社

(2) 小塩隆士 (2016) 『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社

(3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将寛 (2018) 『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0%)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline (in English)】

Based on the understanding of the institutions and the current situation of the Japanese government which students have learned in Public Finance A, students will learn microeconomic and macroeconomic theories which are applied to the topics such as taxation, public debt, and the effect of the increase in public investment.

Before/After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Short tests in classes (100%), Examinations (0%).

ECN200CA

金融論 A

武田 浩一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の直前になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第 2 回	イントロダクション：金融とは何か	金融とは何か
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味

第 5 回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第 6 回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第 7 回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第 8 回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第 9 回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第 10 回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第 11 回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第 12 回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第 13 回	マネーストック	マネーストックとは何か
第 14 回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートと教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣、2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示される小テストやレポートで主に評価します（80 %）。
授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況や Zoom ミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の直前になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第 2 回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第 3 回	金融市場	短期金融市場について
第 4 回	債券市場と株式市場	長期金融市場について

第 5 回	外国為替市場	外国為替市場について
第 6 回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第 7 回	資産証券化	資産証券化とは何か
第 8 回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第 9 回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第 10 回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーデンス政策について
第 11 回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第 12 回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第 13 回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第 14 回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示される小テストやレポートで主に評価します（80 %）。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況や Zoom ミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	交換の利益	経済学における交換の便益
3	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	貨幣の時間価値 3	年金、コンソル債の価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	最終課題（テスト実施）	金融の役割、証券の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T 等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA

金融論 B

高橋 秀朋

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①：	金融市場概要 金融の機能
2	金融論 A の復習②：	金融仲介の機能 金融仲介機関
3	金融論 A の復習③：	不確実性とリスク 不確実性と市場
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	情報の非対称性、契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T 等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006 年）ISBN 4-535-04117-2, 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance. Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T A や E P A などが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第 2 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 3 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 4 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 5 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 6 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートモデル
第 7 回	長期の為替レート決定①	購買力平価
第 8 回	長期の為替レート決定②	実質為替レート
第 9 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 10 回	国際通貨制度	歴史の概観
第 11 回	金融のグローバル化と最適通貨圏とユーロ	リスクと銀行危機
第 12 回	固定為替レートの範囲	固定為替レートの範囲
第 13 回	発展途上国と通貨危機	国際金融システム改革
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーオンモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・棕著、国際経済学をつかむ、有斐閣
ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等（70%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. The goal of this lecture is to understand the basic principle of international trade theory.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（40%）、期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. The goal of this lecture is to understand the basic principle of international finance.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic theories and concepts of environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観 -	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて -	廃棄物経済学的主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル -	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系 -	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法 -	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政 -	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面 -	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会 -	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果 -	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則 -	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ビグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法 -	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル -	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn the economics of waste and recycling.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic theories and concepts of environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn the economics of waste and recycling.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第 14 回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective.

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	租税の理論、物品税の帰着
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	公債の負担
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学 15 講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics.

ECN200CA
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。

現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口を3区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018年	名目GDP、実質GDPの動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた30年	1991年のバブル崩壊から現在まで、5期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策（1）	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策（2）	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策（1）	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策（2）	MMT理論に関して考察する。
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策（2）	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括 1	第1回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
 - ②小崎・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.

I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.

ECN200CA
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 B は、日本経済論 A をより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深掘する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。

学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケジュール
2	少子化に関する基礎理論（1）	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論（2）	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数（1）	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数（2）	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策（1）	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策（2）	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場（1）	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場（2）	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働（1）	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働（2）	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行（1）	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行（2）	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第4次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

レポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】

Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.

Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを实践するため、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、インターネットのセキュリティについても学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として「コンピュータ入門」履修後の範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出及びフィードバックに「学習支援システムもしくは情報教育システム」を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の総復習	メール作成及び文書作成の総合復習と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の総復習	表計算の総合復習と振り返り
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションの基本理解	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC 実習ですが自宅でも可能な内容に付き、自宅等で課題等に取り組みます。本授業の課題に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しません。担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題の合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、本科目コーディネータ経済学部教員坂本まで問い合わせをしてください。オフィスアワーやメールを利用してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
坂本 憲昭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては、講義が中心となります。実習として Excel VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。そして、プログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出及びフィードバックに「学習支援システムもしくは情報教育システム」を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング前半復習	これまでの授業内容による復習とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング総合	これまでの総合復習とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC 実習ですが自宅でも可能な内容に付き、自宅等で課題等に取り組みます。本授業の課題に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しません。担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

市販されている書籍名 Excel VBA（または Excel マクロ、どちらでも同じ）の入門書が該当します。多くの書籍があり、Excel のバージョンによる違いはないので、ご自分が読みやすい本を選ぶとよいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

基準として課題の合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさをヒントによる気づきで調整します。プログラミングに苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム系企業の業務経験から注意点を紹介します。質問等があれば、本科目コーディネータ経済学部教員坂本まで問い合わせをしてください。オフィスアワーやメールを利用してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".

- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するため、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、インターネットのセキュリティについても学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として「コンピュータ入門」履修後の範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出及びフィードバックに「学習支援システムもしくは情報教育システム」を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の総復習	メール作成及び文書作成の総合復習と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の総復習	表計算の総合復習と振り返り
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションの基本理解	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表
第 14 回	プレゼンテーション演習	現方法の技法について講義 プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC 実習ですが自宅でも可能な内容に付き、自宅等で課題等に取り組みます。本授業の課題に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しません。担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題の合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、本科目コーディネータ経済学部教員坂本まで問い合わせをしてください。オフィスアワーやメールを利用してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
坂本 憲昭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては、講義が中心となります。実習として Excel VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。そして、プログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出及びフィードバックに「学習支援システムもしくは情報教育システム」を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング前半復習	これまでの授業内容による復習とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング総合	これまでの総合復習とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC 実習ですが自宅でも可能な内容に付き、自宅等で課題等に取り組みます。本授業の課題に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しません。担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

市販されている書籍名 Excel VBA（または Excel マクロ、どちらでも同じ）の入門書が該当します。多くの書籍があり、Excel のバージョンによる違いはないので、ご自分が読みやすい本を選ぶとよいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

基準として課題の合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさをヒントによる気づきで調整します。プログラミングに苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム系企業の業務経験から注意点を紹介します。質問等があれば、本科目コーディネータ経済学部教員坂本まで問い合わせをしてください。オフィスアワーやメールを利用してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".

- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
高橋 朋一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを实践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業は基本対面で行いますが、様々な状況下でのことを考慮してオンラインでの受講機会については要望があれば検討いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 4 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 6 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 7 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 8 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 9 回	統計データの分析と活用	統計関連の関数を用いてのデータ分析の実習
第 10 回	経済データの分析と活用	分析ツールの実習
第 11 回	回帰モデルの分析と活用	単回帰分析、重回帰分析の実習
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表
第 14 回	プレゼンテーション演習	現方法の技法について講義 プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
高橋 朋一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業は基本対面で行いますが、様々な状況下でのことを考慮してオンラインでの受講機会については要望があれば検討いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 3 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 7 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	条件付き繰り返し命令	条件付き繰り返し命令に関する実習
第 10 回	条件分岐と繰り返し処理のプログラミング総合	これまでの総合復習とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
高橋 朋一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを实践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業は基本対面で行いますが、様々な状況下でのことを考慮してオンラインでの受講機会については要望があれば検討いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 4 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 6 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 7 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 8 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 9 回	統計データの分析と活用	統計関連の関数を用いてのデータ分析の実習
第 10 回	経済データの分析と活用	分析ツールの実習
第 11 回	回帰モデルの分析と活用	単回帰分析、重回帰分析の実習
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
高橋 朋一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業は基本対面で行いますが、様々な状況下でのことを考慮してオンラインでの受講機会については要望があれば検討いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 3 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 7 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	条件付き繰り返し命令	条件付き繰り返し命令に関する実習
第 10 回	条件分岐と繰り返し処理のプログラミング総合	これまでの総合復習とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
金子 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを实践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組み
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
金子 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組み
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容はほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
金子 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組み
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容はほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門 A
金子 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを实践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

【その他の重要事項】

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to enable students to acquire the necessary ICT skills as a member of society and use office software to solve problems. Office software is used in hands-on lessons to carry out lesson goals and themes. After completing this course, you will have the necessary skills for a professional.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understanding the dissemination of written information, the protection of personal information and the security of online data.
- can create documents in occupations inside and outside the company.
- have enough skills for that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and skills related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをこなす
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容はほぼ同じです。

【成績評価の方法と基準】

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to learn the role of programming languages, their mechanisms and algorithms. Practical lessons focus on actual programming with Excel VBA.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Learn basic programming skills and experience "how to set solution procedures to deal with problems" and "logical thinking using routes".
- Understand modeling by programming including the meaning of simulation.

- Understand the concept of software that has become a social infrastructure and the impact of program mistakes (bugs) on social life.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class practice. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Grading will be decided based on assignments or deliverables (100%).

POL200CA
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義動画・講義資料での授業を基本としたうえで、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論の射程	イントロダクション
第 2 回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第 3 回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第 4 回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第 5 回	合理的選択論と国際関係	国際関係学におけるパラダイムシフト
第 6 回	国内制度と対外行動	政治制度（民主主義・権威主義）、観衆費用、民主主義的平和
第 7 回	リーダーと対外行動	評判（reputation）と信頼（credibility）、リーダーの個人的性質、結集効果
第 8 回	事例分析	キューバ危機・フォークランド紛争
第 9 回	戦略的相互依存関係	アクター、利益、環境、交渉モデル
第 10 回	国際制度と国家の対外行動	アナーキー、法化（legalization）、国際制度と同盟
第 11 回	事例分析	国際連盟と国際連合、集団安全保障体制
第 12 回	国家間のネットワークと波及効果	民主主義の波及、ネットワークの諸概念
第 13 回	国際法と国際規範	規範と法化、規範の拡散、事例：人権規範
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）. 定価 880 円（本体 800 円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015)『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣. 定価 2,052 円（本体 1,900 円） ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章 (2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣. 定価 2,808 円（本体 2,600 円） ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史 (2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣. 定価 2,860 円（本体 2,600 円） ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将 (2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣. 定価 2,376 円（本体 2,200 円） ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝 (2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社. 定価 3,024 円（本体 2,800 円） ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、期末試験で行う（100%）。期末試験は、指定の日・時間内にて教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline (in English)】

This course explores major concepts in the field of international relations and intends to provide students with some theoretical tools that help interpret and analyze causal relations and mechanisms on phenomena of international relations. The class starts by introducing the basic concepts such as anarchy and sovereignty and moves onto introducing the key theories. The goal of this class is to expose students to the core literature of the field of international relations and to help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of international relations

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論 B では、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス・国際関係論 A の復習
第 2 回	戦争の原因論	情報の非対称性、コミットメント問題、イラク戦争
第 3 回	戦争の拡大・介入・終結	戦争の持続期間、対外介入の決定要因と効果
第 4 回	大量破壊兵器・抑止論	国際危機外交、安全保障のジレンマ、シグナリング、評判、抑止論とその効果
第 5 回	勢力均衡と同盟	勢力均衡と情報の非対称性、同盟の種類、同盟のジレンマ
第 6 回	民主主義的平和論	民主主義の波、商業的平和論、観衆費用、政党間競走モデル
第 7 回	非伝統的安全保障・内戦 1	内戦の原因論（民族、貪欲と不満）、交渉モデル
第 8 回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦・
第 9 回	非伝統的安全保障・内戦 2	対外介入の決定要因とその効果、平和維持活動、対外援助
第 10 回	非伝統的安全保障・テロリズム	政治制度、貧困、交渉の失敗、対テロ戦略の効果
第 11 回	経済制裁	経済制裁の種類とその効果
第 12 回	貧困と開発	資源の呪い、国連の持続可能な開発
第 13 回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制、selectorate theory
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

東大作 (2020)『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

山本吉宣・河野勝 (2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、期末試験で行う（100%）。期末試験は、指定の日・時間内にて教室で実施する予定である（持ち込み一切不可）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムで連絡する。

【Outline (in English)】

This course explores major concepts in the field of international relations and intends to provide students with some theoretical tools that help interpret and analyze causal relations and mechanisms on phenomena of international relations. The class pays particular attention to the issues of international security that include interstate wars, the proliferation of mass destruction, alliance and balance of power, civil wars, and terrorism. The goal of this class is to expose students to the core literature of the field of international security and to help students to both interpret current political events and evaluate the proper nature of international relations.

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第 2 回	贈与と再分配の世界	経済人類学の入り口を垣間見る
第 3 回	贈与と互酬性	一般交換と限定交換
第 4 回	贈与と禁止	レヴィ＝ストロースの学説
第 5 回	贈与・循環・所有	サーリンズとモースの学説
第 6 回	『贈与論』にみる人とモノ	異なる所有観の発見
第 7 回	贈与から考える人とモノ	モース派の人類学と譲渡不可能性の概念
第 8 回	贈与から考える女性の労働①	2 人のフェミニスト人類学者の論争から
第 9 回	贈与から考える女性の労働②	権利から関係性へ
第 10 回	交換の類型学	互酬、再分配、市場
第 11 回	再分配と集団の境界	ミクロネシアの儀礼経済から考える①
第 12 回	再分配の中心	ミクロネシアの儀礼経済から考える②
第 13 回	再分配と階層性	ミクロネシアの儀礼経済から考える③
第 14 回	負い目と権力	贈与と再分配の違いをめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	互酬・再分配と市場交換の接合①	貨幣経済と暮らしの変容
第 3 回	互酬・再分配と市場交換の接合②	首長国ビジネスの誕生
第 4 回	互酬・再分配と市場交換の接合③	初物献上の変容から考える
第 5 回	互酬・再分配と市場交換の接合④	首長の金策と島民の金策
第 6 回	貨幣の人類学①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 7 回	貨幣の人類学②	貨幣の意味を変える方法
第 8 回	貨幣の人類学③	国境を越える貨幣とその読み替え
第 9 回	長期秩序による読み替え	グローバル時代の文化研究①
第 10 回	外来のものを飼いならす	グローバル時代の文化研究②
第 11 回	まなごしを活用する	グローバル時代の文化研究③
第 12 回	まなごされる文化と生きた文化	グローバル時代の文化研究④
第 13 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ①	「いのちの贈与」をめぐって
第 14 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ②	地域通貨のリアルをめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology B, modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation

8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館 1700 円＋税

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)
『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class participation in activities

50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館 1700 円＋税

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20% In-class activities

80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的話題で総合力を高める。英語を聴き、表現する。英検 2 級以上に適する。

【到達目標】

時事的教科書で聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。新聞やビジネス文書の読解も行い、短時間に要点を理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

英語と日本語。少人数なら学生英語プレゼン。受講者多数なら初回選抜試験。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概説	授業内容・評価方法の概略説明, 演習
2	テキスト問題演習 1	U1 CHALLENGES OF TEACHING (Before You Watch 等)
3	問題演習 2	U1 (Discussion Qs) *資格試験 (TOEIC 等)
4	問題演習 3	U2 STUDENTS KEEPING MEMORY(Watch the News) U2(DQs) *資格試験
5	問題演習 4	U3 BITTER TASTE (Watch News) *新聞、Pr(プレゼン)1
6	問題演習 5	U3(DQs 等) *資格試験、Pr2
7	問題演習 6	U4 ROBOTS(Watch News) Pr3
8	問題演習 7	U4(DQs) *資格試験、Pr4
9	問題演習 8	U5 TOILET DESIGNS *新聞、Pr5
10	問題演習 9	U5(DQs) *資格試験、Pr6
11	問題演習 10	U6 TELEWORKING *新聞
12	問題演習 11	U6(DQs) *資格試験
13	問題演習 12	試験 (既習範囲・応用問題) と解説
14	問題演習 13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWSLINE 5 (金星堂), 2022, ¥2400+税. (初回必ず出席し履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ ELLLO のウェブサイト, NHK 講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 平常点：課題提出・授業積極性・プレゼン等 70 %
定期テスト：30 %

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す

【Outline (in English)】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題で、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力があり、積極的な学生に適する）。簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストでリスニングを中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので、自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

英語で話し合う機会がある。少人数であれば、学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明、英語記事の内容・意見の発表）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容の概略説明 *U7 LEARNING TO LOVE (Before You Watch 等) *U7(Discussion Questions < =DQs >) *資格試験
2	テキスト問題演習 1	*U8 ADVOCATE(Watch the News) *新聞記事 *U8(DQs) *資格試験
3	テキスト問題演習 2	*U9 CLAY ARTIST (Watch the News) *新聞記事、プレゼン 1 *U9 (DQs) *資格試験
4	テキスト問題演習 3	*プレゼン 2 *U10 BOARD GAME (Watch the News) *新聞記事、プレゼン 3 *U10(DQs) *資格試験、プレゼン 4
5	テキスト問題演習 4	*U11 TATAMI(Watch the News) *新聞記事、プレゼン 5 *U11 (DQs) *資格試験
6	テキスト問題演習 5	*プレゼン 6 *U12 RUNWAY (Watch the News) *新聞記事 *U12(DQs) *資格試験
7	テキスト問題演習 6	*U13 BLACK LIVES (Watch the News) *新聞記事 *定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題)
8	テキスト問題演習 7	
9	テキスト問題演習 8	
10	テキスト問題演習 9	
11	テキスト問題演習 10	
12	テキスト問題演習 11	
13	テキスト問題演習 12	
14	テキスト問題演習 13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆テキスト予習・復習 (= Online 映像 plus+Media の視聴、script の理解)。教科書の予習、復習は毎週計 4 時間必要。

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWSLINE 5 (金星堂)、2022、¥2,400+税。(秋学期のみの人は履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ ELLLO のウェブサイト、NHK 英語講座

【成績評価の方法と基準】

◆定期試験 = 70%、授業積極参加 (=解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆全員が参加できる授業を目指す。

【Outline (in English)】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics

LANe200CA
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業ではまず、論文の構成とパラグラフの書き方を学ぶ。次に、先行研究の読み方と文献の引用方法を学んだ後、序論と研究方法の書き方を学ぶ。最後に受講生が考えた論文内容を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、序論・方法の書き方を理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』

Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参するか、こちらで用意したパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

英語セミナー B と関連する授業内容のため、英語セミナー B も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to prepare students to write and communicate in English for their professional studies, and consequently for their future professional needs in real life and work.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナー A に引き続き、英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業では、研究結果の書き方を学んだ後、考察や結論、要約の書き方を学ぶ。最後に受講生が作成した論文を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、結果・考察・結論の書き方が理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習しておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参するか、こちらで用意したパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

英語セミナー A と関連する授業内容のため、英語セミナー A も履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to prepare students to write and communicate in English for their professional studies, and consequently for their future professional needs in real life and work.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
布川 恭子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。

提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	旅行 (1)	「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第 3 回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第 4 回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第 5 回	都市 (1)	現在完了で表現する
第 6 回	都市 (2)	道を尋ねる
		交通手段
第 7 回	中間口頭試験	オンラインにより 1 対 1 で口頭テストを行う
第 8 回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第 9 回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第 10 回	余暇	ドイツと日本の働き方と休暇の違い
第 11 回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第 12 回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第 13 回	授業内試験と解説	筆記試験
第 14 回	環境	エコロジー問題
		試験答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】

In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

LANd200CA

ドイツ語セミナー B

布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容が大まかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業（7 回予定）、教室での対面授業となります。オンラインの日程とアクセス・アドレスの詳細は Hoppii に掲載します。

提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決 学生のバイト事情
第 7 回	中間口頭試験	オンラインで 1 対 1 で行う
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	試験と解説	筆記試験
第 14 回	総復習	秋学期のまとめ テスト答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2－コミュニケーション活動で学ぶドイツ語－. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

ドイツ語のマンガや映画なども随時みていきます。ドイツに関することで読みたい・知りたい・観たい・聞きたいことがあったら積極的に提案してください。

【Outline (in English)】

In this course you will learn about life, culture and people's attitudes in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with the German language or with the grammar. The course is open to anyone who has studied German before.

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく、ツールとしては Google クラウドを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第 2 回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第 3 回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第 4 回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第 5 回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第 6 回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第 7 回	体と健康-1	語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第 8 回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第 9 回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第 10 回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為

第 11 回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第 12 回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。
第 13 回	全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にける準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通して置く。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使ったフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）100 %

【学生の意見等からの気づき】

Google クラウドの使用で、課題の受け渡しが非常にスムーズに行えた。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】

Course outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%、Usual performance score: 33%

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業形態がオンラインであるなしに関係なく、ツールとしては Google クラウドを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第 2 回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第 3 回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第 4 回	生活と環境（ゴミ捨てなど）-1	ゴミの種類に関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第 5 回	生活と環境（ゴミ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第 6 回	生活と環境（ゴミ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第 7 回	家族の形-1	家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第 8 回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第 9 回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、ボックス
第 10 回	週末の過ごし方-1	関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 <i>où, dont</i> ）、靴の買い方
第 11 回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談

第12回 週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）
第13回 全体のまとめ、進度の調整	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第14回 映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャボニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にける準備・復習の時間は合計 4 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使ったフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出） 100 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの導入により受講が効率化できた。弱点の補強などにも役にたった。

【学生が準備すべき機器他】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。オンラインで行う回があるので、各自、パソコン、タブレットなど対応できるようにすること。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】

TCourse outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 67%, Usual performance score: 33%

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。他学部からも履修が可能です。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読み、和訳・和訳できる。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを読み、的確に内容を把握し、きれいな日本語で訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定 3 級試験過去問やニュース、映画など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年 5 月と 10 月に実施されるロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指す。（資格として履歴書に書けます。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態（対面、オンライン）についてのアンケートを実施。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムで、も提示します。春学期はロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指す、基礎文法の習得を完成させ、対策過去問などを解く。また、視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、映像紹介、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、映像紹介、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級-1）、会話	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞、会話練習
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級-2）、テキスト読解	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）、テキスト読解
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）

第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級-1）1	関係代名詞
第12回	ロシア語能力検定試験対策（3級-2）	数詞（数詞と名詞の変化）、比較級
第13回	テキスト読解と視聴覚教材でのリスニング練習	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第14回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。
本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテスト）50パーセント、提出物の評価（課題や宿題等の提出）50％で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。この授業で試験対策に効率良く取り組むことで合格し履歴書に記載できた、自信にもつながったといった意見がありました。その他に、実際にコミュニケーションで使えるロシア語をロールプレイで身につける学習も進めていきます。
毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指してください。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is for students who have taken beginner Russian. Complete the acquisition of basic Russian grammar, and can read and translate various texts by looking up a dictionary. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on a resume as a qualification. Develop listening and reading skills and acquire practical conversation skills. Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies about Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験の合格を目指す。並行して中級文法を習得しながら、幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。映画やニュースなどでリスニングを重ね、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

10月のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指す。（資格として履歴書に書ける。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器になります。）
中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後は多様な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を習得。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第6回	中級文法（被動形動詞1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞1）、会話練習
第7回	中級文法（被動形動詞2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞2）、会話練習
第8回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第9回	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第10回	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））

第 11 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、映像資料のリスニング
第 12 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキンやチェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
第 13 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキーやトルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第 14 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（学生の要望を反映）、映像資料のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当初の目標であるロシア語能力検定試験に向けて、基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回 2 時間の予習・復習を目安とします。

また、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアの映画やニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れ、ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げてみましょう。

【テキスト（教科書）】

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291 が望ましい））
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
『大学のロシア語 1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013 年、¥ 3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテスト）50 パーセント、提出物の評価（課題や宿題等の提出）50 % で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。この授業で試験対策に効率良く取り組むことで合格し履歴書に記載できた、自信にもつながったといった意見がありました。その他に、実際にコミュニケーションで使えるロシア語をロールプレイで身につける学習も進めていきます。
毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。
コロナが終息した後に、ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。
授業形態（対面・オンライン）の変更については初回の授業で受講生にアンケートを取り、その結果も鑑みて事前に学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

Aim to pass the Russian Language Proficiency Test in October. While learning intermediate grammar at the same time, read a wide range of textbooks and deepen my understanding of Russian history and culture. By listening to movies and news, I will improve your Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing." Acquire practical conversation skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解 (中国人口政策の移り変わり)
第 3 回	第 2 課	読解 (74 年を経て内山書店が里帰り)
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解 (病院食、なぜ不人気?)
第 6 回	第 4 課	読解 (高速鉄道に『マナーモード車両』現る)
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解 (お年寄りに快適なスマートライフを)
第 9 回	第 6 課	読解 (人生の選択が多様化)
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課	読解 (初の『顔認識裁判』最終判決)
第 12 回	第 8 課	読解 (三星堆遺跡にまつわる裏話)
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2022 年度版』朝日出版社、2022 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA

中国語セミナー B

石 碩

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
	(90 年代生まれの新たな消費生活)	
第 3 回	第 10 課	読解
	(中国はタバコをやめられるか)	
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
	(貴安新区、最貧地域が起こした奇跡)	
第 6 回	第 12 課	読解
	(現代中国のペット事情)	
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解
第 8 回	第 13 課	読解
	(洪水一過の鄭州—ネットからこぼれ落ちた都市)	
第 9 回	第 14 課	読解
	(今も伝えられるタンカ芸術)	
第 10 回	第 15 課	読解
	(我が民宿の幸福度)	
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2022 年度版』朝日出版社、2022 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで 1～2 頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。2019 年試行のキャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria / Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大な多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習③	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで 1～2 頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru (2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria / Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN200CA

労働経済論 A

酒井 正

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021 年）

清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。

・講義内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内での演習等を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education.

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）
川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。
・授業内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内で演習の機会を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net under COVID-19 is also discussed.

ECN300CA

経済政策論 A

濱秋 純哉

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2019、『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	名目 GDP と実質 GDP
4	データで見る日本経済 3	物価指数の概念と作成方法
5	データで見る日本経済 4	失業率の概念と作成方法
6	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
7	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
8	雇用問題 3	若年者の雇用問題
9	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線や供給曲線、及び弾力性の概念等を学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200CA
公共経済論 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

本講義は、対面で行う。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念（総費用、可変費用、限界費用、平均費用）について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と均衡性について。

13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験（100%）により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the benefits of a market economy through the theory of perfect competition. First, we will study the theory of consumer behavior and corporate behavior, which are the basis of market analysis. We will study the utility maximization problem of consumers and the profit maximization problem of firms, which are the basis for the analysis of consumer and firm behavior, and understand the mechanism of consumer and firm behavior. Next, students will learn that the market equilibrium, which examines the consequence of the market transaction, achieves desirable transactions from the perspective of economic welfare. Finally, we will study the exchange economy, a more general framework for market analysis, and summarize the advantages of the market mechanism after understanding the basic theorems of welfare economics.

The goal of this course is to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and to consider the desired relationship between markets and government in modern society. In this lecture, we will focus especially on the advantages of the market economy. Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Be sure to do the practice exercises as a review of the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA
公共経済論 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、市場の欠点（失敗）を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用し、公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

【到達目標】

公共経済論 A に引き続き、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係を、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。本講義は、すべて対面にて実施する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システム (Hoppii) を通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出量取引の役割について。
6	ゲーム理論の基礎 (1)	戦略形ゲームとは。
7	ゲーム理論の基礎 (2)	最適反応とナッシュ均衡について。
8	ゲーム理論の基礎 (3)	応用 (共同出資ゲーム等)。
9	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
10	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
11	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part1。
12	公共財 (4)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part2。
13	メカニズムデザイン入門	クラークメカニズムによる公共財供給について。

14 講義総括と問題演習 秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とする。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教室における試験 (100%) により評価を行う。ただし、新型コロナウイルスの感染状況に依存し、評価方法が変わる場合がある。その場合は、学習支援システム (Hoppii) および講義内にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the shortcomings (failures) of markets and how to design economic institutions and policies aimed at eliminating them. First, we will learn about market failures caused by the existence of externalities. We understand that the implementation of economic policies through the internalization of externalities is the key to solving these problems. Next, we will study the market failures caused by the existence of public goods. Finally, students will learn about the importance of designing economic institutions that take into account the incentives of economic agents. By applying the mechanism design theory, students will learn how to solve the problem of free-riding on public goods. Continuing from Public Economics A, the goal of this course is to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and to consider the desired relationship between markets and government in modern society. In this class, we will focus on the role of governments for defects of the market economy.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand basic concepts and measures
2. Understand age-specific rates and probabilities
3. Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population

14 Summing Up Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

DemographyB

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand fertility rate
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

【Outline (in English)】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

開発経済論 A

池上 宗信

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な時間非整合性などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点し、返却します。

2021 年度までは、学習支援システム上の授業支援ボックスを使って返却していましたが、2021 年度末に廃止されてしまうので、2022 年度からの新しい試みとして、Google Classroom を通して返却する予定です。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合は、各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	貧困の罠	資産動学、S 字曲線
第 2 回	ランダム化比較試験 1	相関、因果、セレクション・バイアス
第 3 回	ランダム化比較試験 2、栄養 1	栄養不足による貧困の罠は存在するのか？
第 4 回	栄養 2、健康 1	なぜ栄養に投資しないのか？
第 5 回	健康 2、時間非整合性 1	なぜ病気の予防に投資しないのか？
第 6 回	時間非整合性 2	コミットメント、あと押し
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定、マラリアの所得減少効果
第 9 回	教育 1	2 期間モデル、条件付き補助金

第10回	教育 2、ランダム化比較試験と回帰分析 1	幻の S 字曲線、最小二乗法
第11回	ランダム化比較試験と回帰分析 2	OLS 推定量の一致性、内生性、トリートメント効果
第12回	出産 1	誰が、なぜ、大家族を選択するのか？
第13回	出産 2	重回帰、欠落変数、メロドラマは出生率を減少させるか？
第14回	復習および期末試験	第 8 回から 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

池田新介 (2012)「第 3 章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社
大垣昌夫、田中沙織 (2018)「第 6 章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣
ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル (2013)『善意で貧困はなくなるのか？ 貧乏人の行動経済学』みすず書房
高野久紀 (2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012)『貧乏人の経済学』みすず書房
森田果 (2014)「第 18 章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
もし、感染症対策として教室内試験を実施できなくなった場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision for households in developing countries. We will also study theoretical models of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, which are useful for studying the decision.

ECN200CA
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A、B、開発経済論 A では、開発途上国の貧困家計が直面するリスク、不完全情報が捨象されていました。開発経済論 B では、リスクおよび不完全情報に関する理論モデルをまず学びます。そして、その理論モデルに基づいて、保険市場、信用市場、土地賃借市場における家計の選択を学びます。さらに、その選択を理解するのに有用な操作変数法という実証分析手法も学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、定額地代ではなく分益小作、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点し、返却します。

2021 年度までは、学習支援システム上の授業支援ボックスを使って返却していましたが、2021 年度末に廃止されてしまうので、2022 年度からの新しい試みとして、Google Classroom を通して返却する予定です。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合は、各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスク 1	リスク対処戦略、リスク分散戦略
第 2 回	リスク 2	期待値、期待効用
第 3 回	リスク 3	状態空間分析、無差別曲線
第 4 回	保険市場 1	保険会社の等期待利潤線、独占的な保険会社
第 5 回	保険市場 2	完全競争保険市場
第 6 回	保険市場 3	状態空間分析における確実性同値額、リスクプレミアム
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ
第 9 回	アドバース・セレクト	中古車市場、情報レント
	ション 1	

第10回	アドバース・セクション 2	保険市場、完全情報の場合
第11回	アドバース・セクション 3	保険市場、不完全情報の場合
第12回	信用市場 1	インフォーマル金融、マイクロファイナンス
第13回	信用市場 2、分益小作	実証分析、2段階ランダム化比較試験、操作変数法
第14回	復習および期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。もし、感染症対策としてオンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
 神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社
 神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
 高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
 アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
 もし、感染症対策として教室内試験を実施できなくなってしまう場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

In Introductory Development Economics A, B, and Development Economics A, we omit risk and asymmetric information poor households in developing countries face. In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first. Then, based on the theoretical model, we will study insurance, credit, and land markets. We will also study instrument variable method, an empirical methods which is useful for studying the markets.

ECN200CA
開発経済入門 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部 1 年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。
 各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
 各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
 授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。
 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	労働需要 1	生産関数、等利潤線
第 2 回	労働需要 2	利潤最大化（図による導出）、微分
第 3 回	労働需要 3、経済成長の指標	利潤最大化（数式による導出）
第 4 回	労働需要 4	所得分配
第 5 回	経済成長 1	国民総生産、購買力平価
第 6 回	経済成長 2	ソロー・モデル
第 7 回	まとめと解説、中間試験	第 1 回から 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	経済成長 3	貯蓄率、労働成長率の変化
第 9 回	経済成長 4	一人あたり資本の成長率、技術水準の変化
第 10 回	経済成長 5	相関と因果、回帰分析、条件付き収束、成長会計、発展会計
第 11 回	二重構造と労働移動 1	産業構造転換の記述統計、レイス・モデル
第 12 回	二重構造と労働移動 2	ハリス＝トダロ・モデル
第 13 回	二重構造と労働移動 3	トダロの逆説
第 14 回	まとめと解説、期末試験	第 8 回から 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

神取道宏 (2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
ジェトロ・アジア経済研究所他編 (2015)『テキストブック開発経済学 第 3 版』有斐閣
戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去 4 年間ありません。

【Outline (in English)】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA
開発経済入門 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A では、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門 B では、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	貿易 1	比較優位、絶対優位
第 2 回	貿易 2	2 財 1 時点モデル
第 3 回	貿易 3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第 4 回	貿易 4、金融 1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第 5 回	金融 2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第 6 回	金融 3	企業の利潤最大化、資本制約
第 7 回	まとめと解説、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	金融 4	1 財 2 期間モデル（消費者かつ生産者）
第 9 回	金融 5	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル
第 10 回	金融 6	実証分析
第 11 回	起業 1	信用制約、一般均衡
第 12 回	起業 2	貧困の罠
第 13 回	起業 3	実証研究
第 14 回	まとめと解説、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社
高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房
戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社
ハ・ナジ・ー、テ・ユフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去 4 年間ありません。

【Outline (in English)】

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

*

ECN200CA

経済学史 A

山本 英子

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学史は、経済学を歴史的視点から捉えて、経済学の各理論がどのように成立し発展してきたのかについて学ぶ科目である。経済史とは別の領域であり、経済思想および経済理論の歴史として学修する。この経済学史 A では、黎明期の経済思想から古典派経済学及びマルクス経済学までの各理論の関連の理解をめざす。経済学を学ぶのであれば、18 世紀のアダム・スミスが何を批判して何を主張していたのかなど、過去の主要な経済学者については知っておくべきであろう。経済学史の授業では、経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことで、そうした知識を修得していく。

【到達目標】

- ・重商主義と、それを批判したアダム・スミスを始祖とする古典派経済学と、マルクス経済学までの、全体的な発展の経緯を理解して説明できる。
- ・これらの時代の各経済学者たちが、それぞれどのような問題に直面し、どのような思想に基づき、どのような論争を行いながら経済学理論を導いていたのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面の講義となる。理解の定着のための授業内小テストを 3 回実施し、次の授業時に小テストの解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学史で何を学ぶのか、歴史的視点から見る経済学についての解説
第 2 回	重商主義に至るまでの経済思想	アリストテレス、アキナス、マン、ペティ、ロック、コルベール
第 3 回	三大バブル	ロー（ミシシッピ・バブル）
第 4 回	商業社会と奢侈論争	マンデヴィル、ヒューム、ケネー（重農主義） 小テスト①
第 5 回	18 世紀の古典派経済学（1）	スミス『道徳感情論』（公平な観察者、同感）
第 6 回	18 世紀の古典派経済学（2）	スミス『国富論』①（全体の構成、分業、価値論）
第 7 回	18 世紀の古典派経済学（3）	スミス『国富論』②（見えざる手、資本蓄積、重商主義批判）
第 8 回	18 世紀の古典派経済学（4）	スミス『国富論』③（小さな政府、植民地問題） 小テスト②
第 9 回	スミスの時代の諸学説	ステュアート（重商主義）、フランスとイタリアの主観価値学説
第 10 回	19 世紀初頭の諸学説	功利主義、空想的社会主義、先駆的な理論提起
第 11 回	19 世紀の古典派経済学（1）	マルサス（人口問題）、リカード（投下労働価値説、差額地代論、比較優位）
第 12 回	19 世紀の古典派経済学（2）	J.S. ミル（生産分配峻別論、賃金基金説） 小テスト③

第13回 マルクス経済学 弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
 第14回 授業の総括 授業内試験（春学期に学んだ内容の理解度の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を再読してまとめながら理解し、紹介する文献等を読むことが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとする。

【参考書】

初回授業で全体的な参考書を紹介する。各回の授業でも関連する著作や文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（5%×3回：15%）、最終回の授業内試験（85%）を基本としつつ、授業への取り組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【その他の重要事項】

通年で春学期の「経済学史A」は前編、秋学期の「経済学史B」は後編となるが、一方だけの受講も可能である。どちらも高度な経済学知識の知識は必要としないが、基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学を理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the history of economic thought that studies the development of economic theories, especially from early economic thoughts to classical economics of the 19th century. The aim of this course is to understand the relationship between mercantilism and classical economics for which Adam Smith laid the foundation.

ECN200CA
経済学史B
山本 英子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学史は、経済学を歴史的視点から捉えて、経済学の各理論がどのように成立し発展してきたのかについて学ぶ科目である。経済史とは別の領域であり、経済思想および経済理論の歴史として学修する。この経済学史Bでは、経済学史Aの内容に続く19世紀後半から20世紀に焦点を当てて、新古典派経済学、ケインズ経済学、新自由主義経済学までの変遷の理解をめざす。経済学を学ぶのであれば、20世紀のJ・M・ケインズが何を批判してどんな理論を提起していたのかなど、過去の主要な経済学者については知っておくべきであろう。経済学史の授業では、経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことで、そうした知識を修得していく。

【到達目標】

・新古典派経済学、ケインズ経済学、その後の新自由主義までの経済学の、全体的な進展と影響を理解して説明できる。
 ・19世紀後半から20世紀の経済学者たちの思想、理論、提起された経済政策の違いを理解しながら、各経済学者の業績を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面の講義となる。理解の定着のための授業内小テストを3回実施し、次の授業時に小テストの解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀末～20世紀の経済学史的展望
第2回	新古典派経済学（1）	ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー（限界革命）
第3回	新古典派経済学（2）	エッジワース、パレート（効率的な資源配分
第4回	新古典派経済学（3）	マーシャル（部分均衡論、余剰分析） 小テスト①
第5回	20世紀諸初頭の諸学派	ドイツ歴史学派、オーストリア学派、ローザンヌ学派、制度学派、ケンブリッジ学派
第6回	厚生経済学	ピグー、カルドア、アロー
第7回	ケインズ経済学（1）	ケインズ経済学の形成と影響 小テスト②
第8回	ケインズ経済学（2）	『一般理論』① 概要、古典派経済学批判
第9回	ケインズ経済学（3）	『一般理論』② 有効需要の理論、利子理論
第10回	ケインズ経済学（4）	『一般理論』③ ケインズの結論 小テスト③
第11回	ポスト・ケインズの諸学説	新古典派総合、経済成長理論
第12回	資本主義の変容	シュンペーター（創造的破壊）
第13回	自由主義の進展	ハイエク（自生的秩序）、フリードマン（新自由主義、マネタリズム）
第14回	授業の総括	授業内試験（秋学期に学んだ内容の理解度の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を再読してまとめながら理解し、紹介する文献等を読むことが求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとする。

【参考書】

初回授業で全体的な参考書を紹介する。各回の授業でも関連する著作や文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（5 % × 3 回：15 %）、最終回の授業内試験（85 %）を基本としつつ、授業への取り組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更のため特になし

【その他の重要事項】

通年で春学期の「経済学史 A」は前編、秋学期の「経済学史 B」は後編となるが、一方だけの受講も可能である。どちらも高度な経済数学の知識は必要としないが、基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学を理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with the history of economic thought, which studies the development of economic theories in the late 19th and 20th centuries, including marginal revolution, Keynesian economics, and opinions on liberalism. The aim of this course is to understand the influences and relationships between theories of the era.

ECN200CD

経済地理 A

近藤 章夫

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第 2 回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第 4 回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第 5 回	産業の立地①	立地論の基礎
第 6 回	産業の立地②	工業立地論と事例
第 7 回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第 8 回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第 9 回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム

第 10 回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第 11 回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
回 オン		
デ マン		
ド⑦		
第 12 回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
回 オン		
デ マン		
ド⑧		
第 13 回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
回 オン		
デ マン		
ド⑨		
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野綱果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンデマンド授業の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
 詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。
 経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
オンデマンド⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド⑥		

第 10 回	産業集積のダイナミズム	産業のグローバル化
第 11 回	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT 生産システム
第 12 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第 13 回	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第 14 回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンラインの小テスト（平常点 40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

ECN200CA
経済の数理 A
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。実数の公理、集合と位相、実数列と級数、実数列の極限を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実数 (1)	はじめに、四則演算
第 2 回	実数 (2)	順序
第 3 回	実数 (3)	連続の公理、実数体
第 4 回	複素数	複素数体
第 5 回	ユークリッド空間	内積、ノルム
第 6 回	位相の導入 (1)	有限集合、可算集合、非可算集合
第 7 回	位相の導入 (2)	距離空間
第 8 回	位相の導入 (3)	コンパクト集合
第 9 回	位相の導入 (4)	連結集合
第 10 回	実数列と級数 (1)	収束列、部分列
第 11 回	実数列と級数 (2)	コーシー列
第 12 回	実数列と級数 (3)	上極限、下極限
第 13 回	実数列と級数 (4)	級数、正項級数
第 14 回	実数列と級数 (5)	冪級数、絶対収束

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房、2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会、1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店、1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館、2002 年）
- [5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976 [初版 (1964 年) の邦訳, W. ルディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [2], [6] です。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。最大 7 回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

In this course the axioms of real numbers, basic topology, numerical sequences and series, and the limit of sequences are lectured.

ECN200CA
経済の数理 B
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。関数の連続性、集合の濃度、集合論の公理を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	連続性 (1)	関数の極限
第 2 回	連続性 (2)	連続関数
第 3 回	連続性 (3)	連続性とコンパクト性
第 4 回	連続性 (4)	連続性と連結性
第 5 回	集合の濃度 (1)	全射, 単射
第 6 回	集合の濃度 (2)	濃度の大小
第 7 回	集合の濃度 (3)	二項関係
第 8 回	整列集合と選択公理 (1)	整列集合
第 9 回	整列集合と選択公理 (2)	選択公理
第 10 回	整列集合と選択公理 (3)	整列可能定理
第 11 回	集合論の公理 (1)	ラッセルのパラドックス
第 12 回	集合論の公理 (2)	外延性公理, 集合
第 13 回	集合論の公理 (3)	非順序対, 合併, 無限公理
第 14 回	集合論の公理 (4)	分出公理, 共通部分, 冪集合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相 (増補新装版)』(裳華房, 2020 年)
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』(東京大学出版会, 1980 年)
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店, 1968 年)
- [4] 丸山徹『経済数学』(知泉書館, 2002 年)

[5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976[初版(1964年)の邦訳, W. ルディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎訳), 共立出版, 1971年]このうち, 講義内容に最も近い教科書は [1], [3] です.

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価.

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します.

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが, 詳細は学習支援システムを通じてお知らせします. 最大7回までのオンライン授業を予定しています.

【Outline (in English)】

In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

PRI200CA
データ解析入門 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の基本的な考え方にに基づき, 図やグラフを描き, 基本統計量を計算し, 2 つの変数の間の関係を確認するなどの, データ解析の基本的な手法を身につける.

【到達目標】

数値データおよびカテゴリーデータの基礎的な解析手法を学習し, 実際にアンケート調査を実施することで応用力を身につける.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち, 経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連. 国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連.

【授業の進め方と方法】

本年度は, コンピューター実習室で実習形式で講義を行う予定です. ただし, 今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります.

Windows 上で“SPSS”という統計解析用のソフトウェアを用いてデータの集計・作表や解析を行いますので, Windows の操作ができることが履修の前提となります.

実習として4~5人のグループを作り, ある団体から依頼されたというシナリオの下に, アンケート調査を企画します. 秋学期の「データ解析入門B」でこのアンケート調査を実施し集計・分析するので, 必ず同一年度に併せて履修してください. (コロナ対策のためオンラインで授業を行う場合は, 自宅等からネットワークを通じて SPSS に接続し, アンケート調査は Zoom 等を用いて学生間で協力して作業を進めていくことになります.)

課題やアンケート調査については, 授業中もしくは授業支援システムを通じてフィードバックします.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	データ解析と統計ソフトの概説
第2回	尺度構造と入力	変数の尺度構造・データの入力方法
第3回	データの加工	新しい変数の作成, ソーティング
第4回	数値データの解析 (1)	入力とグラフ化
第5回	数値データの解析 (2)	基本統計量とは
第6回	数値データの解析 (3)	基本統計量を求める
第7回	数値データの解析 (4)	2 つの変数の関係
第8回	カテゴリーデータの解析 (1)	入力と加工
第9回	カテゴリーデータの解析 (2)	集計とグラフ化
第10回	カテゴリーデータの解析 (3)	2 つの変数の関係
第11回	カテゴリーデータの解析 (4)	多重回答データの処理
第12回	アンケート調査 (1)	基本設計
第13回	アンケート調査 (2)	詳細設計
第14回	小テスト・アンケート調査 (3)	・パイロットサンプルによる最終設計 ・小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

SPSS の復習・・・1時間

演習課題・・・・・・2時間

【テキスト（教科書）】

宮脇・和田・阪井著『SPSS によるデータ解析の基礎（改訂版）』培風館, 2011 年

【参考書】

テキストに必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)

レポートとアンケート調査設計 (30 %)

小テスト (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい手法を学ぶので大変だという声が多いので、必ず前の週の復習を20分ほどかけて行っています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室に設置されたパソコンを使用します。予習・復習や課題に取り組むため、自宅から作業を行う場合には、パソコンとネットワーク環境が必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the idea of statistics, you learn and acquire basic methods of data analysis such as drawing figures and graphs, calculating basic statistics, and confirming the relationship between two variables.

【Learning Objectives】

Learn basic analysis methods for numerical data and category data, and acquire applied skills by actually conducting questionnaire surveys.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Review of SPSS — 1 hour

Exercises — 2 hours

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (30%)

Report and questionnaire survey design (30%)

Quiz (40%)

PRI200CA
データ解析入門B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① アンケート調査の実施と解析を通じて、データ解析の基本的な知識とスキルを実践的に身につける。
- ② 回帰分析の基本的な理論を学び、実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより回帰分析のスキルを身につける。

【到達目標】

アンケート調査の分析結果を報告書にまとめ履修者全員の前で発表することにより、データ解析の手法を経験的に体得するとともにプレゼンテーション能力をも身につける。(コロナ対策のためオンラインで授業を行う場合は、自宅等からネットワークを通じて SPSS に接続し、アンケート調査は Zoom 等を用いて学生間で協力して作業を進めていくことになります。)

後半では、回帰分析における最小二乗法の考え方、推定および検定、変数選択法などの基礎的な理論を学び、実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより、回帰分析における一連のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半には、「データ解析入門A」で作成したアンケート調査を実施し、その解析を進め、グループ毎に結果を発表してもらいます。後半では「回帰分析」とよばれる手法を解説し、実際のデータを用いて各自がオリジナルな回帰モデルを構築します。

課題やアンケート調査については、授業中もしくは授業支援システムを通じてフィードバックします。(「データ解析入門A」をその年度に履修していることが、本科履修の前提となります。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アンケート調査 (1)	データの入力
第2回	アンケート調査 (2)	単純集計
第3回	アンケート調査 (3)	クロス集計
第4回	アンケート調査 (4)	総合的な分析 1
第5回	アンケート調査 (5)	総合的な分析 2
第6回	アンケート調査発表 (1)	前半のグループのプレゼンテーション
第7回	アンケート調査発表 (2)	後半のグループのプレゼンテーション
第8回	回帰分析の基礎	相関と回帰・最小2乗法の考え方
第9回	単回帰分析 (1)	回帰係数の推定
第10回	単回帰分析 (2)	決定係数、回帰係数の検定
第11回	重回帰分析 (1)	回帰係数の推定、決定係数と F 検定
第12回	重回帰分析 (2)	各回帰係数の検定・変数選択法
第13回	回帰モデルの作成 (1)	回帰モデルの作成
第14回	回帰モデルの作成 (2)	作成した回帰モデルの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

SPSS の復習・・・・・・1時間

演習課題・・・・・・2時間

【テキスト（教科書）】

宮脇・和田・阪井著『SPSSによるデータ解析の基礎（改訂版）』培風館、2011年

【参考書】

教科書に必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）

アンケート調査報告書・プレゼンテーション（30％）

回帰モデルレポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

「回帰分析が難しい」というコメントが多いので、できる限り平易に説明するよう心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室に設置されたパソコンを使用します。予習・復習や課題に取り組むため、自宅から作業を行う場合には、パソコンとネットワーク環境が必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

1. Practically acquire basic knowledge and skills of data analysis through the implementation and analysis of questionnaire surveys.

2. Learn the basic theory of regression analysis and acquire the skills of regression analysis by creating a regression model using actual data.

【Learning Objectives】

By compiling the analysis results of the questionnaire survey into a report and presenting it in front of all the students, you will be able to empirically learn the data analysis method and acquire presentation ability.

In the second half, you will acquire a series of skills in regression analysis by creating a model using actual data.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Review of SPSS — 1 hour

Exercises — 2 hours

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (30%)

Questionnaire survey report / presentation (30%)

Regression model report (40%)

ECN200CA
アメリカ経済論 A
下斗米 秀之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準などで国際社会において最大級の影響を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、経済大国として世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済におけるアメリカの役割について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、14回のうち7回をオンラインとする。オンラインの場合には事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。対面授業の際に、学生からの質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第2回	アメリカ経済を見る視点	アメリカ経済の特色。
第3回	20世紀転換期のアメリカ	産業構造の変化、農民・労働運動、貿易・国際収支構造の変化。
第4回	「グレートファミリー」とその支配	新興の企業家とその支配力。
第5回	第一次大戦と1920年代の光と影	第一次大戦と大量消費社会の形成。
第6回	大恐慌とニューディール	世界大恐慌とニューディール政策。
第7回	第二次世界大戦とアメリカの世紀	パクス・アメリカナの形成。
第8回	米ソ冷戦と開発援助	東西冷戦の時代と開発援助競争。
第9回	保守の時代とレーガノミクス	パクス・アメリカナの動揺と新自由主義政策。
第10回	ニューエコノミーとIT革命	1990年代のアメリカ経済とIT革命。
第11回	バブルと世界金融危機	ITバブルと住宅バブル、リーマン・ショック。
第12回	多極化する世界	新興国の台頭とアメリカ経済。
第13回	「トランプ」現象と米中対立の行方	「トランプ現象」の背景と課題、米中対立と21世紀の覇権国。
第14回	試験・まとめと解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019年。

【参考書】

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012年。河崎信樹、河音琢郎、藤木剛康『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30％）期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深める映像資料などを用いることとする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

可能な限り、秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

アメリカ経済史、国際経済史

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, culture, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the role the U.S. has played in the global economy.

ECN200CA
アメリカ経済論 B
下斗米 秀之
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは不可欠である。本講義では、春学期に学んだアメリカ経済の歴史を踏まえたうえで、現代アメリカ経済の理解に不可欠な移民や医療、格差や貧困など、特に重要だと思われるトピックを取り上げて、アメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、14 回のうち 7 回をオンラインとする。オンラインの場合には事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。対面授業の際に、学生からの質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ経済の特色	特殊アメリカの地理的、社会的、制度的要因。
第 2 回	アメリカ経済成長の源泉	巨大な市場と大量生産方式。
第 3 回	自由企業体制 1	近代企業の生成と発展。
第 4 回	自由企業体制 2	アメリカ企業の戦略と組織、IT 産業の変化。
第 5 回	アメリカ経済史と移民労働者	アメリカ経済史における移民問題。
第 6 回	今日の移民問題：移民の分極化	高度技能移民と不法移民。
第 7 回	技術政策と研究開発	産官学の研究開発体制の成立と変遷。
第 8 回	アメリカの教育	教育制度とその歴史
第 9 回	アメリカの医療制度	医療保険制度改革。
第 10 回	アメリカの金融	金融危機とその歴史。
第 11 回	アメリカの環境問題	環境問題の歴史と現状。
第 12 回	格差社会と貧困	所得格差の実態と格差社会。
第 13 回	コロナ禍のアメリカ経済	COVID-19 とアメリカ経済。
第 14 回	試験と解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。本授業の準備・復習時間として、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017 年。

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。
河崎信樹、河音琢郎、藤木剛康『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房、2021 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30 %）期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深める映像資料などを用いることとする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

可能な限り、春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline (in English)】

For those of us who live in a global capitalist economy, it is essential to understand the trends of the United States, which leads the world as

an economic superpower. In this lecture, based on the history of the U.S. economy studied in the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
伊東 林蔵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命期から第二次世界大戦終結までのヨーロッパ経済の歴史を、主にドイツを中心に考察していく。その中でも産業革命におけるイギリスの覇権、第二次産業革命におけるアメリカとドイツ自体の台頭、ソ連や日本の経済発展の中で、ドイツが覇権を追求し、挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調し、欧州統合に向かう過程を考察する。

【到達目標】

ヨーロッパにおいてドイツとはどのような位置を占め、ヨーロッパの経済体制をどのように形成してきたか理解を深める。
現代ヨーロッパの最も「大きな物語」である欧州経済統合は、戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたか理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・春学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
・春学期は学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信するので、授業時間にあわせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何故、歴史から学ぶのか？ 「ヨーロッパのドイツ」 本講義の全体的テーマ 留意点等
第 2 回	イギリス産業革命	「産業革命」とは何か？ 技術革新 工場制の成立 資本主義 「悲観論」と「楽観論」等
第 3 回	ヨーロッパ大陸の産業革命	後発資本主義国 ドイツ関税同盟と産業革命 「大ドイツ」か「小ドイツ」か？ 1848 年の革命 フランスは停滞した農業国家か？ 等
第 4 回	「バックス・ブリタニカ」	大英帝国の覇権と海軍力 自由貿易帝国主義 ジェントルマン資本主義 選挙法改正運動 工場法 社会主義の誕生等
第 5 回	第二次産業革命	ドイツ帝国成立 1873 年大不況 集中と大企業の出現 新産業の登場 金融資本の成立 アメリカの台頭 ドイツの社会政策等
第 6 回	世紀転換期における自由主義の変容	労働運動の隆盛 社会帝国主義 イギリス自由党の社会改革 新自由主義 (New Liberalism) 改革等
第 7 回	第一次世界大戦前夜	ヴィルヘルム二世の世界政策 独占体制の成立 コーポラティズムの形成 中小企業の発展 中東欧への進出 大陸ヨーロッパ統合構想等
第 8 回	第一次世界大戦	総力戦体制 国家介入の拡大 女性の社会進出 戦災 アメリカの参戦等
第 9 回	ヴェルサイユ条約とヴァイマル共和国の成立	領土割譲 賠償金 ヴァイマル憲法の成立 労使協調 賠償不履行政策 ハイパーインフレーション等
第 10 回	ヴェルサイユ・ヴァイマル体制	相対的安定期 賠償履行政策 産業合理化 カルテルとコンツェルン アメリカナイゼーション 中間層の危機意識 大衆消費社会の萌芽等
第 11 回	ヨーロッパ経済統合の起源？	中欧思想 汎ヨーロッパ運動 生存圏構想 国際粗鋼共同体 IG オイローパ等

第 12 回	大恐慌	再建金本位制の崩壊 ブロック経済 新自由主義（Neo-Liberalism）の起 源等
第 13 回	ナチズム体制の成立	強制的均整化 第一次四ヶ年計画と景 気回復 第二次四ヶ年計画と戦時経済 体制 アウタルキー等
第 14 回	第二次世界大戦	電撃戦 軍需と重化学工業 強制労働 戦後構想等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・馬場哲/山本通/廣田功/須藤功著『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 2012.
- ・小野塚知二『経済史』有斐閣 2018.

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。授業内容の理解度を問う期末レポートが成績評価の 100%を占めるので、課題内容、提出期限等には充分注意すること。典拠を示さずに他者の文献（インターネット上の資料を含む）をコピーし、レポートに貼り付けて提出する事例がみられる。発見した場合は「不可」となるので、絶対に行わないこと。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画への短期間における視聴集中に対処する。
図像資料の引用により学生の理解度を高める。
参考文献の引用方法について分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】

In this course, We will consider the European economic history from the Industrial Revolution to the end of World War II, mainly in Germany. Among them, we will focus on the long process towards European integration in that Germany pursued supremacy, frustrated, and cooperated as "Germany in Europe".

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
伊東 林蔵
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦末期から現在までのヨーロッパ経済を、ドイツを軸として、欧州統合への収斂とその綻びの歴史として捉える。

【到達目標】

諸々の反証を抱えながら、後知恵として見れば、「収斂」していくように欧州統合が成立した歴史的経緯を理解する。同時に現在 EU が抱える諸問題の背景にいかなる歴史的要因が存在するのか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
- ・毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業として、今学期の導入説明を学習支援システム上に掲載。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
- ・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦中の戦後構想	亡命社会民主党、保守反対派、連合国の戦後ヨーロッパ統合構想等
第 2 回	第二次世界大戦終結と連合国の対独占領政策	アメリカ・イギリスの占領政策 「弱いドイツ」か「強いドイツか」 ドル条項 フランスの妥協 ソ連の占領政策等
第 3 回	戦後復興	マーシャル・プラン アーベルスハウザー・テーゼ 通貨改革等
第 4 回	東西ドイツ分割	冷戦体制の成立等
第 5 回	ドイツの高度経済成長	社会的市場経済 ライン資本主義 「社会主義の優等生」 イギリスの停滞等
第 6 回	欧州経済統合	欧州石炭鉄鋼共同体 ベネルクスの関税同盟構想 イギリスの自由貿易圏構想 ドイツの EEC 加盟等
第 7 回	福祉国家論	福祉国家の諸類型 高度経済成長・グローバリズム・脱工業化との関係等
第 8 回	高度経済成長の終焉	1966/67 年不況 ニクソン・ショック オイル・ショック 「経済成長の弱さ」等
第 9 回	新自由主義（Neo-Liberalism）の台頭	サッチャリズム レーガノミクス コール政権等
第 10 回	社会主義体制の動揺	東欧の諸改革
第 11 回	東欧革命	東西ドイツ統一 ソ連の解体等
第 12 回	統一ドイツの諸問題	「失われた 10 年」 東ドイツ地域の経済再建 ハルツ改革等
第 13 回	EU の成立	EU の機構
第 14 回	現在のドイツと EU	「新たな経済の奇跡」 メルケル政権 移民問題 脱原発 イギリスの EU 離脱等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008.
- ・川越修/河合信晴編『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016.

・田中素香/ 長部重康/ 久保広正/ 岩田健治著『現代ヨーロッパ経済』第 5 版, 有斐閣 2018

・工藤章/ 藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。
授業内容の理解度を問う期末レポートが成績評価の 100% を占めるので、課題内容、提出期限等には充分注意すること。
典拠を示さずに他者の文献（インターネット上の資料を含む）をコピーし、レポートに貼り付けて提出する事例がみられる。発見した場合は「不可」となるので、絶対に行わないこと。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画への短期間における視聴集中に対処する。
図像資料の引用により学生の理解度を高める。
参考文献の引用方法について分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】

We will consider the European economic history from the end of World War II to the present as the history of convergence to European integration and its crisis, mainly in Germany.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。コロナの状況によっては、オンデマンドまたはズーム開催になる可能性がある。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーター産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100% の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。(本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します)

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
現代アジア経済論B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではアジアの状況に大きな影響を与えたポイントとなる出来事を学ぶ。中盤では ASEAN 諸国の成立と現状を学ぶ。後半は第二次世界大戦後の ASEAN の発展史を学ぶ。コロナの状況によっては、オンデマンドまたはズーム開催になる可能性がある。授業進展に伴い、レポートや小テストなどを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ 1	各経済統計による概観
6	タイ 2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア 1	各経済統計による概観
8	マレーシア 2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア 1	各経済統計による概観
10	インドネシア 2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン 1	各経済統計による概観
12	フィリピン 2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。(本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します)

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA

中国経済論 A

馬 欣欣

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する

第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著 (2016)『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之 (2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著 (2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著 (2013)『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫 (2013)『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 宿題およびレポート (70 %)
 2. 期末テスト (30 %)
- 両者の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline (in English)】

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the countries in Europe and the United States.

ECN200CA
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済成長の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、農民・農村問題、雇用・格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもついで講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第 2 回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第 3 回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第 4 回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する
第 5 回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第 6 回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第 7 回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第 8 回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第 9 回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第 10 回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第 11 回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第 12 回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第 13 回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第 14 回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 宿題およびレポート（70 %）
 2. 定期試験（30 %）
- 両者の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline (in English)】

This lecture introduces the factors behind China's economic growth from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., official statistical data published by the Chinese government, survey data etc.). The topic targets focus on individuals, households, enterprises and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise production and innovation, industrial concentration and industrial structural transformation, residents with rural hukou and problems in rural areas and income inequality, and understand the facts and problems of the Chinese economy at the microeconomic levels.

ARS200xCA
世界の文化と思想 A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承 1』

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられる。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ペルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ペルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に 3 回小テストを実施し（事前に Hoppii で周知）、その結果に関して翌週の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 1	授業内容の紹介。アンケート。アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に沿岸地帯）。
第 2 回	イントロダクション 2	アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に山岳地帯）。
第 3 回	最初の「アメリカ人」	いつ頃、どんな人たちが、どのように、無人の南北アメリカ大陸に足を踏み入れたのか
第 4 回	文明形成期 1	農耕の発達を待たずして登場した最初の神殿（先土器時代）
第 5 回	文明形成期 2	巨大神殿群の興亡と世界遺産チャビン・デ・ワントル（教員の研究成果紹介を含む）
第 6 回	文明の様々な展開 1	最初の王国モチェ
第 7 回	文明の様々な展開 2	巡礼と地上絵のナスカ
第 8 回	高原の大国	ティティカカ湖のほとりに栄えたティワナク、北の覇者ワリ
第 9 回	インカ統一前夜 1	黄金伝説のシカンとチムー
第 10 回	インカ統一前夜 2	北海岸の大国チムー
第 11 回	インカ 1	インカの基本的特徴
第 12 回	インカ 2 帝国の興亡	なぜ、どのように急拡張し、そして滅びたのか
第 13 回	インカ 3 日々の暮らし	年中行事、生まれてから死ぬまで、職業、食と酒など
第 14 回	スペイン対インカ	スペインによる征服期の人物・出来事など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。参考書欄の冒頭に挙げた文献（細谷編 2012）で講義各回に対応する章に目を通すことも勧める。これらを総合すると約 4 時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppii で資料を適宜配布する。

【参考書】

・細谷広美（編）『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）：春学期講義内容の全域をカバーしており、かつ最も簡潔で易しい。オススメ。
・関雄二『アンデスの考古学（新版）』同成社（2021）：春学期の大半を詳細にカバーする。日本語で読めるアンデス考古学の概説書としては最も詳細。

・大貫良夫、加藤泰建、関雄二（編）『古代アンデス - 神殿から始まる文明』朝日新聞出版（2010）：日本の調査団による研究成果のまとめ。
・ピース、F・増田義郎『図説インカ帝国』小学館（1988）：豊富な写真が素晴らしいインカ入門の良書。
・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き2頁にまとめられており読みやすい。
・古代アメリカ学会 <https://americaantigua.org/>
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期中に Hoppii 上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を3回実施し、点数が高い方から2回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で1回欠試しても不利になりにくい）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価方法を変更した

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストは Hoppii 上で行うため PC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布も Hoppii 上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

毎回 Hoppii で配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノート PC やタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day I"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1)obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2)understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

ARS200xCA
世界の文化と思想 B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承2」

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられる。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ベルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ベルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に3回小テストを実施し（事前に Hoppii で周知）、その結果に関して翌週の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介（春学期授業のまとめ含む）。アンケート。
第 2 回	スペインによる征服 1	征服期
第 3 回	スペインによる征服 2	植民地時代
第 4 回	現代のベルーと古代の遺産 1（盗掘編）	盗掘をめぐる諸問題
第 5 回	現代のベルーと古代の遺産 2（博物館編）	博物館をめぐる諸問題
第 6 回	日本の研究者とベルー社会 1（1960-80 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 1（様々なエピソード）
第 7 回	日本の研究者とベルー社会 2（1990 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（博物館建設のエピソード）
第 8 回	日本の研究者とベルー社会 2（2000 年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（教員の事例紹介等）
第 9 回	古代アンデスの食文化 1（紀元後）	様々な時代・地域の食文化
第 10 回	古代アンデスの食文化 2（紀元前）	教員の研究成果紹介
第 11 回	自然災害とアンデス文明	古代のエル・ニーニョ現象の被害と対応策
第 12 回	古代アンデスの戦争	様々な時代・地域の戦い方、武器などについて
第 13 回	古代アンデスの巡礼	スペイン人征服者の見た巡礼、考古学者の見いだした巡礼
第 14 回	古代アンデスの世界観	教員の研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期「世界の文化と思想 A」の初回配布資料（秋学期の Hoppii 教材にもアップロードしておく）に目を通し、少なくとも UNESCO 世界遺産に登録されているベルー国内の遺跡の地図上・年表上の位置を頭に入れておく。各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。これらを総合すると約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppii で資料を適宜配布する。

【参考書】

・大貫良夫「アンデスの黄金 - クントゥル・ワシの神殿発掘記」中公新書（2000）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。
・関雄二「アンデスの文化遺産を活かす - 考古学者と盗掘者の対話」臨川書店（2014）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。

・高野潤『インカの食卓 - 古代から続く大地の恵み』平凡社（2011）：秋学期後半の参考となる。著者は写真家であり、貴重な写真が満載。そして学者顔負けの内容。
・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き2頁にまとめられており読みやすい。
・レンフルー&バーン『考古学 - 理論・方法・実践』東洋書林（2007 年）：アンデスに限らない考古学の概説書。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期中に Hoppii 上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を3回実施し、点数が高い方から2回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で1回欠試しても不利になりにくい）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教材としてのドキュメンタリー番組をバランス良く使用する。成績評価方法を変更した。

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストは Hoppii 上で行うため PC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布も Hoppii 上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

春学期「世界の文化と思想 A」から継続する内容であるため、これを履修済みであることが望ましい（応相談）。毎回 Hoppii で配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノート PC やタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day II"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1)obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2)understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

SES200CA
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の 4 つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第 3 回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第 4 回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックベレット汚染・防止策
第 5 回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 6 回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壤汚染
第 9 回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 10 回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 11 回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第 12 回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第 13 回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第 14 回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。 総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

ECN200CA

現代ファイナンス入門 A

湯前 祥二

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第 3 回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第 4 回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第 5 回	財務諸表分析	有価証券報告書
第 6 回	収益性の分析	資本利益率
第 7 回	安定性の分析	株主資本比率
第 8 回	デュボン・システム	株価と財務比率
第 9 回	株価の分解	EPS と PER
第 10 回	配当利回り	株価と DPS
第 11 回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第 12 回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第 13 回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第 14 回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA

現代ファイナンス入門B

湯前 祥二

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第 2 回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第 3 回	アクティブ運用	成功の条件
第 4 回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第 5 回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第 6 回	確定利付証券	元本、クーポン
第 7 回	金利期間構造	期間構造仮説
第 8 回	リスク管理	金融工学の機能
第 9 回	分布	離散型と連続型
第 10 回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第 11 回	標準偏差と VaR	正規分布
第 12 回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第 13 回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第 14 回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

LANe200CA

Business Communication I A

GLENN FERN

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.	13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.	14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.	【参考書】 None		
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.	【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.			
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.			

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.	13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion	14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.	【参考書】 None		
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.	【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required	【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【学生が準備すべき機器他】 None		
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【その他の重要事項】 None		

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- 10 Managing change in a corporation Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
- 11 Managing change group work Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
- 12 Presentation practice and presentation skills Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
- 13 Group presentations and discussion Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
- 14 Course review and discussion A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication IA
JOHN LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductionsn	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication IB
JOHN LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook
Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)

Week 13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。事情により Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境を自身で用意してもらいます。詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとなります。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法

12	平均に関する群間比較 (2)	・ 2 元配置法 ・ 相互効果
13	単回帰分析	・ 単回帰分析 ・ 系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・ 重回帰分析 ・ ダミー変数 ・ その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。
・ 田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・ 東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
・ 東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)
homeworks(30%) and final report(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を利用します。必要に応じて USB メモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ。
※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。事情により Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境 (統計パッケージ R のインストール含む) を自身で用意してもらいます。
詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・ 講義概要の説明 ・ その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・ 基本的な設定
3	R の設定 (2)	・ 基本コマンド ・ 統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ ファイル操作 ・ オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・ 基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・ 行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・ 行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・ クロスセクション・データ ・ K 変数線形回帰モデル ・ 一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・ 散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・ 不均一分散の検定 ・ 不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・ パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・ 固定効果モデル ・ 変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「Rによる統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
 - ・「Rによる計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
 - ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
- ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

final report(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を使うので、必要に応じて USB メモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第3回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第4回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第5回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第6回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第7回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第8回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第9回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第10回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第11回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第12回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第13回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果 (2000)『世界の人口 (第2版)』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東
洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（60%）が中心となる。授業時リアクシ
ョンペーパーまたはオンライン小テスト（平常点 40%）なども最終評
価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献な
ども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

この講義は一部をオンラインで実施する予定である。詳細は、第1
回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題
の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心
や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

From the perspective of economic geography, this lecture will
cover various issues such as economic growth and population,
urban and regional economies, industrial location theory,
spatial structure of the economy, national land planning, and
regional policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の
盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけるこ
とを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態
を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の
姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみ
ならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考
察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標
とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完する
ことで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国
際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。
本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、
主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行
動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を
当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中
の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、
上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提
出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづく り」へ	加工組立型製造業とものづくり基 盤技術
第9回	自動車大国日本の行方 ①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方 ②	日本的生産システムとグローバル 戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグロー バル・マーケティング時 代	商品連鎖、クラスター、ネット ワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講
義後にノート、レジュメ、地図等に関心を持った点を中心に復習し
て欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
 松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、オンデマンド授業の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

この講義は一部をオンラインで実施する予定である。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

MAN200CA
会計学入門 A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下のような方法で進めていきます。

①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
 ②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動（1）	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動（2）	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN200CA

会計学入門 B

堀江 優希

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、以下の方法で進めていきます。

①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②確認テスト：「学習支援システム」上で確認テスト（またはアンケート）を解いて（回答して）もらいます。

確認テストについては、間違いやすい問題を中心に、次回の講義冒頭で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析（1）	資本利益率
7	収益性の分析（2）	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認テスト（またはアンケート）（30 %）、期末試験（70 %）で評価します。なお、出席は単位取得の前提条件であるため、出席が一定の割合を満たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (70 %) , and Quizzes(30%)

MAN200CA

原価計算 A

梅津 亮子

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA

コーポレートガバナンス論A

胥 鵬

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。

インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第2回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第3回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第4回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第5回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第6回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第7回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第8回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第9回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する

第13回 株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回 課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論B
胥鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Bの学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役の義務	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス―サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス―サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

CAR200CA

企業実務研究 A

武田 浩一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的によりわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第 1 回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第 1 回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第 1 回講義に必ず出席すること。

第 2 回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第 2 回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第 3 回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第 4 回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 5 回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第 6 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 7 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 8 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 9 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 10 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 11 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 12 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 13 回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第 14 回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第 3 版、日経 BP 社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に履修登録すること。2 単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

ECN300CA
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出、財市場の均衡
第6回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	金融市場の均衡
第7回	開放経済	開放経済（小国）モデル
第8回	開放経済	為替レート：名目対実質為替レート
第9回	開放経済、中間試験	為替レートの決定要因
第10回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ、時間的視野、総需要

第11回 景気変動へのイントロダクション 総供給、総需要・総供給モデルを使った短長期分析

第12回 総需要1：IS-LMモデルの構築 財市場とIS曲線

第13回 総需要1：IS-LMモデルの構築 貨幣市場とLM曲線

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総需要2：IS-LMモデルの応用	財政、金融政策
第2回	総需要2：IS-LMモデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第3回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第4回	経済成長	資本の蓄積、定常均衡
第5回	経済成長	貯蓄、資本の黄金律水準
第6回	経済成長	人口成長、経済ショック、データ
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第8回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率
第9回	中間試験	中間試験

第10回 経済変動の動学モデル 動学モデルにおける総需要・総供給

第11回 経済変動の動学モデル 動学モデルを使った政策分析

第12回 政府負債と財政赤字 財政の持続可能性

第13回 消費 消費者行動の理論

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2018年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 20 %、宿題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA
日本経済史 A
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 明治維新（1868 年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成－成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。
- (2) 単なる「史実」の羅列、ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する 3 つの「商品」——資本・労働・土地——とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

【到達目標】

到達目標は以下の 2 点である。

- (1) 日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになること。
- (2) その際、具体的「史実」とその「理論－論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 講義スタイルの基本的
- (a) 正当な理由にもとづいて教室での受講ができない受講生を考慮に入れ、Zoom も併用する対面講義（ハイフレックス）です。
- (b) その具体的な講義スタイルは、(2) 以下で説明する手順を取り入れたハイブリッド講義です。
- (c) したがって、Hoppii 経由で事前に配布した複数の資料だけでなく、講義中にも資料を共有したり、チャット機能を用いて同時配布することから、オンラインで受講する学生はもとよりですが、教室で受講する受講生も、教室には適切な端末機器を携帯することを強く推奨します。
- (d) 以下で示す授業計画からも分かるように、ハイフレックス講義を前提としながら、オンライン方 による「中間のまとめ」とそれに基づいて自由に声が出せる質疑応答を定期的に組み入れた、双方向的な講義です。
- (2) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」を用いて教室あるいはオンラインで参加する受講生で共有し、講義の共通「素材」として使用します。
- (3) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できます。
- (4) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に Hoppii の教材欄を通じてアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができます。
- (5) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできます。
- (6) 講義の最後に 10 分ほどの「今日の質問コーナー」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次回の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックします。
- (7) 最終授業では、これまで定期的に行われてきた「質疑応答」や(6)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義と「日本」資本主義	「日本」という資本主義的地勢と国民経済形成：資料「資本の原型 Ver.1」配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第 2 回	明治維新の「政治」的意義を経済学からみる	明治維新政府の経済的特徴：王政復古・版籍奉還・廃藩置県 → 「学習ガイド A-1」を配布
第 3 回	明治維新と資本主義形成との関係	封建的規制の廃止の経済的意味：資料「資本の原型 Ver.1」と「学習ガイド A-1」による明治初期の資本主義的制度形成を整理
第 4 回	第 1 回～第 3 回までの講義の小括と質疑応答	明治初期の制度改革についての質疑応答
第 5 回	地租改正の経済的意味	財政的視点から地租改正を整理し、私的所有権の確立という法的側面を「展望」する：資料「明治初期財政」の配布
第 6 回	秩禄処分	財政的視点から秩禄処分を整理し、それを資本形成（長期）的視点から位置づける：資料「資本の原型 Ver.2」配布
第 7 回	第 5 回と第 6 回の講義の小括と質疑応答	地租改正と秩禄処分という初期資本主義形成にとって大きな制度改革を確実に理解するための質疑応答
第 8 回	通貨金融制度の形成	地租改正・秩禄処分の「意味」を踏まえて、明治初期を貨幣的側面から整理する：「学習ガイド A-2」配布
第 9 回	大隈財政と松方財政および日本的「産業革命」について	「財政」政策の資本制形成能力と技術導入の「日本」的特殊性：「学習ガイド A-3」および「学習ガイド A-4」配布
第 10 回	第 8 回と第 9 回の講義の小括と質疑応答	財政が資本主義的な諸制度形成をどのような関係を中心とした質疑応答
第 11 回	明治期の産業構造の整理と転換期としての二つの「戦争」	工業の近代化の「日本」的あり方と二つの戦争の経済史的意味を整理する：「学習ガイド A-5」および「学習ガイド A-6」配布
第 12 回	いわゆる「農工商資金循環」論の紹介	農業セクターから工業セクターへの資金移動をこれまでの講義の総括を展望する：「資本の原型 Final」配布
第 13 回	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」(1)	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」という視点から総括的に論じ直し、質疑応答の素材とする
第 14 回	「農工商資金循環」論と二重構造論を日本のいわゆる「二重構造」(2)	配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評し、質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を共同で作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第2刷、2015年、2800円＋税：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excelなどのような機能をマウントしたPCあるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年

『敗北と憶想』航思社、2019年

『人間の群れ』小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021年

【Outline (in English)】

(1) Our class aims at understanding the specific period from the Meiji Restoration (1868) to the WWI as the "formation-establishment" process of Japanese Capitalism.

(2) (1) is, however, composed not simply of chronologically "sorting out" the historical facts but rather of theoretico-historical grasping of the productive factors of capitalism such as capital, labour, and land in relation to the establishment of the modern social institutions of course including the State called "Nippon".

ECN300CA
日本経済史 B
長原 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。

(2) 単なる「史実」の羅列ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。

(3) 戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

【到達目標】

到達目標は以下の2点である。

(1) 日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。

(2) またそのさい、「史実」とその「理論－論理」的理解を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 講義スタイルの基本的

(a) 正当な理由にもとづいて教室での受講ができない受講生を考慮に入れ、Zoomも併用する対面講義（ハイフレックス）です。

(b) その具体的な講義スタイルは、(2)以下で説明する手順を取り入れたハイブリッド講義です。

(c) したがって、Hoppii経由で事前に配布した複数の資料だけでなく、講義中にも資料を共有したり、チャット機能を用いて同時配布することから、オンラインで受講する学生はもとよりですが、教室で受講する受講生も、教室には適切な端末機器を携帯することを強く推奨します。

(d) 以下で示す授業計画からも分かるように、ハイフレックス講義を前提としながら、オンライン方による「中間的まとめ」とそれに基づいて自由に声が出せる質疑応答を定期的に組み入れた、双方向的な講義です。

(2) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それをZoomの「画面共有」を用いて教室あるいはオンラインで参加する受講生で共有し、講義の共通「素材」として使用します。

(3) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できます。

(4) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後にHoppiiの教材欄を通じてアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができます。

(5) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできます。

(6) 講義の最後に10分ほどの「今日の質問コーナー」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックします。

(7) 最終授業では、これまで定期的に行われてきた「質疑応答」や(6)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1890 年恐慌の意義と戦間期の恐慌を位置づける	戦間期の恐慌を「予め」まとめる：資料「景気循環」および秋学期全体で用いる統計資料の配布を開始する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第 2 回	「戦間期」の俯瞰的な局面区分	第一次世界大戦から第二次世界大戦を日本における具体的な経済的出来事を示しながら局面区分する：資料「時期区分」を配布する。
第 3 回	一度「恐慌論」に戻ってみて——景気循環の仕組み	本来経済理論で講義すべき「恐慌論」を資料「恐慌」を用いて集中的に講義し、そのうえで次回からの戦間期における恐慌の反復の経済的意味を整理する。
第 4 回	「戦間期」における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。また資料「1_ [1910 年代初期]」と「2_ [大戦フ ザーム]」を配布する。
第 5 回	「戦間期」日本経済の世界的背景	第一次大戦後の世界構造を整理する：資料「3_1 [世界経済の新局面]」を配布する。
第 6 回	「戦間期」日本経済の新局面 (1)	第一次大戦後の日本経済の新局面を整理する：資料「3_2 [日本経済の新局面]」を配布する。
第 7 回	「戦間期」日本経済の新局面 (2)	産業構造の変化（重化学工業化と都市化）：資料「3_2 [日本経済の新局面]」と当該期の経済統計の集中的理解を深める。
第 8 回	「戦間期」日本経済の新局面 (3)	戦間期における政策体系を金融的側面（1920 年恐慌 → 関東大震災 → 救済政策 → 1927 年金融恐慌）から整理する：資料「4_1_1 ～ 3 [金融再編]」を配布する。
第 9 回	第 6 回～第 8 回の講義をめぐる質疑応答	戦間期における日本経済の新局面を「史実」とその理論的解釈をまとめ、質疑応答を行う。
第 10 回	井上財政と「昭和恐慌」	20 年代を通じた再建金本位制への復帰努力とその失敗：資料「4_1_3 [金融再編]」の配布
第 11 回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 12 回	「高橋財政」の政策体系 (2)	資料「5_1 [高橋財政]」の配布 「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 13 回	戦前と戦後の連続性と断続制	資料「5_2 [高橋財政]」の配布 「高橋財政」と「戦時統制経済」、そして戦後経済成長との連続性と非連続性
第 14 回	秋学期の総括と戦後日本経済（論）の初発的特徴を理解するためのディスカッション	レポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのアクション・ペーパーの総括的講評を行い、レポート作成のための準備を促すために資料「傾向と対策」を配付する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税：必ずしも購入の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

記述式の学期末試験（レポート）によって成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウントした PC あるいはタブレットが必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年
「人間の群れ」小泉義之・立木康介編『フーコー研究』岩波書店、2021 年

【Outline (in English)】

- (1) Our class aims at historically trace the development of Japanese Capitalism and and the necessary changes associated with it in the inter-war phase based and then to define the former as the part of the preliminary stage for the world-wide transformation from the fordism to the post-fordism.
- (2) (1) is, however, composed not simply of hronologically “sorting out” the historicals facts but rather of theoretico-historical grasping of the establsihment of Japanese Finance Capitalism and the social institutions closely associated with it.
- (3) (1) and (2) also aim at having a bird’s-eyes view of the Japanese Economy after the WWII.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンラインで行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）

ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）

米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial

supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as “what is the strength of nation?” and “what regime brings economic prosperity?”. In replying to them, mercantilism was to be formed.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17 世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17 世紀末の Colbert の工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18 世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18 世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンラインで行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します。またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が日を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）

ラース・マクスソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）

米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や荒廃農地の増加、農産物輸入額の増加などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学の手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	食の安全	GAP、HACCP
第 5 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 6 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 7 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 8 回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第 9 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術
第 10 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 11 回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第 12 回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
第 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

荏開津典生・鈴木宣弘 (2020) 『農業経済学 第 5 版』岩波書店

【参考書】

生源寺眞一 (2013) 『農業と人間』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines food and agriculture in Japan.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on food and agriculture and to comprehend Japanese agriculture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第 2 回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閒/中耕農業
第 3 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 4 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第 8 回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第 9 回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第 10 回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第 11 回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第 12 回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第 13 回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第 14 回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版。その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

The goals of this course are to comprehend forestry and fisheries in Japan and to acquire methods of economic analysis on resource management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何かー定義と歴史的展開ー	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改革	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改革による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 18 版）』有斐閣、2021 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

「コンテンツ教材の視聴状況（参考資料）、毎回実施される確認テストの受験状況と点数」（50 %）と「学期末試験の点数」（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアナウンスの意見では教材の事前配布を望む声が強かった。

教材の事前配布により、コンテンツ視聴等に影響が出ることも懸念されるが、受講生の便宜を図るため、極力、事前配布としたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉えるべきものである。本講義では Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19 を見据えた政策対応と今後の展開	Covid-19 に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて 2 時間、講義後に講義資料を参考に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
小黒一正・菅原琢磨『業価の経済学』日本経済新聞出版社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。
「コンテンツ教材の視聴状況（参考資料）、毎回実施される確認テストの受験状況と点数」（50 %）と「学期末試験の点数」（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では教材の事前配布を望む声が強かった。
教材の事前配布により、コンテンツ視聴等に影響が出ることも懸念されるが、受講生の便宜を図るため、極力、事前配布としたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to give deeper comments and discussion on the topics that are adopted Social Policy A.
Considering the situation of the Covid-19 Pandemic, we would like to focus on the topics especially in the fields of medical service.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, we will examine the current situation and issues of the Japanese social security system.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics.

ECN300CA
金融各論 I A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面による講義形式で行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義では数値例をもとに。講義ではアサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義が行われる日に提出してもらい。次回の最初にクイズの要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	イミュニゼーション
4	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
5	リスク資産評価 2	複数期間モデル
6	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
7	株式収益率の分析	シミュレーション
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	数値例を用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ボータブル・アルファ戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）

手嶋宜之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

【成績評価の方法と基準】

講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. We focus on asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面による講義形式で行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義が行われる日に提出してもらう。次回の最初にクイズの要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga 『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）

R・ブリーリー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、藤井 眞理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス 第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

POL300CA
政治過程論
岡崎 加奈子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業において、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。また、小テストおよび課題レポートを複数回予定している。小テスト・課題については解説・講評をおこない、知識と理解の定着をはかる。

授業形態は、対面授業でおこなう。ただし、新型コロナウイルスの影響等で各回の形態について変更の可能性はある。変更がある際には学習支援システムにより周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	政治過程論とは何か
第 2 回	現代社会と政策	現代社会の特徴と政策について
第 3 回	権力とは何か	権力と政治について
第 4 回	代表制	民主主義と代表制について
第 5 回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第 6 回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第 7 回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第 8 回	政党制	政党の発達と政党制
第 9 回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第 10 回	自治体のしくみ	自治体の政治過程と地方分権改革
第 11 回	自治体の財政・政策	自治体の財政・政策とその課題
第 12 回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第 13 回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第 14 回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価をおこなう。平常点は、毎回の授業への取り組みや課題提出（60 %）、レポート（20 %）、小テスト（20 %）により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

POL300CA
国際政治論
曹 海石
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第 2 回	東西冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第 3 回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第 4 回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第 5 回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第 6 回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第 7 回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第 8 回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第 9 回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第 10 回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第 11 回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第 12 回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第 13 回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の三大新聞紙以外に、中国の人民日報海外日本語版や韓国の朝鮮日報海外日本語版などを読むことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996 年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004 年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010 年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992 年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988 年。
- 6、国分良成など『日中関係史』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度「平常点」30%、レポート課題20%、期末テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire international politics

ECN300CA
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論Aでは産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式である。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス- 基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（1）調査方法	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（2）経営指標と特化係数	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計調査	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（商業、サービス業）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性、サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
9	月次産業統計調査と指数	経済産業省生産動態統計調査、鉱工業生産指数、商業動態統計調査、第三次産業活動指数、季節調整
10	産業連関表（1）レオンチェフ	ワシリー・レオンチェフ、DVD『13プラス』視聴
11	産業連関表（2）産業連関表のしくみ	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接統表、地域間表

- 産業連関表（3）産業 産業連関分析（輸入外生モデル）
- 産業連関表（4）産業 産業連関分析（輸入内生モデル）
- 産業統計の未来、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円

【参考書】

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2580 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必須ではないが、授業において Excel を用いた計算方法を紹介する）

【Outline (in English)】

Economic statistics A deals with industrial statistics. I will explain the flow from the administrative record about the business to the input-output table through the business register, economic census, and various industrial statistics.

ECN300CA
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論 B では世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、小テストを実施する。家計簿アプリを用いた結果についてレポートを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）年齢・時間・コーホート	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）ベティ＝クラークの法則	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差、
7	家計調査（1）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法
8	家計調査（2）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（3）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	家計簿アプリを用いた学生の消費支出調査の分析結果	家計簿アプリ、学生の消費支出調査
11	消費者物価指数（1）	指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
12	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
13	消費者物価指数（3）	実質化、要因分解

14 消費動向指数、まとめ 実質化、1 か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円

【参考書】

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2850 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト及びレポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

電卓

【Outline (in English)】

Economic statistics B deals with household statistics. Starting from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of census, household survey, and consumer price index.

ECN300CA
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方とも学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義は昨年一昨年と、「Zoom による動画配信」方式が好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパー（レポート含む）と課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールが裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第14回	オークション②	ファーストブライズおよびセカンドブライズ・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021
および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
- ⑤ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

"Game theory" is used as a powerful analytical tool in many fields of economics, and is also applied as a basic theory in corporate organizations and many business scenes. In the spring lecture A, students will systematically learn "Game Theory and its application" from the basics to a more advanced content. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN300CA
情報経済論 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル＝エージェントの理論；モラルハザード
 (III) プリンシパル＝エージェントの理論；アドバース・セレクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義は昨年一昨年と、「Zoomによる動画配信」方式が好評だったことから、その経験も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産を有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第2回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第4回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェンツ）
第6回	モラルハザード④：複数エージェンツの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第7回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第8回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第9回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第10回	不完備契約①	関係特殊投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第11回	不完備契約②	関係特殊投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在

第12回	不完備契約③	「資産所有（財産権）」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権
第13回	不完備契約④	「資産所有（財産権）」アプローチ ②企業の境界の決定
第14回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021
 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
- 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

(I) Uncertainty and Economics of Information

(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard

(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection

(IV) Theory of Incomplete Contracts

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content.

ECN300CA
世界経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第 2 回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視点から検証する
第 3 回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第 4 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 5 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 6 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第 7 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第 8 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（1）	17 世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第 9 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（2）	グローバルヒストリーからみた 17 世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第 10 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 11 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 12 回	大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第 13 回	大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐる E・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第 14 回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に 4～7 時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る 26 の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が 50%, 各回の授業内課題点 50 % で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったため、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history.

ECN300CA
世界経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19 世紀から 21 世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・ 19 世紀と 20 世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・ 基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・ レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グローバリゼーションと 19、20 世紀	19、20 世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに 1815～1880 年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945 年が減速期、1945 年以降が第二の加速期であることを理解する
第 2 回	19～20 世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第 3 回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21 世紀の移民史を経済側面から議論する。
第 4 回	19～21 世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840 年～1913 年）と、第二波（1950 年～2000 年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第 5 回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第 6 回	産業で辿る 19～21 世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄＋鉄道、	1840 年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄＋鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第 7 回	産業で辿る 19～21 世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占／寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第 8 回	産業で辿る 19～21 世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーディズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第 9 回	最終レポートの形式を指導	19 - 20 世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第 10 回	1950、60 年代の世界	1950、60 年代の世界経済情勢を概観する
第 11 回	1970 年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970 年代の経済情勢をみる
第 12 回	1980 年代の世界	1980 年代の世界経済の動向を概観する。
第 13 回	1990 年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990 年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第 14 回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするとともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に 4～7 時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017 年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013 年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016 年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990 年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト 50 %、最終レポート 50 %で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

ECN300CA
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、財政赤字により、多額の政府債務が積み上がっています。国から補助金をもらっている地方自治体も財政の効率化が必須です。この授業の履修者はこうした問題を経済学の観点からどのようにとらえたら良いかについてを学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を論理的に考えるられるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論を理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見かたを身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのようにとらえたら良いかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となりました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせてポイント解説をした音声配信します。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を毎回出して、私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場 (1)	市場の失敗、パレート効率。
第 2 回	政府と市場 (2)	政府の抱える問題。自治体と分権化。
第 3 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第 4 回	財政データ (1)	歳入と歳出の分類。財政指標の見方。
第 5 回	財政データ (2)	決算カードの見方。
第 6 回	財政データ (3)	自治体の破綻と財指標のデータとの関係。
第 7 回	財政の役割	国と地方の役割分担。
第 8 回	所得再分配機能	所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 9 回	経済安定化機能	経済安定化機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 10 回	資源配分機能	資源配分機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 11 回	分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理。
第 12 回	分権化定理 (2)	分権化定理と地方公共財の便益のスピルオーバー。
第 13 回	コースの定理	便益のスピルオーバーとコースの定理。
第 14 回	投票の理論	中位投票者の定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

林宜嗣 (2021)『新・地方財政』有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話をしよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配付し、解説の音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞くことを推奨します。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local government system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments' debt due to their deficits. We have to get our governments' expenditures efficient. Students learn how to consider those issues from the standpoint of economics.

Learning objective:

Students should be able to consider issues on local public finance logically on their own. Students should also understand several theories of public finance and local public finance and learn how to obtain and evaluate municipal data.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN300CA
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政 A での講義をもとに、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、それらを経済学からとらえた場合、どのように評価できるのかについて、履修者のみなさんは学びます。

【到達目標】

地方財政 A で学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが目標です。さらに統計の数字を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、その特徴と近年の傾向を理解します。履修者自身が経済学の立場からこれらに横たわる問題について考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学部からの指示でオンラインでの実施となっていました。Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせてポイント解説をした音声も配信します。Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題を毎回出して、私が採点し返却をします。その際、適宜コメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税と地方税固有の原則	税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税のしくみ。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税の均等割と所得割。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税の仕組み。都道府県間のばらつきの程度。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税。
第 8 回	固定資産税 (2)	公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金のしくみ。国庫支出金と便益のスビルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税のしくみ。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。
第 14 回	再考：公共財	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて地方財政 A と財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

林宜嗣 (2021)『新・地方財政』有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話をしよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配付し、解説の音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞くことを推奨します。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、週に 1 度はお知らせを見るようにして下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of the local public finance A. Students learn local government taxes and bonds, and subsidies and grants from the central government to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand how local taxes are imposed in our life and to understand characteristics of local bonds, subsidies, and grants from the central government to local governments on the basis of these statistics. Students should be able to consider issues lying on these systems of local public finance from standpoint of economics.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by every-week homework: 100%.

ECN300CA
産業組織論 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れをを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に zoom による授業を行う。日、時限は、授業支援システムの「お知らせ」によりその週の月曜日に周知する。その録画ファイルと授業時に作成したノートアップする。録画ファイルのリンク先および授業支援システムにノートのアップの有無を授業支援システムの「お知らせ」を通じて周知する。zoom による授業に参加できなかった学生には、これらでの確認をお願いする。その上で、春学期に 1 回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。授業内容の質疑応答は、zoom による授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）

第 13 回 完全競争モデルでの市場均衡 市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第 14 回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例 完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、zoom による授業の図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、授業後、授業の録画ファイルや授業時作成のノートを用いて、説明の筋道をフォローし、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が 9 割、1 回の練習問題解答の提出状況に 1 割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大きく示すことで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire theoretical understandings of competitive market model. Competitive market model is often used as a benchmark model, for evaluating competitive policy or regulatory policy to specific industries. For this sake, microeconomic theoretical understandings for competitive market are inevitable.

ECN300CA
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に zoom による授業を行う。日、時間は、授業支援システムの「お知らせ」によりその週の月曜日に周知する。その録画ファイルと授業時に作成したノートをアップする。録画ファイルのリンク先および授業支援システムにノートのアップの有無を授業支援システムの「お知らせ」を通じて周知する。zoom による授業に参加できなかった学生には、これらでの確認をお願いする。その上で、春学期に 1 回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。授業内容の質疑応答は、zoom による授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第 2 回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第 3 回	独占モデル	限界収入関数の説明
第 4 回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第 5 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第 6 回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第 7 回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第 8 回	クールノ複占モデル	企業 2 社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第 9 回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第 10 回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第 11 回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価

第 12 回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）
第 13 回	クールノ複占モデル（応用例Ⅱ）	垂直統合の合理性の根拠をクールノ複占モデルを用いて明らかにする。
第 14 回	産業組織論 B の復習	産業組織論 B の復習および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の録画ファイル、ノートの閲覧を通じて説明の筋道をフォローすることで復習を行ってほしい。秋学期に 1 回程度課題を授業支援システムの課題にアップするので、解答作成し、授業支援システムの「課題」にアップしてほしい。zoom による授業内の図への説明、ノート、録画ファイルによる復習により理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請あれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、期末課題を解答して授業支援システムにアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に 90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1 回）の提出状況に 10 % のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

zoom の電子ノート共有による図解で、書き入れる箇所が多くなると見づらくなる恐れがある。そうした図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understanding a seller monopoly model and cournot duopoly model. These models are often used for evaluating the effects of competitive policy or regulatory policy on market performance of specific industry. Microeconomic theoretical understandings for two models (as basic models) are required to describing market performance of real industry.

ECN300CA
金融各論Ⅱ A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CD
金融ビジネス論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
金融各論ⅡB
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100％）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CD
金融ビジネス論B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（100%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内外の負債による資金調達と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80 年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90 年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第 4 回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第 5 回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第 6 回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第 9 回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第 13 回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する
第 14 回	課題作成	今までの内容を確かめるために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターし、必要なデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくつり話すように。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn theories and practices of debt finance. The goal of this course is to understand cash flow and present value as well as the roles of various debt instruments in corporate finance. Students are expected to draw yield curve, to calculate credit risk premiums of corporate bonds. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
企業金融論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

B では、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて株式のリスクとリターンを関係する。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第 2 回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第 3 回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第 4 回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第 5 回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第 6 回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第 7 回	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
第 8 回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第 9 回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第 10 回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第 11 回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第 12 回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第 13 回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ
第 14 回	課題	データをダウンロードし、効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターし、割り当てられたデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FP などの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

M B O , 株式持合, 役員報酬, 中小企業金融, コミットメント・ライン, 銀行ガバナンスと銀行リスク, 会社法の経済分析, 来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In course B, we first learn theories and practice of equity finance. The goal of this course is to understand the risk of equity investment as well as the impacts of equity financing on the stock price. Students are expected to calculate abnormal return around equity finance. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。

【参考書】

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 2.『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30 %、学期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN300CA
国際金融論 B
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済 (1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済 (2)	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機 (1)	通貨危機の歴史
10	通貨危機 (2)	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：30%、中間試験：30 %、学期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016)「R による実証分析 一回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN300CA
数理統計学 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 A」では、統計学の基礎となる確率論を学びます。（既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん、将来実証的な分析を行いたいと考えている皆さんは、是非履修してください。）

【到達目標】

確率論の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

確率論を基礎から勉強し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	確率と統計の考え方
第 2 回	記述統計	データの代表値と視覚化
第 3 回	Excel による解析 (1)	基本操作と分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析 (2)	度数分布表、2 変数の関係
第 5 回	確率 (1)	標本空間と確率
第 6 回	確率 (2)	条件つき確率と独立性
第 7 回	確率 (3)	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布 (1)	離散型確率変数
第 9 回	確率変数と分布 (2)	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布 (3)	連続型確率変数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散、標準偏差 (Excel による実習)
第 12 回	基本的な分布 (1)	主な離散分布 (Excel による実習)
第 13 回	基本的な分布 (2)	主な連続分布 (Excel による実習)
第 14 回	基本的な分布 (3)	正規分布 (Excel による実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）
藤本竜著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %)

レポート (50 %)

※就職活動を行う 4 年生には、平常点について別途配慮します。

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics A", you will learn the theory of probability, which is the basis of mathematical statistics.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the basic idea of probability theory through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

ECN300CA
数理統計学 B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

【到達目標】

統計学の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。実習等のフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布（1）	標本と標本平均
第 2 回	標本分布（2）	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布（3）	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布（4）	中心極限定理と正規分布による近似
第 5 回	正規分布から派生する分布（1）	カイ 2 乗分布、t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布（2）	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布（3）	カイ 2 乗分布、t 分布、F 分布
第 8 回	推定（1）	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定（2）	正規母集団と二項母集団の推定
第 10 回	推定（3）	点推定の規範
第 11 回	検定（1）	検定の考え方
第 12 回	検定（2）	検定における検出力
第 13 回	検定（3）	正規母集団に関する検定
第 14 回	検定（4）	二項母集団に関する検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・・・・1 時間

Excel を含む実習・・・・・・2 時間

授業の復習・・・・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）

加納・浅子著「入門 経済のための統計学〔第 3 版〕」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析〔第 3 版〕」、サイエンス社（2020 年）

田中勝人著「基礎コース 統計学〔第 2 版〕」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学〔第 3 版〕」、東洋経済（2015 年）

石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）

藤本竜著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）

レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics B", you will learn the basic method of statistical inference (estimation / hypothesis testing) based on the knowledge of "Mathematical Statistics A".

【Learning Objectives】

The goal is to understand the basic idea of statistics through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

COT300CA
コンピューター科学 A
小沢 和浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターとネットワークの発展の歴史を背景に、デジタル演算や信号処理の仕組みを理解することを目標とする。さらにコンピューターによるデータの処理からネットワーク上でのデータの通信方法などその基本原理を学ぶ。

【到達目標】

コンピューターとネットワークの発展の歴史を理解する。さらに、デジタル演算や信号処理の仕組みの理解を目標とする。さらに、コンピューターによるデータの処理からネットワークでの情報通信の仕組みを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの歴史	計算機の原理を簡単に説明し、コンピューターの発展の歴史を分かりやすく紹介する。
第 2 回	情報量とコンピューターによる情報の表現	情報量の定義と二値論理を紹介し、コンピューターによる情報の表現を実例を通して理解する。
第 3 回	情報のコード化と補数による演算	コンピューター上で用いられる情報のコード化と補数による減算の方法を演習を通して習得する。
第 4 回	論理演算とデジタル回路	データの入出力関係を記述するブール代数を簡単に説明する。
第 5 回	デジタル回路の基礎	コンピューターを構成する基本素子について解説し論理演算を実現する回路の構成法について学習する。
第 6 回	コンピューターの種類と構成要素	コンピューターの種類についての解説を行う。さらに、コンピュータシステムの基本構成要素について解説を加える。
第 7 回	アルゴリズムとソフトウェア開発	プログラムの実例をいくつか挙げてアルゴリズムの解説を行う。また、簡単なプログラミング実習をする。
第 8 回	プログラミング	簡単なプログラミング実習をする。
第 9 回	ネットワークの基本技術	簡単なプログラミング実習をする。
第 10 回	インターネットの最近の動向	インターネットの歴史と現在のネットワーク機器。
第 11 回	ネットワークの構成	代表的なコマンドを利用してネットワーク構成を確認する。
第 12 回	ネットワークセキュリティキー	暗号と認証の仕組みや様々な脅威について。

第 13 回 システム構築とデータベース コンピューターシステムの構築法とデータベース。

第 14 回 復習 今までの講義の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を理解するために十分な復習が必要。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の始め（ガイダンス時）に指示する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 50%、試験を 50%として評価する。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course aims at 1) learning the background history of computers and their network development ; 2) understanding the mechanism of digital arithmetic operations and signal processing; and 3) acquiring the basic knowledge of data analyses and data communications methods by computers.

COT300CA
コンピューター科学 B
小沢 和浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上で配布されているオープンソースのソフトウェアを利用して、少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得する。また、コンピューターでの処理手続きのアルゴリズムを理解するために、データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、外部手続きとしてそのプログラム化を試みる。

【到達目標】

少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得することを目標とする。データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、アプリケーションソフトの外部手続きとしてプログラム化を試み、コンピューターで処理される手続きのアルゴリズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度はコンピューター実習室での対面講義を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。講義の初めには「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネット上にある基本ソフトウェアの紹介	代表的なインターネット上で配布されているオープンソースの基本ソフトウェアの紹介。
第 2 回	代表的なアプリケーションのインストールと利用	代表的な Office 系ソフトなどのインストールと利用法を演習を通して理解する。
第 3 回	数式処理ソフトの利用法	代数計算なども可能な数式処理ソフトを利用法を理解する。
第 4 回	統計処理ソフトの利用法	統計処理ソフトの利用法を理解する。
第 5 回	地理情報システムの利用法	フリーソフトの GIS ソフトの使い方を学ぶ。
第 6 回	地理情報システムの利用とその応用	フリーソフトの GIS ソフトを用いて簡単な地理情報の分析を行う。
第 7 回	マクロプログラムとユーザ定義関数の理解	簡単なマクロプログラムの作成法を理解する。
第 8 回	関数の作成	マクロプログラムによるユーザ定義関数を作成法を理解する。
第 9 回	様々なツールによる回帰分析	回帰分析の計算手順を例として、内部関数やアドインプログラムの利用法を理解する。
第 10 回	反復計算のアルゴリズム	循環参照による反復計算やソルバーによる最適解の探索を行う。
第 11 回	コンピューターの処理アルゴリズムを用いた数値計算やシミュレーション	確率分布に従う乱数の発生とシミュレーション（モンテカルロシミュレーション入門）。
第 12 回	線形計画法による最適化問題	簡単な線形計画法による最適化問題を解く。
第 13 回	自動制御のアルゴリズム	PID 制御について理解する。

第 14 回 最終課題

最終課題が課される。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では実習も取り入れて行う。各自できることは予習復習を行うことを推奨する。また、演習の課題も期日までに必ず提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

必要であれば講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100% として評価する。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が理解できるように演習を多く取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline (in English)】

This course will help students acquiring skills of practical applications of computers for advanced analysis using public-domain software. For better understanding of the algorithms of computer data processing, simple programming for external procedures of data analyses and numerical computation are introduced by examples.

ECN300CA
現代社会と情報 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポート（および知的財産管理技能検定）の内容を活用します。

【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1) 情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題」試験のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。試験は3回ありますが提出課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系前半（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者 CIO、コンプライアンス、OR や IE など
第3回	ストラテジ系前半（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール、情報ツールなど
第4回	ストラテジ系前半（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例等
第5回	ストラテジ系前半試験	ストラテジ系前半の確認となる試験と復習など
第6回	ストラテジ系後半（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系後半（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系後半（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系後半（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリなど
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介等とマネジメント系の一部
第11回	ストラテジ系後半試験	ストラテジ系後半の確認となる試験と復習など、マネジメント系を一部含む
第12回	情報倫理（ネットワーク倫理、情報化社会）および全会の計算を伴う問題について	計算問題および情報セキュリティ、情報社会における法と企業または個人の責任、情報倫理など
第13回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について、全体の計算を伴う問題について
第14回	情報倫理および計算問題試験	情報倫理および情報産業の確認および全体から計算を伴う問題の試験と復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料と演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「IT パスポート」の参考書および問題集が参考書になります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使い 3 回試験をします。試験結果点数の換算方法などの詳細についてガイダンスファイルを必ず参照してください。成績評価は 100 点満点に換算して 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに掲載されるガイダンスファイルを参照しない方がいらっしやいます。必ず参照してください。

【その他の重要事項】

- ・学習支援システムに掲載する最新の「ガイダンスファイル」を参照してください。成績や公欠についての質問は、最初にまず「ガイダンスファイル」を参照してください。
- ・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
- ・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解/納得/了承」してから、本登録してください。
- ・情報処理技術者試験「IT パスポート」とは、情報処理の促進に関する法律（昭和 45 年法律第 90 号）に基づき、経済産業大臣が実施する情報処理に関する業務を行う者の技術の向上に資するため、情報処理に関して必要な知識及び技能を問う、日本の国家試験です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to can answer questions about strategy and management on the IT Passport exam of the Japan Information-Technology Engineers Examination.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Your overall grade in the class will be decided according to the three examination (100%).

ECN300CA
現代社会と情報B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoomを用いて実施する。毎回、テストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドオロネ、ギャドレ『サービス産業学説』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』 視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』 視聴
4	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『スティーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』 視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT 革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル—Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレット・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』 視聴
7	ビッグデータと人工知能	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excel でわかるディープラーニング超入門』、レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

8	デジタルエコノミー	ソロー・パラドクス、デジタル経済の計測、エレファント・カーブ、デジタル・サテライト勘定
9	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』 視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
10	個人情報の保護（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』、年金記録問題、マイナンバー
11	個人情報の保護（2）	個人情報保護とデータ利活用
12	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、匿名データ、特異値
13	公的マイクロデータの利活用（2）	一般用マイクロデータ、相関マイクロデータ
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint ファイルの Pdf ファイルに変換したものを授業支援システムにアップする。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline (in English)】

The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution, and sharing of information and knowledge, which has brought about major changes in the economy and society. On the other hand, with the accumulation and use of a large amount of personal information, anxiety about personal information protection has become apparent. Discuss how micro data (data on which individual information is recorded) should be used for the benefit of society as a whole while protecting personal information.

LANe200CA
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel

10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe200CA
Business Research Seminar B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants can understand advanced business strategies and negotiation skills through authentic business cases in Japanese contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

PHL300CA
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。次に国際的な背景といえる中華思想、貴族思想としての小中華思想、宗教思想としての神仏習合思想など重要なトピックを講義する。武士の思想としての忠誠と反逆は重点をおいて詳細に検討する。さらに政治思想としての公権授受思想、合議の思想、徳治主義などを考察する。思想史に関するいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

現代に影響を及ぼしている日本における基層の倫理・宗教・政治思想を学ぶ。各時代の国際環境の中で影響をもった外来思想の意味を考える。日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想としての忠誠と反逆について理解を深める。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係の考察など歴史的思考力の獲得をめざす。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題回答のメモ（字数 300 字程度）と文章化された一つの課題回答ペーパー（600 字程度）を授業中に毎回 hoppii に提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序
2	小中華思想	中国文化と国粋主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家思想、平家一門の繁栄、清盛の思想変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士、主従思想
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本の政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想
14	蒙古襲来と神国思想	内政と外交、防衛体制と権力集中、神国思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道德思想史』（岩波書店、1977 年改版）

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加平均で評価する（90 %）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を副次的に考慮して（10 %）、総合評価を行う。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Consider the traditional thought that is the basis of Japanese thought. For example, the Chinese thought, and Shinbutsu-shugo thought as a religious thought, loyalty and rebellion as samurai ideas, the idea of giving and receiving public rights as a political idea, the idea of consensus, and Tokuchi principle. At the end of the course, students are expected to acquire historical recognition method. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HIS300CA
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について深い知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかなするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード資料、(時に動画等)）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。課題の内1つの回答（600字程度）を完成（文章化）させ、他の課題のメモ（300字程度）とともに毎回授業中に提出してもらう予定である。授業後採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、將軍絶対化
2	武家統一政権と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禪秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始	守護連合、足利義教の恐怖政治、將軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国戦国の開始ー北条早雲を中心にー	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿 21 箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐって、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の 2 面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

14 信長と南蛮文化 宗教勢力との対決、木綿と鉄砲、中世文化の否定、南蛮寺、神格化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）（および若干回は動画）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価（相対平均）が中心（90 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（10 %）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保つようにしたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット。授業中に課題を提出するために必須。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代・中世・近世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is deepen understanding of the formation of Japanese life culture. It is formed from the Muromachi period to the early modern period. This course deals with these period. Through activities that discuss several themes related to cultural history, students will be expected to have historical recognition methods that make sense based on facts. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

PHL300CA
日本文化論
黒田 俊太郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本近代文学というジャンルの小説群から、いくつかの短編小説を取り上げ、読んでいく。

小説を読んで〈おもしろい／つまらない〉と感ずることがある。そして、それはテーマや思想といった、内容（何が書かれていたか）に向けられていることが多いだろう。だが、小説の形式（どのように書かれていたか）や小説の書かれた歴史的背景に目を向けるという方法があることも知っておきたい。

それは単に形式や背景の〈おもしろさ〉に気づくためではなく、それらと一心同体の関係にある内容を見つめなおすことでもある。

この授業では、小説を読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、それらの方法論を用いながら分析的に読むことを実践してもらう。またそうした実践を通して、日本の近代（化）についても考えてもらいたい。

【到達目標】

・短編小説に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]）
・短編小説に内在する「問い」についての学習者同士や教員との対話を通して、私たちが人生において向き合わねばならない本質的問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指示された短編小説や関連する先行研究を読んでいくこと。授業では、各短編小説や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連する課題にも必ず取り組んでもらう。また課題についてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的
第 2 回	志賀直哉の文学/「小僧の神様」	作品・テキスト・語り手①
第 3 回	志賀直哉の文学/「小僧の神様」	作品・テキスト・語り手②
第 4 回	視点・視点人物	同時代言説①
第 5 回	視点・視点人物	同時代言説②
第 6 回	芥川龍之介の文学/「舞踏会」	インターテクスチュアリティ①
第 7 回	芥川龍之介の文学/「舞踏会」	インターテクスチュアリティ②
第 8 回	田山花袋の文学/「少女病」	古地図を参照する①
第 9 回	田山花袋の文学/「少女病」	古地図を参照する②
第 10 回	太宰治の文学/「女生徒」	典拠研究①
第 11 回	太宰治の文学/「女生徒」	典拠研究②

第 12 回 中河與一の文学/「天の夕顔」 恋愛小説と全体主義①

第 13 回 中河與一の文学/「天の夕顔」 恋愛小説と全体主義②

第 14 回 まとめ 半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ 2 時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ・出席は毎回取る。
- ・全 14 回中 10 回以上の出席を単位修得の最低条件とする。
- ・遅刻は欠席 0.5 回とカウントする。
- ・課題提出は締め切り順守（基本は授業内の提出）。
- ・事前課題等を指示する場合は必ず取り組むこと。
- ・提出物 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に際しては、インターネット回線とパソコン、カメラ、マイクを用意してください。パソコンがない場合は、スマホやタブレットを代用してもかまいません。

また授業中も、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the methods to read novels analytically and practice reading some modern Japanese short stories by employing these methods. Through these practices, students are also expected to learn about the modernization of Japan and consider how people tried to cope with it.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で受講者は、地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習	これまでの学習の理解度をチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおりに）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the diversity, principles, and interconnectedness of the global environment and deepen their understanding of the interrelationship between human activities and the natural environment. In order to achieve this, students will study the formation of the earth and the mechanisms of the natural environment in a comprehensive manner.

SES300CA
地球環境論 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	総復習	演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出（50%）、小試験またはレポート（50%）とし、合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が 50% を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」として、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand relation between the natural environment and human activities.

In order to achieve this, students will study the mechanisms of using natural resources with current technologies in our life.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report on each class (50%), and the term-end report or examination (50%).

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020)『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
一方井誠治 (2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 5 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第 6 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 7 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 8 回	生物多様性	生態系サービス
第 9 回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 10 回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	環境金融、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂 (2019)『わかへる 環境法 増補改訂版』信山社
神山智美 (2018)『自然環境法を学ぶ』文真堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination which all student must take.

HSS300CA
スポーツ経済論
杉本 龍勇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】

スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。
レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツと経済の関連性	マクロ経済およびミクロ経済におけるスポーツの経済効果かんする概要について
第 2 回	現代社会とスポーツの関わり	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第 3 回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第 4 回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第 5 回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第 6 回	スポーツのビジネス化のプロセス	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第 7 回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第 8 回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第 9 回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第 10 回	スポーツビジネスにおけるブランディング戦略	スポーツビジネスにおけるブランディングの意義および戦略について
第 11 回	スポーツ産業概要	スポーツ産業に属する各業種の概要について
第 12 回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第 13 回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第 14 回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

【教室における対面授業が可能な場合】

平常点： 50%

試験（論述）： 50%

【オンライン授業のみで開講する場合】

平常点ならびにレポート提出： 50%

試験（オンライン形式）： 50%

注意点：

授業状況によって、試験を中止し、レポートのみの評価に変更することもあり得る。その場合は、学習支援システムに情報をアップするので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。
またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

教室における対面授業が可能な場合、プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。
オンライン授業のケースでは、オンラインミーティングアプリを使用し、ライブによる講義を実施する予定。毎講義については録画をし、試験前にオンデマンドとして配信する予定。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。
学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。
またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports, in particular, health care promotion by sports activities, structure of sports business (ex.professional sports, sports event and more)and consumer behavior.

Your required study time without lecture is at least four hour to collect and understand news and information about sports economics and business.

Grading will be decided based on score of examination (50%) and participation on lectures (50%).

MAN300CA
国際投資論 A
経済未決定
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際投資には直接投資と証券投資がありますが、この講義では企業の直接投資について勉強します。企業はどのような目的でどのような直接投資を行うのかについて、企業の異質性を考慮した新々貿易理論などに基づいた理論分析を行うとともに、世界の直接投資データを使って検証します。

【到達目標】

企業が行う直接投資の目的を、現地販売、生産プロセスの一部移転、輸出拠点などに分けて説明できる。生産性の高い企業や大規模な企業が直接投資を選択する理由を、新々貿易理論などを使って説明できる。世界の直接投資データを使って、その実態を検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の開始日（4月22日）に、オンライン授業の方法や授業内容について、学習支援システム（教材）から、パワーポイント資料で掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	直接投資とは何か①	直接投資の分類
第3回	直接投資とは何か②	直接投資の基礎知識
第4回	データで見る直接投資①	国別・産業別の直接投資の動向
第5回	データで見る直接投資②	対日直接投資の実態
第6回	日本企業の直接投資の拡大①	海外進出する企業の特徴
第7回	日本企業の直接投資の拡大②	海外進出の要因
第8回	日本企業の直接投資の拡大③	魅力的な投資国とは
第9回	直接投資と産業空洞化①	雇用は失われているか
第10回	直接投資と産業空洞化②	生産・技術基盤は失われているか
第11回	直接投資と産業空洞化	輸出は減少するか
第12回	講義のまとめ	授業内試験
第13回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける
第14回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献を読んで準備学習をする。授業で提出した小レポート（またはリアクションペーパー）や配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版、2015年（授業の配布資料を授業支援システムにおきます）

【参考書】

ヘルプマン著（本多他訳）『グローバル貿易の針路をよむ』文真堂、2012年
富浦英一著『アウトソーシングの国際経済学』、日本評論社、2014
その他の参考文献・論文は授業支援システムで配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業後に学習支援システムから出す確認テスト（またはリアクションペーパー）30%＋期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためなし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、学習支援システムを利用します。

MAN300CA
国際投資論 B
経済未決定
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際投資には直接投資と証券投資がありますが、この講義では企業の直接投資について勉強します。「国際投資論 A」で学んだ直接投資の決定要因などに基づき、「国際投資論 B」では、直接投資の利点や経済成長への影響を考察します。特に、企業の R&D 活動、技術移転、技術貿易などについて学びます。

【到達目標】

直接投資による生産性の向上や技術移転など、直接投資の利点を理解できる。直接投資に関連した企業の R&D 活動や技術移転、企業の直接投資が経済成長にもたらす効果を説明できる。日本への直接投資が日本経済へ与える影響と課題を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

当面の間は ZOOM で授業を行います。パワーポイントを用いて講義します。毎回の講義で勉強すべき課題を整理し、小レポートまたはリアクションペーパーなどにまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	直接投資の基礎知識の復習
第2回	直接投資の利点①	直接投資と生産性の改善
第3回	直接投資の利点②	海外子会社の利益
第4回	対内直接投資の影響①	経済成長への影響
第5回	対内直接投資の影響②	外資系企業の特徴
第6回	直接投資から見た日本の課題	清田 [2015] のまとめ
第7回	企業の海外 R&D 活動	企業の海外 R&D 活動の趨勢
第8回	技術移転と知的財産の保護	知的財産保護の国際比較
第9回	研究開発拠点のグローバル化	海外 R&D 活動の決定要因
第10回	技術移転と技術輸出	技術輸出の要因
第11回	多国籍企業の技術移転	企業内の技術移転
第12回	海外 R&D と生産性	生産性への影響
第13回	グローバル・イノベーションの課題	若杉・伊藤 [2011] まとめ
第14回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業で提出した小レポート（またはリアクションペーパー）や配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし（授業の配布資料を授業支援システムにおきます）

【参考書】

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版、2015年
若杉隆平、伊藤萬里著『グローバル・イノベーション』慶應義塾大学出版会、2011年
その他の参考文献・論文は授業支援システムで配布します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出する小レポート（またはリアクションペーパー）30%＋期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

ECN300CA
国際貿易論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関 (World Trade Organization, WTO) の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関である WTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書・スライドを用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがあります。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT, WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	日本の酒税に関する紛争の帰結	同種の産品、代替の弾力性とは何か
8)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
9)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
10)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
11)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
12)	補助金相殺関税	補助金相殺関税とは何か
13)	日本による補助金相殺関税の分析	補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO の問題	紛争処理システムと安全保障の例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

進度は出席学生に応じて変化させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduce the history and role of World Trade Organization (WTO). The goal of this course is to understand the importance of WTO.

ECN300CA
国際貿易論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析します。特に、国際貿易と知的財産権保護の関係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義します。

【到達目標】

知的財産権と国際的な取引に関して理解する事を目標とする。特に国際貿易にとって重要な、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の内容と影響について議論できることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書を主に用いて、知的財産法（著作権法、特許法）と国際取引との関係について講義を行います。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析します。主に英文学術雑誌に公刊された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義します。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることが前提です。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要であり、トピックに応じて、ディスカッションを要求する事があります。・課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモンズとアンチコモンズの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の歴史
10)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の特徴
11)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と貿易	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の貿易に与える影響
12)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の負の効果	保護と貿易の負の関係の可能性
13)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と研究開発	保護が研究開発活動に与える影響
14)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と途上国	知的財産権保護と途上国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業支援システムにより文献を配布します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）及び期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの資料をより活用し解説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduce the key idea of intellectual property rights (IPRs) and international trade. The students should be able to understand the effects of IPRs on international transactions.

ECN300CA
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008 年）。小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社、2013 年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various marketing practices, and the role of public policy on monopoly market, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN300CA
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』（有斐閣、2017年）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合には、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various management strategy (eg. collusive behavior, vertical restraints, and so on) in oligopolistic competition, and the role of public policy on such strategies.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA
Principles of Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter13, Chapter14, Chapter19, Chapter20, Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 13, 14, 19, 20 and 21 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?

9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will cover the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA
Principles of Economics B
JESS DIAMO N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 21, 23, 24, and 25 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank

14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN300CA
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013 年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012 年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

ECN300CA
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility

14 回目 Review

To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline (in English)】

In the first half, we will talk the basic concepts and models in international finance, such as balance of payment, exchange rate, business cycles, short run and long run models. In the second half, we will discuss how these concepts have been used in the real world practice, such as the exchange rate system adopted by emerging economies. We will touch on recent topics in international finance as well.

ECN300CA
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China
3. Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics, International Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
2. Final report 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline (in English)】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA
Area Studies B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

【到達目標】

1. Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
2. Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
3. Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture. The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China

8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance.

Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for the class is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
2. Final test 30% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline (in English)】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

ECN300CA
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、COVID-19 による影響で経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、春学期にタイを中心としたアセアンの現状から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係にあるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力をつけられる形式の講義内で試みます。（ファシリテーション手法の理解）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第 3 回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	タイのバンコクと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピピ島の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第 11 回	サンプル 3：ラノーン県の魅力と将来性	今後、発展するための施策とは？

第 12 回	クラビ県、プーケット、ラノーン県の比較	分析から見出せるものは何か？
第 13 回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 14 回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でタイのアセアンの位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日、プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

ECN300CA
地域経済論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、COVID-19 による経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、後期にメキシコを中心とした中南米の現状から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力を身につける形式の講義を試みます。（ファシリテーション手法の理解）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のメキシコ経済の状況	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第 3 回	メキシコの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	メキシコの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年取との差からの分析
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：ゴールドライアングルの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析

第 11 回	サンプル 3：他の地域との産業構造の差と将来性	今後、発展するための施策とは？
第 12 回	メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較	分析から見出せるものは何か？
第 13 回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 14 回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でメキシコの中南米での位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由設定とします。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点後に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第 6 回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第 12 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第 13 回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第 14 回 期末試験および解説 第 8 回から第 13 回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁を推奨）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a) mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA
簿記Ⅱ B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B および簿記Ⅱ A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点后に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第 4 回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第 5 回	本支店会計演習	未達事項の処理、本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の反復演習
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	連結会計 (1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第 9 回	連結会計 (2) 連結 1 年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結 1 年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第 10 回	連結会計 (3) 連結 2 年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結 2 年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第 11 回	連結会計 (4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第 12 回	連結会計 (5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第 13 回	連結会計 (6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第 14 回	期末試験および解説	第 13 回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a) mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
3	PARADIGM	Akamatsu paradigm
4	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
5	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
6	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
7	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
8	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
9	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
10	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
11	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
12	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
13	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
14	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
15	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.
8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations;
9	VIETNAM	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
10	MALAYSIA	Digging in the Data Country Summary; Presentations;

11	INDONESIA	Country Summary; Presentations;
12	THAILAND	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
13	PHILIPPINES	Digging in the Data Country Summary; Presentations;
14	EPILOGUE	Digging in the Data Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japanese Business and Economy A
経済未決定
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japanese Business and Economy B
経済未決定
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?
Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.
Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis
Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press
Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.
Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,
McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.
The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.
Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.
Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.
S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

MAN300CA
財務諸表論 A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

財務諸表論 A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 4 版 >』日本経済新聞社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting.

This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how firms communicate through financial statements.

MAN300CA
財務諸表論 B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

財務諸表論 B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末試験・レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

MAN300CA
管理会計 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	C V P 分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	C V P 分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品の C V P 分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第 11 回	全部原価計算方式による C V P 分析	C V P 分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	A B C / A B M	原価構造の変化、A B C の計算構造、アクティビティ分析
第 13 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第 14 回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA
管理会計 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	R O I と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工と販売
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計の利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	N P V 法と I R R 法の比較、再投資の仮定
第 13 回	B S C、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

LANe300CA
Business Communication II A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about and discuss issues relating to globalization (global capitalism) through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected the economies, societies, and businesses of developed nations, especially Japan, as well as those of developing ones?

【到達目標】

To research and think critically about business and its impact on society and the environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the fashion industry and present their findings in class at the end of the semester.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations, explanations, self-introductions
2	What is globalization?	Pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	Learning about the fast fashion industry's business model (Zara)
4	Sustainable fashion	Sustainable, ethical brands (The 30-year t-shirt); the true cost of fast fashion
5	History of the global garment industry	The travels of a t-shirt in the global economy (1): the roots of today's global supply chains
6	The circular economy	The travels of a t-shirt in the global economy (2): a business model for the secondhand economy
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	The fashion industry and the environment	Alternative fabrics and the rise of sustainable global fashion brands
9	The future of fashion	COVID-19's impact on the fashion industry (Gucci)
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion

12	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
13	Considering the impact of the fashion business	Student-led presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the impact of global capitalism in the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

Eugene K. Choi, UNIQLO and Tadashi Yanai (ch 19) in Handbook of East Asian Business, T. Lai and H. Yu, eds., Routledge, 2015.

Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students taking this course will learn about work and the workplace in Japan. Specifically, they will consider why we work, Japanese business culture and management practices, work-style reforms, new ways of working, social issues caused by changing economic and demographic circumstances, etc.

【到達目標】

To become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss readings relating to the course goals, mainly in small groups. The course also incorporates an 'active learning' element, whereby students will select/design a fieldwork project relating to the Japanese workplace and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Culture and the workplace	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	Japanese-style management (lifetime employment, seniority-based wages, enterprise-based unions)
5	What is Abenomics?	Abenomics and the third arrow
6	Work-style reforms	Reforming the Japanese way of working; overwork
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Womenomics	Women and the workplace; international comparisons
9	Social issues and the Japanese workplace	Ikumen; unemployed and marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
11	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion
13	Considering issues relating to working in Japan	Student-led presentations and discussion

14 Final wrap up and review Discussion: reassessing the Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.

Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.

Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.

Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.

Parissa Haghirian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.

Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance. (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students should keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

MAN300CA
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは添削・採点した上で翌講義の冒頭に返却する。講義の構成は、①前回の講義内レポートの返却と解説（15 分）、②その回の講義（70 分）、③その回の講義内レポートの作成（15 分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	二つの系列の監査と監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第 4 回	近代監査の発展過程	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に 19 世紀（英国）以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	日本の監査制度の成立と発展	旧商法に基づく監査役制度、旧証券取引法に基づく公認会計士監査の成立と時代的背景について学習する。
第 6 回	旧商法に基づく監査役監査制度の成立と展開	監査役の意義と八久和厘について、時代的背景と変遷過程、および現代的意義と課題について理解する。

第 7 回	旧商法特例法に基づく会計監査人監査の意義	会計監査人監査が必要となった背景について、旧商法と旧証券取引法に基づく監査との関連から理解する。
第 8 回	会社法監査の成立と展開	監査役、会計監査人、および委員会設置会社における監査委員の意義について、特にそれぞれの権限と責任の観点から理解する。
第 9 回	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開過程について学習する。
第 10 回	金融商品取引法に基づく企業内容開示制度と財務諸表監査の意義	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第 11 回	公認会計士法における公認会計士監査制度の意義と課題	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 12 回	公認会計士法における監査法人制度の意義と課題	監査法人制度の概要と現代的課題について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 13 回	監査基準における監査人の人的要件	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第 14 回	監査人の法的責任と免責要件	監査人に課せられる法的責任について、刑事、民事、行政の各責任の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭に返却する前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施、計 70 点満点とする。42 点以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of audit made pursuant to the securities law and company's act in Japan.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN300CA
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して 2% の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に 800 なのか?」、「貸倒引当金の設定率は 2% でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。講義の構成は、①前回の講義内レポートの返却と解説（15 分）、②その回の講義（70 分）、③その回の講義内レポートの作成（15 分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の概念的枠組みを、「会計アタマ」と「監査アタマ」という視点から提示する。
第 2 回	「監査アタマ」で考えるアサーションと監査要点、監査証拠	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	企業の内部統制概念の変遷過程と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第 4 回	リスク・アプローチによる監査の基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性和意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第 5 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本構造	リスク評価手続と運用評価手続の目的と属性について理解する。
第 6 回	監査上の重要性概念	監査上の重要性概念と監査リスク、監査の有効性と効率性、監査意見の性質との関係について理解する。
第 7 回	実証手続の意義と効用	監査手続全体の体系における実証手続の位置づけと属性について理解する。

第 8 回	監査結果の報告と監査報告書の改革	監査報告書の基礎的な機能と限界、および監査報告書の改革について学習する。
第 9 回	除外事項と監査意見、追記情報の種類と意義	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係、および追記情報について学習する。
第 10 回	継続企業の前提に関する監査人の検討	いわゆる「GC 注記」の制度導入の経緯と背景、および財務諸表監査における位置づけと課題について学習する。
第 11 回	内部統制報告制度における内部統制監査の意義と課題	内部統制監査について、制度導入の経緯と背景、および現代的課題について理解する。
第 12 回	四半期報告制度の意義と四半期レビュー	四半期報告制度の必要性和導入の背景、および四半期レビューの特質について学習する。
第 13 回	財務諸表監査の品質と品質管理	財務諸表監査の品質とは何か、またこれを管理するための仕組みについて学習する。
第 14 回	監査をめぐる国際的動向	国際会計士連盟のミッション、日本の監査法人と海外のアカウンティング・ファームの連携の意義と現状について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭で返却する前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施、計 70 点満点とする。42 点以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the audit procedures performed and audit report for financial statements by independent auditors. Basically, they will made pursuant to the International Standards on Auditing, issued by International Federation of Accountants (IFAC).

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

ECN300CA
リスク・マネジメントA
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボデイ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式及びオンライン形式での講義。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

最低 5 回程度のオンライン回を設ける予定である。未定回については、学習支援システムを通じて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期イギリスにおける「規模の経済」の発見。
3	市場経済の中の企業	市場を前提とした産業革命期の企業活動。
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新。
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネスの興隆
6	大量生産への途	製造業における互換性生産の出現など
7	見えざる手から見える手へ＋中間レポート提出	アメリカにおける大企業の出現
8	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究テーマの調整と簡単な調査指導。
9	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織の発達など。
10	経営者企業の成立	経営者企業の出現、米国大企業の国際化・多角化。
11	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現とその背景。
12	ヨーロッパ大企業の組織と戦略	ヨーロッパ大企業の特徴。
13	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性。
14	両大戦間期日本のビジネス＋期末レポート提出	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究と毎回の確認小テスト。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式及びオンライン形式での講義。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

最低 5 回程度のオンライン回を設ける予定である。未定回については、学習支援システムを通じて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の方針。
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」と政府の関与が生み出したもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	「豊かな社会」と政府の関与が生み出したもの（2）	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡	大企業下の産業集積と金融センターの興亡。
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究と毎回の確認小テスト。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA
国際会計制度 A
倉井 潔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
8	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
9	IFRS の基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
10	IFRS の基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
11	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
12	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
13	実践・財務分析③	9～12 回を踏まえて、財務分析を改善する
14	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎 第 4 版』平松一夫 中央経済社 2015 年
『エッセンシャル IFRS（第 5 版）』秋葉賢一 中央経済社 2016 年
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015 年 ほか

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度 B と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

- ① Differences between accounting systems
- ② Understand the impact of ① on accounting information.
- ③ Corporate financial analysis

MAN300CA
国際会計制度 B
倉井 潔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度 A に引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンス・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計	退職給付会計、株式報酬取引。
5	外貨換算会計	外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
6	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
7	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
8	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
9	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化ポイント
10	IFRS 財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
11	IFRS 財務諸表分析（2）	第 9 回の続き

11	IFRS 財務諸表分析（3）	第 10 回の続き
12	IFRS 財務諸表分析（4）	第 11 回の続き（プレゼン資料提出）
13	各国の会計制度（1）	欧州圏の会計制度 期末レポート課題提示
14	各国の会計制度（2）	アジア圏の会計制度 最新トピック紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。
事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度 A を参照

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度 A と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

Continuing from the International Accounting System A course, this course deals with comparison of accounting standards of each country and financial analysis of foreign companies and Japanese companies.

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

- ① Differences between accounting systems
- ② Understand the impact of ① on accounting information.
- ③ Corporate financial analysis

MAN300CA
企業経営論 A
井上 祐樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は事業を行う存在であるため、事業創造無しには企業は始まらないし、また存続していくことができない。本講義では企業経営における重要な要素として事業創造に焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際に自分達でビジネスアイデアを考えてみることで、事業創造に関する各種理論を体感的に身に付けることを目指す。

【到達目標】

- ①経営に関するいくつかの理論を理解し、それを実際のビジネス構築に活かす形で活用できるようになることを目指す。
- ②ビジネス構築に関するいくつかの実用的なツールを活用できるようになる。
- ③複雑な事業創造過程において、論点やロジックを整理し、適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとにオリジナルのビジネスアイデアを考案する。
- (b) 毎回の講義において、事業創造に関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定したビジネスアイデアに関して、その課題にどのように取り組むかを検討し、それによってビジネスアイデアを改良していく。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、チームごとの最終成果発表の内容およびチームへの貢献度によって評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、事業創造とアントレプレナーシップ	ガイダンスを中心に、事業創造とアントレプレナーシップに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答する。
②	グループの発表と初期のビジネスアイデアの設定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、新しいビジネスアイデアの提案と明文化までを行う。
③	様々な種類のイノベーション（講義・演習）	イノベーションと一口に言っても、様々な形態や種類のイノベーションが存在する。それらを理解するとともに、自分達のビジネスのイノベーションとは何かを定義する。
④	様々な種類のイノベーション（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、イノベーションに関する色々な考え方を学ぶ。

⑤ サービスビジネスと価値共創（講義・演習） ⑥ サービスビジネスと価値共創（発表・全体討議） ⑦ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（講義・演習） ⑧ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（発表・全体討議） ⑨ データ収集・分析と事業改善への活用（アンケートの設計） ⑩ データ収集・分析と事業改善への活用（データの分析と解釈） ⑪ デザイン思考の実践（講義・演習） ⑫ デザイン思考の実践（発表・全体討議） ⑬ 最終発表準備 ⑭ 最終成果発表	製品とは違って、サービスビジネスには独自の要素が存在する。またどんな製品型ビジネスにも、潜在的にサービスビジネスが存在している。そういった観点を理解し、自分達のビジネスのサービス価値とは何かを定義する。 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、サービス価値に関する色々な考え方を学ぶ。 企業は自社を中心としたエコシステムを構築するか、あるいは他者のエコシステムのうえで事業活動を行うことが多くある。自社でエコシステムを構築する際に重要になるのが、プラットフォーム戦略の考え方である。これらの観点を理解するとともに、自社を中心としたエコシステムを構築するためのビジネスの設計を実施する。 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、エコシステムとプラットフォームに関する色々な考え方を学ぶ。 データを活用することは、自社のビジネスの価値を検証したり、戦略を立てたりすることに有効である。本講義では自社のビジネスの価値を検証するための独自のアンケートを作成し、そのデータを収集する。 前回の講義で収集したデータを分析し、その結果を自社ビジネスの改善に活かす。 デザイン思考は革新的な事業を生み出すための一つの有名な方法論あるいはプロセスである。デザイン思考の内容を理解し、実際に自社ビジネスに適用してみる。また、インタビュー調査を行い、情報を収集する。 インタビュー結果をまとめて、解釈し、ビジネスの改善を実施する。 これまでの検討してきた内容の一貫性を持った発表資料の作成を行い、次回の最終成果発表に備える。 これまでの集大成として、ブラッシュアップされたビジネス内容をプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回パワーポイント形式の資料を配布する。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質： 50 点

全体討議への積極的参加： 20 点

最終発表の評価： 30 点

※ただし、合計得点が 60 点を超えている場合でも、最終発表を行わなかった場合には不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。講義の性質上、講義中に寝ることができないので、睡眠を取ってくることを。

【Outline (in English)】

Without business creation, the firms will not even start the work. This lecture teaches you about knowledge and theories about business creation. As the feature of this lecture, the students will create new business models with learning those knowledge and theories.

MAN300CA
企業経営論 B
井上 祐樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの考え方として、企業活動とは「イノベーション」を生み出し、それを製品化・サービス化して消費者に届ける、一連の活動と捉えることができる。すなわち、企業経営において「イノベーションをどうマネジメントするか」は非常に重要な部分を占めることとなる。本講義では企業経営におけるイノベーションに焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際の企業を分析対象として行うことで、理論と実社会との対応関係を体感的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ①イノベーションに関するいくつかの理論を理解し、その視点から現実の企業を分析できるようになることを目指す。
- ②イノベーションに関するいくつかの実用的な指標やツールを活用できるようになる。
- ③企業をある視点から分析し、それを適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとに興味がある企業をいくつか選択する。
- (b) 毎回の講義において、イノベーションに関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定した企業に関して、その課題にどのように取り組むかを検討する。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、代わりに毎回のグループワークの発表成果とそこへのグループワークにおける貢献度を主な評価基準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	ガイダンスを中心に、イノベーションに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答してもらう。
②	グループの発表と調査対象となる企業の選定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、今後の講義で調査対象とする企業を選定する。
③	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（講義・演習）	歴史的に有名なイノベーションと、それに付随した変化を学ぶ。また、企業はイノベーションとともに去るといったメカニズムを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
④	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

- ⑤ 産業とイノベーション／イノベーションの測定（講義・演習） イノベーションの創出は産業の違いによってどのように影響されるか、イノベーションをどうやって数値化するかを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑥ 産業とイノベーション／イノベーションの測定（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑦ アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（講義・演習） アントレプレナーシップの定義や重要性について学ぶ。また、イノベーションを生み出すための企業内の資源の利活用について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑧ アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（発表・全体討議） イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業との関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑨ イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（講義・演習） イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業との関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑩ イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑪ イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（講義・演習） イノベーション関連する知的財産権とその重要性、およびそのマネジメントについて学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑫ イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑬ イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（講義・演習） イノベーションと規制や制度の関係性、およびイノベーションと経済成長の関係について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑭ イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（第 2 版）（日本経済新聞出版）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質：80 点

全体討議への積極的参加：20 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。講義の性質上、講義中に寝ることができないので、睡眠を取ってこること。

【Outline (in English)】

The activities of firms can be seen as sequent function which generate innovations, embodies them as products and services, and deliver it to consumers. Therefore, "innovation management" is significant for all firms. This lecture especially focuses on the innovation management in the field of business management and teaches you the theories about innovations.

MAN300CA
経営学 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013. 他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, and its sustainability, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

MAN300CA
経営学 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長, M&A, 提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）

小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語能力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「書く」「話す」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

- ①日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
- ②自分をアピールするための効果的な内容と方法を理解し、適切な形式を用いて表現できる。
- ③コミュニケーションの場面に応じて言葉を適切に使い分けられることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 日本での就職活動	授業運営に関する説明／ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	E メール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・準備：事前課題

・復習：講義内容や活動の振り返り、課題・提出物の作成

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2022』日本学生支援機構
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/afieldfile/2020/12/17/guide2022_all.pdf)

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

課題：50 %（ワークシート、振り返りシート、エントリーシートの作成など）

模擬面接：20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし（アンケート未実施）

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for international students to acquire the knowledge and Japanese language skills necessary for job searching in Japan.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

- ①敬語の性質と使い方を的確に理解し、場と状況に応じて適切に使い分けられることができる。
- ②人の紹介、電話対応、メール作成などの日本語コミュニケーションを適切に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 尊敬語	授業運営に関する説明／ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト／ あいさつと紹介	復習テストの実施／ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：次回の活動のためのワークシートの作成など

復習：課題の作成、クイズおよびテストの準備など

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018 年、1,980 円（税込）(<https://www.kokusho.co.jp/np/isbn/9784336062222/>)

【成績評価の方法と基準】

テスト：20 %、プレゼンテーション：10 %、課題：50 %、平常点：20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for international students to acquire the Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japanese companies.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べる事が出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LAW200CA
日本国憲法 A
川鍋 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。

【到達目標】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話しします。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のものです。この言葉はどのようにして生まれ、日本に到来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定ぶりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。その自体の制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。
第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。

第 14 回 これまでの授業のまとめ これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017 年。

【参考書】

岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。

・第 1 問を 40%、第 2 問を 60% 計 100% で評価します。

・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話しますが、授業 1 回の質問に対して、0～2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんからは授業内容についての意見や質問が多く出ました。今年度もそのような運営ができればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

We will learn in this class general theories (partially including the domain of human rights) and the system and practice of the government of the Japanese Constitution.

LAW200CA
日本国憲法 B
川鍋 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：自己決定権と障害者の自由	この授業の概要と目的についてお話します。また、障害者の自由について考えます。
第 2 回	母親となる権利	ここでは、母親となる権利について学びます。
第 3 回	同性愛の自由	ここでは、同性愛の自由について学びます。
第 4 回	性同一性障害者の自由	ここでは、性同一性障害者の自由について学びます。
第 5 回	再婚の自由	ここでは、再婚の自由について学びます。
第 6 回	治療拒否の自由	ここでは、治療拒否の自由について学びます。
第 7 回	ダンスの自由	ここでは、ダンスの自由について学びます。
第 8 回	ポルノ鑑賞の自由	ここでは、ポルノ鑑賞の自由について学びます。
第 9 回	忘れられる権利	ここでは、忘れられる権利について学びます。
第 10 回	プライバシー権	ここでは、プライバシー権について学びます。
第 11 回	景観権	ここでは、景観権について学びます。
第 12 回	嫌煙権	ここでは、嫌煙権について学びます。
第 13 回	自然の権利	ここでは、自然の権利について学びます。
第 14 回	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

棟居快行、松井茂記、赤坂正浩、笹田栄司、常本照樹、市川正人『基本的人権の事件簿』第 6 版、有斐閣、2019 年。

【参考書】

・岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。

・第 1 問を 40%、第 2 問を 60% 計 100% で評価します。

・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話しますが、授業 1 回の質問に対して、0～2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度が 1 年目で、まだアンケート結果を受けていません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

この授業では、教員の方で指名して、履修した学生との間で質疑応答を行います。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

We will learn the system and practice of the human rights of the Japanese Constitution.

LAW200CA
民法一部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との関連性に意識が向けられる。

【到達目標】

民法総則（民法第1編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15%）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report: 85%)

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従い、授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則⑫	契約の効力発生時期
第2回	総則⑬	時効（1）時効制度概論
第3回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15%）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an examination of personal

property law in the context of commercial transactions. Learning outcomes will be an understanding of how property law interrelates with contract law, and an understanding of basic concepts of the general civilian idea of 'contract' and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report: 85%)

LAW300CA
民法二部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

- ①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
- ②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か
第 2 回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第 8 回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第 9 回	契約法各論⑤	質貸人と質借人の権利義務関係
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第 13 回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第 14 回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学 A」または「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session.

Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW300CA
民法二部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

【到達目標】

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第 2 回	債権総論②	債権の効力（１）強制履行・債務不履行
第 3 回	債権総論③	債権の効力（２）損害賠償
第 4 回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第 5 回	債権総論⑤	責任財産の保全（１）債権者代位権
第 6 回	債権総論⑥	責任財産の保全（２）詐害行為取消権
第 7 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（１）分割債務・不可分債務
第 8 回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（２）連帯債務
第 9 回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（３）保証債務・連帯保証債務
第 10 回	債権総論⑩	債権譲渡
第 11 回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第 12 回	担保物権①	抵当権
第 13 回	担保物権②	法定地上権
第 14 回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【Outline (in English)】

This course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・大石眞ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・大石真ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
商法二部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
- ・大石眞ほか監修『デイリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
商法二部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第 2 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 3 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 4 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 5 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 6 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 7 回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第 8 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 9 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 10 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 11 回	寄託	寄託の解説。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 13 回	交互計算	交互計算の解説。
第 14 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
- ・大石眞ほか監修『デリー六法 2022 令和 4 年版』（三省堂、2021）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW300CA
経済法 A
山田 務
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発達を確保するために、事業活動の基本的ルールを定めたもので、競争政策を実施するための基本的法律でもある。経済法の中で中心的な独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容・事例、日本経済における役割と最近の課題について講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。適宜、質疑応答の機会を設ける。

授業後、学習支援システムを用いて、①理解度確認のための課題の提示を行うとともに、②学生からの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要（1）	講義の内容 独占禁止法の目的
2)	独占禁止法の概要（2）	独占禁止法・競争政策の歴史、日本経済における役割・課題
3)	独占禁止法の概要（3）	独占禁止法の全体像（禁止行為、違反行為に対する措置等）
4)	独占禁止法の基礎となる経済理論	独占禁止法を理解する上で参考となるミクロ経済学の考え方
5)	独占禁止法的基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場支配力」等の基本的用語
6)	カルテル、入札談合規制（1）	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7)	カルテル、入札談合規制（2）	禁止行為の内容、最近の事件
8)	カルテル、入札談合規制（3）	カルテル等の発見・抑止のための施策（課徴金制度、官製談合防止制度等）
9)	事業者団体に対する規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10)	私的独占規制（1）	大企業の市場支配的行為の内容、禁止行為
11)	私的独占規制（2）	最近の事例
12)	合併・株式保有等の規制（1）	合併・株式保有の目的、合併等の経済分析、禁止される合併等の内容
13)	合併・株式保有等の規制（2）	合併等の審査手続き、最近の事例
14)	公正取引委員会の法運用	違反事件の調査、違反に対する措置

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍、雑誌、新聞、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。

以上の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務

菅久修一「独禁法の講義をはじめます」商事法務

川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣

公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、課題の回答状況等）（50点）及び期末試験（50点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び課題や質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法・競争政策の内容、課題等について講義を行う。

【Outline (in English)】

・ This course introduces overview of Antimonopoly Act and its role in the Japanese economy to students taking this course.

・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.

・ Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%, in class contribution:50%

LAW300CA
経済法 B
山田 務
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、経済法 A に続いて、独占禁止法の主要な違反行為である「不公正な取引方法」に対する規制内容について講義を行う。
 後半は、その他の主要な経済法分野として、①各種事業に対する政府による直接的な法規制、②消費者取引の適正化のための法規制、③国際通商の適正化のための法規制の内容について講義を行う。
 これらを通じて、学生が、経済の発展、国民生活の安定のための各種の経済法の役割、課題について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

独占禁止法及びその他の主要な経済法について、その内容及び日本経済における基本的役割、最近の課題について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。適宜、質疑応答の機会を設ける。

授業後、学習支援システムを用いて、①理解度確認のための課題の提示を行うとともに、②学生からの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行う。

1 4 回講義のうち、1 回は公正取引委員会の職員による講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要	講義の内容、独占禁止法の概要（経済法 A のまとめ）
2)	第 1 部独占禁止法	不公正な取引方法の内容
	1. 不公正な取引方法規制（総論）	
3)	2. 不公正な取引方法規制（各論 1）	垂直的取引制限行為（メーカーによる小売業者の販売価格の拘束、競争者との取引を制限する行為等）
4)	3. 不公正な取引方法規制（各論 2）	価格設定・取引先選択に関する行為（コスト割れ販売、差別価格、取引拒絶）
5)	4. 不公正な取引方法規制（各論 3）	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為 ①デジタルプラットフォームと納入業者・出品者との取引 ②大規模小売業者と納入業者との取引等
6)	5. 不公正な取引方法規制（各論 4）	大規模事業者による中小事業者に対する優越的な地位の濫用行為 ①完成品メーカーと部品メーカーとの取引 ②サービス業における委託取引等
7)	6. 不公正な取引方法規制（各論 5）	不公正な競争手段を用いる行為（欺瞞的な取引、競争者の取引の妨害行為）
8)	7. 公正取引委員会職員による講義	独占禁止法の運用状況、競争政策の課題

9)	第 2 部その他の経済法的法規制（1）	政府による事業規制の概要、目的、問題点
10)	2. 事業に対する直接的法規制（2）	電気通信事業法等の各種事業法の概要
11)	3. 消費者取引適正化のための法規制（1）	法規制の概要 主な法律（消費者契約法・特定商取引法）
12)	4. 消費者取引適正化のための法規制（2）	主な法律（景品表示法）
13)	5. 国際通商の適正化のための法規制（1）	自由貿易のメリット、問題点 WTO による国際貿易のルール
14)	6. 国際通商の適正化のための法規制（2）	二国間・多国間による経済連携協定 国際的な競争制限行為に対する独占禁止法の規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍、新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・その他の経済法に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。

上記の授業時間外の学習時間は、毎回 4 時間程度

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

菅久修一「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務
 菅久修一「独禁法の講義をはじめます」商事法務
 川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣
 公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、課題の回答状況等）（50 点）及び期末試験（50 点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び課題や質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まながら、独占禁止法及びその他の経済法の内容、課題等について講義を行う。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act and other economic laws and their role in the Japanese economy.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of economic laws , such as the purpose of the laws, and the contents of regulations, and recent issues.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:50%, in class contribution:50%

LAW300CA
労働法 A
小林 大祐
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として対面授業です。ただし、計5回ほどオンライン授業を予定しています。詳細は、初回の授業時にお伝えします。
- ◆授業内で質問に返答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義と体系
第2回	労働法のプレイヤー	労働者、使用者、労働組合、過半数代表、労使委員会
第3回	労働契約	労働契約上の権利・義務
第4回	労働条件の決定（1）	労働条件を決める仕組み、労働協約
第5回	労働条件の決定（2）	就業規則、労使慣行
第6回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（1）	日本の賃金制度、賃金支払い4原則など
第7回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（2）	最低賃金制度など
第8回	労働時間に関する規制と休息権（1）	労働時間の定義、三六協定、休日、休憩など
第9回	労働時間に関する規制と休息権（2）	弾力的労働時間制度、みなし労働時間制度、高度プロフェッショナル制度、適用除外
第10回	労働時間に関する規制と休息権（3）	年次有給休暇など
第11回	労働災害の予防と補償（1）	労働安全衛生、労災補償制度
第12回	労働災害の予防と補償（2）	労災保険制度、労災民訴

- 第13回 労働者の人権、平等、労働憲章、個人情報・プライバシー保護など
人格権（1）
- 第14回 労働者の人権、平等、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ハラスメントなど
人格権（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

【参考書】

- ◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
- ・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
- ・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、両方履修を推奨します。
- ◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained: the sources and regulation of terms and conditions of employment, the prevention and compensation of industrial accidents, the discrimination and equality in employment, the protection of worker's personality, the rights and duties of parties during employment,

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

LAW300CA
労働法 B
小林 大祐
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として、対面授業です。ただし、計5回ほどオンライン授業とする予定です。詳細は、初回の授業時にお伝えします。
- ◆授業内で質問に回答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働契約の成立をめぐる法的問題	採用内定（内々定）、試用など
第2回	人事制度をめぐる法的問題	配転、出向、転籍、昇進、昇格、降格
第3回	服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題	懲戒処分など
第4回	労働契約の終了をめぐる法的問題（1）	解雇以外の労働契約終了事由
第5回	労働契約の終了をめぐる法的問題（2）	解雇
第6回	非典型雇用（1）	有期労働者の保護など
第7回	非典型雇用（2）	有期・パート労働者の均等待遇など
第8回	非典型雇用（3）	派遣労働者の保護と均等待遇など
第9回	雇用保険制度	失業等給付、育児休業給付、求職者支援制度など
第10回	特定分野の雇用政策	若年者雇用、高齢者雇用、障害者雇用、外国人雇用
第11回	労使関係法総論	労働基本権、労働組合、労働委員会など
第12回	団体交渉と団体行動（1）	団体交渉義務、争議行為の正当性など

第13回 団体交渉と団体行動（2） 組合活動、労働争議の調整制度など

第14回 不当労働行為 不当労働行為の主体・成立要件・救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

【参考書】

- ◆判例集
村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
- ・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、合わせての履修を推奨します。労働法Bは、労働法Aの内容を前提に進めるので、注意してください。

◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained: the formation and termination of employment, the rights and duties of parties during employment, the protection of certain categories of worker, the forms of collective organisations, the collective bargaining, the disputes acts and the unfair labour practices.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

ECN200CA
財政学 A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第 14 回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題 I	超高齢社会と社会保障
第 3 回	社会保障の財政問題 I	最低生活の保障、年金問題
第 4 回	社会保障の財政問題 II (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題 II (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1) 井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社

- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each. Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ビグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2019、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編[第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200CA
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	名目 GDP と実質 GDP
4	データで見る日本経済 3	物価指数の概念と作成方法
5	データで見る日本経済 4	失業率の概念と作成方法
6	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
7	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
8	雇用問題 3	若年者の雇用問題
9	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの交差図、乗数効果
10	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線や供給曲線、及び弾力性の概念等を学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、復習問題の回答の提出（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, Review questions after each class: 20%

ECN200CA
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・棕寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第 2 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 3 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 4 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 5 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 6 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートینگモデル
第 7 回	長期の為替レート決定①	購買力平価
第 8 回	長期の為替レート決定②	実質為替レート
第 9 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 10 回	国際通貨制度	歴史の概観
第 11 回	金融のグローバル化と	リスクと銀行危機
第 12 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 13 回	発展途上国と通貨危機	国際金融システム改革
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

HIS100CA
現代史 A
愼 蒼宇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年の日中国交正常化から 50 年の年です。2022 年の現代史 I では、近代世界史と東アジア史はどのような特徴を帯びているのかを、「戦争」と「植民地主義」の歴史に焦点をあてて、学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉えることができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では最初に近代の諸戦争の特徴をおおまかに分析したうえで、これらの戦争を植民地主義との関わり考察するアプローチ法とその歴史過程を学んでいきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と進め方／学問としての歴史学について学ぶ
第 2 回	概論① 歴史における「戦争」とは	世界史における「戦争」の変化を概観します。
第 3 回	概論② 近現代の「戦争」を規定する「植民地主義」	「戦争」と「植民地主義」との関わりについて考えます。
第 4 回	「植民地戦争」のはじまり	16～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の植民地戦争について概観します
第 5 回	同時期の東アジア	文禄・慶長の役の性格について考察します
第 6 回	二重革命の時代の戦争と植民地主義	民主革命・産業革命の時代の植民地戦争（インド・東南アジア）について考察します
第 7 回	東アジアの戦争①	アヘン戦争とその衝撃について考察します
第 8 回	東アジアの戦争②	明治維新後の日本の対外膨張について概観します
第 9 回	帝国主義と東アジア①	日清戦争について三つの視座から考察します
第 10 回	帝国主義と東アジア②	中国の義和団戦争について考察します
第 11 回	帝国主義と東アジア③	日露戦争について三つの視座から考察します
第 12 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」①	第 1 次世界大戦までの植民地主義の歴史を概観します
第 13 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」②	日本の植民地支配と民族運動について考察します
第 14 回	現代史 I まとめ	近代の「戦争」を「植民地主義」との関わりで捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70 %）+平常点（30 %）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This year is a year in 50 from the Normal diplomatic relations between Japan and China. What kind of feature a modern world history and East Asia history take on by contemporary history I in 2022, I'll focus on history of "war" and "Colonialism" and learn.

HIS100CA
現代史 B
愼 蒼宇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史Ⅱは、現代史Ⅰの問題意識を継承して、二つの世界大戦と戦後の世界において、植民地主義と戦争はいかに形を変えて継続していくのかを、日本と東アジアを中心に学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉えることができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は現代史Ⅰにおける戦争と植民地主義の概念を確認した上で、両者が国際的にどのように展開していくのかを、東アジアのケースを中心に考えていきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像・進め方の説明と前期の内容の確認
第2回	概論① 歴史修正主義と歴史学	現代の歴史認識の現状と歴史学について考える。
第3回	戦間期の戦争と植民地主義①	国際法体制の変化と 1920 年代について考える。
第4回	戦間期の戦争と植民地主義②	世界恐慌と全体主義の 1930 年代について考える。
第5回	15 年戦争① 満州事変	満州事変を三つの視座から再検討します。
第6回	15 年戦争② 日中戦争	日中戦争について検討します。
第7回	第2次世界大戦①	第2次世界大戦について概観します
第8回	第2次世界大戦②	アジア太平洋戦争について三つの視座から検討します
第9回	「戦争責任」の展開と「植民地問題」	極東国際軍事裁判の性格を考察します
第10回	複合戦争としての朝鮮戦争	朝鮮戦争について三つの視座から検討します。
第11回	「新植民地主義」と民族独立	戦後アジア・アフリカの民族独立について考察します
第12回	ベトナム戦争の世界史	ベトナム戦争の特徴について考察します。
第13回	現代の戦争へ	1980～90 年代の「戦争」について考察します。
第14回	まとめ	現代における「戦争」と「植民地主義」の関わりを捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70 %）+平常点（30 %）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

It's learned about the feature of "war" and "colonialism" in the 1st, the Second World War and the world of "the postwar".

IDN100CA
多摩地域形成論
池田 寛二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている〈場所〉への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩4学部の教員と協力して実施する、4学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域(1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域(2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域(3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の現代史(1)	多摩地域の住民運動の歴史
第7回	多摩地域の現代史(2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史(3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第9回	これからの多摩地域の形成(1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第10回	これからの多摩地域の形成(2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第11回	これからの多摩地域の形成(3)	地域の資源をエネルギーに
第12回	これからの多摩地域の形成(4)	コミュニティ文化とスポーツ
第13回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第14回	これからの多摩地域の形成(5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％程度）とレポート（70％程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟2階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

CAR100CA
キャリアデザイン論
大八木 智一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】

①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。

②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。

③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える ①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？ これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える ②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティ、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える ③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする ①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする ②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特徴や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて伺う。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 %以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 %未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限りします。個人情報の保護等の観点から、個人アドレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】

原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】

レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on the following four points.

- 1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
- 2.Basic approach to career choice.
- 3.Understand the thinking of local business people
- 4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.

【Learning Objectives】

- 1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
- 2.Think about your own concrete action.
- 3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.
- 【Leaning activities outside of classroom】

This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports. At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100CA
キャリアデザイン論
大八木 智一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①社会人として活躍していくための在学中の準備、②働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、③多摩地域で活躍している企業の視点、④社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】

①講義の聴講（多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG からの話を含む）を通じて、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。

②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。

③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンライン・オンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。一定の期間内に、各自が時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステム（基本的に月曜日に授業は配信され、当該週内に指示された課題レポートを提出）によって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	働くことについて考える ①「働くことの意味」	「働く」とはどのような意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
3	働くことについて考える ②「働き方と多様性」	これからの変化の激しい社会において自分を活かしていく働き方を考える、特にダイバーシティ、雇用形態の変化、テレワークなどの新しい職場環境や働き方についても考察する。
4	働くことについて考える ③「仕事と幸福」	キャリアデザインの究極的目的はキャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは仕事と幸福に関する最近の研究を紹介し、仕事を通じた幸福の追求について考える。
5	社会人への準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加の意義と参加方法について学ぶ。（キャリアセンター担当）
6	社会人への準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター担当）
7	自分をマネジメントする ①「モチベーション」	自分自身が成長していくために必要な「強味の活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
8	自分をマネジメントする ②「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスは心身への負荷や圧迫、ネガティブな感情を生じさせることがある。ここでは、心身の負荷やバイアスを軽減していくための方法を学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部、社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

10	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する現代福祉学部、スポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ③	多摩地域で活躍する企業人から多摩地域で事業を行うことの特徴や、多摩キャンパスの学生に期待する人材像、大学での学びかたについて伺う。
12	キャリア戦略①「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
13	キャリア戦略②「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、最近の企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。
14	キャリア戦略③「自己実現に近づくための行動様式の変革」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（構成比 100 %）。各回の評価は期限内に提出された「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（授業配信から課題レポートの提出締め切りまでの期間）は 1 週間を予定します。単位取得には 70 %以上の授業受講と期限内での課題レポートの提出が不可欠です。さらにレポートの内容評価の合計点が満点の 60 %未満である場合は（仮に毎回レポートを提出していても）単位を取得できない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問、相談や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。学生からの連絡は各自に配布されている大学の公式アドレスからに限りします。個人情報の保護等の観点から、個人アドレスからの連絡等は受け取れませんのでご注意ください。

【授業配信予定日】

原則的に休講期間を除く毎週月曜日に授業を学習支援システム上に配信（公開）しますので、受講してください。

【レポートの提出】

レポートの提出は、決められた期間内に学習支援システム上で行ってください。担当教員の個人アドレス等へのレポートの提出は認められませんのでご注意ください。レポートはワードで作成し添付ファイルで提出をお願いします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on the following four points.

- 1.Preparations to be achieve as a member of society while attending university.
- 2.Basic approach to career choice.
- 3.Understand the thinking of local business people
- 4.Leaning tips on career development from OB/OG in Tama Campus which is achieve in society.

【Learning Objectives】

- 1.Develop a concrete image of one's own basic career strategy.
- 2.Think about your own concrete action.
- 3.To acquire basic view points and skills to carve out one's own career.
- 【Leaning activities outside of classroom】

This course requires at least four hours of study time(for preparation ,review and create an assignment report etc.) in addition to class time.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation of this class is based on the total score of the assignment reports. At least 70% of assignment reports must be submitted to earn credits. And also, the total score of the assigned report must be 60% or more of the perfect score.

PHL100CA
現代社会と宗教 A
永井 美紀子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりをのびに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態についての詳しい情報は、学習支援システムで通知します。

① PDF 版で教材資料を提示します。②各回の授業後には課題が出ます。テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）の確認の課題または小テストになる場合もあります。③翌回の授業では、全体に対して課題に関するフィードバックを行ないます。小テストの場合は解答を提示します。④中間レポートを学期半ばに提出します。提出期限については後日、授業内や学習支援システムを通じて通知します。課題図書は参考書に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足解説
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会
12	社会のなかの宗教 1	日本人の宗教意識
13	社会のなかの宗教 2	宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ
14	社会のなかの宗教 3	アメリカの宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。資料はプリントアウト出来れば幸いですが、出来なくてもアップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。提出期限は課題の種類によって変わることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内での教材は学習支援システムにアップします。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂編『グローバル現代社会論』文眞堂 2018 年（2600 円＋税）
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出される毎授業後の課題や小テストの結果を 70 % ②学期半ばに提出する中間レポートの内容を 30 % とする割合で総合的に判断・評価します。中間レポートは参考書に掲げた『グローバル現代社会論』を課題図書とします。生協でも扱っています。提出期限を過ぎたものは受け取りませんのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題や中間レポートを提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively.

Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), and assignments after each class (70%).

LANd200CA
ドイツ語中級 A
MARKUS GRASMUECK
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 3 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 4 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 5 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 6 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表 現)
第 7 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表 現)
第 8 回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上 級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 9 回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上 級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 10 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称 の表現, 体調・状態の表現 1, 体 調・状態の表現 2)
第 11 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称 の表現, 体調・状態の表現 1, 体 調・状態の表現 2)
第 12 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形 成)
第 13 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形 成)
第 14 回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間
は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語 三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。(授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

The goal is to be able to have simple conversations in German
for daily life.

Learn German through practice in conversation, pronunciation
and listening.

(Learning activities outside of classroom)

Homework and review of vocabulary learned in each class. The
standard preparation and review time for this class is 2 hours
each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd200CA
ドイツ語中級 B
MARKUS GRASMUECK
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する授業です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 3 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 4 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとり, Student 型の男性名詞)
第 5 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとり, Student 型の男性名詞)
第 6 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第 7 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um ..., Was fuer ein...?)
第 8 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 9 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 10 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「～だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 11 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「～だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 12 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 13 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 14 回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語 三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。(授業時の持参は不要)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

The goal is to be able to have simple conversations in German for daily life.

Learn German through practice in conversation, pronunciation and listening.

(Learning activities outside of classroom)

Homework and review of vocabulary learned in each class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd300CA
ドイツ語上級 I A
MARKUS GRASMUECK
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 3 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 4 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 5 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 6 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 7 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 8 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 9 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 10 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 11 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 12 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 13 回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 藁谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）（2006）：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting. Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to review the German vocabulary you will learn in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd300CA
ドイツ語上級 I B
MARKUS GRASMUECK
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 3 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 4 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 5 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 6 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現 ほか
第 7 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現ほか
第 8 回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 9 回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 10 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 11 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 12 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 13 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 藁谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）（2006）：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要であります。（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

小テスト (30%)

期末試験 (40%)

期末試験に対してのフィードバックはメールでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces German conversation.

(Learning Objectives)

Practice oral expression and listening comprehension related to general conversation, simple explanation, and reporting. Students will practice oral expression and listening skills according to the above objectives.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to review the German vocabulary you will learn in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Normal score (30%)

Quizzes (30%)

Final exam (40%)

You will receive feedback on the final exam via email.

LANd300CA
ドイツ語上級Ⅱ A
濱中 春
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深めます。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。また、各課の練習問題で文法や成句の意味を確認します。各課でとりあげられているトピックについて話し合う機会も設けます。

予習の内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
2	Kapitel 01（前半）	ベルリン・ブランデンブルク空港 の開港（1）
3	Kapitel 01（後半）	ベルリン・ブランデンブルク空港 の開港（2）
4	Kapitel 02（前半）	コロナ禍中の学校教育（1）
5	Kapitel 02（後半）	コロナ禍中の学校教育（2）
6	Kapitel 03（前半）	ヤーノシュ生誕 90 周年（1）
7	Kapitel 03（後半）	ヤーノシュ生誕 90 周年（2）
8	Kapitel 04（前半）	夏時間・冬時間の切り替え（1）
9	Kapitel 04（後半）	夏時間・冬時間の切り替え（2）
10	Kapitel 05（前半）	コロナ禍中の障害者（1）
11	Kapitel 05（後半）	コロナ禍中の障害者（2）
12	Kapitel 06（前半）	2021 年夏の大水害（1）
13	Kapitel 06（後半）	2021 年夏の大水害（2）
14	補足とまとめ	授業内容の補足と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022 年度版』（朝日出版社）

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）
在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）
その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方は、受講生の意見もふまえて決めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

LANd300CA
ドイツ語上級Ⅱ B
濱中 春
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させます。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深めます。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。また、各課の練習問題で、文法や成句の意味を確認します。各課でとりあげられているトピックについて話し合う機会も設けます。学期後半は、最新のニュース記事などを講読します。

予習内容や質問には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
2	Kapitel 07（前半）	砂糖という甘い敵（1）
3	Kapitel 07（後半）	砂糖という甘い敵（2）
4	Kapitel 08（前半）	ダウン症とともに暮らす社会（1）
5	Kapitel 08（後半）	ダウン症とともに暮らす社会（2）
6	Kapitel 09（前半）	ウィンタースポーツ（1）
7	Kapitel 09（後半）	ウィンタースポーツ（2）
8	Kapitel 10（前半）	「白バラ」の反ナチス抵抗運動（1）
9	Kapitel 10（後半）	「白バラ」の反ナチス抵抗運動（2）
10	追加テキスト（1）	ドイツ語圏の最新事情（1）
11	追加テキスト（2）	ドイツ語圏の最新事情（2）
12	追加テキスト（3）	ドイツ語圏の最新事情（3）
13	追加テキスト（4）	ドイツ語圏の最新事情（4）
14	補足とまとめ	補足と授業内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022 年度版』（朝日出版社）

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）
在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）
その他、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方は、受講生の意見もふまえて決めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語）
村上 佳恵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。 自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1) グループ面接	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2) 個人面接	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3) グループ討論	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第 13 回	会議 (2)	SWOT 分析の結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜)『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %, 課題等提出物 60 %, 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】

This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語）
村上 佳恵
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。課題は、授業で解説を行うとともに、個別に添削する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 報告書の書き方	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。 自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1) グループ面接	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2) 個人面接	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3) グループ討論	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	企画会議の内容を理解し、報告のメールを書く。
第 13 回	会議 (2)	SWOT 分析の結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜)『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %, 課題等提出物 60 %, 定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

エントリーシートの書き方が実際の就職活動において役に立ったとの声がありました。今後も授業で詳しく扱っていく予定です。

【Outline (in English)】

This course will highlight the Japanese you need to secure a job or work. It will discuss how to communicate with people from different cultures. The course will be based on a combination of lectures, class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to produce documents necessary for seeking employment, such as curriculum vitae, and gain effective communication skills related to business. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

